

シ鐵道實(定額ヲ以テ旅費ヲ支辨)ヲ支給スヘキ儀ト御了知相成度此段及通牒候也

追テ今後ハ本府ニ於テ輕便鐵道運輸開始ノ認可ヲ與ヘタル場合ハ其ノ都度官報彙報欄ニ區間動力並哩程掲載可致ニ付人力ニ依ラサルモノニ限り本文ノ通御取扱相成度申添候

記

大邱河陽間 (十四哩四分)

大邱 邱

東萊 村

半夜月

清泉

河陽

○旅費支給上里程計算ニ關スル件

大正五年八月五日 官通牒第一三一號

政務總監

本府各局及所屬官署ノ長宛

旅費支給上里程ノ計算ニ關シ左記ノ通御取扱相成度及通牒候也

記

一 朝鮮内ニ於ケル里程(陸路及水路ヲ含ム)以下同シ但シ第二號ノ場合ハ鐵道ヲモ含ムノ計算ハ遞信地圖ニ依リ該地圖ニ登載ナキモノニシテ朝鮮各道府面間里程表及同里程圖(朝鮮總督府

編纂)ニ掲ケタル地點間ノ計算ハ同表ニ依ル

前項ニ依リ難キ里程ハ府郡島ノ證明スル所ニ依ル

二 遞信地圖ニ依ル場合ニ於テ同一地ニ二以上ノ停車場、波止場若ハ郵便局所存在スルトキハ停車場、波止場ニ在リテハ用務上必要ナル箇所迄ノ里程、郵便局所ニ在リテハ主ナル局所迄ノ里程ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ單ニ其地ヲ通過スルトキハ其ノ到達シタル前項ノ箇所ヨリ出發スヘギ停車場、波止場若クハ主ナル郵便局所間ノ里程ハ之ヲ通算ス

三 鐵道線路、水道線路等ニ沿ヒ旅行スル場合ニ於ケル里程ハ其ノ實際ノ距離ニ依ル

前項ノ里程ハ鐵道水道等ノ事務ヲ主管スル官署ノ證明スル所ニ依ル

四 内地、臺灣又ハ樺太ニ於ケル旅行ニシテ其地ノ郵便線路圖ニ登載ナキ里程ニ付テハ官公署ノ證明ヲ受ケ之ヲ旅費請求書ニ添附スヘシ

五 朝鮮各道府面里程表及同里程圖ハ大正五年八月十日ヨリ之ヲ使用ス

六 大正三年官通牒第三百三十一號ハ大正五年八月九日限り之ヲ廢止ス

○遞信地圖使用ニ關スル件

大正五年七月二十八日 官通牒第一二五號

第三條 庶務部長又ハ所屬官署ノ長ハ必要ト認ムルトキハ勤勉手

當ノ定額ヲ減シ又ハ之ヲ支給セサルコトヲ得

前項ニ依リ勤勉手當ノ定額ヲ減シ又ハ支給セサルトキハ其ノ旨報告スヘシ(別表)

時 間	勤 勉 手 當 額	
	判任官五級俸以上ノ者並手當月額百圓以上ノ囑託員	判任官六級俸以下ノ者給料月額五十圓未滿ノ者並手當月額百圓未滿ノ囑託員及雇員
定時間外一時間以上勤務シタルトキ	三十錢	二十五錢
右ノ外更ニ一時間以上勤務シタルトキ	七錢	六錢
増ス毎二加給額		五錢

○勤勉手當支給方ニ關スル件

大正九年四月十七日 官通牒第三一號

庶務部長

朝鮮總督府及所屬官署職員

大正九年三月二十四日 訓令第一三三號

勤勉手當支給規程

第一條 朝鮮總督府及所屬官署ニ於ケル工事ノ現業ニ從事スル判任官、同待遇者、囑託員及雇員ニシテ定時間外ニ勤務シタルトキハ別表ニ依リ勤勉手當ヲ支給ス但シ旅費ノ支給ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 勤勉手當ハ一箇月分毎ニ取纏メ翌月五日迄ニ之ヲ支給ス

夫ノ點檢又ハ賃銀ノ仕拂、現場ノ警備並工事ニ伴フ測量ニ從事スル者其ノ他現場事務ニ従事スル者ニ支給ス

二、手當支辨科目ハ當該事業費ノ事務費トス

三、勤勉手當ハ賄料ト併給ス但シ宿直勤務時間内ハ此ノ限ニ在ラス

四、施行期日ハ大正九年三月二十四日トス

○歸郷旅費仕拂證明ニ關スル件

大正八年九月十六日 官通第一〇九號

庶務部長

本府各局部及所屬官署ノ長宛

歸郷旅費仕拂ニ關シテハ從來死亡等ノ場合ノ外仕譯書ニ内地歸郷ノ證明書ヲ添附セシムル事ニ取扱來リ候處爾今特ニ必要ヲ認ムルモノ外之カ添附ヲ要セサル事ニ決定候條此段及通牒候也

土木部備人規程

大正九年六月二十四日決定

第一條 本規程ニ於テ備人ト稱スルハ圖工巡視給仕小使機關手油差水夫長水夫火夫工場雇、助手工夫測夫觀測夫潛水夫綱夫船夫諸職工常夫其他辭令ヲ交附シタル定備人ヲ云フ

第二條 備人ニ採用スル者ハ身體強壯身元確實品行方正ナル者ナルコトヲ要ス

第三條 備人ヲ採用セントスルトキハ履歷書ヲ差出サシメ必要アルトキハ適宜試験ヲ行ヒ其前職アル者ニ付テハ在職中ノ成績ヲ

調査スヘシ

第四條 備人ヲ採用シタルトキハ身元引受人ヲ定メ身元引證書ヲ徴スヘシ但シ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限リニ在ラス

第五條 備人ハ左ノ場合ニ於テハ解職スヘシ

一、身體ノ虛弱老衰其他勤務ニ不適當ト認メタルトキ

二、官ノ都合ニ依リ必要ナルトキ

第六條 備人勤務地ヲ離レ又ハ營業ヲ爲サムトスルトキハ許可ヲ受ケムヘシ

第七條 備人身分ニ變更アリタルトキハ速ニ届出シムヘシ

第八條 備人職務上取扱ヒタル事項ハ濫リニ漏洩セシムヘカラス

第九條 備人出勤シタルトキハ出勤簿ニ捺印セシムヘシ

第十條 備人病氣其ノ他ノ事故ニ因リ出務スルコト能ハサルトキハ定期前其ノ旨ヲ届出シムヘシ

出務セサルコト七日以上ニ亘ル場合ハ病氣ノ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書ヲ徴シ其ノ他ノ事故ニ在リテハ事由ヲ具申セシムヘシ

第十一條 備人ノ忌服ハ職員ノ例ニ依ル

第十二條 備人官ノ物件ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ之ヲ查覈シ其ノ原因故意怠慢ニ困ル者ト認メタルトキハ辦償セシムヘシ

第十三條 備人ノ給料ハ日給トス

但シ圖工巡視機關手工場雇助手ニ對シテハ月給ト爲スコトヲ得

第十四條 備人ニ支給スル給料ハ其ノ經歷若ハ技能ニ應シ考査ノ上之ヲ定ムヘシ

第十五條 月給ヲ受ケル備人病氣ノ爲勤務セサルコト三十日ヲ超エ又ハ私事ノ故障ニ依リ勤務セサルコト十日ヲ超ユルトキハ給料ノ半額ヲ減ス但シ賜暇若ハ忌服ニ因ルトキ職務ノ爲傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ傳染病豫防令ニ依リ交通遮斷若ハ隔離ニ因ルトキ又ハ水災火災其他非常罹災ニ因ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 日給ヲ受ケル備人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ勤務ニ服セサルモ給料ヲ支給ス

一、休暇及賜暇ノ日(休暇日ノ前後ヲ通シ欠勤シタル場合ヲ除ク)

二、非番ノ日

三、父母ノ祭日

四、忌服ノ日(父母七日配偶者、子五日其他二日)

五、職務ニ基因スル疾病傷痕ノ爲メ欠勤ノトキ(扶助令ニ依リ給助料ヲ給スル場合ヲ除ク)

六、交通遮斷又ハ隔離法施行ノ爲メ欠勤ノトキ

七、水災火災其ノ他非常罹災ノ爲三日以内ノ欠勤ノトキ

八、職務ニ關シタル事件ニシテ證人鑑定人又ハ參考人トシテ裁判所其他ノ官署ニ出頭シタルトキ

九、朝鮮内ニ於テ徵兵検査及點呼ニ應シタルトキ

十、朝鮮内ニ於テ演習又ハ勤務等ノ召集ニ應シタルトキ(支給額職員ノ例ニ依ル)

第十七條 時間外ノ服務又ハ特別ノ勞務者ニ對シテハ船員及工事従業備人特別給與規程ヲ適用ス但シ廳中備人ニ對シテハ三十錢以内ニ於テ適宜定メタル額ヲ支給ス

第十八條 備人ノ昇給ハ毎年三月六月九月十二月ニ於テ之ヲ行フ其ノ増給率ハ日給者ニ在リテハ日給額ノ百分ノ十以内月給者ニ在リテハ五圓以内トス

技能優秀ナル者ニ對シテハ前項ノ率ニ依ラサルコトヲ得

第十九條 病氣危篤等特殊ノ事情アル者ニ付テハ前條ノ規定ニ拘ラス昇給ヲ爲スコトヲ得

第二十條 備人退職スル場合ニ於テ勤務ノ成績優良ナル者ニ對シテハ内規ニ依リ特別賞與ヲ支給スルコトヲ得

第二十一條 備人ノ給料支給ニ付テハ本規定ニ定メタルモノノ外雇員ノ例ニ依ル

第二十二條 備人中巡視給仕小使ニハ被服ヲ給與ス其ノ服制給與數使用期限及支給期ハ出張所ニ在リテハ所長之ヲ定ム

第二十三條 前條ノ外船員其ノ他業務上特ニ必要ナリト認ムル者アルトキハ土木部長ノ承認ヲ經被服ヲ給與スルコトヲ得

船員及工事従業備人特別給與規程

第一條 淺濞船又ハ淺濞機ニ依リ淺濞作業ニ従事スル乘組船員ニ

對シ渡渡能率ヲ増進セシムルヲメ作業ノ實績ニ徴シ獎勵手當金ヲ給與スルコトヲ得

前項ノ獎勵金ハ乘組船員ノ月給又ハ日給ヲ標準トシ其ノ給額ノ五割以內ニ於テ出張所長ノ決定ムヘシ

第二條 傭人左ノ各號ニ該當スル者ニハ時間割ヲ以テ給額ヲ増減スヘシ但シ業務ノ性質上自然早出居殘ヲ要スルモノハ此ノ限ニ在ラス

一、工場休日ニ就業ヲ命シタル者ニハ日給額ノ十分ノ五其ノ定時間ニ滿タサル者ニハ一時間毎ニ百分ノ五ヲ加給ス

二、早出居殘ヲ命シタル者ニハ始業前二時間及終業後三時間迄ハ滿三十分毎ニ日給額ノ百分ノ五終業ヨリ三時間以後ハ滿三十分間毎ニ百分ノ十ヲ加給ス

三、特別ノ勞務ニ從事セシメタル者ニハ前號ノ外定時間内ニ在リテハ十割以內定時間外ニ亘リタルトキハ更ニ二十割以內ヲ加給スルコトヲ得

四、日給者ニシテ定時間ニ遅刻又ハ早退シタル者ニハ三十分毎ニ日給額ノ百分ノ十ヲ減給ス

但シ傭人規程第十四條各號ニ據ル事故又ハ工事ノ都合ニヨリ遅刻早退ヲ許可シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 傭人中月給者ノ加給計算ハ月給額ノ三十分ノ一ヲ以テ日給額ト看做ス

第四條 旅費ノ支給ヲ受ケル場合及宿直時間ニ對シテハ本規定ヲ

適用セズ

第五條 本規程ハ出張所々屬船舶乘組ノ船長運轉士機關長機關士ニ之ヲ準用ス

○傭人扶助令

大正七年十一月二十日 勅令第三八二號

第一條 政府ハ其ノ雇傭スル職工、傭夫其ノ他ノ傭人業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ本令ニ依リ扶助金ヲ支給ス但シ傭人自己ノ重大ナル過失ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

扶助金ノ支給ヲ受ケヘキ者法令ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ハ扶助金ノ額ヨリ之ヲ控除ス

扶助金ノ支給ハ傭人ヲ解雇スルモ變更スルコトナシ

第二條 扶助金ハ療治料、休業扶助料、障害扶助料、一時扶助料、遺族扶助料及葬祭料ノ六種トシ左ノ區別ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ支給ス

一、療治料ハ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニシテ官費ヲ治療ヲ受ケサルモノニ之ヲ支給ス

二、休業扶助料ハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサル者ニ之ヲ支給ス

三、障害扶助料ハ負傷又ハ疾病ノ治癒シタル時ニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スル者ニ之ヲ支給ス

四、一時扶助料ハ療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病ノ

治癒セサル者ニ之ヲ支給ス

五、遺族扶助料ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ支給ス

六、葬祭料ハ葬祭ヲ行フ遺族ニ之ヲ支給ス葬祭ヲ行フ遺族ナキ場合ニ於テハ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給スルコトヲ得

一時扶助料ヲ支給スルトキハ以後本令ニ依リ他ノ扶助金ハ之ヲ支給セズ

第三條 障害扶助料、一時扶助料、遺族扶助料又ハ葬祭料ノ額ハ別表金額ノ範圍内ニ於テ負傷、疾病又ハ死亡ノ原因、身體障害ノ輕重、勤務年限ノ長短其ノ他各種ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第四條 療治料又ハ休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ拂渡スモノトス

第五條 負傷又ハ疾病ノ再發ニ因リ身體障害ノ程度ヲ加重シタル場合ニ於テハ障害扶助料ノ額ハ新ニ之ヲ定メ既ニ支給シタル障害扶助料ノ金額ヲ控除シテ之ヲ支給ス

第六條 遺族扶助料ノ支給ヲ受ケヘキ者ニ關シテハ工場法施行令第十條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス

第七條 負傷又ハ疾病力傭人ノ解雇後ニ再發シタル場合ニ於テハ扶助金ハ之ヲ支給セズ

第八條 解雇後一年ヲ經過シタルトキハ本令ニ依リ扶助金ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但シ解雇前ニ又ハ解雇後一年内ニ請求シタル扶助ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ扶助金ヲ請求スルトキハ

此ノ限ニ在ラス

第九條 扶助金算出ノ標準タル賃金ノ額ヲ定ムル方法ニ關シテハ工場法施行令第十六條第一號及第二號ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リテ金額ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ主務官廳ノ決定ム

第十條 政府ヨリ給與金ヲ受ケル相互救濟ノ目的トスル組合ノ組合員タル傭人ニハ本令ヲ適用セズ

附則

本令ハ大正八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際官役職工人夫扶助令ニ依リ療治料又ハ給助料ヲ受ケ又ハ受ケヘキ者ニハ本令施行ノ日ヨリ本令ニ依リ扶助金ヲ支給ス

官役職工人夫扶助令ハ之ヲ廢止ス

別表

種	別	金額
療治料		實費
休業扶助料	休業三月以內一日ニ付 休業三月ヲ超ユル日數 一日ニ付	賃金日額二分ノ一 賃金日額三分ノ一
	終身自用ヲ辨スルコト能ハサル者	賃金百七十日分以上 三百日分以下

終身勞務ニ服スルコト能ハサル者	賃金百五十日分以上 二百五十日分以下
從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサル者 健康ニシテハハサル者 ニ服スルコト能ハサル者 又ハ女子ニシテ其ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタル者	賃金百日分以上 二百日分以下
身體ニ障害ヲ存スト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ル者	賃金三十日分以上 二十日分以下
一時扶助料	賃金百七十日以上 三百日分以下
遺族扶助料	賃金百七十日分以上 三百日分以下
葬祭料	十圓以上三十圓以下

○夫役死傷者扶助ニ關スル件 大正四年十一月四日 官通第百三〇六號

各道長官宛 政務 總監

京畿道長官何ニ依ル首題ノ件左ノ通御了知相成度及通牒候也
問 夫役トシテ道路工事等ノ公共事業ニ從事中死傷シタル場合貧窮者ナルトキハ窮民救助ノ例ニ依リ地方費ヨリ救恤シ來リシ處此場合ハ貧窮者ニ非スト雖相當吊慰ノ必要有之是等ハ災

○工事又ハ物件購入ニ關スル指名競争ノ件 明治三十三年六月二十八日 改正 大正五年五月四日 勅令第一二二號

政府ノ工事又ハ物件ノ購入若ハ賣拂ニシテ無制限ノ競争ニ付スルヲ不利トスルトキハ指名競争ニ付スルコトヲ得
前項ニ依リ契約ヲ爲シタルトキハ事由ヲ詳具シ直ニ各省大臣ヨリ會計検査院ニ通知スヘシ

○工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件 明治二十三年九月一日 勅令第一九三號

政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニシテ競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ會計規則第七十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尙ホ豫定價格ノ制限ニ達セサルトキハ隨意契約ヲナスコトヲ得但シ之カ爲最初競争ニ付スルトキ定メタル價格及其他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

○政府直接從事ノ事業ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負隨意契約ノ件 明治三十四年二月二十八日 勅令第一八八號

政府ニ於テ直接ニ從事スル事業ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得
附則

民救助ノ例ニ準シ地方費ヨリ吊慰ヲ與ヘ差支ナキヤ
答 夫役死傷者ニ對シテハ貧窮者ト否トニ拘ラス可成明治四十年勅令第一八六號官役職工人夫扶助令ニ準シ當該事業費ノ經費ヲ斟酌シテ相當扶助金ヲ給與スル様御取計相成度其ノ經費ハ事業所屬ノ別ニ依リ地方費又ハ協議費等ノ支辨トシ各當該事業費中ヨリ支出スヘキ義ト御承知相成度尤協議費ヲ以テ支辨スヘキ場合ニシテ經費ニ餘裕ナキトキハ地方費土木補助費ヨリ其ノ經費ヲ補助スルモ差支ナシ

○産業組合ヨリ物品買入ノ時隨意契約ノ件 明治三十八年八月十九日 改正 勅令第二一九號

政府ニ於テ産業組合又ハ産業組合聯合會ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ爲ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル工事及物件ノ買入借入ニ關スル隨意契約ノ件 明治三十四年五月二十五日 改正 勅令第一二〇號

朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル政府ノ工事及千五百圓ヲ超エサル物件ノ買入借入ハ競争ニ付セス隨意契約ニ依ルコトヲ得
附則
明治二十九年勅令第三百十號及明治三十一年勅令第二百二十九號ハ之ヲ廢止ス

○海水ニ觸接スル工事及水道工事ニ要スル「セメント」購入隨意契約ノ件 明治三十二年十一月二十四日 勅令第四三七號

政府ニ於テ施行スル海水ニ觸接スル工事及水道工事ニ要スル「セメント」ノ購入ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○工事ノ爲メ買収又ハ收用シタル土地貸付ノ件 明治三十年二月十九日 勅令第一五五號

國ノ起業ニ係ル工事ニ要スル土地ニシテ買収又ハ收用ノ後未タ其ノ土地ニ工事ヲ施行セサルモノハ其ノ施行ニ至ル迄隨意契約ヲ以テ之ヲ其ノ舊所有者ニ貸付スルコトヲ得

○政府ニ納ムヘキ保證金其他ノ擔保ニ充用スル國債ノ價格ニ關スル件 明治四十一年十一月二十七日 改正 明治四十五年六月十二日 勅令第一八七號 勅令第一三六號

政府ニ納ムヘキ保證金其他ノ擔保ニ充用スル國債、帝國鐵道會計法第二條ノ二ノ證券及大藏省證券ノ價格ハ其債權金額ニ依ル
明治三十八年勅令第二十號ハ之ヲ廢止ス

○工事及物品供給請負入札人及請負人

心得並契約書案ノ件

明治四十四年四月八日
官通第百六十六號
改正 明治四十四年七月二十五日 大正四年十一月五日
官通第百二十七號 官通第百三〇八號

政務總監

本府及各所屬官署宛

工事及物品供給請負入札人及請負人心得並契約書案別冊ノ通相定メ候條此段及通牒候也

(別冊)

工事及物品供給請負入札人心得書

- 第一條 工事請負又ハ物品供給ノ競争入札ニ加ハラントスル者ハ二年以上引續キ其ノ請負ニ附セラルヘキ工事又ハ物品ノ供給ニ從事シタル旨ノ證明書及工事前ノ履歷書ヲ差出スヘシ但シ指名入札ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ競争入札ニ加ハルコトヲ得ス
 - 一 工事又ハ物品供給ノ契約ヲ履行スルニ當リ故意ニ工事又ハ物品ヲ粗雑ニ爲シタル者
 - 二 競争ニ際シ價格ヲ競上クルノ目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者
 - 三 競争ニ加ハラムトスル者ニ對シ妨害ヲ加ヘ又ハ競落者ノ契約履行ヲ妨害シタル者
- 四 工事又ハ物品ノ検査監督ニ際シ掛員ノ職務執行ヲ妨害シタル者

ル者

- 五 前各號ノ一ニ該當スル所爲アリタル後滿二箇年ヲ經過セザル者ヲ工事請負又ハ物品供給ニ際シ代理人、支配人、番頭若シテハ手代トシテ使用シ又ハ入札代理人ト爲ス者
- 第三條 入札人ハ仕書、内譯書、繪圖面、見本、契約書案又ハ現場等熟覽ノ上以下各條ノ規定ニ從ヒ入札保證金、入札書(第一號書式)及入札保證金納付書(第二號書式)ヲ所定ノ日時ニ差出スヘシ但シ代理人ヲ以テ入札スル場合ハ其ノ委任狀ヲ提出スヘシ
- 第四條 入札書、營業證明書、履歷書、入札保證金及入札保證金納付書ハ配達證明書留郵便ヲ以テ送付スルコトヲ得此ノ場合ニハ必ス入札書在中ノ旨ヲ表記スヘシ
- 第五條 入札書ハ所定ノ時刻ヲ過キタルトキハ之ヲ受理セス
- 第六條 入札書ニ記載スヘキ金額ハ總計金額ヲ以テスヘシ
- 第七條 入札保證金ハ入札金額ノ百分ノ五以上(圓位未滿切リ上ケ)トシ現金又ハ有價證券(國債證券並無記名ノ勸業債券、興業債券)トシ納付スヘシ
- 第八條 入札人ノ差出シタル入札書ハ之ヲ引換、變更又ハ取消スニトヲ得ス
- 第九條 開札ハ所定ノ場所、日時ニ入札人ヲ立會ハシメテ之ヲ行フ但シ入札人出席セサルカ又ハ出席セサル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ之ニ立會ハシムルモノトス

第十條 入札ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ無効トス

- 一 入札保證金ヲ納付セザルトキ又ハ入札保證金カ入札金高ノ百分ノ五ニ達セザルトキ
- 二 入札書中緊要ノ文字明瞭ナラザルトキ
- 三 第一條ノ證明書ヲ差出サザルトキ
- 第十一條 入札ハ豫定價格以內最低價ノモノヲ以テ落札トス落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ム
- 第十二條 抽籤ニ加ハルヘキ入札人ニシテ出席セザル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ代理セシム
- 第十三條 各人ノ入札總テ豫定價格ニ超過シタルトキハ直ニ出席入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ
- 第十四條 入札保證金ハ落札人定マリタルトキ又ハ事故ニ依リ入札ヲ中止シタルトキハ即時之ヲ還付ス但シ落札人ノ入札保證金ハ第十五條ノ手續履行ノ上之ヲ還付ス
- 落札人ハ入札保證金ヲ以テ直ニ契約保證金ニ振替ノ請求ヲ爲スコトヲ得
- 第十五條 落札人ハ落札決定ノ日ヨリ五日、郵便入札ノ場合ニ在リテハ契約擔任者ノ定ムル期間内ニ契約保證金ヲ納付シ第三號書式ニ依リ契約ヲ締結スヘシ
- 第十六條 契約保證金ハ請負金高ノ百分ノ十以上(圓位未滿切リ上ケ)トシ現金又ハ有價證券(國債證券並無記名ノ勸業債券、興業債券、拓殖債券及貯蓄債券

(二限)ヲ以テ納付スヘシ

- 第十七條 契約擔任者ハ落札人ヲシテ適當ノ保證人ヲ立テシムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ落札人ハ三日内ニ保證人ヲ選定シ契約擔任者ノ承認ヲ受クヘシ
 - 第十八條 落札人第十五條ノ手續ヲ履行セザルトキ又ハ前條ノ場合ニ適當ナル保證人ヲ立テザルトキハ其ノ落札ハ之ヲ無効トシ入札保證金ハ政府ノ所得トス但シ契約擔任者延期ノ承認ヲ與ヘタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 - 第十九條 記名國債證券ヲ以テ保證金ヲ納付スルトキハ明治三十九年五月大藏省令第二十三號國債規則第四十一條ノ二ノ手續ヲ爲シ其ノ登錄濟通知書ヲ受ケ之ヲ提出スヘシ
 - 第二十條 有價證券ヲ以テ保證金ヲ納付スルトキハ國債證券ニ在リテハ額面額其ノ他ノ有價證券ニ在リテハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外時價ノ八割ヲ以テ計算スヘシ
- (參照)
- 第四十條 登錄國債ニ付テハ質權設定又ハ轉質ノ登錄ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及當事者雙方ノ連署捺印ヲ爲シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ
 - 一 國債ノ種別及質權ノ目的ト爲シタル登錄金額
 - 二 登錄ノ記號及番號又ハ證券ノ額面金額ノ種類、記號及番號
 - 三 登錄ノ記名

- 四 債權ノ金額及其ノ辨濟期
 - 五 質權ニ付利息ニ關スル定メアルトキ、違約金又ハ賠償額ノ定メアルトキ、債權ニ條件ヲ附シタルトキ及民法第三百四十六條但書ノ定メアルトキハ其ノ事項
 - 六 質權設定者カ債務者ニ非サルトキハ債務者ノ住所氏名
 - 七 請求ノ年月日
 - 八 請求者ノ住所
- 第二十二條第一項ノ規定ハ質權ノ目的ト爲ス國債ノ登録金額ニ之ヲ準用ス
- 第四十一條ノ二 法令ノ規定ニ依リ登録國債ヲ以テ質權ニ非サル擔保ノ目的ト爲シ之カ登録ヲ請求セムトスル者ハ其ノ法令ノ條項、擔保權者ノ住所氏名及第四十條第一項各號ニ準シタル事項ヲ記載シ且署名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ
- 第四十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第四十一條ノ三 前條ノ規定ハ質權ニ非サル擔保登録ノ變更又ハ抹消ヲ請求スル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ變更若クハ抹消ノ事由ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ提出シ又ハ當事者雙方カ其ノ請求書ニ連署捺印ヲ爲スコトヲ要ス
- 第一號甲書式
- 入札書
- 何何工事(何何物品)
- 一金 何程也

右金額ヲ以テ請負(供給)可仕依テ入札人心得書承諾入札候也

明治 年月日 住所 氏名 宛

第一號乙書式 封皮雛形

面表

何何工事(物品供給)請負入札書

姓 名

入札保證金納付書

一金 但シ 入札保證金

右納付候也 住所

明治 年月日

宛

氏

名 宛

請負人心得書

第一條 工事請負契約書ハ甲號書式、物品供給契約書ハ乙號書式ニ依ル

第二條 請負人ハ本契約締結ノ日ヨリ五日以内ニ第一號書式ニ依リ工事又ハ物品内譯明細書及工程表ヲ作り之ヲ契約擔任者ニ提出スヘシ

契約擔任者内譯明細書ノ單價又ハ工程表ヲ不相當ト認ムルトキハ請負總額ノ範圍内ニ於テ單價ヲ増減シ又ハ工程ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第三條 契約擔任者ニ於テ仕様ノ變更ヲ要スルモノアルトキハ其ノ旨ヲ請負人ニ通知スヘシ請負人ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ追加契約書又ハ承諾書ヲ差出スヘシ

第四條 契約保證金ヲ處分スヘキ場合ニ於テハ有價證券ヲ保證金トシテ納付シタル請負人ハ契約擔任者ノ指定スル期間内ニ保證金額ノ現金ヲ納付スヘシ請負人指定ノ期間内ニ現金ヲ納付セザルトキハ契約擔任者ニ於テ有價證券ヲ處分スヘシ

第五條 請負人ハ工事ノ施行及工場内ノ取締ニ付テハ總テ主任官吏ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第六條 請負人ハ工事施行又ハ物品製作中日日現場ニ出頭シ諸般ノ施設及取締上ノ事項ヲ處理スヘシ本人出場シ難キトキハ適當ノ代理人ヲ選定シテ之ヲ届出ツヘシ

第七條 主任官吏ニ於テ請負人ノ代理人其ノ他職工人夫ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ差替シムルコトアルヘシ

第八條 請負人ハ其ノ代理人其ノ他職工人夫ノ行爲ニ付一切ノ責任ヲ負ルモノトス

第九條 請負人官ノ材料ヲ使用スル場合ニ於テハ之ヲ工場内一定ノ場所ニ取纏メ完全ニ保管シ精細ナル受拂簿ヲ設ケ其ノ受拂ヲ明確ニシ工事竣功後受拂計算書ヲ提出シ殘餘ノ材料ハ主任官吏ノ指揮ニ從ヒ之ヲ返納スヘシ

第十條 工事請負人工場内ニ持入レタル材料ハ主任官吏ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ工場外ニ搬出スルコトヲ得ス不合格ノ材料ニ付亦同シ但シ此場合ニ於テハ代品ヲ持入レルコトヲ要ス

第十一條 工事完成ノ上工所用ノ假設物剩餘ノ材料ハ主任官吏ノ指揮ニ從ヒ之ヲ撤去スヘシ

第十二條 請負人ハ天災其ノ他不可抗力ニ依リ工事ノ進行又ハ物品ノ納付ヲ妨ケラレタル場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ事故ヲ證明スルニ足ルヘキ書類ヲ添ヘテ延期願書ヲ提出シ契約擔任者ノ許可ヲ受クヘシ

甲號書式

工事請負契約書

何工工事

一金何程

請負金高

此ノ契約保證金何程
但シ(現金又ハ何有價證券何圓券何枚又ハ明治何年何月何日
第何號某金庫保管證書何通)

右工事請負ニ關シ契約擔任者某ヲ甲トシ請負人某ヲ乙トシ左ノ
條項ヲ契約ス

第一條 乙ハ明治何年何月何日ヨリ起工シ何月何日迄ニ別冊仕様
書及繪圖面ニ基キ工程表ニ從ヒ工事ヲ完成スヘシ但シ仕様書及
繪圖面ニ明記セサル事項ト雖モ構造上必要ノ工事ハ總テ請負金
額内ニ於テ施行スヘシ

第二條 乙ハ青負人心得書ノ各條項ヲ承認ス

第三條 乙ニ於テ起工スルトキハ其ノ旨ヲ甲ニ届出ツヘシ

第四條 工事ハ總テ乙ニ於テ直接ニ實施シ第三者ニ下請負ヲ爲サ
シメサルモノトス

第五條 工事ニ使用スル材料ハ總テ使用前甲ノ指定シタル主任官
吏ノ検査ヲ受クヘシ
検査不合格ノ材料ハ速カニ代品ヲ持入レ更ニ其ノ検査ヲ受クヘ
シ

第六條 工事ニ使用スル材料中調査又ハ試験ヲ要スルモノハ甲ノ
指定シタル主任官吏ノ立會ヲ得テ其ノ調査又ハ試験ヲ爲スヘシ

チ與ヘタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 工事ノ全部完成シタルトキハ竣工届(第二號書式)ヲ差
出シ検査ヲ受クヘシ一部完成ノ場合ニ於テ甲之カ引渡ヲ求メタ
ルトキ亦同シ

前項検査ノ結果工作物カ設計書、仕様書、繪圖面ニ適合セスト
認ムルトキハ甲ハ相當ノ期間ヲ定メ修補又ハ改造ヲ命スルコト
ヲ得但シ第十一條ノ規定ノ適用ヲ妨クルコトナシ

工作物カ検査ニ合格シタルトキハ甲ハ乙ニ領收證ヲ交付ス領收
證交付以前ニ於テ生シタル總テノ損害ハ乙ノ負擔トス

第十三條 請負金ハ領收證ヲ交付シタル後乙ノ請求ニ因リ之ヲ仕
拂フ但シ(一)同チ限リ其ノ既成部分ニ對スル請負代價ノ十分ノ
九以内チ乙ノ請求ニ依リ内渡ヲ爲スコトアルヘシ

第十四條 左ノ場合ニ於テハ甲ハ契約ヲ解除スルコトヲ得但シ第
十一條ノ規定ノ適用ヲ妨クルコトナシ

一 起工ノ期日ヨリ十日内ニ工事ニ著手セサルトキ

二 竣工期限ヨリ十日内ニ工事ヲ完成セサルトキ

三 甲ニ於テ現場工事カ工程表ノ通り進捗セス又ハ工事ヲ粗略
ニシ完全ニ竣功スルノ見込ナシト認ムルトキ

四 乙カ甲ノ指定シタル主任官吏ノ指揮命令ニ從ハサルトキ

五 其他本契約ニ違背シタルトキ

六 前各號ノ外甲ニ於テ必要ト認メタルトキ
契約ノ解除ニ付乙ハ異議ヲ申立テ又ハ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 水中又ハ地下ニ埋没スル工作物其ノ他竣工後外部ヨリ檢
査スルコト能ハサル工作物ノ作業ハ甲カ指定シタル主任官吏ノ
立會ヲクシテ施行スルコトヲ得ス

第八條 乙ニ於テ第四條乃至前條ノ定ムルトコロニ違背シ又ハ設
計書、仕様書、繪圖面等ニ適合セスト認メタルトキハ甲ハ何時
ニテモ工作物ノ引換又ハ改造ヲ命スルコトアルヘシ但シ契約期
限ハ之ヲ延長セス

第九條 甲ハ必要ト認ムルトキハ工事ノ一部若ハ全部ノ施行ヲ中
止シ又ハ設計若ハ仕様ヲ變更スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ
契約期限ヲ伸縮スルノ必要アルトキハ甲ニ於テ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ内譯書ノ單價ニ基キテ工費ヲ増減ス但シ内
譯書ノ單價ニ依リ難キモノ又ハ内譯書記載外ニ屬スルモノアル
トキハ雙方協議ノ上之ヲ定ム若協議調ハサルトキハ甲ノ相當ト
認ムル所ニ依ル

第十條 前項ノ場合ニ於テ乙ハ異議ヲ申立テ又ハ請求ヲ爲スコトヲ得
ス

第十一條 前項ノ場合ニ於テ請負金額増減ノ爲既納ノ契約保證金額
ニ過不足ヲ生スルトキハ甲ニ於テ追徴又ハ還付スル事アルヘシ
第十二條 乙ニ於テ本契約ノ期限内ニ工事ヲ完成セサルトキハ遲
延日數ニ應シ一日ニ付請負金總高(箇箇ニ分立スヘキ性質ノ工
事ニシテ各箇ノ請負金額明
瞭ナルモノハ其ノ)ノ千分ノ五ニ相當スル遲滞償金ヲ納付ズヘ
シ但シ天災其ノ他不可抗力ニ因リ契約擔任者ニ於テ延期ノ許可

第十五條 第一項第一號乃至第五號ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタ
ル場合ニ於テハ契約保證金ハ政府ノ所得トス

第十六條 第十四條第一項ハ第一號乃至第五號ノ規定ニ依リ契約
ヲ解除スル場合ニ於テ甲ハ第九條第二項ニ準シテ算出シタル金
額ノ十分ノ九以内チ代價トシテ工事ノ既済部分及現場ニ存在ス
ル検査済加工材料ヲ受クルコトアルヘシ

第十七條 乙ハ第九條第一項ニ依リ仕様變更ノ爲請負金額三分ノ
一以上チ減少シタルトキ又ハ工事中止ノ期間契約期間二分ノ一
以上ニ達スルトキハ本契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 第十四條第一項第六號及前條ノ場合ニ於テハ甲ハ設計
書、仕様書及繪圖面ニ適合スル工事ノ既済部分及現場ニ存在ス
ル工事材料ヲ検査シ第九條第二項ニ準シテ算出シタル代金チ仕
拂ヒ契約保證金ハ之ヲ還付ス

第十九條 官給ノ材料ハ他ノ材料ト交換スルコトヲ得ス

第二十條 甲カ官給ノ材料ヲ交付シタルトキハ其ノ後ノ滅失又ハ
毀損ハ乙ノ負擔トシ現品若ハ現金ヲ以テ之ヲ辨償スヘシ

第二十一條 乙ニ於テ納付スヘキ遲滞償金其ノ他ノ賠償金ハ甲ニ
於テ乙ニ仕拂フヘキ金額又ハ契約保證金額ヨリ之ヲ控除シ尙不
足アルトキハ追徴スヘシ

第二十二條 領收證交付ノトキヨリ(何)年間乙ハ其ノ工作物ノ瑕
疵ニ付擔保ノ責ニ任スルモノトス

前項ノ期間内ニ生シタル瑕疵ニ依ル工作物ノ滅失又ハ毀損ニ對

シ乙ニ於テ指定ノ期間内ニ其ノ義務ヲ履行セサルトキハ甲ハ乙ノ費用ヲ以テ第三者ヲシテ之カ修理ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノトス

第二十三條 保證人ハ本契約ノ履行及損害ノ賠償ニ付乙ト連帶シテ其ノ責ニ任ス

第二十四條 契約保證金ハ第十二條第三項ノ手續ヲ了シタル後乙ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス但シ甲ニ於テ必要ト認ムルトキハ第十二條ノ期間満了ノ時迄之ヲ留保スルコトアルヘシ

第二十五條 乙ハ甲ノ承諾ヲ受クルニ非ラサレハ工事請負金ニ對スル債權ヲ第三者ニ讓渡スルコトヲ得ス

第二十六條 本契約ノ解除ニ付疑義アルトキハ甲ノ決スル所ニ依ル

本契約ノ締結ヲ證スル爲本證書ニ通テ作り雙方記名捺印ノ上各自一通ヲ所持スルモノトス

年月日
契約擔任者 官氏 名印
住所 名印
請負人氏 名印
同 保證人氏 名印

物品供給契約書
一金 何程
(何外何點別紙内譯明細書記載ノ物品供給請負代金)
此ノ契約保證金何程
但シ(現金又ハ國債證券何圓何枚又ハ明治何年何月何日第何號某金庫保管證書何通)
右物品供給ニ關シ契約擔任者某ヲ甲トシ供給請負人某ヲ乙トシ左ノ條項ヲ契約ス
第一條 乙ハ別紙内譯明細書(又ハ前記ノ物品ヲ)見本(仕様書又ハ圖面)ニ依リ(甲ノ發スル注文書ニ從ヒ又ハ明治 年 月 日迄ニ指定ノ場所ヘ)納付スヘシ
第二條 乙ハ請負人心得書ノ各條項ヲ承諾ス
第三條 乙カ物品ヲ納付セムトスルトキハ其ノ旨ヲ甲ニ通告シテ甲ノ指定シタル官吏ノ検査ヲ受クヘシ物品カ検査ノ上完全ナリト認メタルトキハ乙ハ物品納付書ニ検査済ノ證印ヲ受ケ物品ニ添付シテ之ヲ甲ニ差出スヘシ
検査ノ結果不合格品アルトキハ乙ハ甲ノ指定スル期限内ニ之ヲ引換ヘ更ニ検査ヲ受クヘシ此場合ニ於テモ第五條ノ適用ヲ妨ケサルモノトス
持込物品ノ外包又ハ物品ノ性質上必要ナル容器ハ政府ノ所得トス
第四條 検査ノ爲試験ヲ要スル物品ニシテ甲ニ於テ其ノ所要ノ數

量ノ納付ヲ命シタルトキハ乙ハ無償ニテ之ヲ提供スルモノトス

第五條 乙ニ於テ第一條ノ期限迄ニ物品ノ全部又ハ一部ヲ納付セサルトキハ遲滞償金トシテ遲延日數一日ニ付請負金額又ハ未納品代價ノ百分ノ一二相當スル金額ヲ甲ニ納付スヘシ但シ天災其ノ他不可抗力ニ因リ納付ヲ妨ケラレ甲ニ於テ延期ヲ承認シタル場合ハ此限ニ在ラス

第六條 甲ハ必要ノ場合ニ於テ仕様書又ハ見本ヲ變更シ若ハ物品ノ數量ヲ増減スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ内譯明細書ノ單價ニ比例シテ請負代金ヲ増減シ内譯明細書ニ記載セラレサルモノニ付テハ甲乙協議ノ上其ノ代金ヲ定ム若シ協議調ハサルトキハ甲ニ於テ相當ト認ムル所ニ依ル

前二項ノ場合ニ於テ乙ハ異議ヲ申立テ又ハ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 前條ノ場合ニ於テハ乙ハ速ニ追加契約書又ハ承諾書ヲ甲ニ差出スヘシ但シ契約保證金額ニ過不足ヲ生シタルトキハ甲ハ追徴又ハ還付スルコトアルヘシ

第八條 甲ハ左ノ場合ニ於テハ契約ヲ解除スルコトヲ得但シ第五條ノ適用ヲ妨ケルコトナシ

一 納付ノ物品カ仕様書又ハ見本ニ適合セサルトキ
二 納付期限後十日内ニ物品ヲ完納セサルトキ
三 甲ニ於テ乙カ本契約ヲ履行スルコト能ハスト認メタルトキ

四 其ノ他乙ニ於テ本契約ニ違背シタルトキ

契約ノ解除ニ乙ハ異議ヲ申立テ又ハ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 契約ヲ解除シタルトキハ契約保證金ハ政府ノ所得トス

第十條 契約ヲ解除シタル場合ニ於テ検査済ノ既納物品ニ對シテハ甲ハ内譯明細書ニ基キ相當代金ヲ仕拂フモノトス

第十一條 請負代金ハ物品完納ノ上之ヲ仕拂ヒ契約保證金ハ乙ニ於テ本契約ノ義務ヲ完了シタルトキ之ヲ還付ス但シ甲ニ於テ物品ノ分納ヲ指定シタル場合ニハ乙ハ納付ノ都度第三條ノ手續ヲ經テ既納品ニ對スル代價ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 納品ニ關スル關稅、運賃其ノ他納付ノ手續ヲ完了スル迄ノ總テノ費用及損害ハ乙ノ負擔トス

第十三條 代金ノ仕拂又ハ契約保證金ノ還付ニ關シテハ總テ乙ヨリ請求書ヲ差出スモノトス

第十四條 乙ニ於テ納付スヘキ遲滞償金其ノ他ノ賠償金ハ甲ニ於テ乙ニ仕拂フヘキ金額又ハ契約保證金ヨリ控除スルコトヲ得

第十五條 乙ハ甲ノ承諾ヲ受クルニアラサレハ物品供給請負金ニ對スル債權ヲ第三者ニ讓渡スルコトヲ得ス
第十六條 本契約ノ解除ニ付疑義アル時ハ甲ノ決スル所ニ依リ本契約ノ締結ヲ證スル爲本證書ニ通テ作り雙方署名捺印ノ上各自一通ヲ所持スルモノトス
年月日

第一號丁書式

種	目	員數	單價	小計	備考
物品内譯明細書					
請負金高					
內譯					
一金					

本書ハ便宜變更調製セシムルモ妨ケナシ

第二號書式

工事竣功届
 何年何月何日契約
 何年何月何日竣功
 何年何月何日竣功
 何何(新築修繕)工事
 此請負金何圓
 右及御届候也

年月日 請負人氏名
 住所
 宛

○豫定價格及豫定價格下調書取扱順序

第一條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ主務部局長又ハ特ニ命セラレタル官吏ニ於テ諸般ノ狀況ヲ精査シ其ノ工事又ハ物件ノ豫定價格下調書ヲ作製シ之ヲ封書トナシ封緘ノ個所ニ捺印シ決裁ヲ受ケヘキ書類ニ添附スヘシ

主務部局長ハ前項豫定價格下調書ニ基キ工事又ハ物件ノ豫定價格ヲ決定シ署名捺印ノ上封書ト爲シ封緘ノ個所ニ捺印シ之ヲ保管スヘシ

第二條 豫定價格ハ落札決定ヲ爲ストキノ外開封スルコトヲ得ス

第三條 豫定價格下調書ハ左ニ掲グル者ノ外開封スルコトヲ得ス

一 決裁又ハ査閱ヲ爲スヘキ部局長以上

二 檢査上必要ナルトキ其ノ主任

三 豫算推算上必要ナルトキ其ノ主任

第四條 豫定價格下調書ヲ落札決定前開封シタルトキハ更ニ封緘ヲ施シ其ノ個所ニ捺印スヘシ但シ前捺印ノ形跡ハ之ヲ存スヘシ

第五條 豫定價格及豫定價格下調書ハ落札決定後ト雖モ一般公衆ニ對シテハ尙ホ秘密ニ付スヘキモノトス

○工事又ハ物件供給契約上受負期日ニ關スル注意ノ件

明治四十三年十月十日 内務省第一二二號

明治四十五年七月二十九日 總務部局長 決定

各部長官
 警務總長
 鐵道局長
 通信局長
 土地調查局總裁

工事又ハ物件供給契約ニ付テハ從來竣工又ハ納入期日ノ延長ヲ許可スル向往々有之候處右ハ業務ノ進行ヲ妨ケ政務ノ遲滯ヲ誘起スル義ニ付爾今天災時變ニ依ルモノノ外一切延期ヲ許可セザル方針ヲ採リ當事者ニ於テ豫メ各種ノ狀況ヲ精査シ正確ナル期日ヲ定メ契約ヲ締結スヘキ旨各部下ニ通達スヘシ

○豫算繰越ヲ要スル場合明細書提出方

明治四十四年五月十八日 官通第一四一號

各支拂命令官宛
 度支部長官

毎年度ノ經費豫算ノ殘額ニシテ會計法第二十一條及第二十二條ニ依リ翌年度へ繰越使用ヲ要スルモノアルトキハ會計規則第五十七條及第五十八條規定ノ書類ノ外左記各項ノ明細書添付提出相成度

一 請負契約書寫ニ通テ添付スルコト

一 請負ニ付シタル工事又ハ製造等ニシテ避クヘカラサル事由ノ爲請負人ヨリ工事竣功ノ延期願書ヲ差出シタルモノハ其願書寫並ニ設計ノ變更其他官廳ノ都合ニ依リ工事又ハ製造ノ中

前年度	工事又ハ製造	支拂命令額	不用額	翌年度	翌年度	摘要
科目	別等ノ種	額	額	繰越額	度科	
時常(臨時)部						
何何(款)						
何何(項)						
何何(目)						
何						
何						
何						
何						

備考

止テ命シタルモノハ其命令書寫各ニ通テ添付スルコト

一 年度開始又ハ追加豫算公布後直ニ請負契約ヲ締結セス數箇月ノ時日ヲ經過シテ契約ヲ締結シタルモノハ其理由ヲ開示スルコト

一 繰越ノ爲新ニ科目(款項目トモ)設置ノ必要アルモノハ繰越ノ要求ト同時ニ何何ノ款、項、目又ハ何何款項中何何ノ目設置ヲ要スル旨附記スルコト

一 繰越計算書ニハ別紙書式ノ如キ明細書ヲ添付スルコト

明治四十三年度繰越計算書附屬明細書 支出未済額

一 工事又ハ製造等ノ種別欄ニハ何何工事又ハ何何設備、購入等ノ如ク記載スルコト
一 摘要欄ニハ請負直營等ノ區別ヲ記載スルコト

○工事又ハ製造契約ニ關シ豫算繰越手續ノ件

明治四十四年六月二十一日
官通牒第一八六號

度支部長官

各支拂命令官宛

豫算中繼續費ニアラサル工事又ハ製造ノ經費ニシテ之ニ關スル契約ヲ締結スル場合ニ於テハ其ノ竣功又ハ物件納付ノ期日ハ翌年度ニ跨ルヲ得サルハ勿論ニ有之候處當該年度内ニ竣功又ハ納付スヘキ契約ヲ爲シタルモノニシテ中止命令ヲ發シ又ハ延期ノ認可ヲ與ヘタル結果期日ノ翌年度ヘ跨ルニ至ルヘキモノハ其ノ際直ニ繰越承認ヲ求ムル手續相成度尙翌年五月三十一日迄ハ仕拂命令ヲ發行シ得ルカ爲メ自然竣功又ハ納付日ヲ同日迄ニ定メラルル向有之候哉モ難計候處右ハ必ス三月三十一日迄ト御承知相成度依命此段及通牒候也

○國庫出納金端數計算法

大正五年二月
法律第二號

第一條 國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ一錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ其ノ金額一錢未滿ナルトキハ之ヲ一錢トス

○國庫出納金端數計算法ヲ朝鮮、臺灣

第二條 國稅ノ課稅標準額ノ算定ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス
命令ヲ以テ指定スル國稅ノ課稅標準額ニシテ一圓未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ
第三條 分割シテ收入シ又ハ仕拂フ金額ニ在リテ其ノ總額ニ付第一條ノ規定ヲ準用ス
第四條 分割シテ收入又ハ仕拂フ爲ス場合ニ於テ分割金額一錢未滿ナルトキ又ハ之ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ分割金額又ハ端數ハ最初ノ收入金又ハ仕拂金ニ之ヲ合算ス但シ地租ノ分納額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第五條 賣藥印紙稅及郵便切手ヲ以テ納ムル郵便料金ニ付テハ本法ヲ適用セス
法律ニ別段ノ定アルモノノ外本法ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第六條 本法ハ北海道府縣郡市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ收入及仕拂ニ關シテ之ヲ準用ス
附則
第七條 本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第八條 明治四十年法律第三十一號ハ之ヲ廢止ス
但シ本法施行前納入ノ告知ヲ爲シ又ハ仕拂ノ命令ヲ發シタルモノニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

及樺太ニ施行ノ件

大正五年三月
勅令第五十七號

朕國庫出納金端數計算法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム國庫出納金端數計算法ハ之ヲ朝鮮臺灣及樺太ニ施行ス

附則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○國庫出納金端數計算法ヲ適用セサル

大正五年三月
勅令第五十六號

朕國庫出納金端數計算法第五條第二項ニ依ル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
國庫ノ收入及仕拂中左ニ掲クル種目ニハ國庫出納金端數計算法ヲ適用セス

- 一 切手及印紙類賣下代金
- 二 没入金沒收金及犯罪ニ基ク追徵金
- 三 法令ニ依リ當然國庫ニ歸屬スル收入金
- 四 貨幣交換差金
- 五 外國貨幣ヲ基礎トスル收入金及仕拂金
- 六 缺損補填金
- 七 切手貯金拂込金

附則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○現金前渡官吏遠隔ノ地ノ債主ニ對シ

仕拂ヲ爲ス場合ニ於ケル取扱手續ノ件
明治四十四年三月十三日
官通牒第二八號

會計局長

遠隔ノ地ノ債主ニ對シ仕拂ヲ爲ス場合ニ於テハ左ノ通取扱可相成此段及通牒候也

- 一 送金ハ郵便爲替、證書送達ノ方法ニ依ルコト(郵便爲替規則第十五條)
- 二 證明ハ債主ノ請求書ニ郵便局ノ發シタル爲替金ノ領收證書ヲ添付シ證書未到達ノ證明手續ヲ省略スルコト
- 三 債主ノ領收證書ハ提出ヲ要セス

○證明書類調理上注意事項ノ件

明治四十四年三月六日
官通牒第一九號
改正 明治四十四年四月二十七日
官通牒第九三號 明治四十四年六月九日
官通牒第一七三號
明治四十四年七月二十一日 明治四十四年十二月二十一日
官通牒第二二五號 官通牒第三八二號
大正三年五月十五日 大正七年四月
官通牒第一八二號 官通牒第五〇號

政務總監

各仕拂命令官及現金前渡ヲ受ケタル官吏宛

證明書類ノ調理方從來區區ニ涉リ處理上不便不効候條證明書類調
理ノ際ハ特ニ左ノ各項御注意可相成此段及通牒候也

左記

- 一 證明書類調理上注意事項
- 二 支出計算書ノ金額ハ仕拂命令濟額報告書及金庫ノ仕拂命令
受領濟報告書ノ計算額ト符合シタルモノヲ掲上スルコト
- 三 支出及仕拂計算書ノ金額ハ證明書類各表紙金額ト必ス符合
スルモノナルコト
- 四 同上計算書ハ前月ノ計算書ト越高ノ對照符合ヲ確メテ提出
スルコト
- 五 同上計算書ノ金額ハ正確ニシテ遠算無カラシムヘク且ツ記
載方ハ證明規程ニ照シ寸毫ノ違式無キヲ期スルコト
- 六 同上計算書ハ經常、臨時及各款ヲ通シ一冊ニ調製ノコト
- 七 同上計書ノ表紙ニハ證明書及付屬書ノ全冊數枚數ヲ左ノ
如ク記載ヲ要ス

證明書 何冊
附屬書類 何冊
何枚

但シ附屬書類トハ背規事項表等證明書ニ屬セサル一切ノ書類
ヲ云フ

七 證明書類ノ提出ニハ送附書ノ添附ヲ要セス書類ノ表紙ニ發
送番號ヲ付スヘシ

八 削除

- 九 支出計算書ノ證明書ニハ仕拂命令番號仕拂計算書ノ證明書
ニハ引出切符ノ番號ヲ附スヘシ
- 十 出納官吏力引出切符ヲ以テ現金ヲ引出シ仕拂ヲ爲シタル場合
ニ於テハ引出切符番號ノ内番號ヲ附スルモノトス
- 十一 引出切符ニ依ラサル仕拂ノ證明書ニハ引出切符外トシテ追番
號ヲ附スヘシ
- 十二 概算渡ニ係ル證明書ニハ「概算渡」ノ印ヲ捺捺シ目毎ニ其ノ
金額ヲ表紙ニ別記スルコト
- 十三 概算渡證明書ノ内譯ハ發著ノ月日地名等ノ記入ヲ略シ單ニ日
數、夜數、里數等ノ計並之ニ對スル各金額及其ノ合計金額ヲ
掲記スルモノ差支ナシ
- 十四 支出及仕拂計算書概算渡内譯ハ本月ニ於テ概算渡無キ場
合ト雖前月ノ未精算アルトキハ必ス掲記ヲ要ス概算渡精算書
類ハ別冊ニ編纂シ概算渡月別區分ノ表紙ヲ附シ精算金額ヲ記
載スルコト
- 十五 當月ノ仕拂金ヲ其ノ月ニ於テ回收チ爲シタルモノハ表紙
並證明書ニ其金額ヲ朱書スルコト
- 十六 領收書ノ未到達アルトキハ證明書相當科目ノ處ニ仕譯書
ヲ綴込ミ其ノ金額ヲ各目表紙ニ記載スルコト
- 十七 未到達ニ係ル領收證到達ノトキハ其ノ月ノ計算書ト同時ニ提
出ノコト其ノ編纂ハ各目及各月毎ニ區分シ一冊ニ編纂スルコ
ト

二十一 削除

- 二十二 證明書ニ附記證明又ハ說明ヲ要スル事項ハ付箋ヲ用キ
ス直ニ之ヲ餘白ニ朱記シ主任官吏認印スヘシ
- 二十三 立替拂其他正當債主ノ領收證ヲ得難キ場合ハ當該官吏
ノ請求書又ハ仕拂書ニ直接事務ノ監督官吏ニ認證ト記シテ
認印スヘシ
- 二十四 郵便局ニ對スル仕拂ハ郵便局ニ於テ其ノ仕拂命令ヲ現金同様
ニ受入レ特ニ請求スレハ受領證ヲ交付スル答ナルヲ以テ郵便
局名ヲ以テ仕拂命令ヲ發行シ受領證ヲ提出スヘシ
- 二十五 證憑書ハ別記記載例ノ表紙及各目區分ノ界紙ヲ附シテ
科目順ニ合綴シ紙數多キ場合ハ便宜分冊シ二冊以上ノ場合ハ
何冊ノ内何號ト追番號ヲ附スヘシ
- 二十六 計算證明規程第四十一條ニ依リ最終支出計算書ニ添附
スヘキ調書ハ別記第一號書式ニ據ルヘシ
- 二十七 處分完結ニ隨ヒ提出スヘキ報告書ハ第二號書式ニ據ルヘシ
出又ハ仕拂計算書提出ノ後發見シタル誤拂其ノ他ニ關スル報
告書ハ別記第一號及第二號書式ニ準シテ調製スヘシ
- 二十八 工事請負契約書附屬ノ明細書ハ本館、附屬室及其ノ他
工事ノ種類ヲ異ニスル毎ニ區別シ各其ノ請負額、材料、勞力
賃等ヲ區分記載スルコト

- 十四 金庫領收證書ハ其請求書又ハ仕譯書等ノ前ニ綴込ムヘシ
- 十五 支出計算書現金前渡ノ證明書ハ別冊ニ編纂シ其ノ編纂方
ハ前各項證明書ニ關スル例ニ依ル
- 十六 送金仕拂命令及集合仕拂命令ニ依リタル支出ノ證明書類
トシテハ金庫領收證書ヲ請求書無クシテ仕拂ヒタルモノハ仕
譯書其ノ他證明規程ノ指定書類ヲ提出シ正當債主ノ領收證ノ
必要ナシ
- 十七 定額戻入ニ對スル金庫領收通知書ハ證明トシテ提出ノ
必要ナシ
- 十八 工事及物件ニ關スル證明書ニハ總テ物品出納簿及官有財
產登記簿ノ登記年月日ヲ記入スヘシ
- 十九 若シ登記年月日カ仕拂日ノ後ナルカ又ハ年度經過後ナルトキ
ハ前項ノ外納入又ハ引受年月日ヲ記入スヘシ
- 二十 特種物件ノ購買借入ノ證明書ニハ其用途ヲ説明スヘシ
- 二十一 旅費精算書ノ官等及俸給欄ハ旅費額ノ區分ヲ知レハ足ル
ヲ以テ高等官ハ官等列任官ハ級俸囑託員履員其他ハ給額ノミ
ヲ記載セシメ不要ノ部分ハ空欄トシ住所欄ニハ在職者ニ限リ
在勤廳名官氏名欄ニハ事務官書記囑託員履員給仕小使何某ト
簡明ニ記入セシムヘシ
- 二十二 旅費ノ一部棄權ハ精算書ノ備考ニ其旨ヲ記入シ年月日以
下ノ欄ヲ朱記セシムヘシ

- 二十九 一口千圓以上ノ工事及物件ノ寶買貸借ニ關シテハ總テ契約書ヲ添付スルコト
- 三十 治道費ノ如キ工事費ノ支出ハ朝鮮總督府支出ノ分ハ器具器械其ノ他ニ區別シ竣功明細書ニ準シタル調書ヲ作製シ其ノ他ノ工事費ハ直接使用ヲ爲シタルモノニ付テ工事主任ヨリ竣功明細書ヲ提出スルコト
- 三十一 廳費、雜給及雜費、旅費ノ類ヲ節トセル目ニ付テハ最終計算書ニ其ノ目各節毎ノ區分等ヲ添付スルコト
- 三十二 監獄費ノ最終支出計算書及最終仕拂計算書ニハ第三號書式ニ依リ内譯統計表ヲ調製シ之ヲ添付スルコト
- 三十三 諸學校ノ最終支出計算書及最終仕拂計算書ニハ生徒(學年別)現在調ヲ添付スルコト
- 三十四 計算書ノ文字往往不判明ノモノアリ必ス明瞭且丁寧ニ記載スヘシ
- 三十五 計算書用紙ハ必ス礮水引美濃紙又ハ厚質ノ西洋紙ヲ用フヘシ
- 三十六 臨時土地調査局現金前渡ヲ受クル官吏ノ仕拂計算ニハ表紙ニ其ノ第何班ナルコトヲ記載スヘシ
- 三十七 計算書概算渡内譯ハ各費目毎ニ區分シテ記載スルコト
- 三十八 概算渡額ハ當月分概算渡高ノ總額(其ノ月精算ヲ爲シテ)ヲ記入スヘシ
- 三十九 精算額中

- イ 仕拂額ハ左ノ通計算ス
 - (一) 概算渡ニ對シ精算額多キトキ(追給ヲ要)ニ概算渡高
 - (二) 概算渡ニ對シ精算額少キトキ(返納ヲ要)ハ精算ニ依リテ確定シタル高
 - ロ 戻入高、歲入納付額ハイ號第二ノ場合ニ於テ其ノ過渡ニ係ルモノヲ處理シタル區分ニ從ヒ各其ノ欄ニ記入シ戻入額ハ更ニ仕拂命令濟ノ部本月分戻入額ノ欄ニ其ノ金額ヲ記入シ且何レモ計算書末尾科目更正、定額戻入其ノ他内譯ノ部ニ之ヲ掲ケ其ノ事由ヲ説明スルモノトス
 - ハ 計ハ仕拂額戻入額、歲入納付額ヲ合算シタルモノニシテ其ノ金額ヲ未精算額ニ加ヘタルモノハ常ニ概算渡額ニ符合スルモノトス
- (表紙ノ記載例)
- 明治何年度 何年何月分
- 支出證憑書(仕拂計算書ノ證憑書ハ)
- 紙數何枚(證憑書ヲ一冊ニ編纂スルトキハ)
- 冊第何號紙數何枚(證憑書ヲ二冊以上ニ編纂スルトキハ此記入ヲ要ス)
- 備考
- 紙數ハ表紙界紙ヲ除ク外一切ノ證憑書類ヲ一枚毎ニ計算スヘシ

(界紙ノ記載)

- (甲) 經常部
 - 地方廳(款) 俸給(項)
 - 一金壹萬貳千參百五拾圓六拾錢 勅任俸給(目)
 - 備考
 - 一 證憑書ヲ總テ各目ニ區分シ得ル場合ハ本例ニ依リシ
 - 二 定額戻入額及歲入納付額ハ記載スルヲ要セス

(乙)

- 經常部
 - 地方廳(款) 俸給(項)
 - 一金參萬參千參百參拾圓
 - 內譯
 - 勅任俸給
 - 金壹萬千百拾圓
 - 金壹萬千百拾圓 奏任俸給
 - 金壹萬千百拾圓 列任俸給
 - 備考
 - 俸給ノ項ニ限リ其ノ證憑書中一部各目ニ區分編纂シ得ル場合ト雖モ之ヲ混同編纂シ本例ノ表紙ヲ附スルモ差支ナシ

(丙ノ上)

- 經常部
 - 地方廳(款) 廳費(項)
 - 一金貳千九百八拾貳圓五拾錢

一金壹萬參千四百五拾七圓八拾錢

- 內 備品費(目)
 - 金參千五拾七圓 各目ニ區分シ難キ證憑書類中ニ在リ
 - 備考
 - 證憑書ヲ各目ニ區分シ難キモノアルトキハ先ツ其ノ區分シ得ルモノノミヲ本例ニ依リ編纂スヘシ

(丙ノ下)

- 經常部
 - 地方廳(款) 廳費(目)
 - 一金五萬六千四百五拾圓八拾錢 各目ニ區分シ難キ證憑書類中ニ在リ
 - 內譯
 - 備品費
 - 圖書及印刷費
 - 筆紙墨文具
 - 消耗品
 - 備考
 - 證憑書ヲ各目ニ區分シ難キモノヲ取纏メ本例ニ據リ混同編纂スヘシ

(丁)

- 經常部
 - 地方廳(款) 旅費(項)
 - 一金貳千九百八拾貳圓五拾錢 內國旅費(目)

內譯

金貳千參百圓 本月概算渡高
金六百八拾貳圓五拾錢 精算追給高

(證憑書ハ概算渡ニ對スル精算額中ニ在リ)
備考 豫算科目ノ何タルヲ問ハス旅費ノ如ク概算渡ヲナシ精算追給ヲ爲シタルトキハ本例ニ依ルヘシ

(戊)

經常部 地方廳(款) 雜給及雜費(項)
一金五萬六千貳百拾參圓八拾錢 現金前渡額

內譯 金貳萬參千八百貳拾五圓五拾錢
釜山府廳現金前渡ヲ受ケタル官吏 書記 何 某渡

金參萬貳千參百八拾八圓參拾錢
京城府廳現金前渡ヲ受ケタル官吏 書記 何 某渡

(己)

經常部 地方廳(款) 旅費(項) 內國旅費(目)
一金壹千貳百五拾八圓六拾錢 三月分概算渡ニ對スル精算額

外 金六百八拾貳圓五拾錢 精算追給額

備考

精算證書ハ概算渡ヲ爲シタル日毎ニ區分シ本例ニ依リ編纂スヘシ

(庚)

經常部 地方廳(款) 歲入納付證書
一金五拾六圓

備考 歲入納付證書
前渡官吏ニ於テ仕拂殘額ヲ定額戻入又ハ歲入ニ返納シタルトキモ本例ニ依ル

支出計算書末尾掲載ノ科目更正其他內譯欄歲入納付記載ノ順序ニ編纂スヘシ
(概算渡精算ノ例)
何冊ノ内何號 何年何月分

明治何年度 何年何月分
何何(款)何何(項)何何(目)
一金何 程 何月分概算渡ニ對スル精算額

內

金何 程 仕拂額
金何 程 戻入額
金何 程 歲入納付額

紙數何枚 何 廳

第一號ノ丙

明治何年度末日現在誤拂其他未處分調書

一 誤拂

款項	目	仕拂命令番號	金額	完結期限	債主氏名	事由

一 過渡

款項	目	仕拂命令番號	金額	過渡金額	完結期限	債主氏名	事由

一 科目違

款項	目	仕拂命令番號	金額	債主氏名	更正科目	完結期限	事由

第二號ノ甲

明治何年度末日現在何何(款)旅費概算
渡未精算完結報告書

第一號ノ甲	何冊ノ内第何號	何年度何年月分	何庫領收證書	何廳

第一號ノ乙	概算渡年月	概算渡額	完結期限	官氏名	事由

未精算額	完結期限	現金前渡ヲ受ケタル官吏	官氏名	事由

概算渡 年月日	概算 渡額	精算額 仕拂額 納付額	官 氏名	精算年月日
	円	円		

右別冊證憑書ヲ添へ報告候也

年月日

何廳

仕拂命令官 何

某

會計検査院長宛

第二號ノ乙

明治何年度末日現在現金前渡未精算完
結報告書

未精算額	歳入 納付額	現金前渡ヲ受ケ タル官吏 官氏名	完結年月日
円	円		

右別冊證憑書ヲ添へ報告候也

年月日

何廳

仕拂命令官 氏

名印

會計検査院長宛

第二號ノ丙

明治何年度末日現在誤拂其他未處分完
結報告書

一 誤拂	款 項目	仕拂命 令番號	金額	債主氏名	完結年月日
			円		

一 過渡

款 項目	仕拂命 令番號	金額	過渡分歳 入納付額	債主氏名	完結年月日
		円	円		

一 科目違

款 項目	仕拂命 令番號	金額	債主 更正科目 氏名	款 項目	完結年月日
		円			

右別冊證憑書ヲ添へ報告候也

年月日

政務總監

仕拂命令官、現金前渡ヲ受ケタル官吏

收入官吏、物品會計官吏、歳入宛

出外現金出納官吏

證明書類調理方ニ付テハ本年三月六日官通牒第十九號ヲ以テ及通牒置候處尙左ノ事項注意相成度及通牒候也

一 計算書ノ表紙ニハ證憑書及附屬書ノ冊數及枚數ヲ記載スルコト

一 證明書類ハ直接會計検査院ニ送付セス本府ニ送付スルコト

豫算ニ關係スヘキ規程發案ノ場合合

議方ノ件

明治十四年十一月四日
官通牒第三二〇號

度支部長官

各部局長官
警務總長宛

臨時土地調査局副總裁

會計法規ニ關スル件及諸給與ニシテ豫算ニ關係ヲ及ホスヘキ規程發案ノ場合ニハ必ス當部ニ合議相成候様致度此段及通牒候也

朝鮮總督府會計監查規程

大正二年七月二十一日
訓令第四四號

第一條 朝鮮總督府ニ於テ爲ス會計監查ハ本規程ニ依ル

第二條 本規程ニ依リ監查スヘキ事項左ノ如シ

會計検査院長宛
第三號書式

監獄費内譯統計表

何何 分監	囚徒 平均	經費 監督 食料 被服 其他 計	囚徒一人ニ對スル費額 囚徒 監督 食料 被服 其他 計

備考

一 監督費ハ俸給、廳費、修繕費、旅費、雜給及雜費及退官賜金死亡賜金救助費ヲ含ム

二 食料費、被服費ハ在監人費中ノ食糧費、被服費ノミヲ計上ス

三 其他ノ囚徒諸費ハ在監人費中前二號ノ諸費ヲ除クノ外計上ス

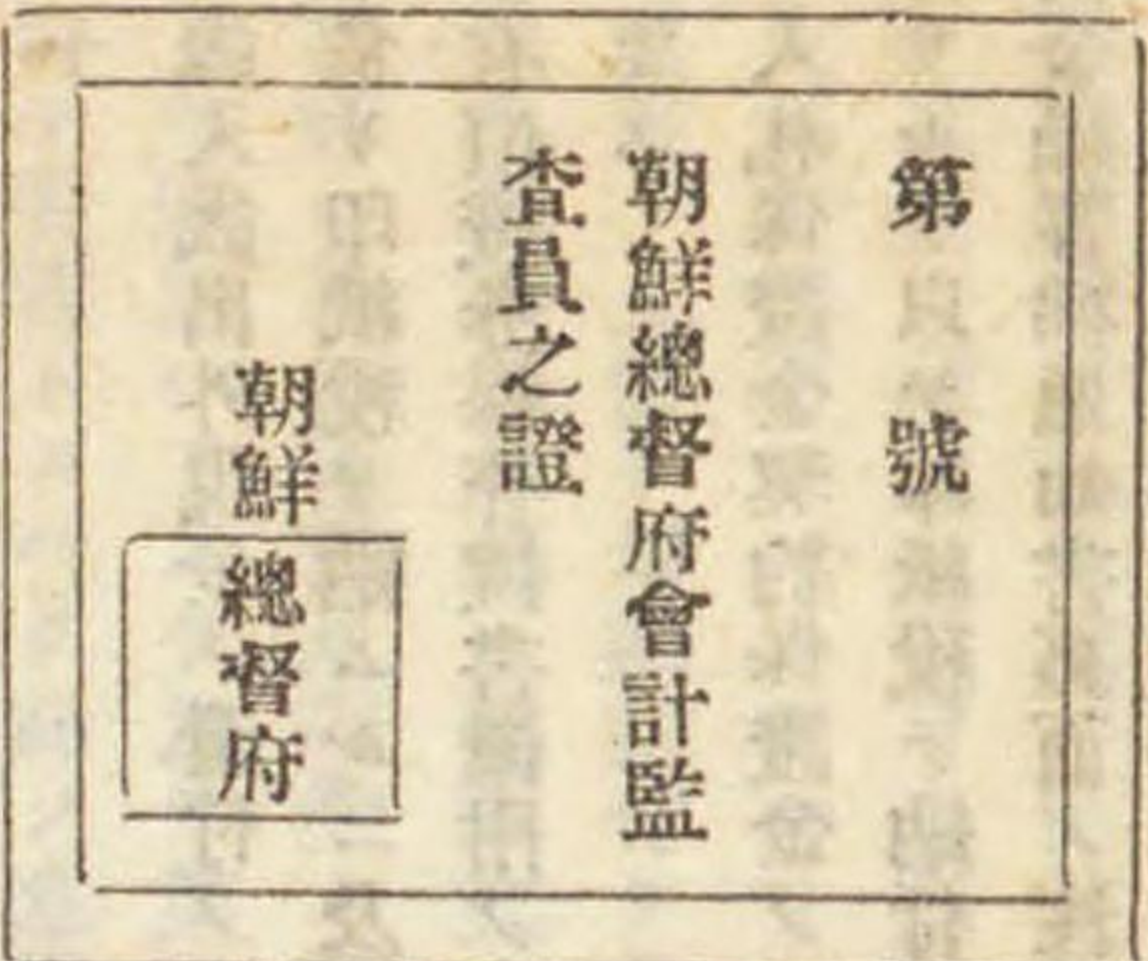
證明書類調理及發送方注意ノ件

明治十四年十一月
官通牒第三百二十三號

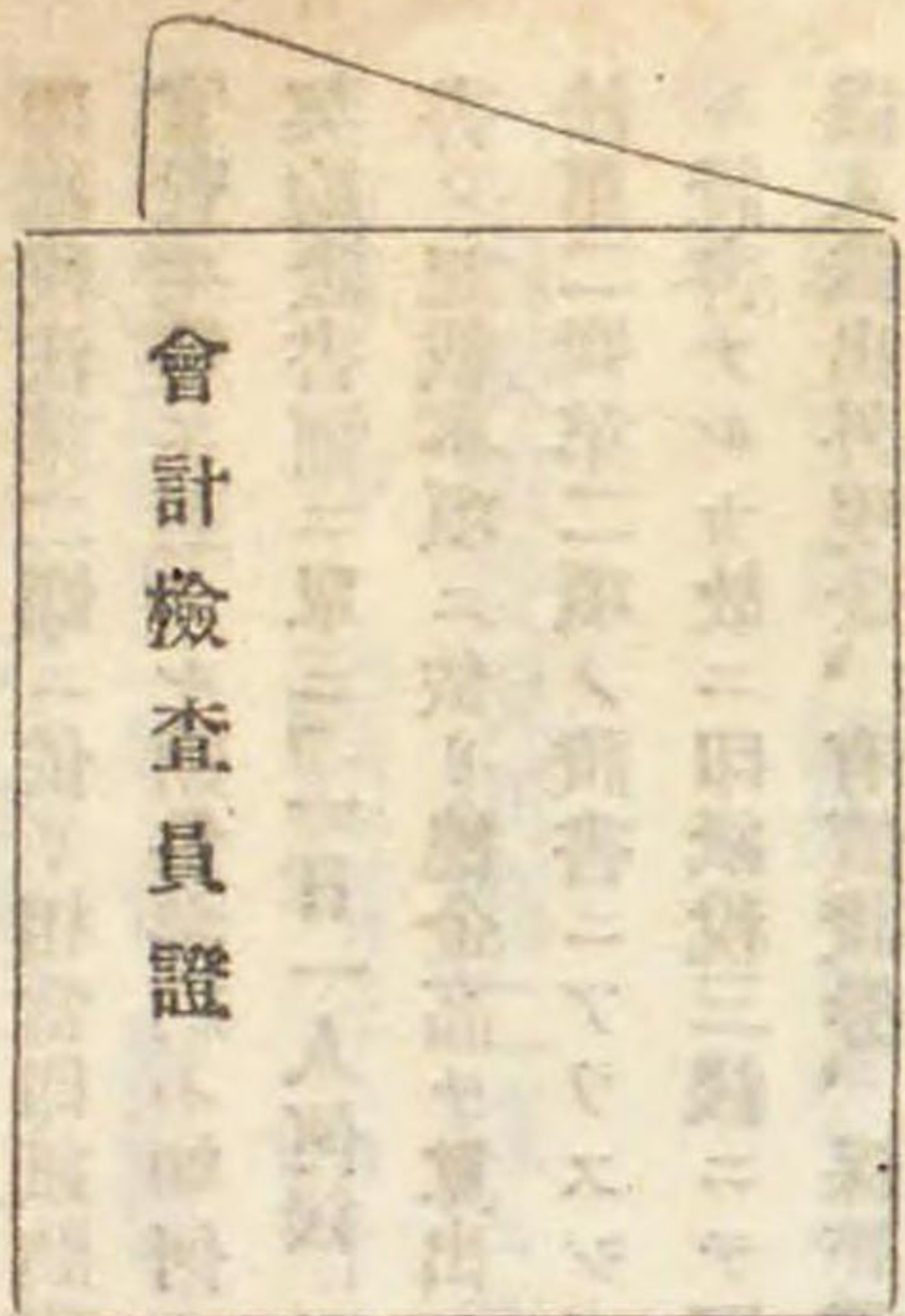
- 一 國費、地方費其ノ他官廳所管特別經濟ノ會計ニ屬スル收支及其ノ決算、物品ノ出納並財產ノ管理
- 二 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體ノ收支及其ノ決算
- 三 法律命令ニ依リ特ニ朝鮮總督ノ監査ニ屬セシメラレタル事項
- 第三條 會計監査ハ各廳解ヨリ提出スル計算書及證憑書類ニ就キ當時之ヲ行ヒ尙隨時監査員ヲ命シ實地監査ヲ爲サシム
- 第四條 朝鮮總督府官房總務局長ハ會計監査ニ關シ當該主務者ニ對シ推問書ヲ發シ又ハ當該主務者ノ爲シタル背規事項ニシテ容易ニ更正シ得ヘキモノハ其ノ更正ヲ命スルコトヲ得
- 前項ノ背規事項ニシテ其ノ重大ナルモノ又ハ不正ノ行爲ニ付テハ意見ヲ具シ速ニ朝鮮總督ノ指揮ヲ請フヘシ
- 第五條 實地監査ハ休日又ハ執務時間外ト雖モ之ヲ行フコトアルヘシ
- 前項ノ場合ニ於テハ豫メ當該廳解ニ之ヲ通知スヘシ但シ廳解外ニ於テ行フトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 監査員實地監査ノ場合ハ監査員證ヲ携帶シ監査ヲ受クヘキ當該主務者ノ要求アリタルトキハ之ヲ示スヘシ
- 監査員證ハ別記様式ニ依ル
- 第七條 監査員ハ書類、帳簿、現金其ノ他必要ナル物件ヲ査閱スヘシ

- 當該主務者ハ何等ノ理由アルニ不拘前項ノ査閱ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第八條 監査員ハ監査シタル事項ニ付口頭若ハ書面ヲ以テ當該主務者ニ辨明セシメ又ハ監査上必要ト認ムルトキハ當該廳解ノ長ノ立會ヲ求ムルコトヲ得
- 第九條 監査員監査ノ結果不正ノ行爲アルコトヲ發見シ又ハ背規事項ニシテ差指キ難キモノト思料シタルトキハ意見ヲ附シ速ニ朝鮮總督ニ報告スヘシ
- 第十條 監査員ハ前條ノ背規事項中輕微ニシテ直ニ訂正シ得ヘキモノニ付テハ當該主務者ニ對シ注意ヲ與ヘ又ハ其ノ處理ヲ指示スルコトヲ得
- 第十一條 各廳解ニ於テハ指示簿ヲ備置キ前條ノ注意又ハ指示ヲ受ケタル事項ノ登載ヲ受クヘシ
- 前項ニ依リ指示簿ニ登載セラレタル事項ハ遲滯ナク之ヲ執行シ其ノ顛末ヲ總務局長ニ報告スヘシ
- 第十二條 監査員ハ監査シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス
- 第十三條 監査員ハ監査終了後遲滯ナク復命書ヲ提出スヘシ
- 前項ノ復命書ニハ第十條ニ依リ注意ヲ與ヘ又ハ處理ヲ指示シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三寸



用紙 鳥ノ子 輪廓花紋



會計檢査員證

○會計監査ニ關スル件

大正二年七月二十八日 官廳條例第二四七號

政務總監

政府ヨリ補助金若ハ特約保證ヲ受クル團體 宛

土木法規 第十一章 經理

本月二十一日朝鮮總督府訓令第四十四號ヲ以テ朝鮮總督府會計監査規程發布相成候ニ付テハ政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ受クル團體ノ會計監査モ同規程ニ依ル儀ニ有之候爲念此段及通牒候也

○印紙納付ニ關スル疑義ノ件

大正八年六月二十一日 官廳條例第八八號

總務局長

各部長官、官房局課長及所屬官署ノ長宛
會計事務取扱上印紙稅納付ニ關スル疑義左記問答ノ通御了知相成度及通牒候也

記

- 問 工事ノ執行並物件ノ購入及支出決議書ハ總テ相當印紙ノ貼附ヲ要スルヤ
- 答 決議書ニ官廳又ハ公署ニ於テ作成スル書類ニ便宜商人ヲシテ見積ヲ記載セシムルモノナレハ別ニ契約書ノ作成ヲ爲ササル場合ハ印紙ノ貼用ヲ要セス尙決議書ニ商人ノ受領捺印ヲ徵スルモノハ受取書ナレハ印紙貼用ヲ要スヘキニ依リ領收欄相當餘白ニ貼附セシムヘシ但シ決議書承諾欄内ノ「御下命ニ付」ヲ「御下命ノ上」ニ「承諾仕候」ヲ「承諾可仕候」ニ各訂正使用ノコト
- 問 官廳公署ト私人トノ間ニ於ケル工事請負契約書又ハ物品供給契約書ハ本證書ニ通テ作リ各一通毎ニ印紙ヲ貼用スヘキヤ
- 答 官廳公署ノ所持スルモノニ限リ印紙貼附ヲ要ス

問 俸給、給料及手當等ノ受領ニ關スル委任狀ニハ印紙貼附スヘキヤ

答 四月一日以降作成ノ委任狀ハ印紙貼附ヲ要ス

問 監獄ト私人間ニ於ケル囚徒ノ傭役契約ハ印紙稅三錢ニテ可ナルヤ

答 印紙稅法第二條ニ依リ相當印紙貼附ヲ要ス

問 官費生等ニ對スル賄供契約ハ如何

答 契約證書面ニ單ニ「一日一人何錢」ト標記シアルノミニシテ證書ノ記載事項ニ依リ總金高ヲ算出スルコトヲ得サルモノハ稅法第二條第二項ノ證書ニアラスシテ稅法第四條ノ金高記載ナキ證書ナルカ故ニ印紙稅三錢ニテ可ナリ

問 歳入歳出外現金、有價證券、保管證書選付ノ場合ニ於ケル受取書又ハ入札保證金契約保證金ノ納付書ハ印紙ノ貼附ヲ要スルヤ

答 (イ)歳入歳出外現金ノ還付ノ受取書ニ付テハ保管金規則第四條ニ依リ印紙稅ヲ納ムルニ及ハス
(ロ)有價證券保管證書選付ノ受取書ニ付テハ印紙稅ヲ納付スルヲ要ス

問 (ハ)入札保證金契約保證金ノ納付書ハ印紙稅法第一條ノ證書ニ非サルヲ以テ印紙稅ヲ納付スルニ及ハス

答 歳出金繰替拂通知書裏面ノ注意事項記載ニ追加事項ナキヤ歳出金仕拂通知書同様注意事項第一號末尾ニ「但シ官吏公吏

付ヲ要セサルモノト解釋シ可然
保管證書選付ノ場合曩ニ保管物取扱主任ヨリ交付シアル領收證書ノ裏面ニ便宜「表書」有價證券又ハ保管證書受領ノ旨ヲ記載シ記名調印セシメタルモノハ印紙稅法第五條第十三號ノ證書裏書ト見做シ印紙貼付ヲ省クコトヲ得ルヤ
答 印紙稅法第四條及第五條本文ノ「左ニ掲クル證書」トアルハ廣義ノ意味ニ於テ證書及證券ノ類ヲ包含シ列記事項ニハ證券ト證書トナ區別シアルヲ以テ第五條第十三號ノ證券ハ狹義ニ解釋スルチ妥當トスヘク此ノ意義ニ於テ本問ノ領收證ハ第四條第二十二號擔保品預證書ニ該當スルモノニシテ隨テ第五條第十三號ニ云フ所ノ證券ニハ非サルヲ以テ受取書トシテ印紙貼付ヲ要ス

○内國旅費規則第二條ニ依ル鐵道賃、船賃ノ件

大正九年五月三十一日
大藏省令第一六號

内國旅費規則第二條ニ依リ鐵道賃、船左ノ賃通相定メ大正九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 鐵道賃ハ左ノ區分ニ從ヒ旅客運賃(通行稅)及急行料金を依リ之ヲ計算ス

- 一、高等官ニ在リテハ一等ノ運賃但シ一等車ノ連結ナキ線路ニ依ル旅行ニ在リテハ二等ノ運賃
- 二、列任官ニ在リテハ二等ノ運賃但シ特別ノ必要ニ依リ一等車

ニ在リテハ官廳名又ハ市町村名若ハ公共團體名ヲ肩書シ官職名ヲ記シ記名捺印スヘシ」ヲ加ヘ尙注意事項トシテ右側餘白

ニ「受領金額五圓以上ノモノハ規定ノ收入印紙ヲ貼附消印スヘシ但シ營業ニ關セサルモノハ此限ニ在ラス」ト記載セラルヘシ

問 入院證書、入學生徒ノ保證書ニハ印紙貼附スヘキヤ

答 單ニ身元引受ノミニ止マルモノハ貼附ヲ要セサルモ進テ入院料、賄料又ハ授業料其ノ他一切ノ財産權ニ關スル保證債務ヲ負フ場合ハ金高記載ナキ證書トシ印紙稅三錢ヲ要ス

○印紙納付ニ關スル疑義ノ件

大正八年七月二十五日
上第ニ〇九九號

各出張所長宛

土木局長

印紙納付ニ關シテハ大正八年六月二十一日官報掲載官通牒第八十八號ヲ以テ指示相成候處尙左記事項解釋上ニ關シ疑義ヲ生スル向キ有之候ニ付爲念及通牒候也

問 官通牒第八十八號中「有價證券、保管證書ノ受取書ニハ印紙貼付ヲ要ストアルハ有價證券、保管證書何レニモ貼付ヲ要スル義ナリヤ

答 有價證券ト外ニ保管證書ハ有價證券ノ保管證書ノミヲ指ス義ニシテ現金ノ保管證書ノ場合ニハ保管金規則第四條ニ依リ貼

ニ乗車シタル場合ニ於テハ一等ノ運賃

三、運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ高等官列任官共上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乗車ニ要スル運賃

四、五十哩以上ノ旅行ニ在リテハ普通急行料金を但シ急行料金を徴セサル線路ニ依リ旅行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

五、百哩以上特別急行列車ニ乗車シタル場合ニ於テハ特別急行料金を

六、特別ノ必要ニ依リ普通急行列車又ハ特別列車ニ乗車シタル場合ニ於テハ前二號ノ規定ニ拘ラス其ノ乗車ニ要スル急行料金を

第二條 船賃ハ旅客運賃(通行稅及解船賃ヲ含ム)及急行料金を依リ鐵道賃ノ例ニ準シ之ヲ計算ス

○朝鮮總督府官制

明治四十三年九月三十日 勅令第三五號
 大正二年六月十三日 勅令第一一四號
 明治四十四年五月 勅令第三六號
 大正四年四月三十日 勅令第一二二號
 大正五年八月二日 勅令第一七八號
 大正六年七月三十一日 勅令第一九二號
 大正七年五月廿二日 勅令第一六二號
 大正八年五月二十三日 勅令第一〇七號
 大正八年八月十九日 勅令第一二四〇號
 大正八年八月十九日 勅令第三八六號

- 第一條 朝鮮總督府ニ朝鮮總督ヲ置ク
- 第二條 總督ハ親任トス
- 第三條 總督ハ諸般ノ政務ヲ統理シ内閣總理大臣ヲ經テ上奏ヲ爲シ及裁可ヲ受ケ
- 第三條ノ二 總督ハ安寧秩序ノ保持ノ爲必要ト認ムルトキハ朝鮮ニ於ケル陸海軍ノ司令官ニ兵力ノ使用ヲ請求スルコトヲ得
- 第四條 總督ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ朝鮮總督府令ヲ發シ之ニ一年以下ノ懲役若ハ禁錮、拘留二百圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得
- 第五條 總督ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ制規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得
- 第六條 總督ハ所部ノ官吏ヲ總督シ委任文官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任文官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス
- 第七條 總督ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部文官ノ叙位叙職ヲ上奏ス
- 第八條 總督府ニ政務總監ヲ置ク

政務總監ハ親任トス

政務總監ハ總督ヲ輔佐シ府務ヲ統理シ各部局ノ事務ヲ監督ス

第九條 總督府ニ總督官房及左ノ六局ヲ置ク

內務局 財務局 殖産局 法務局 學務局 警務局

第十條 總督官房ニ庶務部土木部及鐵道部ヲ置ク

總督官房、各局及各部ノ事務ノ分掌ハ總督之ヲ定ム

第十一條 總督府ニ左ノ職員ヲ置ク

局長	六	人	勅任
部長	三	人	勅任
參事官	三	人	奏任内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
秘書官	二	人	奏任
事務官	五十	人	奏任内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
視學官	二	人	奏任
編修官	二	人	奏任
技師	四十八	人	奏任内三人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
通譯官	十二	人	奏任
屬			
視學			
編修書記	五百十一	人	判任
技手			
通譯生			

第十二條 局長ハ各局ノ長ト爲リ總督及政務總監ノ命ヲ承ケ局務

ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十三條 部長ハ上官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第十四條 參事官ハ上官ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌リ又ハ各部局ノ

事務ヲ助ク

第十五條 秘書官ハ總督ノ命ヲ承ケ機密ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ府務ヲ掌ル

第十七條ノ二 視學官ハ上官ノ命ヲ承ケ學事ニ關スル視察及事務

ヲ掌ル

第十七條ノ三 編修官ハ上官ノ命ヲ承ケ教科用圖書ノ編修及檢定

ニ關スル事務ヲ掌ル

第十八條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十九條 通譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル

第二十條 屬、視學、編修書記、技手又ハ通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承

ケ庶務、學事ニ關スル視察及事務、教科用圖書ノ編修及檢定ニ關

スル事務技術又ハ通譯ニ從事ス

第二十條ノ二 內務局ニ觀測所ヲ置キ氣象及曆ニ關スル事務ヲ掌

ラシム

觀測所ニ附屬測候所ヲ置クコトヲ得

第二十條ノ三 觀測所長ハ朝鮮總督府技師、測候所長ハ朝鮮總督

府技手ヲ以テ之ニ充ツ

第二十條ノ四 觀測所及測候所ノ名稱及位置ハ總督之ヲ定ム

第二十條ノ五 殖産局ニ地質調査所ヲ置キ地質ノ調査ニ關スル事

務ヲ掌ラシム

第二十條ノ六 地質調査所長ハ朝鮮總督府技師ヲ以テ之ニ充ツ

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年勅令第三百十九號ハ其ノ官立學校ニ關スルモノヲ除

ク外之ヲ廢止ス

○建築、土木及官有財産調査ノ事務ニ

從事セシムル爲朝鮮總督府ニ臨時職

員ヲ置クノ件

明治四十五年三月
勅令第二十三號

改正 大正八年五月六日
勅令第七十四號

建築、及土木ニ關スル事務ニ從事セシムル爲朝鮮總督府ニ臨時左

ノ職員ヲ置ク

技師 專任 十四人

屬 技手 專任 百七十三人

附則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年勅令第三百七十三號ハ之ヲ廢止ス

○鑛區臨檢及鑛業登錄水産試驗並灌溉

事業調査ニ關スル事務ニ從事セシム

ル爲朝鮮總督府ニ臨時職員ヲ置クノ

件 大正八年四月二十二日
勅令第七十七號

鑛區臨檢及鑛業登錄、水産試驗並灌溉事業調査ニ關スル事務ニ從

事セシムル爲朝鮮總督府ニ臨時職員ヲ置ク

一、鑛區臨檢及鑛業登錄ニ關スル事務ニ從事スル職員

技師 專任 一人

屬 技手 專任 四十二人

二、水産試驗ニ從事スル職員

技手 專任 三人

三、灌溉事業調査ニ關スル職員

技師 專任 二人

技手 專任 五人

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府事務分掌規程

大正四年五月一日
勅令第二十六號

改正 大正五年三月十日 大正六年一月十二日 大正六年七月三十一日

大正七年五月二十七日 大正八年八月二十日 大正八年十二月二十九日

大正九年四月一日 大正九年六月一日

第一條 總督官房ニ秘書課、參事官室、及外事課ヲ置ク

土木法規 第十二章 官制及處務規程

第二條 秘書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 機密ノ文書及電信ニ關スル事項

二 官吏囑託員ノ進退身分ニ關スル事項

三 王族公族及朝鮮貴族ニ關スル事項

四 李王職々員ノ進退身分ニ關スル事項

五 叙位叙勲ニ關スル事項

六 褒賞ニ關スル事項

七 恩給及遺族扶助料ニ關スル事項

八 特命ニ依ル機密事務ニ關スル事項

參事官室ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 法令ノ審議立案ニ關スル事項

二 法令ノ解釋適用ニ關スル事項

三 重要ナル處分ノ審議ニ關スル事項

四 特命ニ依ル調査ニ關スル事項

外事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 領事館及外國人ニ關スル事項

二 海外移民及在外朝鮮人ニ關スル事項

三 外國文書ノ起草及翻譯ニ關スル事項

四 前各號ノ外滬外事項

第三條 總督官房庶務部ニ文書課、會計課、統計課、及印刷所ヲ

置ク
文書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 文書ノ接受、發送、査閲、編纂及保存ニ關スル事項
 - 二 官印ノ管守ニ關スル事項
 - 三 官報及印刷物ニ關スル事項
 - 四 報告ニ關スル事項
 - 五 圖書ニ關スル事項
 - 六 博物館ニ關スル事項
 - 七 他部局課ノ主管ニ屬セサル事項
- 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 出納及用度ニ關スル事項
 - 二 豫算配付ニ關スル事項
 - 三 國費地方費其ノ他特別經濟ノ會計監査ニ關スル事項
 - 四 保管物及供託物ニ關スル事項
 - 五 李玉職經費ノ會計審査ニ關スル事項
 - 六 廳舎及官舎等小破修繕ニ關スル事項
 - 七 府中取締ニ關スル事項
- 統計課ニ於テハ統計ニ關スル事項ヲ掌ル
- 印刷所ニ於テハ印刷ニ關スル事項ヲ掌ル
- 第四條 總督官房土木部ニ土木課及營繕課ヲ置ク
- 土木課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 道路、河川、港灣、砂防用地、水利及上水下水等ニ關スル事項
 - 二 水面埋築及使用ニ關スル事項

- 三 地方土木工事ノ監督ニ關スル事項
 - 四 土地收用ニ關スル事項
 - 五 局内他課ノ主管ニ屬セサル事項
- 營繕課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 營繕ニ關スル事項
 - 二 地方營繕工事ノ監督ニ關スル事項
 - 三 官有財産ニ關スル事項
- 第四條ノ二 總督官房鐵道部ニ監理課及工務課ヲ置ク
- 監理課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 鐵道ノ一般計畫ニ關スル事項
 - 二 委託國有鐵道ノ運輸及附帶業務ニ關スル事項
 - 三 委託國有鐵道ニ屬スル官有財産ノ整理ニ關スル事項
 - 四 私設輕便鐵道及軌道ニ關スル事項
 - 五 局内他課ノ主管ニ屬セサル事項
- 工務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 鐵道線路ノ調査ニ關スル事項
 - 二 委託國有鐵道建設及改良工事ノ計畫及監督ニ關スル事項
 - 三 委託國有鐵道ノ保存ニ關スル事項
- 第五條 內務局ニ第一課及第二課ヲ置ク
- 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 道府郡島面行政ニ關スル事項
 - 二 地方費ニ關スル事項

- 三 臨時恩賜金ニ關スル事項
 - 四 公立普通學校費用令ニ關スル事項
 - 五 郷校財産管理ニ關スル事項
 - 六 朝鮮總督府觀測所ニ關スル事項
 - 七 削除
 - 八 兵事ニ關スル事項
 - 九 部内他局課ノ主管ニ屬セサル事項
- 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 地方團體及公共組合ニ關スル事項
 - 二 削除
 - 三 救恤及慈善ニ關スル事項
 - 四 濟生院ニ關スル事項
- 第六條 削除
- 第七條 財務局ニ稅務課、關稅課、司計課、理財課、專賣課及臨時關稅調查課ヲ置ク
- 稅務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 租稅ノ賦課及徵收ニ關スル事項
 - 二 土地台帳ニ關スル事項
 - 三 驛屯土ニ關スル事項
 - 四 稅外諸收入諸貸付金ニ關スル事項
 - 五 稅法違反者ノ處分ニ關スル事項
 - 六 道府郡島面其ノ他地方團體及公共組合ノ公課ニ關スル事項

- 七 部内他課ノ主管ニ屬セサル事項
- 關稅課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 關稅移出入稅噸稅及稅關諸收入ニ關スル事項
 - 二 關稅ノ取締及犯則者處分ニ關スル事項
 - 三 上屋保稅倉庫及稅關倉庫ノ管理監督ニ關スル事項
 - 四 前各號ノ外關稅行政ノ管理監督ニ關スル事項
 - 五 外國貿易ノ調査ニ關スル事項
- 司計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 豫算決算ニ關スル事項
 - 二 定額繰越及年度開始前支出ニ關スル事項
 - 三 仕拂豫算、豫備金支出及豫算流用ニ關スル事項
 - 四 科目設置ニ關スル事項
 - 五 主計簿登記ニ關スル事項
 - 六 歲入歲出ノ報告ニ關スル事項
- 理財課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 國債及借入金ニ關スル事項
 - 二 貨幣及兌換券ニ關スル事項
 - 三 一般金融ニ關スル事項
 - 四 銀行其ノ他金融機關ニ關スル事項
 - 五 地方團體及公共組合ノ起債ニ關スル事項
- 專賣課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 紅蔘ノ專賣ニ關スル事項

- 二 人蔘及煙草ノ試作ニ關スル事項
- 三 紅蔘專賣ノ犯則者處分其ノ他取締ニ關スル事項
- 四 鹽ノ製造、販賣、輸出入、移出入及貯藏ニ關スル事項
- 五 鹽田ノ施設及經營ニ關スル事項
- 六 鹽製造ノ免計及取締ニ關スル事項
- 臨時關稅調查課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 關稅制度ノ調査ニ關スル事項
- 二 關稅定率ノ調査ニ關スル事項

第八條 殖產局ニ農務課、山林課、水產課、商工課及鑛務課ヲ置ク

- 農務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 農業及蠶業ニ關スル事項
- 二 畜産及狩獵ニ關スル事項
- 三 國有未墾地ニ關スル事項
- 三ノ二 農業水利ニ關スル事項
- 四 勸業模範場及獸疫血清製造所ニ關スル事項
- 五 部内他課ノ主管ニ屬セサル事務
- 山林課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 森林山野ニ關スル事項
- 二 營林廠ニ關スル事項
- 水產課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 水産ニ關スル事項

- 二 水産組合及漁業組合ニ關スル事項
- 三 水産市場ニ關スル事項
- 商工課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 商工業ニ關スル事項
- 二 會社、商業會議所及重要物産同業組合ニ關スル事項
- 三 博覽會、共進會及商品陳列館ニ關スル事項
- 四 度量衡ニ關スル事項
- 五 中央試驗所ニ關スル事項
- 鑛務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 鑛業及鑛業令ニ依ル土地ノ使用、收用ニ關スル事項
- 二 平壤鑛業所ニ關スル事項
- 三 地質調査所ニ關スル事項

第九條 法務局ニ法務課及監獄課ヲ置ク

- 法務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 民事、刑事及非訟事件ニ關スル事項
- 二 民事刑事及非訟事件ノ裁判事務ニ關スル事項
- 三 檢察事務ニ關スル事項
- 四 犯罪人引渡ニ關スル事項
- 五 赦、復權及刑ノ執行ニ關スル事項
- 六 裁判所ノ設置、廢止及管轄區域ニ關スル事項
- 七 民籍ニ關スル事項
- 八 辨護士、訴訟代理人及破產管財人ニ關スル事項

九 部内他課ノ主管ニ屬セサル事項

- 監獄課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 監獄ニ關スル事項
- 二 假出獄及出獄人保護ニ關スル事項
- 三 犯罪人ノ異同識別ニ關スル事項

第十條 學務局ニ學務課、編輯課、及宗教課ヲ置ク

- 學務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 教育、學藝ニ關スル事項
- 二 教員ニ關スル事項
- 三 學校、幼稚園及圖書館ニ關スル事項
- 四 經學院ニ關スル事項
- 編輯課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 教科用圖書ニ關スル事項
- 二 民曆ノ出版及頒布ニ關スル事項
- 宗教課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 神社及寺院ニ關スル事項
- 二 宗教及享祀ニ關スル事項

第十一條 警務局ニ警務課、高等警察課、保安課及衛生課ヲ置ク

- 警務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 警察區劃及配置ニ關スル事項
- 二 警察被服及附屬品ニ關スル事項
- 三 警察ノ服務及紀律ニ關スル事項

四 警衛及警備ニ關スル事項

- 五 局内他課ノ主管ニ屬セサル事項
- 高等警察課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 高等警察ニ關スル事項
- 二 新聞雜誌、出版物及著作物ニ關スル事項
- 保安課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 行政警察ニ關スル事項
- 二 消防ニ關スル事項
- 三 司法警察ニ關スル事項
- 四 犯罪即決事務ニ關スル事項
- 五 民事訴訟調停事務ニ關スル事項
- 六 執達吏事務ニ關スル事項
- 衛生課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 公衆衛生ニ關スル事項
- 二 醫師、醫生、藥劑師、產婆、看護婦、及種痘認許員ニ關スル事項
- 三 病院ニ關スル事項
- 四 藥品營業、入齒、理髮、按摩及針灸術營業ニ關スル事項
- 五 墓地及埋火葬ニ關スル事項
- 附則
- 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○官制改正ニ依ル勤務課所ノ件

大正八年八月二十日 訓令第三三三號

大正八年勅令第三百八十六號施行ノ際現ニ別表上欄ノ課所ニ勤務課ノ職員ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ其ノ相當下欄ノ課所ノ勤務ヲ命セラレタルモノトス

(別表)

秘書課	秘書課
總務局人事課	總務部文書課
總務局總務課	總務部會計課
總務局會計課	總務部統計課
總務局統計課	庶務部統計課
總務局臨時國勢調査課	庶務部臨時國勢調査課
總務局印刷所	庶務部印刷所
土木局土木課	土木部土木課
土木局營繕課	土木部營繕課
鐵道局監理課	鐵道部監理課
鐵道局工務課	鐵道部工務課
內務部第一課	內務局第一課
內務部第二課	內務局第二課
度支部稅務課	財務局稅務課
度支部關稅課	財務局關稅課

度支部會計課	財務局會計課
度支部專賣課	財務局專賣課
度支部臨時關稅調査課	財務局臨時關稅調査課
農商工部農務課	殖產局農務課
農商工部山林課	殖產局山林課
農商工部水產課	殖產局水產課
農商工部商工課	殖產局商工課
農商工部礦務課	殖產局礦務課
農商工部地質調査所	殖產局地質調査所
司法部法務課	法務局法務課
司法部監獄課	法務局監獄課
內務部學務局學務課	學務局學務課
內務部學務局編輯課	學務局編輯課
內務部觀測所	內務局觀測所

○朝鮮總督府土木會議官制

明治四十四年九月三十日 勅令第三七五號 改正 大正六年七月 勅令第八〇號

第一條 朝鮮總督府土木會議ハ朝鮮總督ノ監督ニ屬シ河川、道路、港灣、航路標識、鐵道、輕便鐵道、軌道、電氣事業及上下水道ニ關スル制度、計畫、設備其ノ他土木ニ關スル重要ナル事項ヲ調査審議ス

第二條 土木會議ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 會長ハ朝鮮總督府政務總監、委員ハ朝鮮總督府各部長官、警務總長、鐵道局長、逓信局長官及朝鮮駐劄軍參謀長ヲ以テ之ニ充ツ其ノ他ノ委員ハ朝鮮總督府高等官ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

第五條 會長事アルトキハ朝鮮總督ノ指定シタル委員其ノ事務ヲ代理ス

第六條 土木會議ニ書記ヲ置キ朝鮮總督府判任官ノ中ヨリ會長之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

附則 本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府委任事項規程

大正九年四月一日 內訓第四號

- 第一條 政務總監ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 定例アル告示ノ制定
 - 二 判任官、同待遇職員及囑託ノ進退、懲戒及賞與
 - 三 奏任官以下ニ對スル療治料及死傷手當ノ給與

四 公立學校職員恩給審査規程第三條及在外指定學校職員恩給審査規程第二條ニ依ル具申ノ裁決

五 一件ノ金額十萬圓以下ノ國庫補助

六 繼續工事ニ屬スル年度内實施計畫ノ決定及其ノ變更

七 土地其ノ他ノ寄附採納

八 官有財産管理規則ニ依ル處分

九 河川取締規則、大正三年府令第四十七號及官有水面埋立規則ニ依ル許可 但シ主要ナル河川及港灣ニ關スル重要ナル處

分ヲ除ク

十 道路規則第四條ノ認可、第六條但書ノ指定

十一 大正四年訓令第五十號第一條中計畫又ハ設計變更ノ認可及第三條、第五條ニ依ル認可

十二 市區改正及下水ニ關スル認可

十三 朝鮮輕便鐵道令施行規則第十五條中停車場ノ新設、廢止、位置變更、第十七條、第十九條中運賃及第二十條ノ許可又ハ

認可並第三十一條ノ許可又ハ認可ノ取消

十四 明治四十五年府令第二百二十號中前號ニ準スヘキ事項

十五 輕便鐵道又ハ軌道ニ對スル補助金交付條件中株金ノ拂

込、社債及借入金ノ認可

十六 國有鐵道ノ運賃及諸料金割引ノ認可

十七 國有鐵道運輸營業ノ開始、廢止、停車場ノ新設、移轉、廢止、他ノ交通欄關下ノ連絡運輸ノ開始、廢止、變更並列車

- 發著時刻制定、改廢ノ認可
- 十八 地方費ニ屬スル夫役及現品賦課ノ認可
- 十九 地方費特別會計設定ノ認可
- 二十 地方費繼續費設定及ハ變更ノ認可
- 二十一 府ニ於ケル使用料、手数料ノ新設及増額ノ許可
- 二十二 府、面、學校組合及水利組合起債ノ許可又ハ認可 但シ起債額十萬圓以上ノモノヲ除ク
- 二十三 學校組合ノ設置、分合、廢止、區域ノ變更ニ關スル許可及之方爲組合規約ノ設定、變更若ハ財產處分ヲ要スル場合ノ許可
- 二十四 水利組合同規約變更ノ認可但シ合併分割及廢止ニ關スルモノヲ除ク
- 二十五 水利組合事業ノ認可
- 二十六 面相談役定員ノ認可
- 二十七 面賦課金制限外賦課ノ認可
- 二十八 面ノ區域變更ノ場合ニ於ケル財產處分ノ認可
- 二十九 恩賜權災救助基金ノ支出
- 三十 朝鮮保稅倉庫令ニ依リ保稅倉庫法第十八條ノ特許、同第三十條ノ認可、同第三十條ノ特許取消並朝鮮保稅倉庫令施行規則第十九條ノ認可
- 三十一 釜山稅關棧橋使用規則、稅關所屬曳船使用規則及仁川船渠使用規則各第五條ニ依ル認可

- 三十二 稅關特許手数料ノ減額又ハ納付方法變更ノ認可及外國貿易船不開港出入特許手数料減額ノ認可
- 三十三 大正七年府令第二十一號第一條ニ依ル認可
- 三十四 第二豫備金支出ノ要求
- 三十五 朝鮮銀行及朝鮮殖產銀行內規諸規則ノ制定又ハ變更ノ認可若ハ承認
- 三十六 朝鮮銀行ノ代理店及其ノ他銀行ノ支店、代理店、出張所、派出所ノ設置並普通銀行ノ商號及本支店所在地變更ノ認可又ハ命令
- 三十七 朝鮮銀行及朝鮮殖產銀行重役ノ兼職並朝鮮商業銀行、漢城銀行重役就任ノ認可及朝鮮商業銀行支配人ノ進退及懲戒
- 三十八 普通銀行資本總額變更ノ許可
- 三十九 朝鮮銀行貸付金ノ利子並手形割引歩合ノ認可及朝鮮殖產銀行法定貸付金最高利子歩合ノ承認
- 四十 朝鮮銀行券發行準備價格及保證價格ノ認可
- 四十一 朝鮮銀行及朝鮮殖產銀行利益金配當ノ認可
- 四十二 朝鮮銀行及朝鮮殖產銀行業務檢査ノ命令
- 四十三 金融組合ノ設立許可並解散及合併ノ認可
- 四十四 金融組合令第十一條第一項及第十五條ニ依ル命令
- 四十五 金融組合基金ノ使用認可及返納命令
- 四十六 金融組合聯合會理事長、理事及清算人ノ進退並之カ給料及手當金ノ指定

- 四十七 國有未墾地利用法及同施行規則ニ依ル處分 但シ五百町步ヲ超ユル國有未墾地ノ貸下、付與、拂下及貸下許可ノ取消ヲ除ク
- 四十八 五百町步以下ノ國有林野ニ對スル乙種要存豫定林野及第一種不要存林野ノ區分決定及解除
- 四十九 千町步以下ノ國有林野貸付、森林令第七條、森林令施行規則第十六條、第十七條ニ依ル處分及五百町步以下國有林野ノ賣却、讓與、交換及其ノ取消、解除
- 五十 國有林野產物一件ノ金額五千圓以下又ハ材積五千尺縮以下ノ賣却、讓與及其ノ取消、解除
- 五十一 漁業組合設立ノ許可
- 五十二 一件ノ採捕物金額五千圓以下ノ免許漁業ニ關スル處分
- 五十三 免許漁業ノ採捕物見積價格ノ變更
- 五十四 水產組合役員ノ選任、解任、決議ノ認可及取消命令 但シ組合長及定款變更並解散ニ關スル場合ヲ除ク
- 五十五 商業會議所令及同施行規則ニ依ル處分 但シ設立、解散、定款變更ノ認可及商業會議所令第十六條ニ依ル處分ヲ除ク
- 五十六 重要物產同業組合令及同施行規則ニ依ル處分 但シ設置、解散ノ認可及重要物產同業組合令第十九條第二項、第二十條ニ依ル處分ヲ除ク
- 五十七 市場規則取扱手續第一條第二號ニ依ル處分

- 五十八 礦業令第十條、第十四條、第三十二條第一項、第三十五條第二項ニ依ル處分
- 五十九 土石採取規則ニ依ル處分
- 六十 公立高等女學校ノ修業年限、學則及維持方法變更ノ認可 並公立實業專修學校ノ學則及維持方法變更ノ認可
- 六十一 私立學校規則第二條、第三條ニ依ル認可 但シ中等程度以上ノ學校ノ設置認可ヲ除ク
- 私立學校規則第十五條ニ依ル中等程度以上ノ學校ニ對スル命令及同第十六條ニ依ル初等程度學校ノ閉鎖命令
- 六十二 高等普通學校、女子高等普通學校、實業學校ノ學則及維持方法ノ變更及專門學校規則第三條ニ依ル認可
- 六十三 官費留學生程度ニ依ル處分
- 六十四 教科用圖書檢定規程ニ依ル處分
- 六十五 教科用圖書ノ編纂依囑
- 六十六 本府出版教科用圖書、朝鮮民曆ノ定價及賣下價格ノ決定
- 六十七 寺刹令及同施行規則ニ依ル處分 但シ寺法ノ認可ヲ除ク
- 第二條 各局長、官房各部長、秘書課長、首席參事官及外事課長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 部下職員勤務ノ指定 但シ課長及之ニ準スヘキ者ヲ除ク
 - 二 部下職員ノ例規ノ請暇及休暇中旅行ノ許可

- 三 部下職員ノ除服出仕
 - 四 部下職員ノ官吏服務規律ニ依ル願出ノ許否
 - 五 部下職員ノ出張 但シ外國出張ノ場合ヲ除ク
 - 六 部下職員ノ進退及賞與
 - 七 事業費所屬傭人ノ進退及賞與
 - 八 補助工事設計ノ變更 但シ一萬圓ヲ超ユル補助金ノ増加ヲ要スル場合ヲ除ク
 - 九 報告及屆書ノ處理 但シ重要ナルモノハ即時ニ總督ノ閱覽ニ供スヘシ
 - 十 事務上定例アルカ若ハ輕易ノ事項ニ關スル照會、回答並通知
- 第三條 內務局長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
- 一 地方費及臨時恩賜金ニ關シ定例アル豫算ノ追加更定、一時借入金、翌年度歳入ノ繰上ノ使用、豫備費ノ支出、豫算各項金額ノ流用及臨時恩賜金基金編入金使用ノ認可
 - 二 地方費豫算ヲ以テ定ムルモノノ外地方費ノ負擔トナルヘキ義務負擔及權利拋棄ノ認可
 - 三 地方費制限外現金前渡ノ認可
 - 四 道内ニ於ケル府郡島書記定員變更ノ認可
 - 五 寄附金品募集ノ認可
 - 六 府協議會員任命ノ認可
 - 七 府條例ノ許可 但シ府稅ノ新設及課率ノ増額並使用料、手

- 八 敷料ノ新設及増額ニ關スルモノヲ除ク
 - 九 第一條第二十三號ニ規定セル以外ノ學校組合規約ノ變更、一廉五千圓未満ノ起債、起債ノ方法、利息ノ定率及償還方法ノ變更並借替ニ關スル許可
 - 十 府及水利組合ニ於ケル起債ノ方法、利率、償還方法ノ變更及借替ノ認可
 - 十一 水利組合ノ起債ニ依ラサル事業及其ノ變更ノ認可 但シ變更ノ爲起債ヲ要スルモノヲ除ク
 - 十二 水利組合ニ關シ道知事ノ經何事項ニ關スル承認
 - 十三 面ニ於ケル使用料、手数料ノ新設増額及變更ノ認可
 - 十四 面吏員ノ匪徒被害者遺族弔慰金ノ支出
 - 十五 恩賜賑恤資金ノ支出
 - 十六 行旅病人救護資金ノ支出
- 第四條 財務局長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
- 一 租稅ノ減免
 - 二 租稅、譯屯土收入及地方費賦課金亡失ノ責任解除處分
 - 三 所得稅法施行規則第三條第二項ニ依ル納稅地ノ指定
 - 四 煙草稅事務取扱手續第七條及第二十條ノ稟議ニ對スル處分
 - 五 漁業稅令第三條ニ依ル捕鯨頭數ノ決定
 - 六 國有地小作人組合ニ關スル處分
 - 七 驛屯土無料貸付ノ承認

- 八 一件一萬坪以下驛屯土ノ特殊貸付
- 九 驛屯土ヲ公用又ハ公共用地ニ編入ノ承認
- 十 一件ノ評定價格五千圓以下驛屯土ノ處分
- 十一 決裁ヲ經タル標準價格ニ依ル生産物件ノ處分
- 十二 朝鮮保稅倉庫令施行規則第二十一條但書ニ依ル許可
- 十三 金銀貨幣、同地金、同製品及同合金ノ輸出許可
- 十四 補助費途ニ屬スル豫算ノ不足ニ對シ豫備金ノ支出
- 十五 歳入歳出科目ノ設置及變更並豫算各目ノ流用
- 十六 仕拂豫算金庫ヘノ令達及會計檢査院ヘノ通知
- 十七 歳計剩餘金額國庫移替又ハ資金組入ノ請求
- 十八 歳入繰越計算表及増減計算表大藏省ヘ提出
- 十九 年度經過後誤謬發見ニ係ル歳入ノ整理
- 二十 豫算繰越承認ノ要求
- 二十一 第一豫備金ヲ以テ補充スヘキ費途ニ對スル剩餘金支出ノ要求
- 二十二 明治四十四年法律第五十八號ニ依ル定期貸及据置貸ニ關スル事項
- 二十三 朝鮮銀行及朝鮮殖産銀行ノ臨時休業並朝鮮殖産銀行及普通銀行營業時間變更ノ許可又ハ認可
- 二十四 朝鮮商業銀行定款並内規諸規則ノ變更及職員ノ進退其ノ他身分ニ關スル認可 但シ支配人ノ進退及懲戒ヲ除ク
- 二十五 朝鮮殖産銀行、朝鮮商業銀行及漢城銀行ノ他ノ銀行若

- 十八 會社ノ業務代理又ハ朝鮮商業銀行ノ公共團體ノ金錢出納取扱ノ認可
- 二十六 朝鮮銀行ノ「コレス」締結ノ認可
- 二十七 朝鮮銀行ノ貸付及其ノ他ノ銀行ノ貸付又ハ借入ニ關スル認可、承認及指定
- 二十八 朝鮮銀行及朝鮮殖産銀行ノ買入又ハ擔保トスヘキ有價證券ノ種類並朝鮮商業銀行ノ公債私債又ハ株式ノ引受、應募、賣買ニ關スル指定又ハ認可
- 二十九 朝鮮銀行ノ債務辨償ノ爲メ引受ケタル物件ノ處分及朝鮮殖産銀行ノ債券ノ買入、銷却ニ關スル認可
- 三十 朝鮮殖産銀行餘裕金預入銀行ノ指定
- 三十一 朝鮮商業銀行及漢城銀行ノ利益金分配並積立金使用ノ認可
- 三十二 朝鮮商業銀行所有物ノ價格ノ變更、賣買及建物ノ新築、改築等ニ關スル認可
- 三十三 朝鮮商業銀行ノ信用狀發行、支拂保證及漢城銀行ノ甲號株式ノ讓渡又ハ買入ニ關スル認可
- 三十四 銀行、會社總會ニ於ケル政府持株代表者出席ノ委任
- 三十五 普通銀行業務檢査命令
- 三十六 金融組合令第六條及第七條並金融組合業務監督規程第二條、第九條、第十條第二項及第六十一條ニ關スル認可又ハ承認

- 三十七 金融組合及金融組合聯合會ノ借入金及定款變更ノ認可
- 三十八 金融組合理事、清算人ノ進退及設立準備委員ノ推薦並之方給與及手當金ノ指定
- 三十九 金融組合理事並金融組合聯合會理事長及理事服務及懲戒規程ニ依ル許可
- 四十 金融組及金融組合聯合會ノ業務及清算事務ノ検査命令
- 四十一 金融組合ニ對スル定例アル國庫補助
- 四十二 鹽製造ノ許可
- 四十三 煙草耕作組合ニ關スル處分
- 四十四 紅蔘ノ販賣及輸移出入ノ命令
- 四十五 人蔘耕作獎勵規則ニ依ル授賞
- 四十六 開城蔘業組合ノ經費豫算、基本金、準備金、臨時收入金ノ處理、定款變更、總會ノ決議組合役員ノ承認
- 四十七 開城蔘業組合役員ノ改選又ハ臨時代理者ノ選任、役員缺關ノ場合ニ於ケル組合總會ノ招集、組合總會ノ決議ノ取消又ハ再議及組合役員ノ行爲ノ取消命令
- 四十八 醫學用阿片ノ賣下、買戻及其ノ價格ノ決定並製藥用阿片ノ收納
- 四十九 會社令施行規則第三條及第三條ノ二ニ依ル許可
- 第五條 殖産局長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 國有未墾地利用法及同施行規則ニ依ル五十町歩以下國有未墾地ニ關スル處分

- 二 二百町歩以下國有未墾地ニ關スル利用權移轉及擔保權設定ノ許可、貸付料ノ減免、損害補償金額ノ裁定、事業計畫ノ變更、利用方法ノ改更命令又ハ事業ノ停止
- 三 國有未墾地ノ定例ニ依ル付與及拂下
- 四 米穀検査規則第一條第一項、第二項第五條第一項、第二項、第二十條ニ關スル認可第十八條ニ依ル承認
- 五 朝鮮蠶業令第八條、第十二條第二項、第十五條二項、同令施行規則第十九條第二項及第六十一條ニ依ル許可
- 六 百町歩以下國有林野ノ貸付、森林令第七條、森林令施行規則第十六條第十七條ニ依ル處分及五十町歩以下國有林野ノ賣却、讓與、交換及其ノ取消、解除 但シ要存豫定林野ヲ除ク
- 七 大正元年勅令第六號第三條第二號ニ依ル國有林野ノ貸付
- 八 永年禁養國有林野ノ讓與
- 九 學校林及面模範林設置ノ爲ニスル國有林野ノ讓與
- 十 一件ノ金額千圓又ハ材積一千尺縮以下國有林野產物ノ賣却、讓與及其ノ取消、解除
- 十一 國有林野及產物ノ處分又ハ貸付ニ關シ定例アル違約金、辨償金、賠償金ノ決定
- 十二 入會區域ノ指定又ハ變更並國有林野保護命令
- 十三 森林令施行規則第十三條、第十九條、第二十五條乃至第二十七條、第二十八條第二項及第三十三條第一項ノ處分
- 十四 國有林野ノ保管轉換

- 十五 國有林野及其ノ產物ノ競争入札ニ依ル契約締結及之ニ基ク輕易ナル處分
- 十六 漁業權ノ讓渡、共有、抵當又ハ貸付ノ許可並漁業令施行規則第十條ノ許可
- 十七 免許漁業一件ノ採捕物五千圓ヲ超エサル場合ニ於ケル見積價格ノ變更
- 十八 漁業免許狀又ハ漁業許可狀ノ訂正又ハ再下付
- 十九 漁業者手ノ延期又ハ休業ノ認可
- 二十 漁業出願代表者ノ變更又ハ指定
- 二十一 漁業組合ニ關スル處分 但シ設立ノ許可ヲ除ク
- 二十二 漁撈又ハ養殖ノ調査、試験ノ認可
- 二十三 礦業ニ關スル出願ノ處分 但シ先願者ニ許可スルヲ要セサル礦業出願中競願アルモノヲ除ク
- 二十四 礦業令第八條、第十九條、第二十六條、第二十七條ニ依ル處分、第二十八條ニ依ル礦區ノ減區訂正ニ關スル處分、第二十九條第六號ノ事由ニ因ル礦業權ノ取消、第三十一條第一項、第四十一條ニ依ル處分並第二十五條ノ處分中砂金礦業ニ關スル豫防命令
- 二十五 礦業令施行規則ニ依ル處分 但シ第四十二條ニ依ル處分ヲ除ク
- 二十六 國有土石採取規則ニ依ル採取物見積價格千圓以下ノ土石ニ關スル處分

- 二十七 商業會議所令第十一條第二項ニ依ル決議ノ認可
- 二十八 度量衡器販賣ノ委託及其ノ解除
- 二十九 度量衡器輸入販賣、修理ノ特許及其ノ取消
- 三十 委託度量衡器ノ交付、保管及返納命令
- 三十一 度量衡器ノ直接販賣、檢定、修理及修理料ノ決定
- 三十二 衡器修理材料ノ販賣及破損度量衡器ノ燒却並破損又ハ亡失度量衡器ノ賠償
- 三十三 度量衡器檢定官吏ノ命免
- 三十四 商品陳列館ニ出品ノ許否及陳列品寄贈ノ許否
- 三十五 輸出制限品ニ關スル許可
- 三十六 會社令施行規則第三條及第三條ノ二ニ依ル許可
- 第六條 法務局長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 裁判所、檢事局及監獄ノ職員ヨリ提出スル輕易ナル請訓及具申ノ措置
 - 二 民籍事務ニ關シ道知事ヨリ提出スル輕易ナル具申ノ措置
 - 三 辨護士名簿登錄換ノ認可
 - 四 公證人法ニ依リ措置スヘキ事項
 - 五 破産管財人ノ任免
 - 六 明治四十四年法律第五十一號第三條ニ依ル命令
 - 七 朝鮮總督府裁判所令第二十一條ノ四ニ依ル檢事代理ノ命免
 - 八 監獄參觀ノ許可
 - 九 監獄判任官待遇以下職員ノ配置

- 十 看守ノ任免及朝鮮總督府看守教習規程第六號ノ認可
- 十一 看守長任用考試規則ニ依ル處分
- 十二 在監者情願ノ處分
- 十三 在監者移監ノ處分
- 十四 在監者ニ對スル手當金給與ノ認可
- 十五 免囚保護事業補助金下付手續第三條ノ認可
- 十六 假出獄及假出獄者ニ關スル處分
- 十七 監獄作業ノ新設、變更及廢止
- 第七條 學務局長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 一件ノ金額千圓以下ノ國庫補助
 - 二 官立學校職員ノ勤務規程並學校細則、生徒服制、修學旅行、生徒募集ノ認可
 - 三 總督府中學校ノ學科並其ノ程度、學級編成及臨時休業ノ認可
 - 四 總督府中學校附屬臨時小學校教員養成所規程第十一條ニ依ル認可
 - 五 公立高等女學校規則第八條、第九條公立實業專修學校ニ付公立實業專修學校及公立簡易實業專修學校規則第八條第九條ニ依ル認可
 - 六 高等普通學校教員速成科ノ教科目、課程及授業時數ノ認可
 - 七 高等普通學校、女子高等普通學校、實業學校ノ臨時休業及授業料ノ認可

- 八 初等程度ノ私立學校ニ對シ私立學校規則第二條ニ依ル認可但シ設立ノ認可ヲ除ク
- 九 小學校及普通學校教員試驗及合格證書ノ下付
- 十 官費留學生ノ檢定、留學期間ノ延長及學資金定額ノ決定
- 十一 官立學校生徒學資金償還並卒業者服務義務ノ免除又ハ猶豫ノ許否
- 十二 高等師範學校生徒ノ薦舉
- 十三 中學教員ノ豫備試驗
- 十四 既版ノ教科用圖書ノ增刷
- 十五 教科用圖書ノ支給、頒與及貸與並發賣
- 十六 教科用圖書ノ檢定願ノ却下並檢定ノ取消
- 十七 教科用圖書使用ノ認可
- 十八 朝鮮民曆元寶捌人ノ指定
- 十九 寺利令第五條ノ處分中十可歩以下ノ森林又ハ一件ノ金額五百圓以下ノ林產物ノ處分
- 二十 神社寺院規則第五條、第七條、第八條、第十條第一項第四號、第五號及第十五條第二號ニ依ル處分
- 二十一 神祠ニ關スル處分
- 二十二 布教規則第九條及第十條ノ許可
- 第八條 警務局長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 出版物取締ニ關スル事項
 - 二 醫師、齒科醫師並藥劑師ノ免許

- 三 醫師規則附則第三項及第五項ノ醫業者免許
- 四 醫生ノ免許
- 五 内地人巡查ノ任免
- 六 警察職員定員變更ノ認可
- 七 警察官吏ノ道外應援派遣
- 八 警察事務ニ關スル道知事ヨリ提出スル輕易ナル請訓及具申ノ措置
- 九 檢疫委員ノ職務章程ノ制定
- 十 勞動者募集取締規則第一條及第七條ニ依ル許可及同規則取扱手續第二條、第十條及第十四條ノ指令
- 十一 銃砲火藥類取締令施行規則第三條、第五條、第八條、第二十九條及第三十三條ノ許可、許可ノ取消並銃砲火藥類取締ニ關スル命令取扱手續第二十一條ノ指令
- 十二 引火質物貯藏所取締規則取扱手續第七條ノ指令
- 十三 汽罐汽機發動機取締規則取扱手續第四條ノ二ノ指令
- 十四 貸座敷娼妓取締規則取扱手續第一條ノ指令
- 十五 自動車取締規則取扱手續第一條ノ指令
- 十六 信用告知業取締規則第二條第一項、第十條及第十一條ノ處分
- 十七 寄附金募集取締規則第一條ニ依ル許可
- 十八 市街地建築取締規則取扱手續第三條ノ指令
- 十九 狩獵免狀及特別許可ニ關スル取扱手續第十一條ノ指令

- 二十 行政執務令及同施行規則取扱心得第四條、第五條ノ指揮
- 二十一 獸疫豫防令第九條及第十條ノ處分
- 二十二 阿片取締令取扱手續第二條ノ指定
- 二十三 大正三年府令第六十三號第一條ニ依ル漁業從事船舶寄港地ノ指定
- 第九條 庶務部長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 收受、發送文書ノ行違其ノ他文字誤脱、訂正等ニ關スル照會及回答
 - 二 規定ニ依ル文書ノ取扱方ニ關シ各局部及所屬官署ヘノ指示
 - 三 官報ノ編成
 - 四 定例ニ依ル定期刊行物ノ編成
 - 五 刊行物ノ配付
 - 六 個人ノ記錄文書閱覽若ハ謄寫願ノ許否
 - 七 物件賣拂代金ノ延納
 - 八 留置豫算ノ配賦
 - 九 諸計算書及其ノ證憑書類ノ檢査及推問
 - 十 諸計算書及報告書其ノ他諸證明書類大藏省及會計檢査院ヘノ提出
 - 十一 會計檢査院ノ審理ニ對スル答辯
 - 十二 過年度支出及歲入金過誤納拂戻
 - 十三 物件ノ賣買、貸借、運搬廢棄其ノ他ノ處分
 - 十四 備入ニ關スル事項

- 十五 廳舎及官舎ニ關スル事項
- 十六 被服帶具ノ貸與及給與
- 十七 修繕工事ノ施行
- 十八 工事及物件検査員、現場督役員ノ命免
- 十九 會計官吏及會計検査官吏ノ命免
- 二十 朝鮮總督府所屬官署會計事務章程第五條第三項、第八條第二項、第九十八條及第四百四十六條第二項ノ認可
- 二十一 朝鮮總督府及所屬官署減額旅費規程第三條第二項ノ認可
- 二十二 獸疫検査委員手當及旅費支給規程第二條第二項ノ認可
- 二十三 大正五年府令第四百四號ニ依リ給料ヲ受ケサル者ニ支給スル療治料額ノ決定
- 二十四 他局部課ノ主管ニ屬セサル輕易事項
- 第十條 土木部長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 一件ノ金額一萬圓以下ノ國庫補助
 - 二 國庫補助工事ノ竣工認可並殘金處分
 - 三 道路規則ニ依ル處分 但シ道路規則第二條並第三條ノ決定
 - 四 礦業令第五條ニ依ル許可
 - 五 官有水面埋立規則、河川取締規則、大正三年府令第四十七號ニ依ル處分、但シ埋立及占用面積千坪ヲ超ユルモノヲ除ク

- 六 蒙利面積二百町歩以下灌溉排水事業ニ關スル認可
- 七 水利組合補助規程ニ依ル調査申請ニ關スル處理
- 八 大正四年訓令第五十號第六條ノ認可
- 九 官營水道工作物ノ變更並増設工事ニ關スル認可
- 十 官營水道給水工事費及料金減免ニ關スル認可
- 十一 豫算ノ範圍内ニ於テ既定計畫ニ屬スル事業ノ施行
- 十二 工事及物件検査員ノ命免
- 十三 工用土地及價格五千圓以下ノ土地、建物又ハ物件ノ寄附願ニ關スル處分
- 十四 官有財産ノ保管ノ分任、轉換及組替
- 十五 一件ノ豫定價格又ハ評定價額五千圓以下ノ官有財産ノ處分
- 十六 建物及二千坪以下土地ノ期間三年ヲ超エサル貸付又ハ使用ノ許可
- 十七 官有財産ノ登記證明ノ囑託
- 十八 官有財産臺帳ノ登錄及變更
- 十九 官有財産目錄及其ノ異動報告
- 第十一條 鐵道部長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 朝鮮輕便鐵道令第三條ノ認可
 - 二 朝鮮輕便鐵道令施行規則ニ依ル認可 但シ本規程第一條第三十三號ノ事項ヲ除ク
 - 三 明治四十五年府令第二百二十號中前號ニ準スヘキ事項

- 四 明治四十五年府令第十九號ニ依ル認可
- 五 輕便鐵道又ハ軌道ニ對スル補助金交付條件ニ依ル認可 但シ株金ノ拂込、社債及借入金ノ認可ヲ認ケ
- 六 國有鐵道ノ運送取扱ニ關スル規定ノ認可
- 七 國有鐵道列車ノ運轉、信號及保安ニ關スル規定ノ認可
- 八 國有鐵道工事ノ請負ニ關スル規定ノ認可
- 九 國有鐵道ニ屬スル官有財産ノ保管ニ關スル規定ノ認可
- 十 豫算ノ範圍内ニ於ケル國有鐵道建設及改良工事設計並工事費ノ認可
- 十一 官有財産ノ保管轉換
- 十二 一件ノ豫定價格又ハ評定價格五千圓以下ノ官有財産ノ處分
- 十三 官有財産ノ登記證明ノ囑託
- 十四 官有財産臺帳ノ登錄及其ノ變更
- 十五 會社令施行規則第三條及第三條ノ二ニ依ル許可
- 第十二條 秘書課長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 篤行者ノ定例褒賞
 - 二 定例アル紋章、紋章ノ申請
 - 三 官吏恩給遺族扶助料及一時扶助金請求書ノ進達
 - 四 定例アル退官賜金及死亡賜金ノ給與
 - 五 定例アル巡查、看守退隱料、一時金及遺族扶助料ノ給與
 - 六 定例アル學校職員ノ退隱料、退職給與金、遺族扶助料及一

- 時扶助金ノ給與
- 七 朝鮮軍人扶助金ノ給與
- 八 官吏遺族扶助法施行規則第一條ニ依ル履歷書及同規則第三條ニ依ル證據書類ノ下付
- 九 勤務演習、簡閱點呼召集、免除ノ申請
- 第十三條 土木部出張所長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 所員勤務ノ指定 但シ工營所主任タル者ヲ除ク
 - 二 所員ノ例規請暇及休暇中旅行ノ許可 但シ高等官朝鮮外旅行ノ場合ヲ除ク
 - 三 所員ノ除服出仕
 - 四 所員ノ管内及所屬工事現場ヘノ出張
 - 五 工事費豫算ノ範圍内ニ於テ既定計畫ニ屬スル工事ノ施行及二千圓以下ノ設計變更
 - 六 一件ノ見積價格五百圓以下ノ不用物件ノ處分
 - 七 工事及物件検査員ノ命免
 - 八 備人ノ進退並賞與
 - 九 備人ニ對シ定例ニ依ル扶助金ノ給與
 - 十 工用土地奇附ニ關スル處分
 - 十一 事務上定例アルカ又ハ輕易ノ事項ニ關スル照會、回答並通知
 - 第十四條 專賣課出張所長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 所員勤務指定

- 二 所員ノ例規請暇及休暇中旅行ノ許否 但シ高等官朝鮮外旅行ノ場合ヲ除ク
- 三 所員ノ除服出仕
- 四 所員ノ左ノ地域内ニ於ケル出張
 - 開城出張所ニ於テハ人蔘特別耕作區域内漣川郡及坡州郡
 - 廣梁灣出張所ニ於テハ平安南道
 - 朱安出張所ニ於テハ京畿道
 - 大邱出張所、大田出張所及忠州出張所ニ於テハ各其ノ所屬煙草產業調査涵蓋事業區域内
- 五 鹽田ニ關シ工事費豫算内一件ノ金額千五百圓以下ノ工事(營繕工事ヲ除ク)ノ施行及其ノ設計變更
- 六 一件ノ見積價格二百圓以下ノ不用物件ノ處分
- 七 備人ノ進退並賞與
- 八 備人ニ對シ定例ニ依ル扶助金ノ給與
- 九 事務上定例アルカ又ハ輕易ノ事項ニ關スル照會、回答並通知
- 第十五條 專賣課開城出張所長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 人蔘耕作ノ免許及許可
 - 二 水蔘ノ收穫査定、收納、還付及賠償金交付
 - 三 紅蔘專賣法第十二條及同第十三條ノ處分
 - 四 紅蔘專賣法違反事件ニ關スル處分通告及告發
 - 五 紅蔘專賣法ニ依ル人蔘特別耕作區域ニ於ケル人蔘耕作ニ關

- スル指示、検査及監督
- 六 開城蔘業組合ノ帳簿、書類、金價、物件ノ検査及組合總會ニ於ケル議事ノ監督其ノ他事業並會計ニ關スル監督
- 七 政府ノ製造ニ係ル紅蔘輸移出ノ命令
- 第十六條 鑛務課出張所長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 所員勤務ノ指定
 - 二 所員ノ除服出仕
 - 三 所員ノ例規請暇及休暇中旅行ノ許否 但シ所長旅行ノ場合ヲ除ク
 - 四 所員ノ左ノ地域内ニ於ケル出張尙州所ニ於テハ尙州郡内及金泉郡金泉驛ニ至ル間
 - 五 試掘費豫算内一件ノ金額五百圓以下ノ工事施行及其ノ設計變更
 - 六 一件ノ見積價格百圓以下ノ不用物件ノ處分
 - 七 工用土地寄附ニ關スル處分
 - 八 備人ノ進退並賞與
 - 九 備人ニ對シ定例ニ依ル扶助金ノ給與
 - 十 事務上定例アルカ又ハ輕易ノ事項ニ關スル照會、回答並通知
- 第十七條 山林課出張所長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 所員勤務ノ指定

- 二 所員ノ除服出仕
- 三 所員ノ例規請暇及休暇中旅行ノ許否 但シ所長旅行ノ場合ヲ除ク
- 四 所員ノ受持森林内ノ出張
- 五 公金拂込又ハ受領ノ爲金庫又ハ通信官署所在地ヘノ出張
- 六 裁判所又ハ檢事局ノ要求ニ依リ裁判所所在地ヘノ出張
- 七 一件ノ金額百圓以下又ハ材積百尺以下ノ國有林野產物ノ賣却及讓與ニ關スル處分
- 八 國有林經營費豫算内一件ノ金額五百圓以下ノ工事ノ施行及其ノ設計變更
- 九 一件ノ見積價格百圓以下ノ不用物件ノ處分
- 十 備人ノ進退並賞與
- 十一 備人ニ對シ定例ニ依ル扶助金ノ給與
- 十二 事務上定例アルカ又ハ輕易ノ事項ニ關スル照會、回答並通知
- 第十八條 前各條ニ掲グル委任事項ニ比シ輕易ナルモノハ之ヲ專行スヘシ
- 前各條ニ掲グル委任事項中重要ナルモノハ意見ヲ具シ上官ノ決裁ヲ受クヘシ
- 第十九條 第二條ノ各局部課長ハ其ノ委任事項ト雖他ノ局部課ニ關聯スルモノハ合議ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第二十條 委任事項ニ屬スル回答、通牒、照會等ニシテ定例ナク

- 且依命ノ文調ヲ用フルモノハ上官ノ決裁ヲ受クヘシ
- 第二十一條 委任事項ニシテ總督府名又ハ總督府名ヲ以テ施行スヘキモノハ豫メ定例ヲ作り總督ノ決裁ヲ受クヘシ
- 第二十二條 各局部長ハ委任事項中豫メ總督ノ決裁ヲ經テ更ニ之ヲ部下ノ課長、出張所長若ハ派出所長ニ行ハシムルコトヲ得
- 明治四十五年四月一日内訓第六號朝鮮總督府主營事項
- 注意 規程ハ大正九年四月一日内訓第四號ニ依リ廢止セラレ
- 土木局出張所長ノ工營所主任ニ專決
- セシムルコトヲ得ル事件
- 土木局出張所長ハ左ノ事項ヲ工營所主任ニ專決セシムルコトヲ得
 - 一 工營所ヘ配當シタル豫算内ニ於ケル一件ノ金額三百圓以内ノ物品ノ購入修理運搬勞力供給並其ノ契約締結ニ關スル事項
 - 二 出納官吏經費仕拂ニ關スル決定
 - 三 物品ノ出納命令

朝鮮總督府公文書規程

明治四十五年三月三十日 訓令第三十六號
 大正元年十一月二日 大正四年三月九日 訓令第一〇號
 大正五年三月三十一日 大正七年三月 訓令第一三號 訓令第一四號

政正
 大正九年三月三十一日 大正七年三月 訓令第一三號 訓令第一四號

第一條 總督府及所屬官署ニ於ケル文書ノ取扱ハ特ニ規程シタル

モノヲ除クノ外此ノ規程ニ依ル

第二條 文書ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外官署又ハ官署ノ長ノ名ヲ以テ發送ス但シ總督府、中樞院、鐵道局、逓信局、警務總監部、濟生院及道廳ニ於ケル職員ニシテ朝鮮總督府及所屬官署主管事項規程ニ依リ專決施行ノ委任ヲ受ケタル者ハ該當事項ニ關シ其ノ名ヲ以テ通牒照覆スルコトヲ得

第二條ノ二 定例ニ依リ提出スル計算書統計等ノ報告ニハ送付書ヲ省略スルコトヲ得

第三條 所屬官署ヨリ總督府へ提出スル文書ハ別段ノ規程アルモノヲ除クノ外其ノ監督官署ヲ經由スヘシ但シ至急ヲ要スル場合ニ於テハ直ニ總督府ニ提出シ監督官署ニ其ノ旨ヲ報告スルコトヲ得

第三條ノ二 經由官署ハ上級官署ニ文書ヲ進達スル場合ニ於テハ文書ノ相當欄ニ其ノ意見ヲ簡明ニ記入スヘシ特ニ意見ヲ附スルノ必要ナキトキハ番號、經由年月日、官署名ノミヲ記入シ之ニ捺印スヘシ

第四條 單ニ文書ノ寫ヲ以テ通報スル場合ニ於テハ特ニ送付書ヲ附セス寫ノ欄外ニ「寫送付」ノ記號ヲ附シ番號年月日及官署名ヲ記入シ其ノ長之ニ檢印スヘシ

第五條 文書ニハ番號、年月日、發行者名、宛名、件名及本文ヲ順次ニ記入スヘシ

第六條 一事件ニ關係スル文書ハ其ノ處分ノ完結ニ至ル迄總テ同

一番ヲ用ウヘシ

番號ハ毎年之ヲ新ニスヘシ

第七條 文書ノ發行者名及宛名ハ職名ノミヲ記載シ氏名ヲ省略スルコトヲ得但シ部外へ發スル文書ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 部内ニ對シ發スル指令ニハ發行者ノ氏名ヲ省略シ職印ノミヲ用ウヘシ

第九條 同文文書ヲ印刷配付スル場合ニ於テハ發行者名ノ下ニ職印ヲ省略スルコトヲ得

第十條 文書ハ簡明ヲ旨トシ平易ニ記述スヘシ

主文ノ理由ヲ詳述スル爲長文ニ亘ルモノハ之ヲ別紙ト爲スヘシ

第十一條 文書ノ記載例用紙ハ別紙様式ニ依ル

第十二條 文書ノ淨書ハ楷書又ハ行書ニ限リ明瞭ニ書シ字句ヲ加除シタルトキハ主任課長又ハ之ニ準スヘキ者之ニ檢印スヘシ

第十三條 文書ハ例規アルモノ及圖表等ヲ除ク外所定ノ罫紙ヲ用ウヘシ但シ印刷ニ付スル場合ハ白紙ヲ用ウルコトヲ得

第十四條 秘密ヲ要スル文書ノ封筒ニハ職員ノ進退賞與及懲戒ニ關スルモノニ在リテハ「人秘」其ノ他ノモノニ在リテハ「秘」ノ記號ヲ附スヘシ

職員ノ進退、賞與及懲戒ニ關スル電報ハ暗號ヲ用ウル場合ト雖親展電報ト爲スヘシ

第十五條 文書ニ添附スヘキ物品ヲ別途發送スルトハキ文書ノ欄外及封筒ニ物品添付ノ記號ヲ附シ物品ニ本書ノ番號ヲ記スヘシ

第十六條 多數ノ同文通牒ヲ發スル場合ニ於テハ之ヲ官報又ハ公報ニ掲載スルコトヲ得

第十七條 「鐵道局」、逓信局、「警務總監部及臨時土地調查局」ヨリ總督府ニ提出スヘキ上申、申請及伺ハ朝鮮總督府警務規程第四章ノ規定ニ準シ議案ノ形式ニ依リ總督ノ決裁ヲ受ケ報告ハ供覽ノ形式ニ依リ取扱フヘシ

附則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

何、、、致度候條認可(許可)相成度候也

(様式三) 伺

番號 大正 年 月 日

職 殿 職 印

何、、、許可シ(卜心得)(別紙何、、、通實施シ)可然哉

(様式一) 上 申

番號 大正 年 月 日

職 殿 職 印

何、、、件上申

何、、、及上申候也

(様式四) 報 告

番號 大正 年 月 日

職 殿 職 印

何、、、件報告

何、、、候條(左記)(別紙ノ通)(別冊ノ通)(報告例第何)及報告候也

(記) (何、、、)

(様式二) 申 請

番號 大正 年 月 日

職 殿 職 印

何、、、件申請

(別紙) 願 届

(様式五)

何何願(届) 小官何、、、致度候間許可相成度候也(何、、、致候ニ付及届出候也)

大正 年 月 日

職 氏 名 自印

備考 白紙ヲ用キル場合ハ初ノ部分約五行程ヲ明ケ置ケヘシ

(様式六) 指 令

(明治何年)何月何日附何第、、、號上申(申請)(伺)(願)何、、、ノ件(左ノ條件ヲ附シ)(左記ノ通更正ノ上)認可ス(許可ス)(承認ス)(詮議シ難シ)何ノ通(左ノ通)心得ヘシ(何何スヘシ)

大正 年 月 日

(様式七) 命令ノ一

番 號 何、、、ノ件

職 氏 名

何、、、スヘシ(其ノ官ハ)(何、、、ニ件)何、、、ヲ調査報告スヘシ(何、、、ハ何、、、ニ付此ノ旨(左ノ通)心得ヘシ

大正 年 月 日 命令ノ二 (様式八)

(官) 氏 名

何、、、勤務ヲ命ス

(何、、、出張ヲ命ス)

(除服出仕)

(雇員ヲ命シ月給(日給)何、、、ヲ給ス)

(願ニ依リ「事務ノ都合ニ依リ(御用濟ニ付)雇員ヲ免ス)

(月給(日給)何、、、ヲ給ス)

大正 年 月 日 官 署 名

(様式九) 通牒(通報)(通知)

番 號

大正 年 月 日

職 氏 名

職 殿

何、、、ノ通牒(通報)(通知)

何、、、スル儀ト御承知相成度(何、、、ニ依リ何、、、相成度(何、、、爲念(依命)及通牒(通知)候也

(様式十) 照 會

番 號

大正 年 月 日

職 氏 名

職 殿

何、、、ノ件照會

何、、、御意見承知致度(至急回答有之度)候也

(様式十一) 回 答

番 號

大正 年 月 日

備考 一、宛先へ直接發送スル場合ニ用ユ
二、美濃版ハ十行及十三行トシ半紙版ハ十行トス

(様式十二)

(番 號) 大正 年 月 日
(職 殿) 職 氏 名
(何……ノ件)(上申)

官 署 名

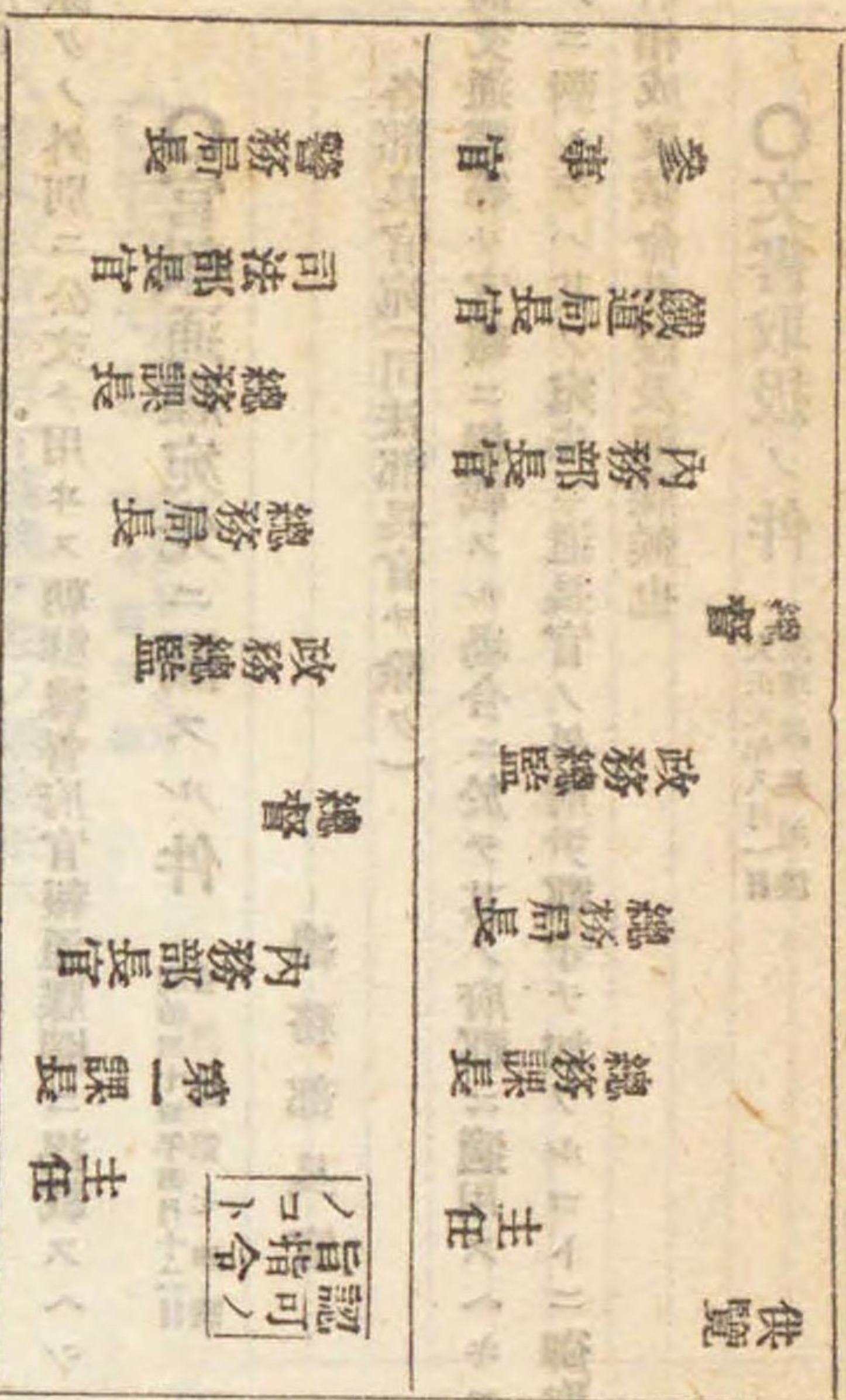
(様式十三)

備考 一、他官署ヲ經テ宛先へ發送スル場合ニ用ユ
二、美濃版ハ十行及十三行トシ半紙版ハ十行トス

經由 官署 見長 意

(番 號) 大正 年 月 日
(職 殿) 職 氏 名
(何……ノ件)(上申)

一 官職名印ニハ輪廓ヲ附セサルコト



○電信略符號使用ノ件

大正九年五月八日 官通第百二十六號

總務局長

本府局課長並所屬官署長宛

電信略符號アルモノニシテ之ヲ使用セサル向往往有之候處爾今略符號ノ使用ヲ勵行相成度及通牒候也

○電信略符號ノ使用等ニ關スル件

大正九年二月六日 官通第百四號

總務局長

本府各部長官、局課長、所屬官署長宛

電信略符號ノ使用方ニ關シテハ曩ニ屢々及通牒候處未タ其ノ應用

充分ナラス殊ニ本文ニハ略符號ヲ使用スヘキモノアルニ拘ラス之レ方使用ヲ怠ル者多ク又ハ電文冗長ニ流レ甚シキニ至リテハ必要ノ電報ヲ發スル向有之右ハ事務簡捷經費節約ノ趣旨ニ反シ遺憾ヲ次第二付爾今如此コト無之様特ニ注意相成度及通牒候也

○電信略符號改訂ノ件

大正九年七月十七日 官通第百五十九號

本府各局長、官房部課長、所屬官署ノ局長

本府電信略符號改訂ニ付別途及送付候間來八月一日ヨリ使用セシメラレ度及通知候也

追テ略符號使用上錯誤ヲ避ケル爲從來ノ符號ハ總テ之ヲ燒却セシメラレ度申添候

○地形圖修正ノ爲通知ヲ要スル件

大正八年七月五日 官通第百九十四號

政務總監

內務部長官、度支部長官、農商工部長官、土木局長、鐵道局長、遞信局長官、警務總長、各道長官宛

元臨時土地調查局ニ於テ管掌セル地形測量關係事務ハ本年四月以後總督官房土木局ニ繼承シ同局土木課ニ地形圖係ヲ置キ之ヲ處理スルニ付地形圖修正ヲ要スル左記關係事項ニ付テハ其ノ事業ノ規模大ナルモノニ在リテハ計畫ノ決定シ又ハ認可アリタルトキ其ノ

他ニ在リテハ竣功ノ都度當該主務部局官署ヨリ土木局ニ通知相成度此段及通牒候也

一 道路關係

- イ 一等二等三等各道路ノ改修
- ロ 新市街建設及市區ノ改修
- ハ 林道開墾

二 鐵道及軌道關係

- イ 鐵道建設及改良
- ロ 輕便鐵道同上
- ハ 電車及人車同上

三 港灣關係

- イ 港界標ノ設置及變更
- ロ 港灣修築及海陸聯絡設備
- ハ 海面埋築

- ニ 曬田築造
- ホ 燈臺及航路標識

四 治水、水利及開墾關係

- イ 河川改修
- ロ 堤防
- ハ 堤堰狀規模大ナルモノ

○地形圖修正ノ爲通知ヲ要スル件

大正八年七月七日 官通第百九十四號

何

本件ニ關シ七月五日官通第百九十四號ノ趣旨ニ依リ土木課各係ヨリ地形圖係ニ通知ヲ要スル主管區分ヲ左記ノ通御決定相成可然哉

記

- 一 調查係行政部主管
- イ 一、二等各道路改修認可
- ロ 新市街建設及市區改修認可
- ハ 海面埋築認可
- ニ 港灣修築認可
- ホ 河川堤防、堤堰汰(規模大ナルモノ)認可
- ヘ 水道認可
- 一 計理係工務主管
- (直轄工事ニ屬スルモノ)
- イ 二期治道工事
- ロ 京城市區改正
- ハ 鎮海市街經營
- ニ 港灣修築(釜山、仁川、元山)
- ホ 京城水道擴張、平壤同上

○土木課文書取扱方及事務處理ニ關スル內規

第一條

課内文書ノ取扱方ハ以下數條ノ規定ニ依ルヘシ

第二條 課ニ於テ他ヨリ文書ヲ收受シタルトキハ庶務係ニ於テ記帳ノ上直ニ課長ニ供覽シ其ノ指揮ヲ承ケテ各主任ニ配布スヘシ

第三條 前條ノ文書ニシテ課長ニ於テ各主任ニ配布前局長又ハ勅

任技師ノ供閱ヲ要スルモノト認メタルモノハ其ノ供閱ヲ經又ハ其ノ指揮ヲ受ケテ各主任ニ配布スヘシ

第四條 各係ニ於テ起案シ又ハ供覽ニ付シタル文書ニシテ土木局事務分掌内規第一條第一項各號ニ該當スル文書ハ課長ノ閱了後勅任技師ノ查閱ヲ受ケヘシ

第五條 各年度ノ豫算概算書ハ上司ノ決裁ヲ經タル後計理係ニ於テ直轄工事係及調査係ニ之ヲ回覽スヘシ

第六條 課内ノ事務處理方ハ各係ニ專屬スル事務ヲ除クノ外以下數條ノ規定ニ依ルヘシ

第七條 直轄工事ノ實施ニ關スル事項ハ直轄工事係ニ於テ之ヲ調査ヲ爲シ計理係ニ於テ起案ヲ起シ直轄工事係ニ回覽スヘシ

第十條ノ規定ハ現場督役員ニ關スル規定ヲ除クノ外前項ノ工事ニ關シ之ヲ準用ス

第八條 直轄工事施行手續ノ制定又ハ改廢ハ計理係ニ於テ起案シ直轄工事係ニ回覽スヘシ

第九條 請負工事ノ實施ハ直轄工事係ニ於テ設計、仕様、圖面、豫定價格下調査其ノ他必要ノ書類ヲ調査シ計理係ニ於テ之ヲ起案スヘシ設計變更工事中止ノ解除及瑕疵ノ處分ニ付テ又同シ

第十條 請負工事ニ係ル起工届、代人届ハ直轄工事係ニ於テ調査シ計理係ニ回付スヘシ請負人ヨリ提出スル内譯書、工程表及現場督役員報告書ニ付テ又同シ

部分検査ヲ請求スル願書又ハ竣工届ハ現場督役員ヲ經由セシム

ヘシ直轄工事係ハ之ヲ審査シタル後検査調査ヲ添ヘ計理係ニ回付スヘシ

竣工期限延期願書ハ現場督役員ヲ經由セシムヘシ計理係ニ於テ之ニ關スル起案ヲ爲シタルトキハ直轄工事係ニ回覽スヘシ

第十一條 請負人ニ對スル違約、解約等ノ處分及債券讓渡ニ關スル事項ハ計理係ニ於テ起案シ違約又ハ解約ニ關スル事項ハ直轄工事係ニ回覽スヘシ

第十二條 工事又ハ物件供給請負人ノ決定又ハ契約ノ異動ハ計理係ニ於テ起案ヲ起シ直轄工事係ニ回覽スヘシ

第十三條 直轄工事ノ竣工検査報告書ハ直轄工事係ニ於テ審査シタル後計理係ニ回付スヘシ計理係ニ於テ手直工事ヲ命スルトキハ直轄工事係ニ回覽スヘシ

第十四條 工事ニ要スル土地又ハ家屋ノ買收並支障物件ノ移轉ハ直轄工事係ニ於テ其ノ所要坪數、位置種別豫算調書(市區改正ノ場合ニハ豫算調書ヲ除ク)及圖面ヲ調製シ計理係ニ回付スヘシ計理係ニ於テ之ヲ起案ヲ爲シタルトキハ直轄工事係ニ回覽スヘシ

工事用地ノ受寄付及之ニ附隨ノ事項ハ計理係ニ於テ起案シ受寄付ノ案ハ直轄工事係ニ回覽スヘシ

第十五條 直轄事業ノ豫定計畫ニ伴フ土地ノ拂下及貸付ハ計理係ニ於テ處理スヘシ

第十六條 土木局事務分掌内規第四條第一項第一號乃至第五號ノ

事項ニシテ技術上ノ調査又ハ查閱ヲ要スルモノハ調査係技術部ニ於テ調査又ハ查閱ヲ爲シ調査係行政部ニ回付スヘシ

調査係技術部ニ於テ土木局事務分掌内規第四條第一項第七號ノ事項ニ關シ技術上ノ調査ヲ爲シタルトキハ調査係行政部ニ回覽スヘシ

第十七條 土木修繕費ノ配付及監督ニ關スル事項ハ調査係行政部ニ於テ起案シ計理係及直轄工事係ニ回覽スヘシ

○道路橋梁工事設計審査內規

大正五年三月三十日 局 議 決 定

第一條 土木局長ハ道路橋梁工事設計(以下單ニ設計ト云フ)ノ審査ヲ爲サシムル爲メ一工事毎ニ主査ヲ指定ス

第二條 主査ハ輕易ナル設計ニ關スル場合ヲ除クノ外技師ヲ以テ之ニ充ツ

出張所ノ提出セル設計ノ審査ニ關スル主査ハ當該出張所兼務者以外ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 主査ハ別紙様式ニ依ル審査調書ヲ作製スヘシ

第四條 主査ハ地方廳ノ提出シタル設計ノ審査ニ付實地ノ調査ヲ爲スヘシ但シ輕易ナル設計ニシテ主査ニ於テ特ニ實地調査ノ必要ナシト認メタル場合ハ此ノ限ニアラス

出張所長ノ提出シタル設計ト雖必要ト認ムルトキハ實地調査ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第五條 主査事故ノ爲メ實地調査ヲ爲ス能ハサルトキハ之ヲ交送

第六條 土木局長ハ地方廳ニ於テ調成中ニ係ル設計ニ對シテモ主査ヲ指定シテ其ノ調査ヲ命スルコトアルヘシ
前項ノ場合ニ於テ主査ハ設計完了前ト雖實地調査ヲ爲スコトナ
得

第七條 設計變更ニ關スル審査ハ不得已場合ヲ除クノ外原設計ノ主査ヲシテ之ニ當ラシメ特ニ指定ヲ爲サス
第八條 工事ノ竣工検査官ハ不得已場合ヲ除クノ外當該設計ノ主査ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 地方廳ニ於テ施行スル道路橋梁以外ノ工事ノ設計ニ關シテモ本規定ヲ準用ス
備考
第九條ノ解釋左ノ通決定
道路路線ノ踏査、水道、港灣、水利灌漑、河川等ニ對スル計畫ノ審査モ總テ本規定ヲ準用スルモノトス

姓名	技師	送付	月	日
項要査審	名件	回付	月	日

○政務報告例通牒ノ件
大正八年十二月二十七日
文第 四六九號
庶務部長
土木部長宛
別紙ノ通政務報告例内閣總理大臣ヨリ訓令相成候ニ付テハ當該主管事項御報告相成度依命及通牒候也
追而報告書ハ庶務部長ニ御廻付相成度此段申添候
(別紙)
拓秘第一六二五號
大正八年十一月二十八日
内閣總理大臣原
朝鮮總督男爵齋藤實殿
訓令
政務報告例左ノ通定ム
政務報告例
第一條 朝鮮總督、臺灣總督、關東長官及樺太廳長官ハ各其ノ所管政務ニ關シ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本例ニ依リ内閣總理大臣ニ報告スヘキモノトス
第二條 報告ヲ分テテ即報、季報及年報ノ三種トス
即報ハ即時、季報ハ報告事項中指定ノ期日、年報ハ會計年度經過後三月以内ニ之ヲ報告スルモノトス

第三條 報告事項中重大ニシテ至急ヲ要スルモノハ直ニ電信ヲ以テ其ノ概要ヲ報告シ更ニ書面ヲ以テ其ノ詳細ヲ報告スルモノトス
第四條 報告ニハ成ルヘク計數ヲ表示スルモノトス但シ報告ノ時期ニ於テ正確ノ計數ヲ得難キトキハ見込數ヲ掲ケ實數ハ更ニ之ヲ追報スルモノトス
第五條 報告事項左ノ如シ

- 一 府令(關東廳及樺太廳) 訓令、諭告及重要ナル告示
- 二 地方費ノ豫算及決算
- 三 重要ナル涉外事項
- 四 社會上又ハ政治上注意ヲ要スル事項
- 五 特ニ注意ヲ要スル人物ノ動靜
- 六 匪徒又ハ牛蕃ニ因ル被害ノ狀況
- 七 天災又ハ事變ノ狀況
- 八 通信運輸ニ付生シタル著シキ障礙
- 九 船舶ノ遭難其ノ他ノ海難ニシテ重大ナルモノ
- 十 特ニ注意スヘキ傳染病又ハ獸疫ノ流行
- 十一 主要農産物ノ收穫豫想
- 十二 重要ナル土木工事ノ起工、變更及落成

○政務報告例ニ關スル件
大正九年六月十五日
文第 二六六號
庶務部長
土木部長宛
大正八年十一月二十八日附拓秘第一、六二五號ヲ以テ内閣總理大臣ヨリ訓令相成候政務報告例第二條中年報提出期ノ解釋ニ付別紙ノ通拓殖局ヨリ通知有之候條御了知相成度及通知候也
(參照)
年報
一 諸般政務施行ノ狀況
二 管内一般ノ狀況
第六條 前條各號ノ外特ニ重大ナルト認ムル事項ハ其ノ都度之ヲ報告スルモノトス
政務報告例解釋ノ件
大正九年六月十五日
庶務部長
土木部長宛
大正八年十一月二十八日附拓秘第一、六二五號ヲ以テ内閣總理大臣ヨリ訓令相成候政務報告例第二條中年報提出期ノ解釋ニ付別紙ノ通拓殖局ヨリ通知有之候條御了知相成度及通知候也
(參照)
○政務報告例ニ關スル件
大正九年六月七日
文第 二六三號

拓殖局

朝鮮總督府庶務部宛

大正八年十一月二十八日附拓秘第一、六二五號ヲ以テ訓令相成候
政務報告例第二條中「年報ハ會計年度經過後三月以内ニ之ヲ報告
スルモノトス」ト有之這ハ單ニ報告ノ時期ノミヲ定メタルモノナ
リヤ或ハ年報ハ總會計年度ニ依リ調査スヘキコトヲモ示シタル
モノナルヤノ疑義有之候處右ハ報告ノ時期ヲ示シタルモノニ有之
年報ハ直接間接會計ニ關係アル事項ニ就テハ會計年度ニ依リ其他
ノ事項ニ就テハ曆年ニ依リ調査スルコトニ御承知相成度爲念及通
知候也

○法令案提出ノ場合説明資料添付方ノ件

大正六年七月二十九日

總務局長

土木局長宛

法律勅令又ハ制令案提出ノ場合其ノ説明材料添付方ニ付別紙寫ノ
通拓殖局長ヨリ通牒有之候條御了知相成度尙右説明材料ハ本府ニ
於テ該法令案審議ニ當リ共ニ審議スルヲ便宜ト認ムルニ付發案ノ
際同時ニ添付提出相成度依命及通牒候也

(寫)

拓第一五一號

大正六年二月二十七日

拓殖局長官 有松英義

朝鮮總督府政務總監山縣伊三郎殿

從來法律又ハ勅令案御提出ノ場合其ノ説明材料添付相成ラサル向
有之候處斯クテハ更ニ説明材料ノ提出ヲ求ムル等ノ手數ヲ要シ自
然審議ニ遲滯ヲ來ス虞モ有之候ニ付今後右提出ノ節ハ可及的精密
ナル説明材料ヲ同時ニ御送附相成候様致度爲念及通牒候也

○法律案提出ノ場合參照書類添附ノ件

大正六年八月十日

總務局長

土木局長宛

法律案提出ノ場合ニ於テ法律案中名稱ヲ付セスシテ單ニ發布ノ年
號並號數ノミヲ以テ表示セラルル法令ノ改廢ニ關スルモノ又ハ同
様ノ法令ヲ議案中ニ引用ノ場合ニ於テハ參照トシテ其ノ法令全文
ヲ添付スルコトニ決定相成候條御了知相成度及通牒候也

○拓殖局經由事項ニ關スル件

大正六年九月四日

政務總監

土木局長宛

爾今本府ヨリ内閣總理大臣ニ進達スヘキ事項ハ總テ拓殖局ヲ經由
提出スヘク又各省、鐵道院、會計検査院等へ交渉ヲ要スヘキ事項
ニ付テモ同局ヲ經由スルコトニ決定相成候條御了知相成度依命此

段及通牒候也

○拓殖行政ニ關スル希望又ハ意見提出

方ノ件

大正六年十月十一日

政務總監

土木局長宛

拓殖局設置ト共ニ内閣總理大臣ノ諮問ニ應シ拓殖ニ關スル事
項ヲ調査審議スル爲拓殖委員會ヲ新設セラレタルニ付テハ同會へ
諮問ノ都合モ有之趣ヲ以テ此ノ際汎ク拓殖行政ニ關聯シ須要ト認
ムル施設其ノ他ノ事項ニ付諮問スヘキ諸種ノ希望又ハ意見通報方
拓殖局長官ヨリ照會越候條貴局内右ニ該當スル事項有之候ハハ來
ル二十日迄ニ理由ヲ具シ提出相成度及通牒候也
追テ將來右事項ニ關シ特ニ希望又ハ意見アル場合ニ於テハ其部
度御申出相成度申添候

○拓殖局經由事項ニ關スル件

大正七年七月十二日

總務局長

土木局長宛

大正六年九月總第三三五號ヲ以テ首題ノ件及通牒置候處事務ノ簡
捷ヲ圖ル爲爾今左記事項ニ限リ拓殖局ヲ經由セサルコトニ定メラ
レ候條御了知相成度依命及通牒候也

記

土木法規 第十二章 官制及處務規程

- 一 履歷事項ニ關スル照覆
 - 一 恩給並遺族扶助料請求ニ關スル件
 - 一 通信ニ關スル現業上ノ照覆
 - 一 支拂計算書送付ノ件
 - 一 支出計算書送付ノ件
 - 一 指名競争入札ニ關スル件
 - 一 戰時船舶管理令ニ依リ許可申請及届出並報告
- 以上

○拓殖局經由ノ件通牒

大正八年十一月十八日

庶務部長

土木部長宛

本府ヨリ各省鐵道院及會計検査院等ニ交渉スル事項ハ拓殖局ヲ經
由セラレ度旨別紙拓殖局長官ヨリ通牒有之候ニ付御了知相成度依
命及通牒候也

(別紙)

拓第五五四八號

大正八年十一月十二日

拓殖局長官法學博士 古賀廉造

朝鮮總督府政務總監法學博士水野鍊太郎殿
貴府ニ於テ各省鐵道院會計検査院等ト交渉ヲ要スヘキ事項ニ付
テハ總テ拓殖局ヲ經由スルコトト致度旨疊ニ内閣總理大臣ヨリ

通牒相成居候處近來貴府ヨリ各省等ニ交渉セラレル文書ニシテ
當局ヲ經由セサル者往々有之職務上支障ノ跡ノミナラス事務敏
活ヲ阻害スルノ嫌モ有之候條客年三月三日附拓秘第七三七號通
牒左記事項ヲ除キ總テ當局ヲ經由相成候條致度此段及通牒候也
追テ特ニ急ヲ要スル電報交渉ノ場合ハ直接交渉相成直ニ其ノ
旨當局ニ御通報相成度申添候

備考 大正七年七月三日拓秘第七三七號ニ基キ大正七年七月
十二日總第三八七號ノ通牒發セラレタルモノナリ

○復命書提出方ノ件

大正二年六月二十七日
內閣第二二二號

朝鮮總督府所屬官署ノ職員出張チ了シ歸廳シタルトキハ一週間以
内ニ復命書ヲ所屬官署ノ長ニ提出スヘシ但シ事件ノ性質ニ依リ口
頭ヲ以テ復命スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ復命書中重要ナルモノ及所屬官署ノ長出張シタルトキニ於
ケル復命書ハ之ヲ上級官署ノ長ニ提出スヘシ
上級官署ノ長ハ前項ノ復命書ヲ査閱シ必要ト認メタルモノハ之ヲ
朝鮮總督ニ提出スヘシ

(參照) 出張復命書提出ニ關スル件 大正八年九月十一日

土木部長殿

移書課長

大正六年四月二十日附通牒出張復命書提出ノ件ハ自今廢セラレ
候條此段及通牒候也

備考 大正六年四月二十日附通牒ハ人事課長ニ出張復命書提
出ノ件也

○朝鮮總督府所屬官署事務檢閱規程

大正三年八月二十二日
訓令第四三二號

朝鮮總督府所屬官署

- 第一條 朝鮮總督府所屬官署ノ事務ノ檢閱ヲ分チテ特別檢閱及普
通檢閱ノ二種トス
- 第二條 檢閱スヘキ事項ハ特ニ命セラレタルモノヲ除クノ外左ノ
如シ
 - 一 法令規則ノ實施ノ狀況及其ノ適否
 - 二 諸般設備ノ維持及其ノ使用ノ狀態
 - 三 職員配置ノ當否、職員ノ能否及勉否
 - 四 規律風紀ノ張弛
- 第三條 特別檢閱員ハ朝鮮總督府及所屬官署ノ高等官中ヨリ朝鮮
總督之ヲ命シ普通檢閱員ハ所屬官署ノ長ニ於テ部下官吏ノ中ニ
就キ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ命ス
- 檢閱員ニハ必要ニ應シ屬員下シテ朝鮮總督府及所屬官署ノ列任
官ヲ附屬セシムルコトヲ得
- 第四條 特別檢閱ハ毎年一回ニ之ヲ行フノ外必要アルトキハ臨時

之ヲ行ヒ普通檢閱ハ所屬官署ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フ

第五條 特別檢閱員ハ檢閱事項ニ付必要アリト認ムルトキハ當該
所屬官署ノ長ヲシテ書類ヲ提出セシメ又ハ答辯ヲ爲サシムルコ
トヲ得

第六條 檢閱チ了リタルトキハ其ノ狀況及意見ヲ具シ特別檢閱員
ニ在リテハ朝鮮總督ニ報告シ普通檢閱員ニ在リテハ當該長官ニ
報告スヘシ

普通檢閱員ノ報告中重要ナル事項ハ所屬官署ノ長ヨリ之ヲ朝鮮
總督ニ報告スヘシ

第七條 本規程ニ定ムルモノノ外普通檢閱ニ關シ必要ナル規程ハ
朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ所屬官署ノ長之ヲ定ム

○地方土木事業ノ監察ニ關スル件

大正三年十一月九日 大正五年三月二十七日 改正 大正六年九月十二日
訓令第六三三號 訓令第一二二號 訓令第四〇四號

第一條 土木局出張所長ハ政府ノ直轄工事を施行スルノ外其ノ擔
當區域内ニ於ケル地方土木事業ヲ視察シ意見ヲ具シテ之ヲ總督
ニ報告スヘシ

前項ノ土木局出張所長及其ノ擔當區域ハ別表ニ依ル
第二條 土木局出張所長前條ニ依リ地方土木事業ノ視察ヲ爲スニ
當リ土木ニ關スル法令規程ニ違反シ又ハ工事正ヲ要スヘキ
モノアルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ道長官ニ注意スヘシ
第三條 道長官ハ地方費支辨ノ土木事業又ハ其ノ監督ニ屬スル地

方土木事業ノ計畫及施行ニ關シ必要アルトキハ當該土木局出張
所長ノ幫助ヲ求ムルコトヲ得

第四條 土木局出張所長前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ直轄工事に
支障ナキ限其ノ幫助ニ力ムヘシ

(別表)

- 京城出張所長 京畿道、江原道、忠清北道、忠清南道
- 全羅北道、全羅南道
- 釜山出張所長 慶尙北道、慶尙南道
- 元山出張所長 咸鏡北道、咸鏡南道
- 平壤出張所長 平安北道、平安南道、黃海道

○地方土木事業ノ監察ニ關スル件

大正三年十一月九日
官通牒第四〇五號

土木局長

各土木局出張所長(仁川、江陵、宛
鎮南浦ヲ除ク)宛
地方土木事業ノ監察ニ關スル件本年訓令第六十三號ヲ以テ發令相
成候處右ハ地方土木事業ノ現在ノ狀況及將來ノ趨勢ニ察シ一層其
ノ監督ヲ周到ニスル必要アルト土木技術員ノ充實セサル地方廳ノ
現狀ニ於テハ地方土木事業ノ計畫及施行ニ關シ隨時貴官ノ助力ニ
俟タシムルヲ機宜ノ處置ナリト認メラレタルモノナルヲ以テ篤ト
其ノ趣旨ヲ體シ左記ニ準據シ充分其ノ目的ヲ達シ候様御注意相成
度依命此段及通牒候也

記

- 一 出張所長ハ少クモ毎年一回其ノ擔當區域内ニ於ケル一、二等道路ニ付其ノ維持修繕其ノ他ノ狀況ヲ視察シ兼テ地方廳ノ土木事業ニ關スル計畫及施行ノ狀況ヲ調査シ意見ヲ具シテ本府ニ報告スルコト
- 二 出張所長ハ常ニ道路規則、「道路維持修繕規程」、「道路取締規則」、河川取締規則、官有水面埋立規則其ノ他土木ニ關スル法令、例規ノ實行ニ注意シ之ニ違反ノ事實ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ關係官憲ニ通告シテ其ノ匡正ニ勗ムルコト
- 三 出張所長ハ其ノ擔當區域内ノ地方廳ニ於テ施行スル一、二等道路ノ維持修繕ニ關シテハ當該官憲ト打合テ爲シ其ノ遺漏ナキヲ期シ其ノ他道路、河川及港灣ニ關スル工事計畫及其ノ施行ニ關シ地方廳ノ依頼アルトキハ直轄工事ニ支障ナキ限必
要ナル援助ヲ爲スコト
- 四 出張所長ハ其ノ擔當區域内ニ於ケル私人ノ土木事業ニシテ公益ニ重大ナル關係アリト認ムルモノハ常ニ其ノ狀況ニ注意スルコト
- 五 出張所長ハ前各項ニ規定シタル事項ニ關シテ重大ナル關係アリト認メタルモノアルトキハ直ニ其ノ事實ヲ本府ニ報告スルコト

○地方土木事業監察ニ關スル件

大正五年五月三日
土第一二六一號

土木局長

各出張所長宛

地方土木事業ノ監察事項ノ取扱ニ關シテハ其ノ大要ヲ列擧シ大正三年十一月九日官通牒第四百五號ノ次第モ有之候處從來提出ニ係ル監察報告ニ依レハ事ノ重要ト認メラルルモノニ付直ニ道長官ニ對シ通告又ハ注意ヲ與ヘラルル向ナキニアラス右ハ自然本府ノ方針又ハ取扱ト齟齬ヲ來タシ支障ヲ見ルノ虞ナキヲ保シ難ク候條右通牒第五項ノ趣旨ニ基キ凡ソ左記ノ場合ニ在リテハ特ニ其ノ事件ニ付キ其ノ事實及之ニ對スル意見ヲ記シ本府ニ報告スルニ止メラレ度此段及通牒候也

記

- 一 本府ノ認可ヲ受ケ改修中ニ屬スル工事ニシテ路線及其ノ幅員並架橋位置等ノ變更ヲ要スト認メタルトキ
- 二 改修既成又ハ未成ノ路線ノ變更ヲ要スト認メタルトキ
- 三 河川、港灣ノ改良ニ關シ地方廳ニ指示ヲ要スト認メタルトキ
- 四 法令ニ依リ本府ノ許可ヲ受ケタル私人事業ノ施行ニ關シ其ノ計畫ノ改善ヲ注意スルヲ要スト認メタルトキ
- 五 法令違反ノ事實ニシテ重大ノ關係ヲ有スト認メタルトキ
- 六 前各項ノ外事ノ重要ナルモノ

○地方土木事業ノ監察ニ關スル件

大正三年十二月十六日
訓第三四六五號

土木局長

平壤、京城、釜山、元山、清津、出張所長宛

地方土木事業ノ監察ニ關シテハ曩ニ訓令第六十三號ノ發布ト共ニ監察ノ要項ニ付通牒ノ次第モ有之候處本年度ハ僅ニ四箇月ヲ剩スニ過キサルヲ以テ擔當區域内全般ノ巡察ハ自然困難ノ儀ト被認候ニ付テハハ(釜山出張所ハ)別途配付ノ旅費ノ範圍ニ於テ出張ノ計畫ヲ立テ豫メ本局ニ申報相成度(平壤、京城、元山、清津出張所ハ)此際出張ノ計畫ヲ立テ旅費ハ去五月配付ノ土木事業調査費ノ内ヨリ支辨ノコトトシ不足額ニ對シテハ至急増額申請相成度)又監察ノ事項ハ左記項目ニ分テ出張ノ都度各道廳別ニ直ニ復命相成度此段及通牒候也

記

- 一 一、二等道路ノ維持修繕其ノ他ノ狀況ニ關スル件
- (1) 道路修築成績
- (2) 道路保全ノ現況
- (3) 道路利用ノ狀況
- (4) 「配付修繕費」支出狀況及修繕工事施行ノ成績
- (5) 「配付修繕費」現在高及之ニ對スル施行計畫

- (6) 次年度修繕ヲ要スヘキ見込
- (7) 夫役賦課ノ狀況
- (8) 關係官憲ニ通告又ハ注意ヲ與ヘタル事項

二 道廳ノ土木事業ニ關スル件

- (1) 改修成績
- (2) 施行ノ現況
- (3) 將來ノ計畫
- (4) 夫役賦課ノ狀況
- (5) 關係官憲ニ通告又ハ注意ヲ與ヘタル事項
- 三 法令例規ノ實行ニ關スル件
- (1) 道路規則「及道路修築標準」
- (2) 「道路維持修繕規程」
- (3) 道路取締規則
- (4) 河川取締規則
- (5) 官有水面埋立規則
- (6) 其ノ他土木ニ關スル規程
- (7) 關係官憲ニ通告又ハ注意ヲ與ヘタル事項
- 四 私人經營ノ土木事業ニ關スル件
- (1) 計畫又ハ出願中ノモノ
- (2) 施工中ノモノ
- (3) 既成ノモノ

五 水害復舊ニ關スル件

- (1) 復舊工事施行ノ現況
- (2) 將來施行ノ所要見込

六 其ノ他特記スヘキ事項
 追テ出張所長會議ハ例年ノ通二月下旬又ハ三月月上旬ニ於テ開
 催ノ見込ニ付本年度ノ監察ハ可成其以前ニ於テ施行相成度尙
 左記參考書類參考ノ爲及送付候

記

- 一 各道路網圖(所管道分各十部)
- 二 地方土木費國庫補助三年計畫表
- 三 大正三年度國庫補助實施計畫表
- 四 道路修繕費配付額調書
- 五 災害復舊費配付調書
- 六 水面埋築事業調書
- 七 水面使用及土石採取出願表

以上

○地方土木事業ノ監察事務連絡ニ關スル件

大正三年十二月十六日 訓第三四六五號

地方土木事業ノ監察ニ關スル件曩ニ訓令發布ト共ニ監察ノ要項ニ
 付通牒ノ次第モ有之候ニ付テハ右實行上本府ニ於テ處理シタル事
 件ハ之ヲ出張所ニ通知シ連絡ヲ取ルノ必要アリト認メ候ニ付別記

ノ通決定相成可然乎

追テ本議決定ノ上ハ左案ヲ以テ出張所ニ通知相成可然乎

通牒

土木局長

平壤、京城、釜山、元山、清津、出張所長宛
 地方土木事業ノ監察事務連絡ニ關スル件ニ付別紙ノ通決定相成候
 條爲御心得及通牒候也

(別記)

- 一 左ニ掲ケル事項ニ對スル本府ノ許可、認可又ハ承認ハ其ノ
 都度本局ヨリ出張所ニ通知スルコト但シ通知ノ必要ナシト認
 ムル場合ハ之ヲ省略ス
- イ 一、二等道路ノ變更廢止
- ロ 一、二等道路改修工事 (道路規則第三十一號)
 大正元年十一月三十日 官通牒第一四六號
- ハ 三等道路ノ改修工事 (訓令第五九號)
 大正二年十一月二十八日
- ニ 三等道路ノ變更又ハ廢止(道路規則第六號)
- ホ 地方ニ於テ施行スル指定河川ニ關スル事件
 (大正三年四月二十七日 官通牒第一五四號)
- ヘ 私人ニ於テ施行スル指定河川ニ關スル事件(河川取締規
 則第一條)
- ト 河川ニ關係チ有スル灌漑又ハ排水事業

- チ 港灣其ノ他公共ノ用ニ供スル水面並其ノ敷地ニ關スル事
 (大正三年四月二十七日 官通牒第一五六號)
- リ 地方廳ニ於テ施行スル(一)河川、堤防、水利及港灣其ノ
 他海面ニ關スル工事(二)上水及下水ニ關スル工事
 (訓令第一一五號)
 大正元年十一月十一日
- ヌ 官有水面ノ埋立(大正三年四月二十七日 官通牒第一四八號)
 總督府令第四八號
- ル 市街地ノ市區改正又ハ擴張(大正元年十月七日 訓令第九號)
- チ 國庫補助ニ關スル事業

土木ニ關スル事件處理通知ノ件

(記載例)

認可及承認 年月日 及番號	申請 年月日	事業 種類	要			領	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
			位置	延長及 幅員	坪數						
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 幅員	坪數	箇所	工 費	著 手 年月日	竣 功 年月日	經營者	備 考
何年何月何日 可何日	何年何月 何日	改道 修路	起點何 地何間	終點何 地何間	何幅何 間	何坪	何箇所	何	何	何	何
何年何月何日 及番號	申請 年月日	事業 種類	位置	延長及 							

一	京城釜山線	一等	密陽停車場ヨリ密陽邑内迄	〇、二八	未改	
二	密陽昌寧線	三等	密陽邑内ヨリ靈山迄	六、〇〇	未改	
三	大邱統營線	二等	靈山ヨリ昌寧迄	三、〇〇	改修	
四	昌寧居昌線	二等	昌寧ヨリ陝川迄	一〇、〇〇	未改	昌寧ヨリ草溪經由陝川ニ至ル
五	陝川晉州線	三等	陝川ヨリ丹城迄	一、〇七	大改	陝川ヨリ三嘉經由丹城ニ至ル
六	晉州尙州線	二等	丹城ヨリ晉州迄	四、〇〇	改修	
七	馬山右水營線	二等	晉州ヨリ院田迄	四、二五	改修	
八	晉州三千浦線	二等	晉州ヨリ三千浦迄	八、二九	改修	晉州ヨリ泗川經由三千浦ニ至ル
九	泗川固城線	三等	泗川ヨリ固城迄	七、〇三	改修	
十	大邱統營線	二等	固城ヨリ馬山迄	九、〇七	改修	固城ヨリ鎮東經由馬山ニ至ル

○地方土木事業監察ニ關スル件

大正七年五月十四日
土第一四二七號
土木局長

各出張所長(仁川ヲ)宛

既成一、二等道路ノ延長ニ伴ヒ之方修繕費ノ要求モ益多キヲ加ヘ大正七年度修繕工事トシテ各道調査ニ係ル總工費壹百貳拾七萬餘圓ニ達スル狀況ニ有之候處豫算ノ關係上一時ニ之方施行ヲ許ササルノミナラス此等ノ箇所ヲ仔細ニ監察スルトキハ其ノ施行ニツキ

緩急ノ區別アルヘク認メラレ候ニ付テハ自今地方土木事業ノ監察ニ際シテハ特ニ此等修繕箇所ニ注意ヲ拂ヒ修繕ヲ要スト認メタル箇所ニ付テハ其ノ腐朽又ハ破損ノ現況、修繕方法、概算工費、施行ノ緩急並ニ當初ノ施行及最近修繕ノ時期等詳細報告相成度此段及通牒候也

○朝鮮總督府官報編纂規程

大正九年二月二十七日
訓令第一〇七號

第一條 官報ハ官房庶務部文書課ニ於テ之ヲ編纂ス
第二條 官報登載事項及其ノ登載欄ノ順序左ノ如シ

詔書欄

皇室令欄

法律欄(朝鮮ニ施行スルモノ又ハ一般周知ヲ必要トスルモノ)

勅令欄(同上)

軍令欄(同上)

條約欄(同上)

豫算欄(同上)

制令欄

閣令欄(朝鮮ニ施行スルモノ又ハ一般周知ヲ必要トスルモノ)

省令欄(同上)

訓令欄(各省訓令ニ付テハ同上)

告示欄(各省告示ニ付テハ同上)

達 欄(同上)

諭告欄

通牒欄

軍事公文欄

高等土地調査委員會公文欄

地方廳公文欄

會計検査欄

叙任及辭令欄

彙報欄

土地收用公告欄

廣告欄

朝鮮譯文欄

第三條 制令、府令、訓令及告示改正ノ場合ハ參照トシテ舊規定其ノ他關係條項ヲ秒錄掲載ス

第四條 叙任及辭令欄ニハ左ノ事項ヲ登載ス

一 判任官及判任待遇以上職員ノ叙位並勲功

二 奏任官及奏任待遇以上職員ノ任免、陞等、增俸、退職、休職、復職、懲戒及勤務

三 本府高等官並所屬官署ノ長ノ出張

四 委員ノ命免

五 前四號ノ外登載ヲ要スト認メタル事項

第五條 彙報欄ニハ左ノ事項ヲ登載シ各般ノ狀況ヲ蒐錄ス

一 宮廷事項

二 王公族事項

三 官廳事項

(一) 閉廳、休廳、廢廳、廳舍移轉、其ノ他ノ事項

(二) 奏任官及奏任待遇以上ノ職員ノ死亡、休職滿期、失官、氏名變更、本府高等官並所屬官署ノ長ノ發著

(三) 朝鮮貴族ニ關スル事項

(四) 外國領事官ノ認可及發著等

- (五) 死刑執行、大赦、特赦、減刑、辯護士名簿登錄、辯護士懲戒處分及破產管財人任免
- (六) 軍事
- (七) 賞罰
- (八) 救恤
- (九) 神社、寺院並朝鮮寺刹及布教規則ニ依ル許可又ハ認可
- 四 調査及報告ニ關スル事項
 - (八) 人口ニ關スル調査及統計
 - (三) 住職、住持及布教者ノ異動並布教所ノ廢止等
 - (三) 私立專門學校私立高等普通學校私立實業設置認可、教員免許狀下附、教員功績者表彰、官立學校卒業者、濟生院盲啞本科速成卒業者、講習會狀況、學事統言及報告、博物館狀況
 - (四) 道警部考試合格者、道巡查部長試驗合格者、警察官吏ノ功勞記章授與、道巡查、看守、女監取締ニ對スル精勤證書授與及其ノ沒收、看守長任用考試合格者、請願警察官ノ配置許可及配置期間内ノ廢止、警察官教養ニ關スル狀況、警察取締營業ノ禁止、停止及許可取消、訴訟代理業者届出、其ノ變更及取消
 - (五) 民事、刑事及監獄ニ關スル統計
 - (六) 貿易、貨幣、課稅物件ニ關スル統計、經濟狀況、地方金融概況、煙草產業其ノ他財源調査涵蓋ニ關スル施設狀況

- 酒造及煙草耕作組合概況、金融機關營業概況、金融機關ノ設置、廢止及移轉、金融機關役員ノ異動、諸稅令等ニ關スル申請、申告上ノ手續ニ付一般ニ周知セシムヘキ事項
- (七) 人蔘耕作許可及取消、人蔘植付檢査及收穫査定期日、人蔘耕作狀況、水蔘收納狀況、紅蔘製造成績、紅蔘輸出數量及日時、蔘業統計、鹽輪移出統計、官鹽製造高統計
- (八) 産業統計、農作物狀況、農作物災害及蟲害狀況、蠶況、蠶業取締狀況、畜産狀況、勸業模範場及獸疫血清製造所事業狀況、農事演習會、傳習會及品評會狀況、灌溉開墾狀況、女子蠶業講習所成績、獸疫豫防狀況、國有未墾地處分事項、灌溉事業認可、國有林野及其ノ產物ニ關スル許可及許可取消、林野調査狀況及成績、獸疫即報及月報移民ノ狀況
- (九) 商工業調査、市場及一般商工業概況、商品陳列館狀況、度量衡ニ關スル調査、其ノ他産業ノ保護獎勵上重要ナル事項
- (十) 會社ニ關スル許可及許可取消、會社事業ノ廢止、禁止、支店ノ閉鎖又ハ會社ノ解散命令
- (十一) 鑛業ニ關シ豫防命令又ハ停止命令、鑛業權ノ設定、移轉、變更及消滅、鑛業登錄ノ更正、變更、抹消及回復、共同鑛業權者脱退、鑛業權代表者ノ指定、改定、鑛業權

ノ回復、其ノ他鑛業ニ關スル届出、鑛業登錄及請求事件數及鑛業狀況

- (十二) 漁業免許及取消、水産業狀況、水産試驗及調査成績、水産組合業務成績
- (十三) 公有水面埋立規則、河川取締規則及大正三年府令第四十七號ニ依ル許可、許可取消及消滅
- (十四) 船舶統計、命令航路ニ於ケル汽船發着日時割、航海開始及休止、鐵道及附帶營業ノ開始、廢止、運賃及列車運轉時刻ノ改正其ノ他重要ナル事項、輕便鐵道及軌道ニ關スル許可及許可失效、取消、業務ノ停止、運輸開始ノ認可、鐵道、輕便鐵道、軌道、通信ニ關スル統計及報告
- (十五) 總督府醫院及各省道慈惠醫院患者科別表、醫師、齒科醫師、醫生、限地醫業、產婆、入齒醫業、藥劑師及種痘認許員等ノ免許證下付、廢業、死亡、取消、停止及禁止、醫師藥劑師試驗合格者、痘苗製造配付狀況、傳染病患者表
- (十六) 氣象、觀測
- 五 地方行政ニ關スル事項

地方費豫算決算臨時恩賜金ニ關スル事項、同經理方法、面費豫算、決算、而基本財産、面積立金、洞里有財産、道府郡島參事異動、指定面長異動、指定面相談役異動、道府郡島參事諮問會狀況、面吏員及篤行者選奨、府協議員異動、水利組

合長及學校組合管理者異動

- 六 前各號ノ外登載ヲ要スト認メタル事項
 - 第六條 廣告欄ニハ左ノ事項ヲ登載ス
 - 一 朝鮮鑛業令施行規則第三條ヲ適用ノ場合
 - 二 森林令施行規則第六條ヲ適用ノ場合
 - 三 漁業令施行規則第六條ヲ適用ノ場合
 - 四 國有未墾地ノ處分ニ關スル命令送達不能ノ場合ニ於ケル取消ハ無効
 - 五 檢定教科用圖書ノ書目、冊數、定價、著作者、發行者ノ住所、氏名及其ノ變更等、總督府出版教科用圖書ノ書目、發賣代價、發賣人許可及其ノ取消、業務廢止、住所、氏名及其ノ變更等
 - 六 朝鮮總督府官報發賣手續
 - 七 官公立學校生徒募集
 - 八 船舶登録
 - 九 旅券、酒、煙草、船等ノ免許狀、許可證及認許證ノ無効
 - 十 工事及物件ノ供給入札及入札拂下
 - 十一 商業及法人登記、公示催告、除權判決
 - 十二 住所不明ノ行旅死亡者
 - 十三 前各號ノ外法令ノ規定ニ依リ登載ヲ要スル各種ノ廣告連載廣告ハ三回ヲ限度トス
- 第七條 本府各局長、秘書課長、外事課長、首席參事官及各所屬

官署ノ長ハ部下職員ノ中ニ就キ官報主任ヲ命スヘシ
第八條 官報主任ハ其ノ局部課室ノ管掌ニ係ル事項ニシテ官報登
載事項ニ該當スルモノナキヤ否ヲ注意シ該當事項ハ遲滞ナク原
稿作成ノ上封筒ニ官報原稿ノ文字ヲ朱書シ文書課ニ送付スヘシ
但シ法令及告示ニシテ文書科ヲ經由スル決裁文書ニ「官報掲載」
ノ記號ヲ附シタル場合ニ於テハ別ニ送付ヲ要セス

第九條 前條但書ノ場合及法令、告示ノ官報原稿ニハ第三條ノ參
照事項ヲ添付スルヲ要ス

第十條 官報原稿ハ別ニ配付スル官報原稿用紙又ハ美濃形罫紙ニ
楷書ニテ記入スヘシ但シ統計、圖表類及印刷ニ係ルモノハ便宜
美濃形白紙ニ記入シ又ハ其ノ印刷物ヲ美濃形白紙ニ貼附シテ之
ヲ代用スルコトヲ得

第十一條 官報原稿ノ締切時刻ハ正午トス但シ號外ヲ發刊スル場
合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 官報ニ登載シタル事項ハ特ニ必要アル場合ヲ除クノ外
總督ニ報告シ又ハ 官廳ニ通スルコトヲ要セス

附則

大正二年朝鮮總督府訓令第五十七號ハ之ヲ廢止ス

○朝鮮總督府地方官官制

明治四十三年九月三十日 勅令第三五七號
改正 明治四十四年四月 勅令第三七號 大正二年四月
勅令第八九號 明治四十五年三月 勅令第五五號
大正三年六月二十七日 大正四年四月二十日 大正四年七月十四日
勅令第一三三號 勅令第六六號 勅令第一一七號

第 條 朝鮮ニ左ノ道ヲ置ケ
京畿道 忠清北道 忠清南道 全羅北道 全羅南道
慶尙北道 慶尙南道 黃海道 平安南道 平安北道
江原道 咸鏡南道 咸鏡北道
道ノ位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム
第二條 各道ニ左ノ職員ヲ置ケ
知 事 勅 任
參 典 官 一人 勅 任 又ハ奏任
事 務 官 奏 任
通 譯 官 奏 任
警 視 官 奏 任
港 務 官 奏 任
港 務 醫 官 奏 任
獸 醫 官 奏 任
技 師 奏 任
書 記 判 任
視 學 判 任
警 部 判 任
港 吏 判 任

港務醫官補 判 任

獸醫官補 判 任

技 手 判 任

森林主事 判 任

通譯生 判 任

警部補 判 任

第三條 各道ヲ通シテ事務官ハ專任五十二人、警視ハ專任五十一
人、港務官ハ專任一人、港務醫官ハ專任一人、獸醫官ハ專任一
人、書記、港吏、港務醫官補、獸醫官補及通譯生ハ專任四百四
十一人トス

技師、通譯官、視學、警部、技手、森林主事及警部補ハ道ノ須
要ニ依リ俸給豫算定額内ニ於テ之ヲ置ケ

第四條 各道ニ於ケル事務官、通譯官、警視、港務官、港務醫官
獸醫官、技師、書記、視學、警部、港吏、港務醫官補、獸醫官
補、技手、森林主事、通譯生及警部補ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定
ム

第五條 道知事ハ朝鮮總督ニ隸シ法令ヲ執行シ管内ノ行政事務ヲ
管理シ所屬官吏ヲ指揮監督ス

第六條 道知事ハ管内ノ行政事務ニ關シ職權又ハ委任ノ範圍内ニ
於テ法令ヲ發スルコトヲ得

第七條 道知事ハ府尹、郡守又ハ島司ノ命令又ハ處分ニシテ制規
ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯ス者アリト認ムルトキハ其ノ命

令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第八條 道知事ハ安寧秩序ヲ保持スル爲兵力ヲ要スルトキハ之ヲ
朝鮮總督ニ具狀スヘシ但シ非常急變ノ場合ニ際シテハ直ニ當該
地方駐在軍隊ノ司令官ニ出兵ヲ要求スルコトヲ得

第九條 道知事事故有ル時ハ第一部長タル事務官其ノ職務ヲ代理
ス

第十條 道知事ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府尹、郡守又ハ
島司ニ委任スル事ヲ得

第十一條 參與官ハ道知事ノ諮問ニ應ジ又ハ臨時命ヲ承ケ事務ニ
服ス

第十二條 各道ニ知事官房、第一部、第二部第三部ヲ置ケ
官房及各部ノ事務分掌ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十三條 部長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ道知事ノ命ヲ承ケ部務ヲ
掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第三部長ハ警察及衛生事務ノ執行ニ關シ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ
警視、警部、警部補及巡查ヲ指揮監督ス

第十四條 部長ニ非サル事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ道務ヲ掌ル

第十五條 通譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル

第十六條 警視ハ知事ノ命ヲ承ケ警察及衛生事務ヲ分掌シ部
下ノ警部、警部補及巡查ヲ指揮監督ス

第十七條 港務官ハ上官ノ命ヲ承ケ開港ノ港則ノ執行及海港
檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル

第十五條ノ四 港務醫官ハ上官ノ命ヲ承ケ海港檢疫及醫務ヲ掌ル
條十五條ノ五 獸醫官ハ上官ノ命ヲ承ケ獸畜ニ關スル檢疫、検査
及醫務ヲ掌ル

第十五條ノ六 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
第十六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ニ關スル視察及事務ニ從事ス
警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生事務ニ從事シ部下ノ警部補
及巡查ヲ指揮監督ス

港吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ開港ノ港則ノ執行及海港檢疫ニ從事ス
港務醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ海港檢疫及醫務ニ從事ス
獸醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ獸畜ニ關スル檢疫、検査及醫務ニ
從事ス

技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
森林主事ハ上官ノ指揮ヲ承ケ國有林ノ保護ニ從事ス

通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス
警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生事務ニ從事シ部下ノ巡查
ヲ指揮監督ス

第十六條ノ二 各府郡ニ警察署ヲ置ク但シ朝鮮總督ハ地方ノ必要
ニ應シ別ニ區域ヲ定メテ警察署ヲ置ク事ヲ得

警察署ノ位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム
第十六條ノ三 警察署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

警察署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ管内ノ警察及衛生事務ヲ掌理シ部

下ノ職員ヲ指揮監督ス

第十六條ノ四 各道ニ巡查ヲ置ク判任官ノ待遇トス
巡查ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十七條 道ニ府、郡及島ヲ置ク

府、郡及島ノ名稱、位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム
第十八條 各府郡島ニ左ノ職員ヲ置ク

府尹、郡守又ハ島司 奏任

書記 判任

通譯生 判任

府ニ府事務官ヲ置ク事ヲ得

府事務官ハ奏任トス

須要ニ依リ島ニ技手ヲ置クコトヲ得

技手ハ判任トス

第十九條 府事務官ハ各府ニ通シテ專任三人書記技手及通譯生ハ

各府郡島ヲ通シテ專任二百二十三人トス

第二十條 各府、郡島ニ於ケル府事務官書記技手及通譯生ノ定員

ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十一條 府尹、郡守又ハ島司ハ道知事ノ指揮監督ヲ受ケ法令

ヲ執行シ管内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

府尹、郡守又ハ島司事故アル時ハ道知事ノ指定シタル府郡島ノ

書記各其ノ職務ヲ代理ス但シ府事務官ヲ置キタル府ニ在リテハ

府事務官府尹ノ職務ヲ代理ス

慈惠醫院ハ疾病ノ診療ニ關スル事ヲ掌リ兼テ助産婦ノ養成ニ關

スル事ヲ掌ル

各醫院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長

醫官

書記

藥劑手

助手

奏任

判任

判任

判任

各醫院ヲ通シテ醫官ハ專任四十一人、醫員、書記、藥劑手及助

手ハ專任七十七人トス

各醫院ニ於ケル醫官、醫員、書記、藥劑手及助手ノ定員ハ朝鮮

總督之ヲ定ム

第二十七條 院長ハ醫官ヲ以テ之ニ充ツ道知事ノ指揮監督ヲ承ケ

院務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第二十八條 醫官ハ院長ノ命ヲ承ケ醫務及助産婦、看護婦ノ養成

ニ關スル事ヲ掌ル

醫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務及助産婦、看護婦ノ養成ニ從事ス

書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

藥劑手ハ上官ノ指揮ヲ受ケ藥品、醫療器械及治療材料ニ關スル

事務ニ從事ス

助手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務及藥劑ノ事務ヲ助ク

第二十一條ノ二 府事務官ハ府尹ノ命ヲ承ケ府務ヲ掌ル

第二十一條ノ三 島司ハ管内ノ行政事務ニ關シ法令ニ依リ又ハ道

知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付島令ヲ發スルコトヲ得

第二十二條 書記、技手及通譯生ハ上官ノ指揮ヲ受ケ庶務、技術

及通譯ニ從事ス

第二十二條ノ二 道技師ハ必要有リト認ムルトキハ朝鮮總督ノ認

可ヲ受ケ島支廳ヲ置クコトヲ得

支廳長ハ島書記ヲ以テ之ニ充ツ

支廳長ハ島司ノ指揮ヲ受ケ道知事ノ定ムル所ニ依リ支廳主管ノ

事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第二十三條 各道及各府郡島ニ參事ヲ置クコトヲ得

參事ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

參事ハ道、府、郡、島、管轄内ニ居住シ學識名望アル者ニ就キ

道知事之ヲ命ス

第二十四條 參事ハ名譽職トス道知事又ハ府尹、郡守、島司ノ諮

問ニ應スルモノトス

參事ニハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ手當ヲ給スルコトヲ得

第二十五條 各郡島ニ面ヲ置ク

面ニ面長ヲ置ク判任官ノ待遇トス郡守又ハ道司ノ指揮監督ヲ承

ケ管内ノ行政事務ヲ補助執行ス面及面長ニ關スル規定ハ朝鮮總

督之ヲ定ム

第二十六條 各道ニ慈惠醫院ヲ附置ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ朝鮮總督府道長官ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ朝鮮總督府知事ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス
當分ノ内第三部長ハ警視ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
別ニ定ムルモノヲ除クノ外他ノ勅令中朝鮮總督府ノ道長官トアルハ道知事トス

○朝鮮總督府知事ノ發スル命令ノ罰則

ニ關スル件

大正八年八月十九日
勅令第三九二號

朝鮮總督府知事ハ其ノ發スル命令ニ三月以下ノ懲役若ハ禁錮・拘留、百圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年勅令第三百七十六號ハ之ヲ廢止ス

參照

明治四十三年 九月三十日 勅令第三百七十六號ハ朝鮮總督府警務總長等ノ發スル命令ノ罰則ニ關スル件也

○朝鮮總督府道事務分掌規程

大正四年五月一日
總訓第二十七號

改正 大正五年五月十八日 大正八年八月二十日 大正九年一月二十四日
總訓第二十五號 總訓第三十一號 總訓第四號

第一條 各道ニ知事官房、第一部、第二部及第三部ヲ置ク

第二條 知事官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 機密ニ關スル事項
- 二 人事ニ關スル事項
- 三 褒賞ニ關スル事項

第三條 第一部ニ庶務課、地方課、學務課、勸業課、土木課、會計課及審査課ヲ置ク

第四條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 官印ノ管守ニ關スル事項
- 二 文書ノ接受、發送、記録、編纂及保存ニ關スル事項
- 三 圖書ノ保管ニ關スル事項
- 四 統計及報告ニ關スル事項
- 五 宿直ニ關スル事項
- 六 他部課ノ主管ニ屬セサル事項

地方課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 府郡島及面ノ行政ニ關スル事項
- 二 地方費及府郡臨時恩賜金ニ關スル事項
- 三 民籍ニ關スル事項
- 四 兵事ニ關スル事項
- 五 救恤及慈善事業ニ關スル事項
- 六 公共團體及公共組合ニ關スル事項
- 七 公立普通學校費用令ニ關スル事項

八 柳校財産管理ニ關スル事項

學務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 教育學藝ニ關スル事項

二 宗教及享祀ニ關スル事項

勸業課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 農商工ニ關スル事項

二 森林ニ關スル事項

三 水産ニ關スル事項

四 鑛業ニ關スル事項

五 度量衡ニ關スル事項

土木課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 道路、河川、港灣、砂防、水利及上水下水ニ關スル事項

二 水面埋築及使用ニ關スル事項

三 土地收用ニ關スル事項

四 營繕ニ關スル事項

京畿道及平安南道ニ於テハ水道課ヲ置キ上水ニ關スル事務ハ前項ニ拘ラス水道課ニ於テ之ヲ掌ル

會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 國費、地方費、臨時恩賜金其ノ他特別經濟ノ會計ニ關スル事項

事項

二 物品ノ出納保管ニ關スル事項

三 財産ノ管理ニ關スル事項

土木法規 第十二章 官制及職務規程

四 會計監査ニ關スル事項

五 削除

六 廳中取締ニ關スル事項

審査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 道令、訓令其ノ他重要ナル處分ノ審議ニ關スル事項

二 法令ノ解釋適用ニ關スル事項

第五條 第二部ニ稅務課及理財課ヲ置ク

稅務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 國稅及地方費ノ賦課徵收ニ關スル事項

二 租稅外諸收入ニ關スル事項

三 驛屯土ノ管理ニ關スル事項

四 不動産證明ニ關スル事項

五 免許狀、許可狀及鑑札ノ交付ニ關スル事項

理財課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 銀行及地方金融組合ノ監督ニ關スル事項

二 金融ニ關スル事項

三 道金庫ニ關スル事項

四 地方財務ニ關スル事項

第六條 第三部ニ警務課、高等警察課、保安課及衛生課ヲ置ク

警務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 警察文書ノ授受記録編纂ニ關スル事項

二 圖書ノ保管ニ關スル事項

- 三 警察職員ノ進退、賞罰其ノ他身分ニ關スル事項
- 四 警察職員ノ服務及紀律ニ關スル事項
- 五 警察區劃及配置ニ關スル事項
- 六 戶口調査ニ關スル事項
- 七 警衛及警備ニ關スル事項
- 八 被服及附屬品ニ關スル事項
- 九 部内他課ノ主管ニ屬セサル事項
- 高等警察課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 高等警察ニ關スル事項
 - 二 外國旅券ニ關スル事項
 - 三 新聞雜誌、出版物及著作物ニ關スル事項
 - 保安課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 行政警察ニ關スル事項
 - 二 消防ニ關スル事項
 - 三 司法警察ニ關スル事項
 - 四 犯罪即決事務ニ關スル事項
 - 五 民事爭訟調停事務ニ關スル事項
 - 六 執達吏事務ニ關スル事項
 - 衛生課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 公衆衛生ニ關スル事項
 - 二 醫師、醫生、藥劑師、產婆、看護婦及種痘認許員ニ關スル事項
 - 三 病院ニ關スル事項

- 四 藥品營業、入齒、理髮、按摩及針灸術營業ニ關スル事項
 - 五 墓地及埋火葬ニ關スル事項
- 第七條 知事官房ニ主事ヲ置き各課ニ課長ヲ置ク
- 附則
- 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮總督府所屬官署委任事項規程

大正九年四月一日 附則第五號

- 中樞院議長
- 遞信局長
- 高等法院長
- 高等法院檢察長
- 覆審法院檢察長
- 地方法院檢察長
- 地方法院檢察正
- 典獄長
- 醫院長
- 濟生院長
- 勤業模範場長
- 中央試驗所長
- 營林廠長
- 平壤礦業所長
- 道知事
- 稅關長

- 觀測所 所長
 - 地質調査所 所長
 - 獸疫血清製造所 所長
 - 警察官講習所 所長
 - 海員審判所 所長
 - 高等土地調査委員會 委員長
- 朝鮮總督府所屬官署委任事項規程左ノ通定メ朝鮮總督府所屬官署主管事項規程ハ之ヲ廢止ス

第一條 各官署ノ長ハ特ニ規定スルモノノ外此ノ規程ニ依リ專行スヘシ

- 第二條 各官署ノ長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 部下職員勤務ノ指定、但シ道ニ在リテハ部長、遞信官署ニ在リテハ遞信局長、遞信吏員養成所長、郵便爲替貯金管理所長及管理事務分掌郵便局長、裁判所ニ在リテハ豫審判事、監獄ニ在リテハ分監ノ長ヲ除ク
 - 二 部下職員ノ例規請假及休暇中旅行ノ許否
 - 三 部下職員ノ除服出仕
 - 四 部下職員ノ官吏服務紀律ニ依ル顯出ノ許否
 - 五 部下職員ノ出張但シ鴨綠江、豆滿江對岸以外ノ外國出張ヲ除ク
- 第三條 遞信局長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ

- 一 部下並所轄ノ判任官、同待遇職員ノ進退及賞與
- 二 部下並所轄職員ノ死傷及退官ニ關スル賜金、手當及諸給與
- 三 所轄職員ニ係ル第二條ノ事項
- 四 部下並所轄職員海事事務ノ爲關東州ヘノ出張
- 五 電信電話線路及機械維持上管理事務分掌郵便局ノ受持區域ニ依ルチ不便トスル區間ノ受持指定
- 六 官損處分
- 七 官有財產臺帳ノ登錄及其ノ變更
- 八 官有財產ノ増築、改築、移築、移轉、取拂、模樣替及用途ノ變更
- 九 建物及二千坪以下土地ノ期間三年ヲ超エサル貸付又ハ使用ノ許可
- 十 官有財產ニ屬スル土地以外ノ見積價格二千圓ヲ超エサル不利用物件ノ處分
- 十一 土地、工作物其ノ他ノ物件寄附ノ採納
- 十二 官廳用及私設電信電話施設ノ許可
- 十三 電氣事業取締規則第十二條、第十三條、第十五條、第十六條、第三十四條第二項、第百六條及第百七條ニ依ル許可、認可又ハ承認
- 十四 電信電話線建設條例第三條並第七條ノ事項及第五條ニ依ル許可
- 十五 航海命令ノ遂行監督

- 十六 船舶再検査ノ處理
- 十七 船舶検査法第五條第二項及朝鮮外國船舶検査規則ニ依ル船舶検査官吏ノ指定
- 十八 船舶積量測定法第三條乃至第六條ニ依ル指定
- 十九 船舶職員試験受驗資格ニ關スル外國海技免狀、機關工場履歷及學校等ノ認定
- 二十 海技免狀ノ授與
- 二十一 朝鮮船舶職員令施行規則第四條第一項ニ依ル航路ノ指定及同規則第五條ニ依ル船舶職員乘組ニ關スル認可
- 二十二 船燈、信號器、救命具製造及販賣ノ免許及其ノ取消
- 二十三 戰時船舶管理令ニ依ル各種命令及許可ニ關シ戰時船舶管理局トノ交渉
- 二十四 戰時船舶管理令施行規則第三條ニ依ル船舶ノ外國諸港間航行ノ許可
- 二十五 會社令施行規則第三條及第三條ノ二ニ依ル許可
- 第四條 高等法院長及同檢察長ハ部下職員ノ死傷及退官ニ關スル賜金、手當及諸給與ヲ專行スヘシ
- 高等法院檢察長ハ所轄檢察ニ係ル第二條第五號ノ事項ヲ行フコトヲ得
- 第五條 覆審法院長、同檢察長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 部下並所轄ノ裁判所及檢察局判任官ノ補職
 - 二 部下並地方法院長、同檢察正ノ死傷及退官ニ關スル賜金、

- 手當及諸給與
- 三 地方法院長、同檢察正ニ係ル第二條第二號乃至第四號ノ事項
- 覆審法院長、同檢察長ハ所轄職員ニ係ル第二條第五號ノ事項ヲ行フコトヲ得
- 第六條 地方法院長、同檢察正ハ部下職員ノ死傷及退官ニ關スル賜金、手當及諸給與ヲ專行スヘシ
- 第七條 高等法院長、覆審法院長、地方法院長ハ工事費五百圓ヲ超エサル建物ノ取拂、移轉又ハ模様替ヲ專行スヘシ
- 第八條 典獄ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 部下判任待遇職員ノ進退及賞與但シ看守ノ任免ヲ除ク
 - 二 部下判任官、同待遇職員ノ死傷及退官ニ關スル賜金、手當及諸給與
 - 三 工事費千圓ヲ超エサル建物ノ増築、改築、移築、移轉、取拂又ハ模様替
 - 四 作業上必要アル官有土地ノ面積三百坪以下期間三年ヲ超エサル貸付又ハ使用ノ許可
 - 五 在監者ニ給與スル糧食ノ種類及分量ノ變更
 - 六 所在地外ノ裁判所ノ召喚ニ依リ出頭セシメタル場合ニ於ケル受刑者移監ノ處分
- 第九條 醫院長、濟生院長、勸業模範場長、中央試驗所長、營林廠長、平壤鑛業所長及高等土地調査委員會委員長ハ左ノ事項ヲ

- 專行スヘシ
- 一 部下判任官、同待遇職員ノ進退及賞與
- 二 部下職員ノ死傷及退官ニ關スル賜金、手當及諸給與
- 獸疫血清製造所長ハ前項第二號ノ事項ヲ專行スヘシ
- 第十條 稅關長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 國境ニ於ケル朝鮮總督府稅關出張所ニ在勤スル監視、監吏ノ大正二年勅令第十九號ニ依ル任用並賞與
 - 二 部下職員ノ死傷及退官ニ關スル賜金、手當及諸給與
 - 三 稅關監吏賞罰規則ニ依ル賞罰但シ免職ノ場合ヲ除ク
- 第十一條 觀測所長ハ朝鮮總督府氣象信號規程ニ依ル認可、認可ノ取消、管理者變更ノ命令及諸届出ノ處理ヲ專行スヘシ
- 第十二條 道知事ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ
 - 一 部下並所轄ノ判任官、同待遇職員ノ進退及賞與但シ道憲惠醫院判任官ニ關スルモノ及内地人巡查ノ任免ヲ除ク
 - 二 部下並所轄職員ノ死傷及退官ニ關スル賜金、手當及諸給與但シ公立學校職員退官ニ關スルモノヲ除ク
 - 三 所轄職員ニ係ル第二條ノ事項但シ慈惠醫院長、府尹、郡守島司及高等官タル警察署長ニ係ル同條第一號ノ事項ヲ除ク
 - 四 部下並所轄職員警察用務ノ爲滿洲ヘノ出張
 - 五 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則第十八條並公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則第二十條ニ依ル就職及退職ノ證明

- 六 褒賞條例第八條第二項ノ千圓未滿ノ寄附ニ對スル褒狀ノ賜與
- 七 一、二等通路臨時修繕ノ施行但シ特ニ指定シタルモノヲ除ク
- 八 官有財産ノ増築、改築、移築、移轉、取拂、模様替及用途ノ變更
- 九 建坪五十坪以下ノ建物及千坪以下ノ土地ノ期間三年ヲ超エサル貸付又ハ使用ノ許可
- 十 官有財産ニ屬スル土地以外ノ見積價格五百圓ヲ超エサル不物件ノ處分
- 十一 道路、河川、堤防等ノ工事ニ要スル土地ノ寄附採納但シ本府直轄施行ノ工事ニ係ルモノヲ除ク
- 十二 十町歩ヲ超エサル國有未墾地ニ關シ國有未墾地利用法及同施行規則ニ依ル處分
- 十三 警察官派出所及警察官駐在所受持區域ノ設定
- 十四 巡查定員配置
- 十五 種痘認許員免狀ノ下附
- 十六 公醫ノ命免
- 十七 檢疫委員ノ命免
- 第十三條 各官署ノ長ハ委任事項ト雖重要ナルモノハ特ニ意見ヲ具シ總督ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十四條 委任事項ニシテ總督名又ハ總督府名ヲ以テ施行スヘキ

モノハ豫メ定例ヲ作り總督ノ決裁ヲ受クヘシ
 第十五條 中樞院議長、逓信局長、濟生院長、道知事及高等土地
 調査委員會委員長ハ總督ノ承認ヲ受ケ委任事項中輕易ナルモノ
 ナ部下ノ職員又ハ所轄官署ノ長ヲシテ行ハシムルコトヲ得
 覆審法院長及覆審法院檢察事長ハ總督ノ承認ヲ受ケ委任事項中輕
 易ナルモノヲ所轄官署ノ長ヲシテ行ハシムルコトヲ得
 第十六條 地方法院長、地方法院檢察事、典獄、勸業模範場長、
 警林廠長、稅關長、觀測所長ハ其ノ委任事項中支廳、支廳檢察
 分局、分監、支場、支廠、支署、測候所又ハ出張所ニ關スルモ
 ノナ部下ノ支廳上席ノ判事及檢察、分監、支場、支廠、支署、
 測候所又ハ出張所ノ長ヲシテ行ハシムルコトヲ得

○府郡ノ名稱及位置

大正三年三月一日ヨリ施行

改正 大正三年九月 府令第一四三號 大正三年十二月 府令第一七九號 大正四年四月 府令第一七九號 大正五年十月 府令第一九一號 大正六年十一月 府令第一九一號 大正八年五月 府令第一八八號

京畿道

二府二十郡

府郡名	府郡名	府郡名	府郡名
京城府	京城	振威郡	丙南面
官校里	利川郡	邑內	坡州郡
			漣川郡
			汶山
			郡內

忠清南道

十四郡

扶餘郡	燕岐郡	論山郡	公州郡
扶餘郡	鳥致院	舒川郡	大田郡
瑞山郡	保寧郡	舒川郡	大田郡
瑞山郡	大川里	舒川郡	大田郡
天安郡	唐津郡	洪城郡	牙山郡
天安郡	唐津郡	洪城郡	溫泉里

忠清北道

十郡

忠州郡	丹陽郡	清州郡	永同郡
忠州郡	丹陽郡	陰城郡	槐山郡
報恩郡	報恩郡	陰城郡	槐山郡
報恩郡	報恩郡	陰城郡	槐山郡
			鎮川郡
			鎮川郡

仁川府	始興郡	安城郡	金城郡	開城郡	廣州郡
仁川	永登浦	邑內	龍仁郡	江華郡	松都面
高陽郡	水原郡	龍仁郡	金良場	府內	麗州郡
京城	水原	長湍郡	加平郡	郡內面	州內面
楊州郡	議政府	郡內面			

全羅北道

一府十四郡

群山郡	全州郡	井邑郡	南原郡	淳昌郡
沃溝郡	金堤郡	錦山郡	扶安郡	茂朱郡
群山	金堤	錦山	扶安	茂朱
益山郡	高敞郡	鎮安郡	任實郡	長水郡
益山	高敞	鎮安	任實	長水

慶尙北道

一府二十二郡

大邱府	達城郡	慶山郡	永川郡	盈德郡	安東郡	漆谷郡	醴泉郡
大邱	壽城面	慶山	永川	盈德	安東	倭館	醴泉
聞慶郡	清道郡	星州郡	慶州郡	英陽郡	義城郡	金泉郡	榮州郡
聞慶	華陽	星州	慶州	英陽	義城	金泉	榮州
善山郡	迎日郡	青松郡	軍威郡	尙州郡	奉化郡	高靈郡	高靈郡
善山	浦項	青松	軍威	尙州	乃城	高靈	高靈

慶尙南道

二府十九郡

釜山府	東萊郡	馬山府	昌寧郡	蔚山郡	泗川郡	河東郡
釜山	東萊	馬山	昌寧	蔚山	泗川	河東
統營郡	宜寧郡	昌原郡	密陽郡	居昌郡	咸陽郡	咸安郡
統營	宜寧	昌原	密陽	居昌	咸陽	咸安
晉州郡	梁山郡	固城郡	陝川郡	山淸郡	金海郡	南海郡
晉州	梁山	固城	陝川	山淸	金海	南海

黃海道 十七郡

延白郡	延安	長淵郡	長淵	遂安郡	遂安
海州郡	海州	瑞興郡	瑞興	黃州郡	黃州
靈津郡	馬山	新溪郡	新溪	信川郡	信川
載寧郡	載寧	谷山郡	谷山	殷栗郡	殷栗
金川郡	金川	松禾郡	松禾	安岳郡	安岳
平山郡	平山	鳳山郡	沙里院	安岳	安岳

平安南道 二府十四郡

平壤府	平壤	鎮南浦府	鎮南浦	江東郡	江東
龍岡郡	龍岡	中和郡	中和	平原郡	平原
成川郡	成川	順天郡	順天	价川郡	价川
江西郡	江西	安州郡	安州	孟山郡	孟山
德川郡	德川	寧遠郡	寧遠	孟山郡	孟山
陽德郡	陽德	大同郡	大同	平壤	平壤

平安北道 一府十九郡

新義州府	新義州	宣川郡	宣川	熙川郡	熙川
新義州	新義州	宣川郡	宣川	熙川郡	熙川
宣川郡	宣川	熙川郡	熙川	熙川郡	熙川
宣川郡	宣川	熙川郡	熙川	熙川郡	熙川
熙川郡	熙川	熙川郡	熙川	熙川郡	熙川
熙川郡	熙川	熙川郡	熙川	熙川郡	熙川

龜城郡	龜城	雲山郡	雲山	寧邊郡	寧邊
朔州郡	朔州	鐵山郡	鐵山	泰川郡	泰川
楚山郡	楚山	昌城郡	昌城	龍川郡	龍川
慈城郡	慈城	渭原郡	渭原	碧潼郡	碧潼
博川郡	博川	厚昌郡	厚昌	江界郡	江界
義州郡	義州	定州郡	定州	江界郡	江界

江原道 二十一郡

伊川郡	伊川	平昌郡	平昌	淮陽郡	淮陽
鐵原郡	鐵原	三陟郡	三陟	楊口郡	楊口
高城郡	高城	通川郡	通川	原州郡	原州
蔚珍郡	蔚珍	華川郡	華川	旌善郡	旌善
金化郡	金化	橫城郡	橫城	襄陽郡	襄陽
春川郡	春川	寧越郡	寧越	平康郡	平康
洪川郡	洪川	江陵郡	江陵	麟蹄郡	麟蹄

咸鏡南道 一府十六郡

元山府	元山	高原郡	高原	新興郡	新興
元山府	元山	高原郡	高原	新興郡	新興
高原郡	高原	新興郡	新興	新興郡	新興
下鉢	下鉢	新興郡	新興	新興郡	新興
新興郡	新興	新興郡	新興	新興郡	新興
東古川	東古川	新興郡	新興	新興郡	新興

文川郡	郡內南	咸興郡	咸興	三水郡	三水
德源郡	府內	北青郡	老德	端川郡	波道
洪源郡	州翼	安邊郡	鶴城	長津郡	郡內
豐山郡	里仁面	定平郡	府內	甲山郡	長平
永興郡	洪仁	利原郡	西面	長平	長平

咸鏡北道 一府十一郡

清津府	清津	富寧郡	下茂山	慶興郡	慶興
明川府	下零	會寧郡	會寧	鐘城郡	鐘關
鏡城郡	梧村	城津郡	城津	吉州郡	吉城
鏡源郡	慶源	穩城郡	穩城	茂山郡	邑面

○島ノ名稱及位置

大正四年五月一日
府令第四號

(發布ノ日ヨリ施行)

名	稱	島	廳	位	置
濟州	濟州	濟州	濟州	濟州	濟州
嶺南	嶺南	嶺南	嶺南	嶺南	嶺南
嶺北	嶺北	嶺北	嶺北	嶺北	嶺北
嶺東	嶺東	嶺東	嶺東	嶺東	嶺東
嶺西	嶺西	嶺西	嶺西	嶺西	嶺西

○朝鮮總督府及其所屬官廳ノ執務時間

ニ關スル件 明治四十三年十二月
閣令第十六號

朝鮮總督府及其所屬官廳ノ執務時間ハ朝鮮總督ニ於テ適宜之ヲ定メ施行スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

○朝鮮總督府及所屬官署ノ執務時間

明治四十四年十二月二十七日 改正 府令第三九號
大正三年十一月十二日 府令第一六一號

朝鮮總督府及所屬官署ノ執務時間左ノ通定ス
 一 九月十一日ヨリ十月三十一日迄
 午前八時三十分ヨリ午後四時ニ至ル
 十一月一日ヨリ翌年二月末日迄
 午前九時三十分ヨリ午後四時ニ至ル
 三月一日ヨリ四月三十日迄
 午前九時ヨリ午後四時ニ至ル
 五月一日ヨリ七月十日迄
 午前九時ヨリ午後四時ニ至ル
 七月十一日ヨリ九月十日迄

- 午前八時ヨリ正午十二時ニ至ル
- 但シ土曜日ハ正午十二時迄トス
- 二 朝鮮總督府所屬官署ノ職員ニシテ現業ニ從事スル者ノ執務時間ハ當該官署ノ長官之ヲ定ム
- 三 事務繁劇ノ場合ニ於テハ前記ノ時間ニ拘ラス執務ス

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治四十三年朝鮮總督府令第五十九號ハ之ヲ廢止ス

○始政記念日ノ件

大正四年六月二十六日
官廳事務令第二〇一號

政務總監

各所屬官署ノ長宛

六月二十六日本府告示第五百一十一號ヲ以テ始政記念日ノ件告示相成候處之ニ關スル趣旨別紙及通牒候也
 (別紙)

明治四十三年十月一日ハ朝鮮總督府ノ設置ト共ニ新政開始セラレタル日ナリ併合條約ノ締結及其ノ實施ニ際シ秋毫ノ紛擾ヲ見サルノミナラス既定ノ方針及計畫ニ依リ總テ圓滑ニ諸般ノ政務ヲ整理シ得タルハ一ニ聖明ノ威徳ト時運ノ趨勢トニ由ラスムハアラス總督府開始以來茲ニ五週年秩序ノ回復、制度ノ整理ハ勿論殖産興業ニ關スル百般ノ施設經營モ亦漸ク其ノ緒ニ就キ洪澤ノ漸潤スル所上下萬象各其ノ堵ニ安ンシテ治平ノ慶ニ浴シ朝鮮

統治ノ基礎既ニ確立シ施政ノ方針ハ長ヘニ渝ルコトナカルヘシ是レ自今毎年十月一日ヲ以テ始政記念日ト定メ永ク此ノ盛事ヲ銘肝シ一層勵精努力シテ帝國ノ隆運ニ貢獻セムトスル所以ナリ

○服務心得

凡ソ官職ハ其ノ大小ト輕重トチ問ハス皆 天皇陛下ノ大權ニ依リ定メ給フ所ニシテ實ニ國家政務ノ機關タリ故ニ命チ官職ニ承クルモノハ身心ヲ君國ニ獻ケ其ノ任務ヲ執行スルニ於テ一點ノ私情アルヘカラス而シテ官吏ノ依違スヘキ規定ハ載セテ官吏服務紀律ニ在リ苟モ官吏タルモノハ夙夜其ノ條項ヲ服膺シ毫モ背戾スヘカラサルハ言チ俟タサル所ナリ殊ニ朝鮮ニ於ケル官吏ハ民衆ヲ指導啓發スルニ於テ一層其ノ切實ナルモノナルカ故ニ常ニ恪勵勵精以テ之方儀表タランコトナ期セサルヘカラス仍テ左ニ服務上特ニ留意スヘキ要項ヲ掲ケ部下ノ官吏ト共ニ之ヲ循行シ誓テ其ノ本分ヲ全フセシ事ナ期スヘシ

一 盡忠報國ノ精神ヲ以テ職務ニ勉勵スルコト
 我國ハ萬世一系ノ 君主ヲ奉戴シ最モ君臣ノ義ヲ重ムシ忠ヲ盡シ國ニ報ユルヲ以テ其ノ精神ト爲セリ是レ今日ノ昌運ヲ致シタル所以ナリ然レトモ世慮ノ推移ニ伴ヒ人心動モスレハ輕淨ニ流レ一般ノ風氣漸ク萎靡セムトスルノ虞ナシトセス官吏タルモノ宜シク民衆ノ儀表トナリ常ニ至誠ヲ竭シ 聖旨ニ副ヒ奉ラムコトナ期シ其ノ職務ヲ執行スルニ當リテハ拮据奮勵

明治二十年七月二十九日

內閣總理大臣 伯爵 伊藤博文

勅令第三十九號

官吏服務紀律

- 第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ
- 第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但シ其ノ命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得
- 第三條 官吏ハ其職務ノ内外チ問ハス廉恥ヲ重シ貪汚ノ所爲有ルヘカラス

官吏ハ職務ノ内外チ問ハス威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ

第四條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトチ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得

第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス

苟モ遲滯ノ弊ヲ醸シ曠廢ノ譏ヲ招ケコトナク以テ自ラ其ノ責任ヲ全フシ更ニ範ヲ他ニ示スノ覺悟アルヲ要ス

二 廉潔ヲ旨トシ質素ヲ尙フコト

凡ソ官吏タル者ハ心ヲ持スル清廉潔白ニシテ身ヲ率ル質實朴素ナラサルヘカラス若シ利ニ趨リ勢ニ附キ公ニ憑リテ私ヲ營ミ又ハ權ヲ藉リテ情ニ徇ヒ其體面ヲ汚スコトアラハ是レ音聲ニ一身ノ恥辱タルノミナラス延ヒテ一般ノ威信ニ影響スル所鮮ナカラス故ニ奢侈ヲ戒メ浮華ヲ避ケ節義ヲ固持シテ始終不渝ル所アルヘカラス

三 言行ヲ慎ミ品作ヲ保ツコト

言行ハ意思ノ表示ニシテ之ヲ由リ人格ヲトスヘシ凡ソ言ハ質實ニシテ行ハ正直ナルヲ要ス或ハ威嚴ヲ維持セムトシテ故ラニ驕傲ノ態度ニ出ツル者ナキニ非ス是レ大ナル誤ナリ舉止恭謙ニシテ始メテ他ノ尊信ヲ受ケルヲ得ヘシ徒ラ二分ニ適ハサル空言ヲ放ツモ亦事ニ益ナク却テ人ノ輕侮ヲ招カム一言一行悉ク眞情實意ニ出テ虛偽ノ心ナケレハ品位自ラ備ハリ官吏タルノ威嚴ヲ保ツコトヲ得ヘキナリ

明治四十五年四月一日

朝鮮總督 伯爵 寺內正毅

朕官吏服務紀律ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ施行セシム
 御名 御璽

第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トナ間ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受ルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其ノ饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

一 官廳ノ工事ヲ請負フ者

二 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者

一 官廳ノ補助金ヲ受クル起業者

二 官廳ノ用品ヲ調達スルモノ

一 官廳下諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トナ間ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無費乘船無費乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知リ隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レス

第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

右服務心得堅ク相守リ違背致間敷候也

署 名

○出願事項處理上ノ注意ニ關スル件

第一 官廳ハ其職務ニ付本廳長官ノ命令ヲ奉ルニ依リテ其主イテ若シ命令ニ對シテ其職務ヲ盡スルモノハ土木部長

第二 官廳員一員同

各種ノ出願事項ニ關シ出願關係者直接本府ニ出頭シ又ハ文書ヲ以テ之方處分ニ關スル意見ヲ聽取セムトスル場合ニ在リテハ關係者ノ陳述ヲ聽取スルニ止メ處分上ノ可否ニ關スル意見ハ之ヲ述フルコト無之様充分注意相成度爲念此段及通牒候也

○朝鮮總督府部內臨時職員設置制

大正九年十月二十三日 勅令第四九七號

第一條 朝鮮總督府ニ左ノ職員ヲ置ク

一 建築及土木ニ關スル事務ニ從事スル者

技 師 專任十八人

屬 手 專任二十四人

二 礦田ノ調査及築造ノ事務ニ從事スル者

屬 手 專任二人

技 師 專任十人

三 耕地調査並灌漑及開墾ノ事業助成ニ關スル事務ニ從事スル者

事務官 專任一人

技 師 專任六人

屬 手 專任六人

技 師 專任二十一人

四 國有未墾地調査ニ關スル事務ニ從事スル者

技 師 專任一人

五 緬羊飼育ニ關スル事務ニ從事スル者

技 師 專任一人

屬 手 專任一人

六 水源涵養造林調査ニ關スル事務ニ從事スル者

技 師 專任一人

技 手 專任二人

七 國有林調査ニ關スル事務ニ從事スル者

技 師 專任三人

屬 手 專任四人

技 師 專任二十一人

八 林業試驗ニ關スル事務ニ從事スル者

技 師 專任二人

屬 手 專任一人

九 水産試驗ニ關スル事務ニ從事スル者

技 師 專任一人

屬 手 專任一人

十 鑛區臨檢ニ關スル事務ニ從事スル者

技 師 專任一人

屬 手 專任六人

十一 鑛業登錄ニ關スル事務ニ從事スル者

技 師 專任一人

屬 手 專任一人

十二 鑛床調査ニ關スル事務ニ從事スル者

技師 專任一人

屬 專任三人

技手 專任三人

第二條 警備電話ノ建設ニ關スル事務ニ從事セシムル爲朝鮮總督府逕信官署ニ左ノ職員ヲ置ク

逕信技師 專任一人

逕信書記 專任三人

逕信技手 專任八人

逕信書記補 專任十人

第三條 鴨綠江及豆滿江沿岸ニ於ケル森林調査ノ事務ニ從事セシムル爲朝鮮總督府營林廠ニ左ノ職員ヲ置ク

技師 專任二人

技手 專任八人

第四條 朝鮮總督府道ニ左ノ職員ヲ置ク

一 驛屯土處分調査ノ事務ニ從事スル者 專任十三人

二 朝鮮林野調査令ニ依ル林野調査ノ事務ニ從事スル者 專任七人

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治四十四年勅令第八十二號

明治四十五年勅令第二十三號

大正二年勅令第九十九號

大正七年勅令第三百三十七號

大正七年勅令第三百七十一號

大正八年勅令第三百三十七號

大正八年勅令第三百五十五號

大正八年勅令第三百五十六號

大正八年勅令第二百四十一號

○朝鮮總督府地方官官制改正ノ件

大正九年九月三十日 勅令第四百五十號

朝鮮總督府地方官官制中左ノ通り改正ス

第二十三條 削 除

第二十四條 削 除

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○土木部主管ニ係ル文書取扱方ノ件

大正九年十一月四日 官制第九八號

庶務部長

各所屬官署ノ長宛

土木部ハ京城府貞洞ニ移轉セシニ付本府宛送付スヘキ文書ニシテ土木部主管ノ事項ニ係ルモノハ表面ニ右地名ヲ肩書シ土木部長宛發送相成度此段及通牒候也

○朝鮮總督府事務分掌規程中改正ノ件

大正九年十一月十八日 訓令第五百七號

朝鮮總督府

朝鮮總督府事務分掌規程中左ノ通改正ス

第七條中「專賣課及臨時國勢調査課」ヲ「及專賣課」ニ改メ同條第七項ヲ削ル

第八條中「及鑛務課」ヲ「鑛務課及土地改良課」ニ改メ第二項中第三號及第三號ノ二ヲ削リ、第四號ヲ第三號ニ、第五號ヲ第四號ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

土地改良課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 農業水利ニ關スル事項
- 二 前號ノ外開墾其ノ他土地改良ニ關スル事項
- 三 國有未墾地ニ關スル事項

○朝鮮地方待遇職員令

大正九年十一月十九日
勅令第五四一號

第一條 地方土木ニ關スル事務又ハ技術ニ從事セシムル爲道地方費ヲ以テ道ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務職員

土木書記 專任百人以内 判任官待遇

技術職員

土木技師 專任十五人以内 奏任官待遇

土木技手 專任三百八十人以内 判任官待遇

第二條 地方産業ニ關スル事務又ハ技術ニ從事セシムル爲道地方費ヲ以テ道ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務職員

産業書記 專任百五十人以内 判任官待遇

技術職員

産業技師 專任四十人以内 奏任官待遇

産業技手 專任千八百五十人以内 判任官待遇

第三條 前二條ノ職員ノ各道ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第四條 第五條ニ於テ準用スル地方待遇職員令第九條但書ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケス又ハ最低金額ヨリ低キ俸給ヲ受ケル第一條又ハ第二條ノ職員ニシテ他ノ職務ニ從事スル者ノ員數ハ主トシテ從事スル事務又ハ技術ノ職員ノ定員ノ内トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

第五條 第一條又ハ第二條ノ職員ノ任免、待遇、俸給及休職ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外地方待遇職員令ヲ準用ス

第六條 明治四十三年勅令第三百九十六號第五條ノ規定ニ依リ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ判任官文官ニ任用スルコトヲ得ル者ハ判任官待遇事務職員ニ之ヲ任用スルコトヲ得

第七條 第五條ニ於テ準用スル地方待遇職員令第三條乃至第五條ノ規定ノ適用ニ付テハ朝鮮教育令ニ依ル專門學校ハ之ヲ專門學校又ハ實業專門學校、朝鮮教育令ニ依ル實業學校簡易實業學校又ハ朝鮮總督府農林學校ハ之ヲ地方待遇職員令第三條及第五條ニ規定スル實業學校ト看做ス

第八條 朝鮮臺灣滿洲及樺太在勤文官加俸令及大正九年勅令第四百號ハ第一條又ハ第二條ノ職員ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三章

土木局出張所規程

土木部出張所名稱及位置

○土木部出張所名稱及位置 明治四十五年三月二十八日府令第五七七號

朝鮮總督府官房土木部出張所名稱及位置別表ノ通定ム
附則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
(別表)

名	稱	位	置
「土木部清	州出張所」	忠清北道清	州 <small>大正二年三月二十五日府令第三三六號ヲ以テ大正二年三月三十一日限止</small>
「同	平	慶尙南道平	州 <small>大正二年三月三十一日府令第三三七號ヲ以テ大正二年三月三十一日限止</small>
「同	元	平安南道平	壤 <small>大正二年三月二十五日府令第三三六號ヲ以テ大正二年三月二十五日限止</small>
「同	清	咸鏡北道清	津 <small>大正五年三月二十日府令第一六六號ヲ以テ大正五年三月二十五日限止</small>
「同	釜	慶尙南道釜	山 <small>大正二年三月二十五日府令第三三六號ヲ以テ大正二年三月二十五日限止</small>
「同	仁	京畿道仁	川 <small>大正四年三月二十五日府令第一九二號ヲ以テ大正四年三月二十五日限止</small>
「同	鎮	平安南道鎮	南浦 <small>大正四年三月二十五日府令第一九二號ヲ以テ大正四年三月二十五日限止</small>
「同	江	江原道江	陵 <small>大正四年三月二十五日府令第一九二號ヲ以テ大正四年三月二十五日限止</small>
「同	京	畿道京	城 <small>大正三年四月六日府令第三八號ヲ以テ追加</small>

同 平壤出張所 平安南道平壤 (大正六年九月十三日府令第六四號ヲ以テ追加)

同 景福宮出張所 京畿道京城 (大正九年四月十二日府令第六二號ヲ以テ追加)

○出張所及工營所事務取扱手續制定ノ

- 一 各出張所長宛 明治四十五年六月五日府令第八六四號
 - 二 土木局出張所事務分掌規程
 - 三 工營所事務取扱規程
 - 四 「土木局出張所及工營所々管事務區分表」 大正二年四月二十三日府令第一〇四號ヲ以テ大正二年七月一日官改訂大正二年七月一日官改訂
 - 五 出張所請負工事施行順序
 - 六 工事及購買事務取扱規程
 - 七 工事經過報告例
 - 八 工事誌編輯例
 - 九 附屬工作場作業規程
 - 十 備人規程 (大正二年十二月三日訓令第一六號)
 - 十一 人事及文書取扱規程
 - 十二 宿直及廳中取締規程
- 右別冊ノ通相定メ候條此段及通牒候也

土木局長

追テ各工營所へハ貴所ヨリ通牒可相成申添候
(別冊)

- (一) 土木局出張所事務分掌規程
- 第一條 出張所ニ庶務係、工事係ヲ置ク
- 第二條 庶務係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 文書ニ關スル事項
 - 二 人事ニ關スル事項
 - 三 統計及報告ニ關スル事項
 - 四 所長官印及所印ノ管守ニ關スル事項
 - 五 會計ニ關スル事項
 - 六 物品及官有財産ニ關スル事項
 - 七 工事請負及物件ノ賣買貸借勞力供給其ノ他入札立契約ニ關スル事項
 - 八 定備人ノ進退及廳中備人ノ監督ニ關スル事項
 - 九 廳中取締ニ關スル事項
 - 十 他係ノ主管ニ屬セサル事項
- 第三條 工事係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 工事ノ設計及工費調査ニ關スル事項
 - 二 工事ノ施行監督検査及引繼ニ關スル事項
 - 三 工用器械船舶ノ製造修理ノ設計及監督検査ニ關スル事項
 - 四 測量其ノ他工事上ノ諸調査ニ關スル事項

- 五 直營工事竣功明細書ノ調製ニ關スル事項
- 六 工用物品ノ管理ニ關スル事項
- 七 工用備人ノ備役及工事取締ニ關スル事項
- (二) 土木局工營所事務取扱規程
- 第一條 工營所ニ主任ヲ置ク
 - 一 工營所主任ハ所屬出張所長(本局直屬ノ工營所ニ在テハ工務課長、以下同シ)ノ指揮命令ヲ承ケ所員ヲ監督シ其ノ事務ヲ處理スヘシ
 - 二 據ルヘシ
 - 三 工營所ノ事務取扱ニ關シテハ總テ出張所事務取扱ノ例ニ據ルヘシ
 - 四 但シ工營所ノ事務取扱上特別ノ規定ヲ要スル事項ハ所屬出張所長ニ於テ案ヲ具シ局長ノ認可ヲ受ケヘシ
 - 五 第三條 工營所ヨリ本局へ提出ノ文書ハ特ニ定ムルモノヲ除クノ外總テ所屬出張所長ヲ經由スヘシ
- (四) 土木局出張所請負工事施行順序
 - 第一章 工事現場督役
 - 第二章 工事監督
 - 第三章 工事検査
 - 第四章 工事引繼
 - 第五章 工場内取締
 - 第六章 工事出張員心得
- 土木局出張所請負工事施行順序

第一章 工事現場督役

- 第一條 各工場ニ現場督役員ヲ置ク
現場督役員ハ出張所長、工事係主任及工事監督員ノ指揮ヲ承ケ各工事ノ現場督役及工場内ノ取締ニ從事スルモノトス
但シ出張所所在地外ノ工場ニシテ本局ヨリ直接ニ命ヲ受ケタル者ハ本局主任官ノ指揮ヲ受ケヘシ
- 第二條 現場督役員ハ所屬工夫其ノ他諸備人ヲ指揮監督ス
- 第三條 現場督役員ノ申請又ハ報告書類ハ出張所員ニ在リテハ工事監督員及工事係主任ヲ經テ出張所長ニ第一條但書ノ者ニ在リテハ本局主任官ニ之ヲ提出スルモノトス
- 第四條 工事施行上特ニ現場督役員ヲ置カサル場合ニハ工事監督員ヲシテ其ノ事務ヲ兼ネシムルモノトス
- 第五條 現場督役員ハ工事ノ仕様書、圖面契約書、工程表及工事内譯明細書謄本等必要ノ書類ヲ受領シ毎日工事現場ニ臨ミ左ノ各條ニ從ヒ其事務ヲ執行スヘシ
- 第六條 工事中ハ請負人ヲシテ日々工場ニ出頭シ工事ニ關スル諸般ノ事項ヲ處理セシムヘシ
- 第七條 請負人ノ代理人又ハ諸職工等ニ不良ノ行爲アルカ若ハ不適當ト認メタルモノアル時ハ速ニ請負人ヲシテ之ヲ差替ヘシムヘシ
- 第八條 工場ノ就業定時間ハ左ノ如シ
但シ工事上必要ノ場合臨時之ヲ延長スルコトヲ得

- 自三月一日 十時間
至十月三十一日 九時間
自十一月一日 九時間
至二月末日 九時間
- 始業終業ノ時刻及休憩時間(前記就業定時間ノ外)ハ適宜之ヲ定ムヘシ
- 第九條 工場ノ休日ハ左ノ如シ
但シ工事上繰合セ難キ場合ハ臨時就業セシムルコトヲ得
- 祭日 祝日 一月二日 十二月三十一日
- 第十條 就業時間休憩時間及休日其ノ他必要ナル心得事項ハ工場内適宜ノ場所ニ揭示スヘシ
- 第十一條 毎日必要ナル諸職工ノ就役セルヤ否ヤヲ調査シ其人員ヲ職工人夫出面籍ニ記入スヘシ
- 第十二條 工事ニ用ウヘキ諸材料ハ總テ使用前ニ検査スヘシ若不合格ノ材料アル時ハ速ニ代品ヲ特入レシメ更ニ其ノ検査ヲ行フヘシ
- 前項検査ノ成績ハ其ノ都度材料検査簿ニ之ヲ詳記スヘシ
- 第十三條 工場ニ持込ミタル検査合格ノ材料ハ請負人ヲシテ漫ニ持去ラシメサル様注意スヘシ
- 第十四條 工事ニ使用スル材料中調合又ハ試験ヲ要スルモノハ必立會ノ上之ヲ施行セシムヘシ
- 第十五條 水中又ハ地下ニ埋没スル工事其ノ他竣成後外部ヨリ明視スルコト能ハサル部分ハ總テ立會ノ上其ノ工事ヲ施行セシムヘシ

第十六條 材料又ハ構造等仕様書及圖面等ニ適合セスト認メタルモノアル時ハ何回ニテモ引換又ハ改造セシムヘシ

第十七條 常ニ工程表ニ基キ請負人及諸職工人夫ヲ督勵シ工事ノ進行ヲ圖ルヘシ若シ工程表ニ照シ工事遅延ノ虞アル時ハ速ニ請負人ヲシテ職工人夫ノ増員其ノ他材料供給ノ繰合セ等適宜ノ方法ヲ講セシムヘシ

第十八條 仕様中萬一圖面ト符合セサル廉アル時ハ申報ノ上指揮ヲ請フヘシ
但シ輕易ノ事項ニシテ要急ノ場合ニハ適宜處理ノ上之ヲ報告スルコトヲ得

第十九條 地質又ハ實地ノ情況ニ因リ材料其ノ他構造等變更ノ必要ヲ認メタル時ハ速ニ意見ヲ具シ申報スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ便宜ノタメ豫メ請負人ヨリ工費ノ増減見積書又ハ請負金額内ヲ以テ施行スヘキ承諾書ヲ徵シ同時ニ之ヲ差出スヘシ

第二十條 左ノ場合ニハ其ノ時々速ニ之ヲ申報スヘシ
一 天災其ノ他事故ニ由リ工事ノ進行ヲ妨ケラレタル時其ノ他工事ノ故障ヲ生シタル時
二 請負人ニ於テ代理人ヲ定メ又ハ之ヲ變更シ其ノ承認ヲ與ヘタル時

三 工事ノ都合上臨時就業定時間ヲ延長シ又ハ休日ヲ廢シタル時

見込ミ少クトモ十日前ニ之ヲ報告スヘシ
但シ遠隔ノ地ハ電報ヲ以テ報告スヘシ

第二十四條 請負人ヨリ工事竣功届又ハ請負金仕拂ノ請求書ヲ差出シタル時ハ調査ノ上直ニ之ヲ提出スヘシ
但シ遠隔ノ地ハ一應電報ヲ以テ竣功ノ報告ヲナスヘシ

第二十五條 竣功検査ノ際手直シヲ命ジタルモノニシテ其ノ工事ヲ完了シタル時ハ請負人ヨリ手直竣功届ヲ提出スヘシ

第二十六條 請負人及其代理人其ノ他職工人夫等ノ故意又ハ過失ニ因リ官有物ヲ滅失又ハ毀損シタル時ハ相當ノ期間ヲ指定シ請負人ヲシテ原形ニ復セシムヘシ

第二十七條 前條ノ場合ニ於テ若シ請負人指定ノ期限内ニ原形ニ復セス又ハ原形ニ復シ難キモノナル時ハ其損害ノ狀況及賠償セシムヘキ金額ノ調査ヲ作リ之ヲ申報シ指揮ヲ請フヘシ

第二十八條 工事竣功検査済ノ時ハ請負人ヲシテ速ニ足場其ノ他工所用ノ假設物剩餘ノ材料等一切ヲ引取り清潔ニ跡掃除ヲ爲サシムヘシ

第二十九條 前條跡掃除ヲ了シタル時ハ検査員ノ付與シタル工事領收證書ヲ請負人ニ交付スヘシ

第三十條 工事領收證書交付ノ後ハ請負人ニ屬スル工事ノ責任ハ總テ解除スルモノトス其ノ後主管廳ヘ引繼テ了スル迄又ハ假引繼ノ上現場引拂ノ命令アル迄ハ專ラ現場督役員ニ於テ竣成工事ノ保護取締ニ任スヘシ

四 請負人又ハ代理人引續キ工場ニ出頭セサル時
五 請負人故ナク引續キ工事ヲ休止シタル時
六 請負人誠實ニ工事ヲ施行セス又ハ指示命令ヲ遵奉セサル時

七 請負人又ハ職工人夫等ニ不穩ノ舉動アル時
八 請負人又ハ保證人其ノ義務ヲ履行スルノ資力ナシト認メタル時

九 豫定期限内ニ工事竣功ノ見込ナキ時
十 請負人ニ對シ契約解除ノ必要ヲ認メタル時
十一 督役員病氣其ノ他事故ノタメ現場ニ服務スルコト能ハサル時

十二 其ノ他臨時必要ナル事項
第二十一條 左ノ場合ニハ其ノ事由ヲ調査シ意見書ヲ添ヘ之ヲ提出スヘシ

一 請負人ヨリ工事ノ竣功延期願書ヲ差出シタル時
二 請負人ヨリ材料又ハ構造等變更ノ願書ヲ差出シタル時
三 請負人ヨリ契約解除ノ願書ヲ差出シタル時

第二十二條 請負人ヨリ請負代金内渡ノ請求書ヲ差出シタル時ハ既成部分工事内譯書(第一號様式)ヲ徵シ實地工事進行ノ程度及請負金額ニ對スル歩合等ヲ調査シ正當ト認メタル時ハ其ノ請求書及既成部分内譯書ヲ添ヘ之ヲ申報スヘシ

第二十三條 工事竣成ニ近ツキタル時ハ其ノ竣成スヘキ期日ヲ

第三十一條 工事完了シタル時ハ同時ニ竣功圖面ヲ作製シ工事督役日誌其ノ他ノ帳簿ト共ニ提出スヘシ
但シ竣功圖面ハ總督府所屬官廳會計事務章程第百十三條ノ記載例ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十二條 仕様書又ハ圖面ニ敷地坪數若ハ下水及柵其ノ他延長等ノ確定數量ヲ掲ケサル場合ニ於テハ竣成ノ際ニ之ヲ調査シ其ノ實際數量ヲ記入シタル圖面ヲ調製シテ提出スヘシ
但シ工事變更等ノ場合ニ於テハ其ノ時々必要ノ部分ニ對スル實際數量ヲ調査シ特ニ報告スルコトヲ要ス

第三十三條 毎日督役上ノ事項ハ勿論晴雨其ノ他工事ニ關スル必要ノ事項ハ工事督役日誌ニ詳記スヘシ

第三十四條 請負人ニ對スル命令事項ハ總テ同日及要旨ヲ工事命令簿ニ記載シ請負人ノ承印ヲ徵スヘシ

第三十五條 材料官給ノ場合ハ特ニ其ノ取締ニ注意シ官給材料受拂簿ニ其ノ使用ノ箇所及受拂ノ員數ヲ詳記スヘシ

第三十六條 毎月十五日及末日ノ二回ニ工程報告書(第二、三號様式)ヲ作り之ヲ提出スヘシ

第三十七條 工事ニ關スル指揮命令其ノ他往復文書ハ總テ取繼メ之ヲ保管スヘシ

第三十八條 現場督役員退職又ハ轉勤等ヲ命セラレタル時ハ其

ノ工場ニ備置ケル書類、帳簿、圖面ハ勿論工事ニ關スル詳細ノ事項ヲ後任者ニ引繼キ雙方連署ヲ以テ引繼濟ノ月日ヲ報告スヘシ

第三十九條 現物督役員ノ備フヘキ帳簿ハ差ノ様式ニ據ルヘシ

一 工事督役日誌 (適 宜)

二 材料検査簿 (第四號様式)

三 職工人夫出而簿 (第五號様式)

四 工事命令簿 (第六號様式)

五 官給材料受拂簿 (第七號様式)

第二章 工事監督

第四十條 各工場ニ工事監督員ヲ置ク

工事監督員ハ出張所所長及工事係主任ノ命令ヲ承ケ工場ヲ巡回シ現場督役員及傭人ヲ指揮監督シ其ノ他工場内一切ノ事項ヲ監理スルモノトス
但シ出張所所在地外ノ工場ニシテ本局ヨリ直接ニ命ヲ受ケタル者ハ本局主任官ノ命令ヲ承クヘシ

第四十一條 工事監督員ノ報告書類ハ出張所員ニ在リテハ工事係主任ヲ經テ出張所所長ニ前條但書ノ者ニ在リテハ本局主任官ニ之ヲ提出スルモノトス

第四十二條 工事監督員ハ常ニ左ノ事項ヲ監察スヘシ

- 一 工事ノ實施上指定ノ要件ニ違フコトナキヤ
- 二 工事ノ進行上豫定ノ工程ニ違フコトナキヤ

第四十九條 各工事ノ竣功又ハ請負金内渡ノ請求アル毎ニ工事検査員ヲシテ之ヲ検査セシムルモノトス

第五十條 工事検査ヲ命セラレタル者ハ公平ヲ旨トシ嚴正ニ其ノ検査ヲ行フヘシ

第五十一條 検査ヲ行フ時ハ工事監督員又ハ現場督役員及請負人ヲシテ立會ハシメ左ノ事項ヲ精密ニ査察スヘシ

- 一 竣功ノ工事又ハ内渡金ノ請求ニ係ル部分工事ハ仕様書圖面又ハ既成部分内譯書等ニ照ラシ相違ノ廉ナキヤ
- 二 竣功ノ期日ハ契約ノ期限内ナルヤ
- 三 損害賠償事項ニシテ不履行ノ廉ナキヤ
- 四 官給材料ノ使用上相違ノ廉ナキヤ
- 五 其ノ他検査上必要ノ事項

第五十二條 検査ノ結果不合格ト認定シタル時ハ其ノ箇所ヲ詳細ニ指摘シタル調書ヲ作り直ニ報告スヘシ

但シ竣功工事ニ對シ不合格ノ廉輕微ナルモノハ十日間以内ニ於テ相當ノ日數ヲ定メ請負人ニ手直ヲ命スルコトヲ得此場合ニ於テハ現場督役員ヲ輕テ請負人ノ請書(第八號様式)ヲ徴シ之ヲ提出スヘシ

第五十三條 検査ノ結果合格ト認定シ又ハ既成部分内譯書ニ照シ相違ナキコトヲ確認シタル時ハ工事竣功検査調書(第九號様式)又ハ工事既成部分検査調書(第十號様式)ヲ作り之ヲ提出スヘシ

三 工事ノ故障ナキヤ

四 官給材料ノ保管及遣拂上ノ取締ノ廉ナキヤ

五 請負人及其ノ代理人ハ誠實ニ其ノ義務ヲ履行セルヤ及其ノ職工人夫ニ不良ノ行爲ナキヤ

六 特命ノ事項

七 其ノ他監理上必要ノ事項

第四十三條 工事監督員一工事ノ巡視ヲ終ル毎ニ前條視察上ノ要項ヲ報告スヘシ

第四十四條 工事現場督役員ノ特ニ陳情セル要件又ハ工事監督員ニ於テ實地ノ狀況ニ依リ豫定ノ方法又ハ順序等ニ對シ意見ヲ有スル時ハ速ニ之ヲ報告スヘシ

第四十五條 工事實施上指定ノ要件ニ違フモノ又ハ現場督役員ノ法意ヲ必要トスル事項アル時ハ速ニ之ヲ指示戒告スヘシ

第四十六條 他ノ監督員ヨリ指示シタル事項ニ對シ變更ノ必要ヲ認メタル時ハ其ノ監督員ト協議ヲ經ルカ又ハ申報シテ認可ヲ得タル上之ヲ傳達スヘシ

第四十七條 請負人ニ對シ指示又ハ傳達ヲ要スル事項ハ總テ現場督役員ヲ經由スヘシ

第四十八條 現場督役員ニ對シ指示又ハ傳達シタル事項ハ其ノ月日及要旨ヲ工事傳達簿ニ記載シ現場督役員ノ承印ヲ徴スヘシ

第三章 工事検査

第五十四條 前條ノ竣功検査ヲ了シタル時ハ同時ニ現場督役員ヲ經テ工事領收證書(第十一號様式)ヲ請負人ニ交付スヘシ

第四章 工事引繼

第五十五條 主管廳ハ引繼ヲ要スル營造物ハ其ノ工事完了ノ都度其ノ引繼目錄及圖面ヲ添へ出張所所長又ハ關係吏員ニ對シ引繼ノ命令ヲ發スルモノトス

但シ工事完了ノ際便宜引繼ヲナサシムルコトアルヘシ

第五十六條 工事引繼ノ場合ニハ引渡スヘキ主管廳ノ主任者ト實地立會ノ上授受ヲ行フヘシ

第五十七條 工事ノ引繼ヲ了シタル時ハ主管廳ノ領收證書ヲ徴シ之ヲ報告スヘシ

第五章 工場内取締

第五十八條 工場内ニ於テ工事番人ノ詰所其ノ他職工人夫等ノ假小屋ヲ設置スルタメ請負人ノ出願アリタル時ハ出張所所長出張所所在地外ハ工事監督員又ハ現場督役員ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得

但シ設置上最安全ナル場所ヲ選ビ且火ノ元其ノ他取締上必要ナル命令ヲ付スヘシ

第五十九條 工場内職工人夫ノ出入ニハ特ニ嚴重ナル取締方法ヲ設ケ之ヲ點檢スヘシ漫ニ無關係ノ者ヲ入場セシムヘカラス

第六十條 工場内ニ於テハ特ニ火ノ元ノ取締ニ注意スヘシ

第六十一條 工場内ニ於テハ就業中喫煙ヲ嚴禁スヘシ

土木部出張所長宛(各通)

土木部出張所規程中別紙通改正四月一日ヨリ施行相成候條此段及通牒候也

(五) 土木部出張所工事及購買事務取扱規程

第一條 出張所ニ於テ施行スヘキ工事ハ毎年又ハ數年ヲ通シ本局ヨリ其ノ大體計畫及豫算ヲ通達スルモノトス

第二條 出張所ニ於テ前條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ計畫及豫算ニ基キ遂行上詳細ノ調査ヲ遂ケタル上實施計畫書ヲ調製提出シ指揮ヲ受ケヘシ之ヲ變更スル場合亦同シ

第二條ノ二 工事ヲ施行セムトスルトキハ實施設計ノ承認ヲ受ケヘシ但シ豫定計畫ノ範圍内ニ於テ二千圓以下ノ雜工事ヲ施行スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 豫定計畫ノ變更ヲ要スト認メタルトキ又ハ重要ナル工事ニ在リテハ左ノ事項ヲ具シ指揮ヲ受ケヘシ

- 一、 工事設計ノ大要及略圖
- 二、 工事施行ノ順序及方法ノ大要
- 三、 工費概算書
- 四、 工費變更比較表

第四條 各工事ハ豫算令達後成ヘク速ニ實施ノ順序方法ヲ計畫スヘシ年度末ニ迫リ一時ニ多數工事ノ輻輳ヲ來タシ又ハ起工運延ノタメ年度内竣功ノ餘日ヲキニ至ルカ如キ弊ナカラシムヘシ

第五條 工事及物件ノ購入ハ隨意契約ノ場合ト雖成ヘク廣ク確實ナル當業者ノ見積書ヲ徴シ其ノ價格ヲ較査スヘシ

第五條ノ二 工事請負及物品供給請負當業者ノ選擇ニ關シテハ信用程度及成績ヲ調査シ左ノ範圍ニ區別シ年度初ニ承認ヲ受ケヘシ

- 一、 五萬圓以内
- 一、 二十萬圓以内
- 一、 二十萬圓以上

第六條 左ノ場合ニ於テ隨意契約ニ依ルトキハ請負人ヨリ工事又ハ物件供給命令ノ請書ヲ徴シ契約保證金ハ之ヲ省略スルコトヲ得又輕易ノ事項ニ在テハ請負人ヲシテ工事施行票又ハ購入票ニ捺印セシメ請書ニ代フルコトヲ得

一廉千圓未滿ノ工事
第七條 左ノ場合ニ於テハ契約書ヲ作成シ契約保證金ヲ納付セシムヘシ

但シ隨意契約ノ場合ハ特ニ保證金ヲ免除ナスルコトヲ得
一廉千圓以上ノ工事
一廉千五百圓以上ノ物件ノ購入
第八條 一廉二千圓以上ノ隨意契約工事ニ關シテハ成ルヘク指名入札ノ方法ヲ以テ之ヲ取扱フヘシ

第九條 削 除

第十條 工事ノ起工又ハ物件購入決議書ニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

但シ隨意契約ニ依ル輕易ノ事項ハ工事施行票又ハ購入票ヲ用キ之ヲ決議スヘシ

一 工事ノ仕様書(直營工事ハ說明書)工用土地家屋ノ買収若ハ移轉調書圖面又ハ物件ノ注文書及見本雜形等ニ關スル事項

二 工事施行ノ場所及竣功期限又ハ物件納入ノ期日及場所ニ關スル事項

三 費用豫算明細書(直營工事ハ設計豫算書)及支出科目

四 材料ヲ官給スル場合ニハ其ノ明細書

五 請負工事又ハ直營工事ノ區分

六 一般競争入札、指名入札又ハ隨意契約ノ區分

但シ指名入札ハ其ノ理由ヲ詳記シ指名スヘキ當業者ノ調書ヲ添付スヘシ

七 一般競争入札ナルトキハ官報新聞紙等ノ公告案

但シ要急ノタメ特ニ公告期間ノ短縮ヲ要スルモノハ其ノ理由ヲ付記スヘシ

八 一般競争入札又ハ指名入札ナルトキハ工事及物品供給請負入札人心得書請負人心得書及契約書案ニ關スル事項

但シ例文ニ據ルモノナルトキハ其ノ旨ヲ記載シ單ニ起工竣功又ハ納入ノ期日、内渡金ノ回數、瑕疵擔保ノ期間等特ニ

指定ヲ要スル事項ノミヲ掲グヘシ(以下同シ)

九 隨意契約ナルトキハ隨意契約工事請負人心得書又ハ隨意契約物品供給人心得書及契約書案若ハ請書案ニ關スル事項

十 工事計畫ニ關シ關係官廳へ直接協議濟ノモノナルトキハ其ノ書類

十一 其ノ他契約上必要ナル事項

第十一條 工事施行及物件ノ購入ニ關シテハ調査上特ニ左ノ事項ヲ注意スヘシ

一 入札ノ公告期間ハ成ヘク十分ノ餘日ヲ存スヘキコト

二 仕様書、注文書及圖面等ハ設計上特ニ慎重ノ調査ヲ遂クヘシ契約後ニ至リ溢ニ材料又ハ設計ノ變更ヲ要スルカ如キ弊ナキチ期スヘキコト

三 契約期限ハ工程上普通必要ナル期間ノ外成ヘク相當ノ豫備日數ヲ見込ミ之ヲ定ムヘシ期間短縮ノタメ費用及實施上ノ不利ヲ招クカ如キ弊ナキチ期スヘキコト

四 費用豫算明細書ハ常ニ材料、工賃等各地ニ於ケル實際ノ狀況ヲ考査シ最正確ノ調査ヲ期スヘキコト

第十二條 實施設計ニ屬スル費用豫算書類及入札者指名書類ハ秘密書ノ取扱ヲナスヘシ

第十三條 請負人ヨリ提出シタル工事内譯明細書及工程表ハ設計擔任者ニ於テ左ノ事項ヲ精密ニ調査シ若不相當ト認ムルモ

ノアルトキハ直ニ請負人ヲシテ之ヲ訂正セシムヘシ
前項調査簿ノ明細書及工程表ハ其ノ紙面ニ調査及検査簿ノ旨
ヲ付記シ擔任者之ニ捺印スヘシ

- 一 仕様書、圖面等ニ對シ材料ノ種類、品質、寸法及數量等
ニ相違ノ廉ナキヤ
- 二 各種材料及勞力ノ單價ニ於テ比較上不當ノ廉ナキヤ
- 三 工事中著手スヘキ部分ノ前後ニ依リ其ノ材料及勞力ノ數
量、單價等ヲ區々ニスルカ如キコトナキヤ
- 四 金額ノ計算ニ誤謬ナキヤ
- 五 工程表ノ日割ニ不當ノ廉ナキヤ

第十四條 削 除

第十五條 工事實施上ノ事項ハ總テ請負工事施行順序又ハ直營
工事施行順序ノ規定ニ據ルヘシ

第十六條 天災其ノ他不可抗力ニ因リ請負人ノ延期願書ヲ受理
スルトキハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ添付セシムヘシ

第十七條 左ノ場合ニ於テハ速ニ申報スヘシ

- 一 天災其ノ他ニ因リ工事又ハ營造物其ノ他ニ損害ヲ受ケタ
ルトキ
- 二 但シ應急工事ヲ必要トスル場合ハ其ノ工費概算額ヲ付記ス
ヘシ

第十八條 工事ニ異狀ヲ呈シ又ハ故障ヲ生シタルトキ

第十九條 削 除

四 削 除

五 削 除

六 其ノ他處理上重要ナル事項

第十八條 左ノ場合ニハ各項ニ依リ夫々報告スヘシ但シ一號乃
至三號ノ報告ハ工事ハ二千圓以上物件ハ千五百圓以上トス

- 一、契約締結變更又ハ解除
- 二、工事竣功物件ノ完納
- 三、直營工事ノ起工
- 四、其ノ他重要事項
- 五、工事功程
- 六、豫算現在表
- 七、工事經過
- 八、繰越見込調
- 九、繰越調書
- 十、事務概要
- 十一、議會說明參考資料
- 十二、土地實測圖又ハ工事竣功圖面等ハ總テ官有財産ノ取
扱ニ屬スル地圖及建物圖調製標準ニ據リ調製シ實測者又ハ製
圖者ヲシテ其ノ實測又ハ製圖ノ年月日ヲ記入シ之ニ記名捺印
セシムヘシ

第二十條 左ノ場合ニハ總テ検査員ヲ命ジ之ヲ検査セシムルモ
ノトス

三箇月報

二月末

四月末

三月末

九月末

月報

即報

一 工事竣功又ハ購入物件完納ノトキ

二 工事ノ既成部分又ハ物件ノ既納部分ニ對シ請負金ノ一部
仕拂ヲ要スルトキ

第二十一條 出張所長ハ工事又ハ物件ノ検査ノタメ一定ノ検査
員ヲ常置スルコトヲ得

但シ検査員ハ工事監督又ハ購買事務ヲ兼ネシムルコトヲ得ス

第二十二條 検査員工事又ハ物件ノ検査ヲ了シタルトキハ其ノ
検査調書ヲ作ルヘシ

但シ輕易ノ事項ニ在テハ其ノ關係書類ニ検査簿ノ旨ヲ記入捺
印シ調書ヲ省略スルコトヲ得

第二十三條 削 除

第二十四條 常用品ハ在庫ノ數量及其ノ所要ノ實況ヲ斟酌シ成
ヘク其ノ年度内ニ於ケル毎三箇月分以上ノ需要高ヲ概算シテ
之ヲ購入スヘシ

第二十五條 削 除

第二十六條 削 除

第二十七條 購入品ハ總テ注文ノ都度之ヲ物品注文簿ニ登記ス
ヘシ

第二十八條 請負又ハ直營工事ノ實施ニ關シテハ一工事毎ニ工
事施行上ノ要件工事臺帳ニ登記スヘシ

第二十九條 工事及物件購入ノ契約決定シタルトキハ其ノ都度
豫算推算簿ノ登記ヲ經ヘシ

第三十條 物件ノ修理、借入及運搬等ハ物件ノ購入ニ關スル手
續ニ準シテ之ヲ取扱フヘシ

第三十一條 工事其ノ他ノ入札人又ハ請負人心得書、契約書、
請書及公告等ハ別ニ定ムル所ノ様式又ハ例文ニ據ルヘシ

但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 本規程ニ定ムル所ノ外ハ總督府所屬官廳會計事務
章程ニ準據スヘシ

(六) 土木局出張所工事經過報告例

- 一 各出張所長ハ所管工事ノ經過ニ關シ毎年度左ノ區分ニ依
リ工事經過報告書ヲ作り各翌月七日迄ニ之ヲ提出スヘシ
- 第一回 四月一日ヨリ六月三十日ニ至ル
- 第二回 七月一日ヨリ九月三十日ニ至ル
- 第三回 十月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル
- 第四回 一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

二 工事經過報告書ハ別紙様式ニ據リ之ヲ作り尙參考上必要
ノ事項ニハ圖面ヲ添付スヘシ

三 工事經過報告書ニハ經費支出經過表ヲ添付スヘシ

四 臨時重要ノ事項ハ第一項報告書ノ外其ノ都度臨時ニ之ヲ
報告スヘシ

工事經過報告書様式

明治何年度第何回 自何月 何日 至何日 工事經過報告書

何 出 張 所

三 製造所名ハ重要ナルモノニ就テノミ記載スヘシ

工事用器具機械及船艇修繕表 (明治 年度)

名稱	數量	請負又ハ直營ノ區分	請負人住所氏名	出來月日	修繕費	備考

- 一 名稱ハ器具、機械及船艇ノ順序ヲ以テ各取纏メ列記スヘシ
- 二 一廉千圓以上ハ之ヲ列記シ千圓未満ハ綜合シテ其ノ金額ヲ(其他雜件)ノ欄ニ掲載スヘシ

浚渫船其他機械使用實蹟表

其 一

用途名稱	操業日數	休業日數	不就役日數	計	操業竣成土量	時間數又ハ功程	備人諸給石炭代其他雜費	運轉	運轉時間	運轉時間ニ對スル	竣功土量	二坪(又ハ工程...)ニ對スル

其 二

運轉時間一時間ニ對スル

運轉時間一時間ニ對スル

竣功土量一坪(又ハ工程...)ニ對スル

工事材料品購入表 (明治 年度)

品名	數量		供給納入住所氏名	納入月日	平均單價	納入高ニ對スル金額	備考
	前年度	本年度					

- 一 一廉千圓以上ハ之ヲ列記シ千圓未満ハ綜合シテ其ノ金額ヲ(其他雜品)ノ欄ニ掲載スヘシ
- 二 特別ノ物品ハ其ノ用余及工事名ヲ備考欄ニ記載スヘシ

(明治 年度)

土地營造物買収一覽表 (明治 年度)

所在地	數量	單價	代價	賣渡人	購入月日	用途	備考

勞力供給請負契約表 (明治 年度)

名稱	員數	供給期間	使用工名	供給人	請負金額	備考

直營工事備役一覽表 (明治 年度)

一 内地人ノ部

備人名稱	員數	仕拂賃金額	一人當リ平均金額	基格賃金額	備考

セメント其他試驗費用一覽表 (明治 年度)

月次	試驗費	材料費	勞力費	譯

- 一 當該年度各直營工事備役ノ全部ヲ統計スヘシ
- 二 仕拂賃金額ニハ加給減給額ヲ包含スルモノトシ其ノ旨備考欄ニ記載スヘシ

セメント其他試驗費用一覽表 (明治 年度)

月次	試驗費	材料費	勞力費	譯

セメント其他試驗費用內譯表 (明治 年度)

種別	試驗合格試驗費	試驗費一噸合格品一噸及 又ハ一石ニ對ハ一石ニ對スル 試驗費
セメント	數量	
火炭	數量	

油類
----	-------

(明治 年度)

一 粉末試驗

記號	試驗個數	試驗回数	最少量	最少量	最少量	最少量
			一平方センチニ於ケル九百孔ノ殘滓	同上	同上	同上
			四平方センチニ於ケル九百孔ノ殘滓	同上	同上	同上

二 凝結試驗

記號	試驗個數	試驗數	全體ノ平均	同上中最速ノモノ	同上中最遅ノモノ
			水量一始發迄一終結迄	始發迄一終結迄	始發迄一終結迄

三 耐伸力試驗

記號	試驗個數	試驗數	供試體別	全體ノ平均	同上中最弱度	同上中最強度
			水量一週間四週間增加	同上	同上	同上

四 分析試驗

記號	試驗個數	試驗數	全體ノ平均	同上中最少量	同上中最多量
			苦土 硫酸	苦土 硫酸	苦土 硫酸

火山灰試驗成績表(合格ノ分)

記號	試驗個數	粉末程度		耐火重量	伸強	化學的成分				摘要	
		四千九百孔	九百孔			配合	石灰	砂	水量		四週間

油類試驗成績表(合格ノ分)

(明治 年度)

種類	數量	試驗個數	色	臭	比重(華氏六十度)	引火點	粘着力		度	酸ノ有無	摘要
							華氏六十度	同九十度			

試驗不合格品一覽表

種別	不合格數量	內譯	不合格事由
セメント			
火山灰			
油類			
.....			

(明治 年度)

測量其他調査費一覽表

種別	位置又調査		費用	備考
	ハ區域期間	材料		
海面測量				
深淺測量				
地質調査				
水量觀測				
波力觀測				

(明治 年度)

測量實蹟表

箇所	測量種類	從業人員	著手年月	費用	備考

(明治 年度)

地質調査實蹟表

箇所	調査方法	著手年月	終了年月	調査概要	費用	備考

(明治 年度)

水量其他觀測經過表

箇所	觀測種類	著手年月	終了年月	觀測概要	費用

(明治 年度)

工事費豫算表

款項目	金額	繼續費支出年度割																
		何年度	何年度	何年度	何年度	何年度	何年度	何年度	何年度	何年度	何年度	何年度	何年度					

(明治 年度)

工事費實蹟表

科目	豫算額		仕拂額	不用額	豫算殘高
	前年度ヨリ繰越額	本年度			

(明治 年度)

一 科目ハ款項目節ニ區分スヘシ

方塊製造費明細表

種別	長配	厚配	製造費		運合機及發動機		雜費	合計
			材料	消耗品	勞力	計		

(明治 年度)

工事收入表

科目	收入額	備考

(明治 年度)

一 工事入札其ノ他ノ保證金沒收、延滞償金、不用品賣却代等收入ニ屬スルモノハ總テ本表ニ計上スヘシ

土地及營造物現在表

所在地名	稱	坪數	價額	備考

(明治 年三月三十一日現在)

營造物ノ部

所在地名	稱	種類構造	棟數	坪數	間數	價額	備考

一 本表ニ掲載スヘキモノハ官有財産ノ取扱ニ屬スル土地又ハ營造物ノミトシ工事用假設物ノ如キハ掲載ヲ要セス
二 價額ハ買入代又ハ建築上ノ實費トシ其ノ詳ナラサルモノハ評價ヲ以テシ備考欄ニ(價額評價)ト記入スヘシ

工事用假設物現在表

所在地名	稱	種類構造	坪數	棟數	間數	價額	備考

(明治 年三月三十一日現在)

用品ノ製作又ハ修繕ヲ命スルコトヲ得

第二條 出張所長ハ所員中ニ就キ工場擔任者一名ヲ定ムヘシ
工場擔任者ハ出張所長ノ指揮ヲ承ケ工場ニ於ケル作業及
取締其ノ他一切ノ事務ヲ掌ルモノトス
第三條 出張所長ハ工場經費ニ關シ毎年度ノ豫算ヲ定メ其ノ
年三月中ニ申報シテ認可ヲ受クヘシ
工場經費豫算ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ調製スヘシ

- 一 材料費
- 二 備人給
- 三 雜費

第四條 工場ノ經費ハ第一條但書ニ屬スルモノヲ除クノ外總
テ工事費中機械費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ
但シ第一條但書中ノ應用品ニ對シテハ事務費中ノ廳費、工事
材料品ニ對シテハ工事費中ノ當該費目ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ
第五條 第一條但書中ノ工事材料品ニ對シテハ假ニ機械費ヲ以
テ支辨シ其ノ製作又ハ修繕價格決定ノ後當該費目ニ對シ科目
更正ヲ行フコトヲ得

第六條 工場ニ於テ修繕又ハ製作シタル物件ハ每件所要ノ材
料代、工賃其ノ他諸費ヲ計算シ其ノ價格ヲ定ムヘシ
但シ價格算定ノ方法ハ豫メ申報シテ認可ヲ受クヘシ
第七條 出張所長ハ工場ニ於テ製作又ハ修繕ヲ必要ト認メタ
ルトキハ調査ノ上工場作業決議簿(第一號樣式)ノ決議ヲ經

テ工場ニ對シ命令票(第二號樣式)ヲ發行スヘシ

第八條 工場ニ於テ前條ノ命令ヲ受ケタルトキハ速ニ修繕又
ハ製作ニ著手シ出來ノ上ハ直ニ出來品引繼票(第三號樣式)ト
共ニ出張所長ノ査閱ヲ經テ之ヲ主任官吏ハ左ノ帳簿登記ヲ經

第九條 前條ノ引繼品ニ關シテハ主任官吏ハ左ノ帳簿登記ヲ經
タル後供用又ハ拂出ノ手續ヲナスヘシ

一 普通物品ノ製作又ハ修繕ニ關シテハ物品出納簿又ハ物品
修繕簿ノ登記
二 船舶其ノ他官有財産ノ附屬品ノ製作ニ關シテハ官有財産
整理簿ノ登記
但シ製作又ハ修繕品受拂ノ手續ハ總テ普通物品取扱ノ形式ニ
從フヘシ

第十條 工場ノ作業ニ關シテハ直營工事施行順序ノ規定ニ準
據スヘシ

第十一條 出張所ニ於テハ左ノ帳簿ヲ備ヘ工場ニ關スル事務
ヲ整理スヘシ

- 一 工場經費豫算差引簿 (第四號樣式)
- 二 工場作品整理簿 (第五號樣式)
- 三 工場備品整理簿 (直營工事施行順序
第七號樣式ニ同シ)
- 四 工場材料其他消耗品使用整理簿 (同シ)
- 五 工場日誌 (第八號樣式ニ同シ)
- 六 工場物品授受簿

第十二條 工場ノ取締其ノ他本規定施行上詳細ノ事項ハ必要
ニ應シ出張所長ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ

(第一號樣式)

工場作業決議簿

所長	命令番號	決議	年月日	出來	年月日
主任	品名	費目		數量	
	用途			請求者名	
所長	命令番號	決議	年月日	出來	年月日
主任	品名	費目		數量	
	用途			請求者名	
要件	工作要件				

(第二號樣式)

工場命令票

命令番號	決議	年月日	出來	年月日
品名	費目		數量	
用途			製作又ハ修繕	

土木法規 第十三章 土木局出張所規程

要件

(注意第二號及第三號樣式ハ接續地トナスヘシ)

(第三號樣式)

工場出來品引繼票

工場擔任者

命令番號	出來	年月日	引繼	年月日
品名	數量			
材料代	工賃	其他	諸費	
合計金額	單價	費目		

所長

主任

物品會計官吏

(第四號樣式)

工場經費豫算差引簿

材料費

年月日	摘要	豫算額	仕拂額	殘額	備考

備考

本帳簿ハ材料費、傭人給、雜費ノ區分ニ依リ各口座ヲ設ケヘシ

(第五號様式) 作品整理簿

件名	命令番號	出來期限	月	日	著手	月	日	完成	月	日	實			備考		
											金額	割掛	諸費	金額	金額	金額
年月日	材	品名	數量	代價	工	工	工	計	金額	諸費	金額	金額	金額	金額	金額	金額

(十) 土木局出張所人事及文書取扱規程

第一章 人事

- 第一條 所員出勤シタルトキ又ハ宿直及定時間外勤務ヲ命セラレタルトキハ其ノ都度直ニ出勤簿及所定ノ勤務簿ニ捺印スヘシ
- 第二條 出勤簿ハ出勤時刻三十分後ニ其ノ他ノ勤務簿ハ隨時ニ所長自ラ之ヲ點檢スヘシ
- 第三條 所員祭日、忌引又ハ病氣其ノ他ノ事故ニ依リ出勤スルコト能ハサルトキハ其ノ都度届出ツヘシ
但シ病氣ノ爲メ缺勤八日以上ニ亘ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ届書ニ添付スヘシ

第四條 所員歸省、看護、墓參、及轉地療養等ヲナサムトスルトキハ願出テ許可ヲ受ケヘシ

第五條 所員轉居、轉籍、改氏名其ノ他身分ニ異動アリタルトキハ速ニ届出ツヘシ

第六條 所員出張又ハ轉任、轉勤等ヲ命セラレタルトキハ特ニ指定セラレタル場合ヲ除クノ外貳日以内ニ出發スヘシ

第七條 所員出張又ハ轉任、轉勤等ヲ命セラレタルトキハ發着ノ時日ヲ届出ツヘシ

第八條 新ニ所員ニ任命セラレ又ハ他廳ヨリ轉任ノ者到着シタルトキハ直ニ宿所届、印鑑届及履歷書ヲ出スヘシ爾後轉居又ハ改印ノトキ亦同シ

第九條 所員出張中命令以外ノ地ニ立寄り又ハ指定セラレタル日數以内ニ用務ヲ果スコト能ハサル場合ハ其ノ都度申請ノ上指揮ヲ受ケヘシ

第十條 所員出張ノ用務了リ歸任シタルトキハ一週間以内ニ復命書ヲ差出スヘシ

但シ事件ノ性質ニ依リ口頭ヲ以テ復命スルコトヲ得

第十四條 所員旅費ノ概算渡ヲ受ケタルトキハ歸國後三日以内ニ精算スヘシ

第十五條 出張所ニ到達シタル文書ハ其ノ件名、番號等ヲ文書受理件名簿ニ記入シ且同一ノ收受年月日番號及主務係名ヲ本書ニ記入シ所長閱覽ノ上之ヲ各主任者ヘ配付スヘシ

第十六條 受付電報ハ改寫ノ上其ノ譯文ヲ附スヘシ

第十七條 各主任者ハ文書ノ配付ヲ受ケタル日ヨリ普通五日以内ニ其ノ處理ヲ了スヘシ若シ調査ノタメ該期間内ニ處理シ難キモノニ付テハ豫メ日限ヲ定メ所長ノ認許ヲ受ケヘシ

第十八條 秘密ヲ要スル文書ニハ(秘)ノ記號ヲ附スヘシ

第十九條 秘密文書ハ取扱者毎ニ嚴封ヲ施シ捺印スヘシ

第二十條 急ヲ要スル文書ハ其ノ上端ニ赤紙ヲ貼附スヘシ

第二十一條 總督府内又ハ其ノ所屬官廳ニ對シ電報ヲ發スルトキハ所定ノ電信符號ヲ用ユヘシ

第二十二條 附箋用紙ヲ貼附シタル文書ニハ附箋ト本書トニ契印スヘシ

第二十三條 文書ヲ授受スルニハ其ノ都度一定ノ授受收簿ニ其ノ件名月日ヲ記載シ受領者ノ檢印ヲ求メ何時タリトモ其ノ文書ノ所在ヲ知リ易カラシムルコトヲ要ス

第二十四條 處理ヲ要スル案件ハ文書處理件名簿ヲ備ヘ受理發送毎ニ其ノ要件ヲ記載シ處理未了ノ事項ハ何時ニテモ一目瞭然タラシムルコトヲ要ス

第二十五條 公文書ノ浮書ハ楷行二體ニ限り明瞭ニ書シ字句ヲ

- 第十一條 所員旅費ノ概算渡ヲ受ケタルトキハ歸國後三日以内ニ精算スヘシ
- 第十二條 所員至急ヲ要スル公用ノ場合ハ人力車ヲ使用スルコトヲ得
但シ其ノ都度請求ノ上乘車券ノ發給ヲ受ケヘシ
- 第十三條 左ノ事項ハ其ノ時々所長ヨリ局長ニ報告シ又ハ其ノ書類ヲ提出スヘシ
 - 一 雇員以上引續キ缺勤三十日ニ及ヒタルトキ爾後三十日毎ニ亦同シ
但シ病氣其ノ他事故ノ爲メ引續キ缺勤九十日ニ及ヒタルトキハ病氣ハ快復ノ見込期日其ノ他ハ出勤ノ豫定期日等詳細ノ事情ヲ取調ヘ之ヲ副申スヘシ
 - 二 雇員以上轉籍、改氏名其ノ他身分ニ異動アリタルトキ其ノ届書
 - 三 所員出張又ハ轉任、轉勤等ノ發着届
 - 四 毎月ノ職員出勤表
 - 五 所長轉任又ハ退官ヲ命セラレタルトキ又ハ所内出納官吏ノ交替ヲ命セラレタルトキ其ノ事務引續報告書
 - 六 其ノ他人事ニ關スル重要ナル事項
- 第十四條 所員ノ願書届書其ノ他申報ノ書類ハ總テ出張所長ニ差出シ其ノ本府ヘ提出ヲ要スルモノハ所長ヨリ之ヲ進達スヘシ

加除シタルトキハ主任者之ニ捺印スヘシ文案ヲ記草スルトキ亦同シ

第二十五條 起案、同覽其ノ他文書ノ取扱上ニハ成ルヘク一定ノ用紙ヲ使用スヘシ

第二十六條 所長決裁済ミノ上發送スヘキ文書ハ浮書ヲ經テ文書發送件名簿ニ件名發送ノ年月日及番號ヲ原議及發送書面ニ記入スヘシ

第二十七條 指令ヲ除クノ外總督府内及ヒ其ノ所屬官廳ニ發送スル文書ノ差出元及宛先ハ官名ノミヲ記シ氏名ハ省略スルコトヲ得

第二十八條 浮書ニ用ウルモノヲ除クノ外原議用紙其ノ他ノ用紙ハ成ルヘク西洋紙トシ「ペン」「インキ」ヲ使用スヘシ

第二十九條 發送文書ニ添付スヘキ物件アルトキハ其ノ文書ノ封筒ニ其ノ旨ヲ表記スヘシ

第三十條 受理又ハ發送文書ニ同封ノ金券有價證券類ハ取扱上特別ノ取締ヲナスヘシ

第三十一條 發送上緊要ノ文書ハ書類郵便ニ付スヘシ

第三十二條 同議案其ノ他公文書ノ綴合ハセニハ自働紙綴器又ハ留針ヲ使用スヘカラス

第三十三條 出張所ノ取扱ニ係ル文書ハ毎月文書件數報告表ヲ作り翌月五日迄ニ報告スヘシ

第三章 文書ノ編纂及保存

第三十四條 完結ノ文書ハ保存上左ノ種類ニ區分スヘシ

甲種 永久保存スヘキモノ

乙種 三十年間保存スヘキモノ

丙種 十年間保存スヘキモノ

丁種 三年間保存スヘキモノ

戊種 保存ノ必要ナキモノ

保存期間ハ文書完結ノ翌年ヨリ起算ス各文書保存上區分ノ標準ハ本府定ムル所ノ例ニ據ルヘシ

第三十五條 甲種、乙種、丙種及ヒ丁種ノ文書ハ定結ノ日附ニ依リ前年一月一日ヨリ十二月末日迄ヲ一期トシ種別編纂シテ成冊トナシ各保存種別ヲ表紙ニ朱記スヘシ

但シ會計ニ關スル文書其ノ他特別ノ事由ニ依リ曆年ニ從ヒ難キモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 前條ニ依リ成冊トナシタルモノハ出張所公文目録ニ登記シ之ヲ藏置スヘシ

成冊ハ厚貳寸迄ヲ程度トシ圖表等ヲ別冊トナシタルトキハ本冊及別冊ノ目録ニ各其ノ旨ヲ附記スヘシ

第三十七條 完結後尙秘密ヲ要スル文書ハ別ニ之ヲ編纂シ表紙ニ(秘)ノ記號ヲ附シ保存スヘシ

第三十八條 會計帳簿其ノ他重要ナル諸簿冊(測量野帳ノ類共)ハ文書保存區分ニ準シテ之ヲ區分シ出張所帳簿目録ニ登記シ之ヲ藏置スヘシ

第三十九條 文書及ヒ帳簿ノ保存期限ヲ經過シタルモノハ文書及ヒ帳簿廢棄目録ヲ作り出張所長其ノ廢棄ヲ決定スヘシ

戊種ノ文書及ヒ簿冊ハ適宜ノ時期ニ之ヲ取纏メ前項ノ手續ヲナスヘシ

第四十條 廢棄ノ文書ハ件名目録ヲ取離シ表紙ニ廢棄ノ印章ヲ捺捺スヘシ

第四十一條 廢棄ニ決定シタル文書及ヒ帳簿ハ出張所公文目録又ハ帳簿目録ニ廢棄ノ年月日ヲ記入シ前條ノ取離シタル件名目録ハ別ニ之ヲ類別綴込ミトナシ保存スヘシ

第四十二條 文書ノ取扱及編纂保存ニ關スル詳細ノ事項ハ出張所長ニ於テ適宜ニ之ヲ定ムヘシ

(十一) 土木局出張所宿直及廳中取締規程

第一章 宿直

第一條 各出張所ニ宿直ヲ置キ休日又ハ平日執務時間外ニ於ケル文書其ノ他ノ取扱及所内ノ取締ヲナサシム

第二條 宿直員ハ一名トス出張所長ノ指定ニ由リ判任官及雇員ヲシテ順番ヲ以テ之ニ當ラシム

第三條 宿直員ニハ宿直ノ翌日休暇ヲ與フ

但シ事務繰合セ難キ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 休日ニハ執務開始ノ定刻ヲ以テ次番者ト交代セシム

第五條 宿直員ハ當直中巡視以下諸傭人ヲ指揮監督ス

第六條 宿直員ニ於テ公文書其ノ他ヲ接受シタルトキハ左ノ手續ヲ限ル

續チナスヘシ

一 出張所長其ノ他職員ニ宛テタル至急親展ト表記スル封書及親展電報ハ直ニ其ノ名宛人ニ送付スルコト

二 前項ノ外至急書類及普通電報ハ宿直員之ヲ開封シ電報ニハ譯文ヲ付シ之ヲ出張所長又ハ名宛人ニ送付スルコト

三 前記以外ノ受付書類及物品ハ總テ翌朝之ヲ主任者ヘ引繼グコト

第七條 宿直員ニ於テ至急ヲ要スル決議濟文書ノ發送其ノ他處理ヲ命セラレタルトキハ直ニ之ヲ施行スヘシ

第八條 宿直員ニ於テ當直中ニ取扱ヒタル事件巡視ノ時間其ノ他必要ノ事項ハ總テ宿直日誌ニ記載シ記名捺印スヘシ

第九條 各門及各室ノ鎖鑰ハ一定ノ鍵箱ニ收メ宿直員之ヲ保管スヘシ宿直員ヲ置カサル場合ニハ巡視ヲシテ之ヲ保管セシム

第十條 宿直員ハ時時廳内ヲ巡視スヘシ

第十一條 宿直員ハ廳舍ノ内外ヲ問ハズ異變アル場合ニハ出張所長ニ急報シ其ノ指揮ヲ承クヘシ

第十二條 宿直ニ付帶シ當直セシムヘキ傭人ハ巡視ノ外小使一名ヲ限ル

但シ傭員ノ必要アル場合ニハ事由ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

第十三條 地方ノ狀況ニ依リ出張所長ニ於テ特ニ宿直ヲ置クノ必要ナシト認ムルトキハ宿直ニ代ヘ午後十時迄所員一名ニ居

残りヲ命スルコトヲ得

第十四條 宿直又ハ番人其ノ他何等ノ名義ニ拘ラス職員及雇傭人ヲ廳舎構内ニ住居セシムルコトヲ得ス

但シ特別ノ必要アル場合ニハ事由ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

第十五條 本章ノ外宿直上ノ勤務ニ關シ出張所長ニ於テ必要ト認ムル事項ハ所長ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ

第二章 巡 視

第十六條 各出張所中必要ノ場所ニ巡視ヲ置キ左ノ事項ヲ擔任セシム

一 夜警其ノ他構内ノ取締

二 電話其ノ他ノ受付外來人ノ取次及發送品ノ取扱

三 火災ノ防備

四 構内諸掃除ノ監督

五 小使給仕其ノ他廳中傭人ノ取締

六 瓦斯電燈及水道等使用上ノ取締

七 臨時指令ノ用務

第十七條 出張所巡視ノ定員ハ普通二名以内トス

但シ増員ノ必要アルトキハ事由ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

第十八條 巡視ハ徹夜勤務トス

但シ地方ノ狀況ニ依リ出張所長ニ於テ徹夜勤務ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 徹夜勤務ノ巡視ニハ翌日休暇ヲ與フ

但シ事務適合セ難キ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 巡視ハ常ニ各門其ノ他出入口ノ出入者ヲ監視シ物品

其ノ他ヲ門外ニ持出スモノアルトキハ特ニ注意ヲ加ヘ若擧動

不審ト認メタルトキハ取調ノ上直ニ出張所長又ハ宿直員ニ報

告シ指揮ヲ承クヘシ

第二十一條 廳舎ノ各門ハ登廳定刻一時間前ニ閉キ退廳時刻ニ

閉鎖シ其ノ後ハ小門ヲ通行セシムヘシ

但シ工場出入口ノ開閉ハ工場ニ於ケル始業終業ノ時間ニ從フ

第二十二條 巡視ハ夜間少クモ二時間毎ニ一回廳舎ノ内外及工

場内ヲ巡回シ異狀ノ有無ヲ視察スヘシ

第二十三條 夜間構内又ハ附近ニ於テ異變アルコトヲ發見シタ

ルトキハ直ニ宿直員ニ、宿直員ヲ置カサル場合ニハ出張所長

ニ急報シ處置ヲナスヘシ

第二十四條 窃盜又ハ擧動不審ノ者ヲ發見シタルトキハ之ヲ引

致シ宿直員又ハ出張所長ノ指揮ヲ承クヘシ

第二十五條 支關受付ハ其ノ取扱上特ニ左ノ事項ニ注意スヘシ

一 職員ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ先之ヲ應接室ニ導キ其

ノ名刺ヲ求メタル上取次クヘシ

二 郵便物電報其ノ他到接ノ書類物品等ハ總テ受付簿ニ記載

シ其ノ到着ノ月日及時刻ヲ明ニスヘシ

三 書類其ノ他物品ノ發送及配付ニハ必ス送達簿ヲ用テ領收

者ノ印ヲ徴スヘシ

四 宛名人不在ノ郵便物ハ移轉先ヲ取調ヘ速ニ轉送ノ手續ヲ

ナシ不明ノモノハ返戻ノ手續ヲナスヘシ

第二十六條 巡視ハ退廳後居残り勤務者休日登廳職員ノ氏名時

刻閉廳中電話應答ノ事項其ノ他要件ヲ日誌ニ記載スヘシ

第二十七條 巡視ハ出入ノ諸官吏外來ノ紳士等ニ對シ相當ノ敬

禮ヲナシ外來人ノ應接ニハ特ニ懇切丁寧ナルヘシ

第二十八條 支關受付ニハ左ノ簿冊ヲ備フヘシ

一 日誌

二 書翰及電報受付簿

三 官報其他新聞雜誌類受付簿

四 物品受付簿

五 送達簿

六 傭人出勤簿

七 職員錄

八 宿所錄

九 廳中諸規則又ハ傭人心得書類

第三章 火災防備

第二十九條 火災ノ防備上一般ニ左ノ事項ヲ嚴守スヘシ

一 廊下倉庫及建物ノ近傍ニ於テ喫煙セサルコト

二 煙草ノ吸殻ハ決シテ火鉢又ハ灰皿等ノ外ニ放棄セサルコト

三 蠟燭寸ノ如キ發火ノ早キモノハ使用セサルコト

四 蠟燭ノ外裸火ヲ使用セサルコト

五 燧燭ヲ過度ニ焚カサルコト及燧燭ヲ退廳前約三十分ヨリ

新ニ焚付又ハ焚増ヲナサルコト

六 燧燭ノ殘火ハ退廳後取纏メ一定ノ灰捨ニ投棄ノ上水ニ注

クコト

七 各火鉢ハ殘火ヲ取片付ケタル上一定ノ安全ナル場所ニ取

纏メ置クコト

八 煙筒ノ掃除ハ每週一回以上之ヲ行フコト

九 諸人溜所、供待所及馬丁詰所等ノ燧ハ殘火ヲ取片付ケタ

ル後撤水スルコト

第三十條 退廳後ニ於ケル燧燭火鉢ノ使用及焚火ハ左記場所ノ

外之ヲ許サス

一 宿直室

二 巡視詰所

三 小使詰所及湯沸所

但シ居残り勤務者ニシテ豫メ主任者又ハ宿直員ノ承認ヲ經

タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 賄受賈人掃除ヲ終リタルトキハ巡視ニ届出テ火ノ

元ノ檢査ヲ受ケシムヘシ

第三十二條 強風ノ夜等危險ノ虞アル場合ニハ特ニ消防用具ヲ

點檢シ不時ノ變ニ備フヘシ

第三十三條 廳中各室ノ鍵ハ各別ニ室名ヲ記シタル木札ヲ付シ

不時ノ使用ニ差支ナカラシムヘシ

第三十四條 火災等ノ際特ニ最先ニ持出シテ要スルモノハ書籍其ノ他容器ノ前面ニ(非常持退)ト記シタル赤紙札ヲ貼付スヘシ

第三十五條 消防用器及水道消火栓ハ時々検査ヲ行ヒ且平素備人ニ對シ其ノ取扱方ヲ訓練スヘシ

第三十六條 電燈線電話及電鈴ハ技術員ヲシテ時々調査セシメ漏電ノ危険ナキコトヲ期スヘク又避雷針ハ毎年一回必ス検査ヲナスヘシ

第三十七條 退廳後出火若ハ近火アルトキハ宿直員ハ巡視以下當直ノ傭人ヲ指揮シ物品ノ搬出其ノ他消防上臨機應急ノ措置ヲ施シ同時ニ出張所長及所在警察官署ニ急報スヘシ

第三十八條 前條非常ノ場合ニハ特ニ各門ノ警戒ヲ嚴重ニシ消防組及關係者ノ外一般人民ノ出入ヲ嚴禁スヘシ

第三十九條 構内又ハ其ノ附近ニ於テ火災アルトキハ所員ハ速ニ馳付ケ防護ニ從事スヘシ

前項登廳ノ人名ハ巡視ニ於テ日誌ニ記載シ出張所長ニ供覽スヘシ

第四章 掃除及衛生

第四十條 各出張所ニ於テハ構内ノ掃除及衛生ニ關スル事項ヲ擔任セシムル爲メ其ノ主任吏員ヲ定ムヘシ

第四十一條 廳舎及構内ノ諸掃除ハ巡視ヲシテ之ヲ監督セシム

ヘシ

第四十二條 廳中ノ掃除ヲ分テ日常掃除大掃除及臨時掃除トス

第四十三條 日常掃除ハ毎日朝夕二回トシ大掃除ハ毎月一回之ヲ行フモノトス

第四十四條 日常掃除ハ室内及廊下其ノ他庭内等ノ普通灑掃ヲ、大掃除ハ各所ノ細部ニ涉リ全般ノ大掃除ヲ、臨時掃除ハ必要ニ應ジ臨時ニ大掃除ヲ施行スルモノトス

第四十五條 主任吏員ハ常ニ構内ノ清潔下水厠塵捨場並水道井水等ノ取締ニ注意シ且廳内賄受人ノ販賣飲食品等ノ監督ヲナスヘシ

第四十六條 廳中其ノ他構内ニ於テ傳染病患者若ハ疑似症患者ヲ生シタルトキハ速ニ適當ノ消毒法ヲ行フヘシ

第四十七條 所員ハ自己又ハ同居者中傳染病又ハ類似症ニ罹リタルトキハ速ニ届出テ出張所長ヨリ何分ノ指示アル迄出勤ヲ見合ハスヘシ

第四十八條 夏季ハ便所内ニ消毒用石灰ヲ當置シ時々壺中ニ撒布スヘシ

第四十九條 臨時防疫上ノ施設ヲ要スル場合ニハ其ノ時々令達ニ從ヒ之ヲ處理スヘシ

第五十條 本章ノ外掃除及衛生ニ關スル詳細ノ事項ハ出張所長ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ

附則

本規程ハ工營所ニ之ヲ準用ス

本規程中出張所トアルハ工營所ニ在テハ工營所主任トス

○土木部出張所用地買收事務取扱順序

大正九年四月十九日
主第一〇七九號

土木部 長

各出張所長宛(景福宮出張所ヲ除ク)

第一條 用地買收調査ハ道路ニ在リテハ路線ニ幅杭設置ヲ了シタルトキ其ノ他ニ在リテハ用地區域ノ確定シタルトキハ府郡吏員ト打合セ實地立會調査ノ上地籍圖寫ニ幅員記入ヲ了ヘ用地圖并ニ支障物件圖ノ作製ヲナシ第一號様式ニ依リ所有者別道路用地及支障物件調書ヲ作製スヘシ

第二條 用地ノ面積ハ筆全部カ用地ニ該當スル場合ニ在リテハ土地臺帳ノ地積ニ依リ一筆中一部分道路ニ編入ノ際ニ於テハ大正六年十月十六日官通牒第百八十三號ノ定ムル所ニ從ヒ土地臺帳分割ニ當リ誤謬ヲ生セサル様算出スヘシ

第三條 圖面ハ其ノ土地及支障物件ノ全體ヲ示シ各筆毎ノ境界線官、國有地ノ別并ニ地番、地目及補償ヲ要スヘキ支障物件ノ區域ヲ明瞭ニ記入スヘシ

第四條 用地圖并ニ調書ノ地番、地目、面積及所有者等確定シタルトキハ登記官署ニツキ既、未登記ノ區分又ハ所有權以外ノ權利設定等有無ヲ精査スヘシ

第五條 土地ノ買收價格ハ課稅單價其他附近土地ノ賣買時價并ニ登記價格等ヲ參考トシ尙ホ實地ノ狀況四圍ノ事情等ヲ斟酌シ之ヲ査定シ支障物件移轉補償額ハ其ノ種類構造ノ精粗、新古其ノ他ノ關係ヲ查察シ公平ニ之ヲ評定スヘシ

京城市區改正用地ノ買收價格ハ承認ヲ受ケヘシ

電柱移轉及其ノ補償費ニ關シテハ關係官署ニ就テ照會ノ上決定スヘシ

第六條 前各條ノ調査結了シタルトキハ其ノ土地ノ買收又ハ支障物件移轉補償ノ協議ヲ爲スヘシ

但シ工事ノ都合上急ヲ要スル場合ニ在リテハ土地ニ付テハ先以テ起工ノ承諾書ヲ徵シ工事ニ着手後買收協議ヲ爲スコトヲ得

土地收用令ニ依リ協議ハ事業認定公告後ニ之ヲ爲スヘシ

前項協議調ハサルトキ又ハ協議ヲナスコト能ハサルトキハ土地收用令施行規則第十條ニ定ムル事項ヲ具シ豫メ送付セル朝鮮總督ノ署名捺印アル用紙ヲ用ヒ道知事ニ裁決ノ請求ヲ爲シ同時ニ之ヲ關係人ニ通知スヘシ

第六條ノ二 道知事ノ收用裁決ニ不服アルトキハ土地收用令第十條及同施行規則第十五條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 前條協議ノ際土地并ニ支障物件所有者内地若ハ遠隔ノ地ニ居住シ直接協議ヲ爲スコト能ハサル場合ニ在リテハ納稅管理人ニ協議シ第四號様式ノ委任狀ヲ徵シ買收又ハ收用協議ヲ爲スヘシ

(七號樣式)

土地分筆ニ付登記申請

區分	所在地	地番地目數量	四標				備考
			東	西	南	北	
分筆前ノ土地							
分筆タル土地							
同							
現在ノ土地							

右登記相成度土地臺帳謄本添付此段申請候也

大正 年 月 日

住所 申請人

御中

(七號樣式ノ二)

承諾書

拙者ニ於テ抵當權取得ノ 所有ニ係ル左記土地ヲ今般市區改正道路用地トシテ御收用ノ義ニ付別ニ異存無之依テ承諾書提出候也

大正 年 月 日

住所

氏名

朝鮮總督府御中

京城府

一堡

(八號樣式)

郡 面里 番地

一堡

右何某所有土地ニ對シ拙者儀抵當權ヲ取得致居候處今般該土地ノ內何坪買收相成候ニ付テハ買收部分ニ對スル抵當權ハ拋棄候也

大正 年 月 日

(住所)

氏名

(九號樣式)

抵當權抹消ニ付登記申請

一不動産ノ表示

道 郡 面里

一堡

一、登記ノ原因及其日附大正 年 月 日附辨濟證書(又ハ貸金)ニ因リ

二、登記ノ目的 大正 年 月 日申請登記受附第 號ヲ以テ前掲不動産上ニ設定シタル抵當權抹消登記

一、登録稅 金拾錢也

右登記相成度別紙(辨濟證書并ニ登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證及抵當權設定契約書)相添へ此段申請候也

大正 年 月 日

住所

住所 抵當權設定者 氏名

住所

住所 抵當權者 氏名

(十號樣式)

支障物件移轉承諾書

拙者所有ニ係ル左記ノ物件ハ今般貴府ニ於テ道路御改修ノ爲メ支障ト相成候ニ付テハ相當欄記載ノ補償金額ヲ以テ大正 年 月 日以内ニ移轉ノ義承諾仕候若シ期間内ニ移轉ヲ爲ササル時ハ官ニ於テ便宜ノ方法ニ依リ御取拂相成其費用ハ一切拙者ニ於テ負擔可仕候仍テ承諾書提出候也

大正 年 月 日

土木法規 第十三章 土木局出張所規程

朝鮮總督府御中

住所

氏名

所在	種別	數量	單價	代價	摘要

(十一號樣式)

一所在ハ土地若ハ建物ノ所在地即チ土地ハ何道、郡、面、洞ト記シ建物ハ道、郡、面、洞、何統、何戶ト記入スヘシ但シ次行同一所在ナルトキハ「同」ト記入スヘシ

二種別ハ田、畚、山林、建物(溫突又ハ倉庫)等記入スヘシ

三數量ハ土地類及日本建物ハ坪數、朝鮮建物ハ間數トス

四單價ハ厘位止メトシ代價ハ錢位止メトス

治道費 道路修築費 工事費 土地其他補償費

請求書

所在	種別	數量	單價	代價	摘要
計					

ニ依リ療治料其ノ他扶助金ノ支給ヲ要スル場合ニハ給與ニ關スル一切ノ調書ヲ添付進達スヘシ

第二十條 備人ノ故意又ハ怠慢ニ因リ官有物ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ損害ノ程度ニ應ジ相當ノ辨償ヲササシムヘシ但シ酌量スヘキ事由アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 船舶及機艇ノ乗組定員ハ所長之ヲ定ム

第二十二條 工場主任ニ於テ實施設計變更ノ必要ヲ認メタルトキ又ハ工費ノ増額ヲ要スルトキハ事由ヲ具シ變更設計書及新舊工費比較表ヲ添ヘ所長ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十三條 材料費ノ科目ヲ設置シタル場合ニ在リテハ工場主任ハ一設計内ノ材料費ト勞力費トノ流用ニ付テハ所長ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十四條 工場主任ハ工事材料及船舶諸機械消耗品並ニ職工人夫等實施設計書ニ基キ豫メ需用ノ期日ヲ定メ所長ニ請求スヘシ

第二十五條 工場主任ハ前條ニ依リ受ケタル物品ノ使用殘ハ返納ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十六條 工場主任ハ豫定外物品ノ再使用在來品又ハ障害物ノ除却其ノ他ヨリ生シタル物品ヲ使用セムトスルトキハ事由ヲ具シ所長ノ承諾ヲ受クヘシ

第二十七條 工場主任ハ他諸機械ノ修理ヲ要スルトキハ工場主任ハ附屬工作物ノ作業ニ依ルモノト其ノ他ニ依ルモノ

トナ区分シ所長ニ請求スヘシ

第二十八條 九 工所用船舶諸機械ヲ各工場間互ニ轉貸ノ必要アルトキハ各工場主任申合セ所長ノ承認ヲ受クヘシ

第二十九條 工場主任ハ各工事毎ニ左ノ書類ヲ作り定期ニ出張所長へ提出スヘシ

一 材料品其ノ他現場使用ノ物品、工用生産ノ物品並ニ機械船舶等ノ運轉ニ關スル日報及月報

二 工場員ノ勤務又ハ宿直等ニ關スル報告

三 工事ノ進成ニ關スル毎月功程報告(第二號様式)

第二十二條 日報及月報ハ成ルヘク其ノ内容ヲ詳細ニ区分シ竣功明細書ノ調製其ノ他工事統計ニ便ナラシムヘシ

第二十三條 各帳簿報票等ハ總テ設計豫算内譯ニ依リ整理シ設計書豫定外ノ工事材料ヲ使用シタル場合ノ如キハ其ノ出所ヲ明記シ置クヘシ

第二十四條 前條設計書豫定外ノ工事材料ヲ使用シ無代價品ノ場合ト雖其ノ見積價格ハ設計豫算ノ範圍外ト爲スコトヲ得ス

第二十五條 直營工用器具機械其ノ他ノ製作又ハ修理ノタメ附屬工作場ヲ設置スルコトヲ得

工作場ヲ設置セントスルトキハ必要ノ事由及新設費豫算ヲ具シ之ヲ申請スヘシ

第二十六條 直營工用施行上本順序ニ認ムル所ノ外ハ請負工事

施行順序ニ準據スヘシ

- 第二十七條 直營工用施行上特ニ備フヘキ帳簿ハ左ノ如シ
- 一 直營工事豫算差引簿 (第三號様式)
 - 二 同土木工事整理臺帳 (第四號様式)
 - 三 同建築工事整理臺帳 (第五號様式)
 - 四 直營工用生産簿 (第六號様式)
 - 五 同器具器械使用整理簿 (第七號様式)
 - 六 同材料品使用整理簿 (第八號様式)
 - 七 同雜消耗品使用整理簿 (第八號様式ニ同シ)
 - 八 同備人點檢簿又ハ就役簿
 - 九 同宿直簿
 - 十 同工場日誌
- 第二十八條 就役票、點檢表、日報、月報等ノ様式及就役又ハ宿直上ノ心得書其ノ他補助簿票ノ類ハ出張所長ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ
- 第二十九條 削除
- 第三十條 削除
- 第三十一條 直營工用ニ屬スル船長、機關長、運轉士、ノ就役ニ關スル整理ハ本規程ニ依ル
- (第一號様式)
- 備人使役調書

備人區別	工名及使役ノ目的	出面人員	使役步數	一人當リ金	金額
朝鮮人					
夫					
計					

右明治何年何月何日(又ハ至明治何年何月何日)日間ニ使役シタルモノニ相違無之候也

明治何年何月何日 何工場主任

(第二號様式) 何々直營工用功程報告 (第何回何月分)

工種	單位	設計數量	前月迄高	本期間高	累計	工事進捗率	記事

一 工種ハ一工場中各種ノ類別假令ハ盛土、埋立、基礎、護岸等ノ區分ヲ掲クヘシ

- 二 工事進捗ノ程度ハ月末既成高ノ歩通リヲ記入スヘシ
- 三 工事遅延ノ見込アルカ其ノ他參考上重要ノ事項ハ總テ記事ノ欄ニ記載スヘシ

(第三號様式) 直營工事豫算差引簿

年月日	摘要	豫算額		現在額		決定額		豫算殘額		備考
		増額	減額	増額	減額	増額	減額	増額	減額	

一 本帳簿ハ一工事毎ニ口座ヲ設ケヘシ (第四號様式ノ一)

何年度直營土木工事整理臺帳(甲)

年月日	摘要	受高		使用		高		備考
		金額	數量	金額	數量	金額	數量	

- 一 本帳簿ハ每品別ニ口座ヲ設ケ且設計豫算書ニ基キ使用上

ノ區分ヲナスヘシ

- 二 受高ノ欄ニハ物品會計官吏ヨリ工場ニ受入高、使用高ノ欄ニハ日々ノ使用高ヲ日報ニ依リ登記スヘシ

(第四號様式ノ二) 何年度直營土木工事整理臺帳(乙)

年月日	摘要	受高		使用		高	備考
		金額	數量	金額	數量		

- 一 本帳簿ハ每品別ニ口座ヲ設ケ且設計豫算書ニ基キ使用上ノ區分ヲナスヘシ
- 二 使用員數ハ點檢表又ハ之ニ代ハルヘキ現場調査ニ依リ之ヲ登記スヘシ

(第五號様式)

何年度直營建築工事整理臺帳

年月日	摘要	受高		使用		高	備考
		金額	數量	金額	數量		

- 二 豫算高ノ欄ニハ設計豫算高ヲ掲グヘシ
- 三 竣功高ノ欄ニハ日報及點檢表等ニ依リ職工人夫材料等ノ使用員數及金額ヲ掲グヘシ

(第六號様式) 何年度直營何々工事生産簿

年月日	摘要	豫算高		竣功高		備考
		金額	數量	金額	數量	

一 本帳簿ハ設計豫算書ノ内譯毎ニ竣功明細書ノ區分ニ依リタル口座ヲ設ケヘシ

何年度直營何々工事生産簿

年月日	摘要	受高		使用		高		備考
		金額	數量	金額	數量	金額	數量	

- 一 本帳簿ハ器具、機械共每品口座ヲ設ケ現場授受ノ都度即時ニ之ヲ登記スヘシ
- 二 亡失又ハ毀損拂ハ其ノ事由ヲ備考欄ニ記載スヘシ
- 三 直營工事費豫算ヲ以テ支辨セサル備品ハ別途之ヲ整理スヘシ

(第八號様式)

何年度直營何々工事材料品使用整理簿

年月日	摘要	受高		拂		現在		備考
		金額	數量	金額	數量	金額	數量	

- 一 本帳簿ハ器具、機械共每品口座ヲ設ケ現場授受ノ都度即時ニ之ヲ登記スヘシ
- 二 亡失又ハ毀損拂ハ其ノ事由ヲ備考欄ニ記載スヘシ
- 三 直營工事費豫算ヲ以テ支辨セサル備品ハ別途之ヲ整理スヘシ

(第七號様式)

何年度直營何々工事器具機械使用整理簿

年月日	摘要	受高		拂		現在		備考
		金額	數量	金額	數量	金額	數量	

- 一 本帳簿ハ生産品目毎ニ口座ヲ設ケ現場生産ノ都度之ヲ登記スヘシ

(第七號様式)

何年度直營何々工器具機械使用整理簿

- 之ヲ登記スヘシ
- 二 取扱上必要ノ場合ニハ拂ノ欄ニ於テ各用途ヲ區分スルコトヲ得
- 三 直營工事費豫算ヲ以テテ辨セサル雜消耗品ハ總テ雜消耗品使用整理簿ヲ設ケ別途ニ之ヲ整理スヘシ様式本帳簿ニ同シ

○土木局出張所及工營所設置ノ件

明治四十五年三月二十六日改定

來ル四月一日ヨリ總督府官制改正實地ニ伴ヒ在來ノ土木課出張所及工營所並稅關工事課出張所ハ自然消滅スヘキニ由リ更ニ適當ノ整理配置ヲ爲シ左記改正欄記載ノ通決定相成可然乎府令案ヲ具シ仰高裁

記 (拔萃)

在

改 正

稅關工事課
釜山出張所

釜山出張所 — 鎮海工營所

府令案 (省略)

○工營所新設ノ件

大正四年七月一日
官通課第二〇七號

政務總監

各出張所長、工營所主任宛
本府土木局出張所工營所所屬工營所ヲ左記ノ通新設相成候條此段及通牒候也

仁川出張所所屬群山工營所及同木浦工營所ヲ本年七月一日ヨリ新設ス

○工營所新設ノ件

大正四年四月一日
官通課第一〇三號

政務總監

各出張所長、工營所主任宛
出張所所屬工營所左記ノ通新設相成候條依命及通牒候也

一、平壤出張所所屬鎮南浦工營所ヲ本年四月一日ヨリ新設ス

○工營所所屬變更ノ件

大正五年三月二十日
官通課第三九號

政務總監

各土木局出張所長、工營所主任宛

本府土木局出張所所屬新義州工營所ハ本年三月二十日限り廢止シ平壤出張所所屬熙川工營所ヲ京城出張所ノ所屬ニ、同鎮南浦工營所ヲ仁川出張所ノ所屬ニ大正五年三月二十五日ヨリ變更相成候條此段及通牒候也

○道路測量施行心得及圖面調製心得改

正ノ件

明治四十五年五月三日
工通課第一四九號 改正
大正七年四月一日
第七第八八九號

土木局長

晋州、釜山、平壤、仁川、元山、鎮南浦、清州、清津、各出張所長宛
海州、安州、大上面、城津、雄基、金泉、全州、鎮海、順天、利川、京城、龜島、各工營所主任宛
道路測量施行心得及圖面調製心得中今般別冊ノ通改正候ニ付右ニ依リ實地施行相成度候也

道路測量施行心得

第一條 道路測量ハ特別ノ場合ヲ除キ總テ左ノ順序ニ從ヒ施行スヘシ

第二條 道路測量ヲ分チテ踏査、實測ノ二種トス

第三條 踏査ハ路線ノ經過地ヲ決定スルヲ目的トシ沿道地方開發上ニ重大ナル關係ヲ有シ其ノ利害ノ永遠ニ及ブモノナルヲ以テ慎重ニ考査シ左ノ各項ニ就キ調査スヘシ

イ 線路大體ノ延長及沿道地形ノ大要並ニ工事ノ難易

ロ 線路沿道ノ地名及地質ノ大要
ハ 著シキ掘割又ハ築堤若クハ特種ノ工法ヲ要スル有無

土木法規 第十三章 土木局出張所規程

ニ 道路線ノ橫斷スル主要ナル河川ニ對シ架橋又ハ渡船トナスノ利害得失

ホ 道路沿道土地ニ於ケル現在運輸交通及諸物資需用供給ノ状態人口ノ密度並ニ洪水等ノ關係

ヘ 道路修築後運輸交通及諸物資需用供給ノ状態變化及道路保存修理ニ對スル意見

ト 線路沿道附近ニ於ケル著名ナル都市及市場トノ關係

チ 工費用諸材料採集ノ便否及其ノ價額並ニ勞力賃金及勞働者ノ多寡

第四條 豫定經過地以外ニ佳良ナル線路ノ有無ヲ踏査シ前各條ニ就キ比較調査スヘシ

第五條 線路經過地中高低著シキ區間ハバロメーター若クハ簡易測量器ヲ用ヒ其ノ高低ヲ概測シ修築道路ニ採用スヘキ最急勾配及其延長ヲ豫定スヘシ

第六條 實地踏査ヲ了リタル地ハ地圖又ハ陸軍參謀本部五萬分ノ一地形寫シニ線路大體ノ方向位置ヲ赤線ヲ以テ記入シ尙前各條調査事項ニ對スル報告ト對照シテ工事ノ難易區域其ノ他

チ了知シ得ル程度ニ適當ナル記入ヲ爲スヘシ

但シ主要ナル市街地(郡廳所在地)ニ對シテハ別ニ縮尺ノ大ナル圖面ヲ用ヒ之ニ路線經過地區ヲ明カニスヘシ

第七條 前各條調査事項ハ圖面ト共ニ本課ニ報告スヘシ
前項報告ニハ經過路線ノ選定ニ關シ道當局、地方民等ノ希望

ノ要旨及之ニ對スル意見ヲ詳細附記スヘシ
第八條 踏査報告ニ對シ線路決定ノ通知ヲ受ケタル時ハ更ニ實測ニ着手スルモノトス

第二章 實 測

第九條 實測ハ決定線路ヲ參考トシ精覈ニ考査ヲ盡シテ善良ナル線路ヲ選定シ左ノ順序ニ從ヒ施行スヘシ
甲 線路中心抗打及平面測量

イ 中心線測標(單ニ鎖抗ト稱ス)ハ起點ヨリ各二十間毎ニ建設シ地形上已ムヲ得サル場合ハ地抗ヲ打込ミ近傍見易キ箇所ニ其位置ヲ標示スルニ足ルヘキ控抗ヲ設置スヘシ
土坪計算上又ハ橋梁其ノ他構造物建設上必要ナル地點ニハ假標ヲ設ケ後方隣接鎖抗ヨリノ距離ヲ抗木ニ記入シ置クヘシ
ロ 曲線ノ箇所ニハ鎖抗ノ外ニ曲線始點、同中央點、同終點ノ三測標ヲ設ケ後方隣接鎖抗ヨリノ距離ヲ抗木ニ記入シ置クヘシ

ハ 道路中心線ヨリ左右十間以内ニ在ル建物、市街、村落、軌道、山川、道路、沼澤、森林、原野、荒蕪地、耕地、等及道、府、面ノ境界等ノ形狀及位置ハ枝距法ニ依リテ之ヲ測定スヘシ右區域外ト雖モ道路修築上必要ト認メタルモノハ之ヲ實測スルモノトス
磁針方位ハ約一里毎ニ測定シ角度杭ニ於ケル測角正否ノ監

附 則

第十條 實測ニ使用スル各測量杭ハ大體ニ於テ左ノ標準ニ依ルモノトス

- イ 角度杭 長二尺五寸 二寸角
- ロ 鎖 杭 長二尺 一寸五分角
- ハ 幅 杭 長二尺 一寸五分角
- ニ 水準基標 長三尺 三寸角

圖面調製心得

一 線路實測平面圖

縮尺二千四百分ノ一ニ調製シ線路中心線ノ左右各十間以内ニアル建物、市街、村落、軌道、山川、道路、沼澤、森林、原野、荒蕪地、耕地等及道、郡、面ノ境界並ニ磁針方位等ヲ示スヘシ線路中心線ハ赤色ヲ以テ彩リ距離ハ二十間ヲ以テ一鎖トナシタル鎖數ヲ以テ十鎖毎ニ記シ曲線ノ始終點、半徑交角及切線長ヲ記シ若ハ曲線表ヲ紙面ノ一部ニ掲記スヘシ市街道路實測平面圖ニハ縮尺三百分ノ一又ハ六百分ノ一トス
但シ市街全圖其ノ他地形圖ハ適宜ノ縮尺(三百ノ倍數)ヲ用フルコトヲ得

二 線路實測縱斷面圖

縮尺縱二百分ノ一横二千四百分ノ一トシ切取ノ深赤(最上欄)築堤ノ高青(第二欄)計畫線路ノ高低赤(第三欄)計畫線路ノ勾配赤(第四欄)線路中心線ニ於ケル在來地盤ノ高低黒(第五欄)色

查資料トナスヘシ

乙 縱斷面測量

イ 道路線路ニ沿ヒ約十八町毎ニ一箇所ツツ及工事上必要ナル箇所ニ水準基標ヲ建設シ道路中心線各測標位置、地盤、高低ハ水準基標ヨリ起算之ヲ實測シ河川溝渠橫斷箇所ハ特ニ精細ニ實測シ平水位及高水位ヲ測定スヘシ
ロ 縱斷面測量ハ必ス二回以上施行シ其ノ許スヘキ誤差ハ每一里ニ對シ一寸ノ最大限トス

丙 橫斷面測量

イ 橫斷面測量ハ鎖抗及土坪算出ノ基礎トナルヘキ各標杭ニノミ之ヲ施スモノニシテ道路修築設計上必要ト認ムル區域ニ止ムルモノトス
ロ 橫斷面測量ハ水平及垂直共尺ヲ以テ單位トシテ尺以下一位トシ寸止リトス

丁 架橋位置其他調査

イ 架橋位置及其ノ他構造物建設位置ハ特ニ精細ナル測量ヲ爲シ設計上必要ナル諸項ヲ調査シ工事實施ニ際シ設計ノ實地ニ適合セサルガ如キ不都合ナキヲ期スヘシ
ロ 架橋ヲ要スル幅員大ナル河川ニ在リテハ必要ト認ムル區域ニ滲リ流身ノ方向流域、雨量及地形等ヲ實測シ尙洪水量及流速其他出水ノ程度等遺漏ナキ様調査スヘシ

附 則

一 鎖毎ニ記シ尙土坪算出ノ基礎トナルヘキ位置ハ鎖ノ中間ト雖同様ニ記載シ鎖番號及中間位置ノ距離ハ黒色ニテ最下欄ニ記シ尙欄外ニ曲線及曲線ノ圖表ヲ示スヘシ

橋梁、暗渠、水拔等ノ位置ニハ經間、内法、最高水位、平水位等ヲ記シ且柵、石垣、川切潜水準器標高在來道路及鐵道ヲ橫斷スル位置及道、郡、面ノ境界等其他設計ニ關スルモノハ其ノ概要ヲ記入スヘシ
在來地盤高低、計畫線路高低、築堤高、切取深等ハ尺以下二位ニ止メ距離ハ間以下一位ニ止ムヘシ
水道工事導水線路等特種ノモノハ縱橫共便宜適宜ノ縮尺(百ノ倍數ニ限ル)ヲ用フルコトヲ得

三、線路實測橫斷面圖

縮尺縱橫共百分ノ一ニ調製シ在來地盤ハ黒線ヲ以テ示シ計畫線路ハ赤線ヲ以テ示スヘシ
四、構造物ハ全體圖縮尺百分ノ一以上明細圖縮尺四十分ノ一以上トシ(縮尺ハ、十ノ倍數ニ限ル)各部ノ構造其他必要ナル諸件ヲ判明ナラシムル様調製シ各部材料其他ノ寸法線及矢印ハ赤色ヲ用ヒ寸法文字ハ黒色トシ鐵物類(皆折釘、釘等ヲ除ク)ハ呎、吋ノ單位トシ其ノ他ハ尺ヲ單位トシ記入スヘシ

五、縱斷面圖ハ幅一尺二寸以内ノ五厘目方眼縱斷面用紙ニ平面圖ハケン卜實原圖紙三ツ切(幅約一尺七寸)又ハ蠟布ニツ切ニ圖紙ノ左方ヲ起點トシ順次右ニ記入シ橫斷面圖ハ五厘目方眼

紙ニ下方ヲ起點トシ順次上方ニ記入スヘシ
 構造物圖ハ長三尺三寸幅二尺二寸以内ノ輪廓内ニ納ムル様配
 置シ調製スヘシ
 六 圖面ニハ必ス表題、縮尺、方位、凡例、製圖年月日及責任
 者ノ捺印ヲ要ス
 七 圖面ハ其ノ左肩右下ノ兩隅ニ長約二寸ノ二等邊三角ヲ劃シ
 之レニ表題番號其他ノ要領ヲ記入シ搜索ノ便ニ供スヘシ但シ
 卷物トナス圖面ニハ其ノ兩端裏面ニ表題其ノ他ヲ記入スヘシ

○工事設計仕様ニ關スル件

明治十五年七月十二日
 工部省第九三三七號

土木局長

晋州、清州、元山、清津、平壤出張所長
 利川工務所主任

治道工事ノ設計仕様書ハ從來各出張所ニ於テ多少其工法ヲ異ニシ
 區々ニ涉リ居ル嫌有之候ニ付爾後ハ別紙仕様書ニ準據シ設計相成
 度此段申進候也

追テ實地計畫ニ當リ地質其ノ他ノ關係上本仕様書ニ準據シ難キ
 場合ハ適宜變更相成差支無之候條爲念申添也

(別紙)

道路改修工事仕様書

第一章 總 則

第一條 本仕様書ハ一般工事ノ仕様ヲ示スモノナルヲ以テ當該

工事ニ適用若ハ準用シ得ヘキ箇條ノミヲ用ユルモノトス
 第二條 工事ハ總テ設計書圖面及本仕様書ニ據リ監督員ノ指揮
 ニ從ヒ之ヲ施行スヘシ

第三條 本仕様書及圖面ニ明記セサルモノハ總テ監督員ノ指揮
 ニ從フヘシ

第四條 各種工事ハ必ス監督員ノ許可ヲ得テ著手スヘシ

第五條 測標ハ凡テ位置ノ移動セサル様保護スヘシ若シ之ヲ移
 動スルノ必要ヲ生シタルトキハ必ス監督員ノ指揮ヲ請ケヘク
 尙脫失シタルトキハ直ニ監督員ニ申出ツヘシ

第二章 切 取

第六條 本章ハ本道路踏切道路及水路等總テノ切取工事ニ適用
 スルモノトス

第七條 切取ハ測量杭ヲ中心トシ高低圖指定ノ寸法ニ依リ切取
 逆丁張ヲ設ケ各部法肩ノ位置ヲ定メ監督員ノ検査ヲ受ケ法面
 ノ仕上ヲナスヘシ

但路面ハ中央ニ於テ計畫基面上左右兩端ヨリ三十分ノ一高ニ
 存置シ決シテ掘鑿深キニ過キ再ヒ置土ヲナスコトナキ様注意
 スヘシ捨土ハ指定ノ土捨場又ハ交通其他支障ナキ場所ニ運搬
 シ崩壞セサル様適當ノ法勾配ヲ附スルモノトス

第八條 切取ノ斜面ハ土砂ニアリテハ一割法、軟岩ニ在リテハ
 五分乃至七分法、硬岩ニアリテハ二分五厘乃至四分法トシ土
 質ノ硬軟ニ應シ監督員ノ指揮ニ依リ適宜施行スルモノトス

但岩石切取ノ場合ニアリテハ路面ハ計畫基面ヨリ約三寸ヲ切
 下ケ更ニ土砂ヲ以テ路面ヲ構成スルモノトス

土砂硬軟岩ノ設計數量ニ對シ實施ノ結果異動ヲ生スルモ増減
 變更セサルモノトス

第九條 切取ノ斜面ハ凹凸ナク切均スヘシ但切取路面兩肩ニハ
 長一尺五寸幅五寸厚二寸ノ切芝ヲ植込ミ芝一枚ニ付長四五寸
 ノ目串ヲ二本ツツ打込ミ其脱落ヲ防キ尙三寸通ハ土ニテ之
 ヲ覆フヘシ

切取斜面張芝工ハ根土充分ナル切芝ヲ空隙ナク張詰メ竹又ハ
 柳目串ヲ以テ脱セサル様固著セシムヘシ

第十條 切取斜面又ハ路面ニシテ土質軟弱且ツ湧水ノ箇所ハ雜
 石ヲ以テ張り詰メ排水溝ニ誘致シ道路ノ保存ヲ完全ナラシム
 ルヘシ

第十一條 道路兩側排水溝ハ流末ヲ完全ニシ且流末ニシテ暗渠
 又ハ水抜ニ連絡ヲナス場所ハ其ノ落口ヲ押掘ラレサル様雜石
 ノ捨石ヲ爲スヘシ排水溝ノ形狀ハ橫斷面圖ニ示ス如ク土砂ニ
 アリテハ兩側斜面ハ一割法ヲ標準トスルモ岩石ノ箇所ハ其ノ
 硬軟ニ應シ三分乃至五分法トシ且ツ犬走ヲ省ケコトヲ得又其
 ノ位置勾配及大サハ必要ニ應シ之ヲ變更スヘキニ由リ特ニ監
 督員ノ指揮ヲ受ケヘシ

第三章 築 堤

第十二條 本章ハ本道路踏切道路及水路等總テノ盛土工事ニ適

用スルモノトス

第十三條 築堤ハ測量杭ヲ中心トシテ高低圖指定ノ寸法ニ遵ヒ
 丁張ヲ設ケ各部法肩ノ位置ヲ定メ監督員ノ検査ヲ受ケ築立ツ
 ヘシ左右斜面ハ築堤ノ高三尺迄ハ二割五分トシ三尺以上
 ハ二割トス但浸水區域内ニ在リテハ一割以上ノ緩勾配ヲ用ユ
 ルコトアルヘシ

第十四條 斜面ニハ芝ノ生長ニ適スル土ヲ用ヒ路面縁ヨリ法高
 一尺毎ニ長一尺以上幅五寸厚二寸ノ筋芝ヲ植ヘ込ミ一段毎ニ
 充分搗キ堅メタル上尙表面ヨリ土羽板ヲ以テ充分打テ固ムヘ
 シ又法肩ニハ長一尺五寸厚二寸ノ切芝ヲ植ヘ込ミ芝一枚ニ付
 長四五寸ノ目串二本ツツ打込ミ其脱落ヲ防キ尙三寸通リハ土
 ニテ之ヲ覆フヘシ

築堤斜面土羽工ニ代フルニ破碎岩石等ノ小口出シ投石積ヲ以
 テスルモ妨ケナシ但積石ハ一箇五貫目以上ノ大石ヲ用ヒ直高
 六尺迄ハ六分法、直高六尺以上ハ七分法ヨリ緩ニシ直高九尺
 毎ニ幅一尺五寸以上ノ犬走ヲ付スヘシ又裏込ハ破碎岩石ヲ用
 ヒ上端厚ハ一尺以上數厚ハ直高ノ三分ノ一以上トナスヘシ

第十五條 築堤ハ先ツ地盤ニ存在スル竹木雜草等ヲ除去シ地盤
 傾斜セル箇所ニ於テハ監督員ノ指揮ニ從ヒ高幅各三尺以上ノ
 段切ヲ爲シ又岩石盛立ノ場合ハ目潰砂利ヲ混和シ空隙ヲ充填
 スヘシ濕地又ハ湧水スル場合ニハ雜石ヲ以テ相當排水工ヲ施
 シタル後著手スヘシ

築堤ニハ草木其他雜物ヲ混入セザル土砂ヲ用ヒ殊ニ水路築堤ニハ粘土質ノモノヲ用ユヘシ
 築堤斜面下部ノ犬走切取上部ノ小堤等ニハ眞土又ハ粘土ヲ用ヒ石垣ノ天端ニハ切芝ヲ植付ケヘシ
 築堤ハ地盤ノ最凹所ヨリ盛り立テ厚二尺毎ニ敷キ均シ削搗キ若ハ「ローラー」ヲ以テ充分固定セシメ漸次計畫高ニ達シタルトキハ路面兩肩ヨリ中央ニ向ヒ三十分ノ一勾配ヲ以テ橢圓形斜面ヲ附シ充分搗キ固ムヘシ
 第十六條 築堤竣工後ノ收縮ヲ補充スル爲メ左記程度ノ餘盛ヲ爲スヘシ
 築堤 堤 高 餘 盛
 十 尺 未 滿 築堤高ノ十分ノ一
 十尺以上三十尺未滿 築堤高ノ十分ノ一ヨリ二十分ノ一迄
 三十尺 以上 築堤高ノ二十分ノ一
 但右ノ割合ハ土質ノ硬軟及前後高サノ不同等ニ依リ變更スルコトアルヘシ
 第十七條 路面敷砂利ハ徑三分以上一寸五分以下ノモノニシテ石質堅硬且風化セザルモノタルヘシ枘量檢定ノ上敷キ均ヌモノトス
 但同徑堅質ノ碎石ヲ以テ之ニ代ルコトヲ得
 第十八條 並木ハ二年生長三尺以上ノ「ニセアカシヤ」又ハ「柳」内一種ニシテ間隔六間ニシテ兩側交互ニ配置シ其植栽ハ監督

員ノ指揮ヲ受ケ有效時季ニ於テ之ヲ施行スルモノトス
 第十九條 土砂取揚所ハ道路ニ危険ヲ及ホス虞アル箇所ハ掘り取ルヘカラス
 道路用地ニ接シ掘取ル場合ハ三尺以上ヲ隔テ路側勾配ヨリ緩ナル勾配ヲ附シ掘り取ルヘシ
 第四章 石垣工及張石工捨石並柵工
 第二十條 本章ハ橋梁、暗渠、土留、翼壁、護岸等ニ於ケル總テノ石垣、張石、捨石及柵工ニ適用スルモノトス
 第二十一條 石材ハ總テ其ノ實質堅硬緻密ニシテ風化ノ虞レナキモノタルヘク石垣及張石ニ用ユル種類及積立個數概ネ左ノ如シ
 員ノ指揮ヲ受ケ有效時季ニ於テ之ヲ施行スルモノトス

種 類	控	一面坪積立個數
間 知 石	三 尺	二十 個 内 外
同	二尺五寸	二十五 個 内 外
同	二 尺	三十 個 内 外
同	一尺五寸	三十五 個 内 外
割石又ハ野面石	一尺五寸	三十五 個 内 外
同	一 尺	五十 個 内 外

但シ間知石及割石ハ相當體面アルヲ要ス

第二十二條 石垣ノ斜面勾配ハ間知石積ニ在リテハ三分法トシ野面石積及割石積ニ在リテハ五分法トス但水勢土質其他現場ノ狀況ニ由リ特種ノ勾配ヲ用ユルコトアルヘシ
 第二十三條 石垣積方ハ間知石、割石及野面石共根石トナルヘキモノハ可成大ナルモノヲ撰ミ疊法ノ布積タルト又ハ谷積タルトヲ問ハズ總テ接合ハ互層築ヲ用キ支筋合端二寸以上摺合トシ法面ニ直角ニ使用シ四ツ目ハツ巻縁切等トナラサル様積立テ縦飼體受ケ充分ニ之ヲ堅メ裏詰ハ大石ヲ撰ミテ小口出シ投築ニ築立テ楔ヲ打込ミ指揮ニ從ヒ目潰砂利ヲ入レ町嚀ニ請メ堅メ監督員ノ檢査ヲ受ケ裏詰ヲナスヘシ
 野面石積、割石積ノ場合ニ於テ裏込石ノ脱出スルカ如キ空隙ヲ合端ニ作テサル様築立ツヘシ且合端ノ空隙ニハ裏ヨリ恰當ナル石ヲ以テ填充スヘシ
 裏込ハ割石又ハ玉石ヲ用キ其ノ容積ハ數ノ厚サハ高ノ十分ノ四上部厚サハ一尺トシ目潰砂利裏石ノ約十分ノ三トス
 第二十四條 野面石ノ築法ハ顯頭築ヲ用キ一個若クハ二個ノ積石脱出スルモ供形ノ作用ニ依リ總體ノ崩壞ヲ來ササル様築キ立ツヘシ
 第二十五條 石垣及張石練積ニ在リテハ石面ヨリ控末迄「モルタル」又ハ「コンクリート」ヲ以テ填充シ表面ハ「モルタル」ヲ以テ目塗スヘシ
 石垣裏ニ「コンクリート」ヲ使用セントスルトキハ石積ノ進工

ニ伴ヒ偏壓ナキ様町嚀ニ「コンクリート」ヲ搗キ込ムヘシ但中埋トシテ割石又ハ玉石ヲ混入スルモ妨ナシ其ノ要領ニ就テハ監督員ノ指揮ヲ受ケヘシ
 「コンクリート」及「モルタル」ハ特ニ指定スルモノノ外左記割合ヲ以テ調合スヘシ
 第二十六條 張石ハ先ツ地盤ヲ指定ノ深ニ掘取リ充分砂利ヲ搗キ込ミタル後栗石ヲ敷キ込ミ其ノ上ニ張詰メ（張方ハ石垣積方ニ準ス）空隙ニハ充分目潰砂利ヲ填充スヘシ張石ノ兩端ハ地中深サ二尺以上巻キ込ミ梯子捨又ハ捨桐木ヲ以テ支留シ或ハ小杭又ハ大板ヲ以テ打チ留ムヘシ
 第二十七條 護岸捨石ハ設計圖ニ據リ施行シ表面ハ大石ヲ撰ミ出シ見通チ能ク配列スヘシ
 第二十八條 土留及柵工ハ特ニ指定ノ丸太ヲ眞心二尺ノ距離ニ根入杭長ノ十分ノ六以上打込ミ柵高三尺以上ノモノハ腹起シ及控杭等取附ケ厚八分以上ノ板ヲ以テ釘付ケトナスヘシ
 第五章 根 堀
 第二十九條 本章ハ總テ橋梁暗渠下水石垣及土管等ノ根堀ニ適

用スルモノトス

第三十條 根堀ハ其ノ築造物ノ底面形状ニ應シ五分以上斜面勾配ヲ付シ堀下ケ水平ニ切均スヘシ但岩石ノ場合ニ於テハ監督員ノ指揮スル處ニ依リ階段ヲ付スルコトヲ得
根堀ノ深サ平面以下ナルトキハ必要ニ應シ矢板工ヲ施シ平水面以下深ク根堀ヲ要スル等矢板ニテハ施行困難ナル場合ニ限リ箱枠工ヲ施行スヘシ
但平水位標高ハ監督員之ヲ指定ス

第三十一條 箱枠ハ模形圖ニ準シ四隅ハ二分ノ一時角長十時ノ四ツ頭釘ニテ打チ付ケ枠板矧目ハ鋸摺合トシ凡ソ三尺間毎ニ柄ヲ入レ其中間ヲ船釘(平落釘)ニテ締付ケ横肌ヲ充分詰メ込ミ漏水ナカラシムヘシ又必要ニ應シ切り梁及繫柱ヲ設ケヘシ
枠ノ大サハ其内法基礎「コンクリート」ノ面積ト同様トス
箱枠ヲ沈下スルニハ先ツ箱枠ニ相當スル寸法ニ陸上根堀ヲ爲ス箱枠ヲ据付ケ荷重ヲ加ヘ内部掘鑿シ沈下スヘシ地盤平水面以下ニシテ陸上根堀ヲ要セサル場合ハ平ニ掘キ均ラシタル上掘ヘ付ケヘシ
箱枠内ノ掘鑿ハ特別ノ場合ヲ除クノ外箱枠下端ヨリ三尺以下ノ掘越ヲ爲スヘカラス

第六章 基礎工

第三十二條 本章ハ橋梁暗渠下水石垣及土管等ノ基礎施工ノ場合ニ適用スルモノニシテ築造物ノ種類及地質ノ如何ニ因リ參酌適用スルモノトス

酌適用スルモノトス

第三十三條 基礎地盤岩石ニシテ「コンクリート」及其ノ他ノ工事ヲ要セサルトキハ凹凸ナク切り均スヘシ
第三十四條 「コンクリート」ヲ基礎トシテ用ユルトキハ先ツ根堀内ノ水ヲ排除シ泥土等ヲ浚エ必要ニ應シ捨「バラスト」工ヲ施シ所要ノ大サニ圍板ヲ設ケ所定ノ「コンクリート」工ヲ施スヘシ
「コンクリート」調合ノ割合概ネ左ノ如シ

種	類	セメント	砂	砂利又ハ碎石
陸上「コンクリート」	一、	一、	三、	六、
水中「コンクリート」	一、	二、	四、	六、

第三十五條 基礎杭打チ施行スルニハ杭打ノ仕様ニ準シ杭ノ寸法ニ適應スル錘ヲ以テ移動ナキ様垂直ニ打チ込ムヘシ其寸法員數位置及打留ハ監督員ノ指揮ニ從ヒ打チ込ミタルトキハ杭頭ヲ切り揃ヘ杭間ニハ捨「バラスト」ヲ施スヘシ
第三十六條 捨「バラスト」工ヲ施スニハ所要ノ面積ニ每厚約五寸宛ノ栗石及砂利ヲ敷キ均シ逆錐ヲ以テ搗キ堅ムヘシ
其層數ハ地質ニ應シ監督員ノ指揮スル所ニ從フヘシ

第三十七條 梯子捨チ施工スルニハ必要ニ應シ先ツ捨「バラスト」工ヲ施シタル後親木末口五寸以上長十二尺以上ノ生松丸

太チ接手一尺以上相缺キ桎止メトシ二本通リ真心二尺内外距離ニ配列シ之ニ末口三寸以上ノ同材ヲ棧木トシテ三尺以上ノ距離ニ相缺キ組合セ二分ノ一時角長五寸ノ皆折釘ヲ以テ打チ付ケ据ヘ込ミ栗石及砂利ヲ親木上端迄填充シ搗キ堅ムヘシ
第三十八條 捨桐木ヲ施行スルニハ必要ニ應シ先ツ捨「バラスト」工ヲ施シタル後末口五寸長十二尺以上ノ生松丸太チ接手一尺以上相缺キ桎止メ一本通リ据ヘ付ケヘシ

第七章 杭打工

第三十九條 本章ハ橋梁暗渠其他ノ杭打工ニ適用スルモノトス
第四十條 圖面ニ依リ杭木ノ位置及高サヲ定メ完全ニ遣方ヲ設置シ適當ニ足場ヲ設ケ末口徑一倍半ノ割合ニ尖ラシ間隔正シク建テ込ミ監督員ノ指揮ニ從ヒ打チ込ムヘシ
第四十一條 杭打機械ハ末口八寸以上ノ杭木ニハ重量六十貫目以上末口一尺以上ノ杭木ニハ八十貫目以上ノ錘ヲ使用スヘシ但末口八寸未満杭木ニハ重量五十貫目内外ノ錘ヲ用ユルモノトス

第四十二條 打込ミ著手シタル杭木ハ作業中杭ヲ打チ控ケサル様注意シ必ス即日打チ込ミヲ終了スヘシ翌日ニ涉リ施行スルヲ許サス最終ノ沈下ハ必ス監督員ノ捨查ヲ受ク打チ止メテナシ若地盤ノ質ニ依リ設計通り打チ込ムコト能ハサルトキハ監督員ノ検査ヲ受ケヘシ檢定以前ニ於テ擅ニ足場ヲ異動スヘカラス

第四十三條 杭頭破碎ノ恐アルモノハ鐵輪ヲ嵌メ込ミ之ヲ防キ又既ニ破碎シテ打チ込ミ困難ナルモノニアリテハ監督員ノ指揮ヲ受ケヘシ決シテ杭頭ヲ撞ニ切斷スヘカラス
第四十四條 砂利質ノ個所ニ打チ込ムヘキ杭木ハ必ス其ノ尖端ヲ圓錐形トシ其ノ他ハ三角若クハ方錐形トナスヘシ但尖端ニハ相當ノ面積ヲ削リ殘スヘシ
第四十五條 杭木打チ込ミニ際シ盤石ニ當リタル爲指定ノ根入迄打チ込ムコト能ハサル箇所ハ監督員ノ指揮ヲ受ケ深一尺五寸以上圓柱狀ニ盤石ヲ掘鑿シテ杭木ヲ建テ込ムコトヲ得此場合ニ於テハ穴ノ直徑ハ杭木ノ徑ノ一倍半以内トシ杭木周圍ノ空隙ハ石屑又ハ堅木栓ヲ以テ堅ク詰込ムヘシ

第八章 セメントモルタル

第四十六條 本章ハ橋梁暗渠セメント下水石垣等凡テノ「セメント」工事ニ適用スルモノトス
第四十七條 「セメント」ハ使用ニ際シ固結シタル部分アルトキハ假令合格品ト雖モ之ヲ使用スルコトヲ得ス
第四十八條 「モルタル」又ハ「コンクリート」用砂ハ其實堅固ニシテ可成尖角ナルモノタルヘク二十番篩(一平方吋)ヲ十分ノ八以上通過シ三十番篩(九百孔)ニテ十分ノ八以上止マルモノニシテ泥土塵埃等ヲ充分洗滌シタル後使用スヘシ
第四十九條 「コンクリート」用砂利ハ可成尖角ニシテ其實堅硬ナルモノヲ選ヒ泥土塵埃等ヲ充分洗滌シタル後使用スヘシ

第五十條 「モルター」セメント及砂ヲ所定ノ分量ニ依リ正確ニ量リ五回以上空練チナシ充分混和シ兩種ノ同一色ヲ呈スルニ至リタル後徐々ニ適量ノ水ヲ注キツツ更ラニ五回以上練リ返スヘシ

第五十一條 「コンクリート」ハ所定ノ割合ニ依リ「セメント」及砂ヲ配合シ先ツ五回以上空練チナシ充分切り混セ適量ノ清水ヲ混和シ同一色トナル迄再ヒ充分ニ切り交セ之ニ所定ノ分量ニ依ル砂利ヲ加ヘ五回以上練リ返シ充分混シタル後所定ノ場所ニ持チ運ヒ一層厚五寸以内ニ敷キ均ラシ目方約一貫目ノ木槌ニテ搗キ固ムヘシ其ノ搗キ堅メノ度ハ上部ニ水氣ノ表ハルルヲ以テ程度トス

第五十二條 「コンクリート」用圍板ハ充分堅固ニ作り「コンクリート」ガ其ノ裂隙又ハ接目ヨリ漏出シ又ハ搗キ堅メノ爲メ孕ミ出シ又ハ破損セサル様施行スヘシ

出來上リタル圍板内部ハ充分清潔ニシ石屑木片塵埃等ヲ掃除スヘシ

第五十三條 前日施行ノ「コンクリート」面上ニ更ラニ新層ヲ打ツトキハ前層面ヲ清潔掃除シ水ヲ撒布シ「セメント」一、砂二、ノ割合ニテ作りタル「モルター」ヲ以テ接續セシムヘシ

第五十四條 接續スヘキ「コンクリート」施工チ一時中止スルトキハ其ノ終端ヲ階段形トシ蓋又ハ菰ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第五十五條 「コンクリート」一層ノ施行ヲ終リタルトキハ濕潤

セル菰又ハ蓋ノ類ヲ以テ叮嚀ニ蔽ヒ日光又ハ風ノ爲水分ヲ速カニ蒸散スルコトヲ防キ又夜間等水結スルコトナキ様塞氣度合ニ應ジテ二枚又ハ三枚ヲ被覆スヘシ

第五十六條 一旦布設シタル「コンクリート」ユシテ凝結不充分ナリト認ムルトキハ之ヲ改造セシム

第五十七條 「コンクリート」又ハ「モルター」ハ直チニ使用シ終ル量ヨリ過多ニ一時ニ調合スヘカラス調合後硬化時間ヲ經過シタルモノハ一切使用スルヲ許サス

第五十八條 「コンクリート」又ハ「モルター」ハ冬期凍結ノ虞レアルトキハ製作使用スヘカラス

但監督員ノ指揮ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

時季ニ依リ凍結ヲ防禦スヘキ材料ヲ配合セシムルコトアルヘシ

第五十九條 「コンクリート」敷設後ハ四十八時間以上ヲ經ルニアラサレハ石材ノ据付ニ着手スヘカラス

第六十條 「コンクリート」圍板ハ「コンクリート」敷設後一週間以上ヲ經過シ監督員ノ指揮ヲ受クルニアラサレハ之ヲ取り除クコトヲ許サス

第六十一條 石材据付ニ當リテハ其合口ニ水ヲ撒布シ「モルター」ノ水分ヲ吸收セサラシムヘシ

第六十二條 「モルター」使用法ハ充分鄭重ニシ水ヲ以テ流シ込ム等粗略ノ行爲アルヘカラス

第六十三條 「モルター」使用後ハ濕氣ヲ帶ヒタル蓋又ハ菰ノ類ヲ以テ之ヲ蔽ヒ速ニ乾燥セシメサル様注意スヘシ

第九章 疊築工

第六十四條 本章ハ橋梁暗渠等ノ疊築工ニ適用スルモノトス

第六十五條 切石築ハ堅固配分ノ二トス切石ハ（江戸切）（瘤出シ）トシ合端荒叩列ハ水平ニ接手ハ垂直ニ互層築トスヘシ

第六十六條 天端石ハ合端荒叩見ヘ掛リ中叩トスヘシ

第六十七條 各石ハ加工シ監督員ノ點檢ヲ受ケ築立ニ先テ清潔ニ洗滌シ合端ニ清水ヲ吸收セシムヘシ

第六十八條 各石合端ハ「モルター」（セメント一、砂三、ノ配合）ヲ以テ接合シ其目筋ハ三分トシ化粧目塗「モルター」ハ（セメント一、砂一、ノ配合）トシ充分ニ詰メ込ミ目塗鍍ヲ以テ仕上クヘシ

第六十九條 上層ノ築石ヲ爲スニ先テ下層ノ目筋「モルター」ヲ填充シテ後敷「モルター」ヲ施シ上層ノ石ヲ築立ツヘシ決シテ既築ノ石ニ玄翁ヲ用ユヘカラス

第七十條 裏詰ハ築石一層毎ニ數層ニ詰メ込ミ搗キ固ムヘシ

第七十一條 間知石、野面石、割石築ヲ用ユル場合ハ第四章石垣工ニ準シ施スヘシ

第十章 橋梁（木造）

第七十二條 橋梁工事ハ計畫圖面及測標ニ依リ橋梁ノ中心位置方向高低及各部ノ位置寸法ヲ二回以上細密確實ニ測設シタル

後架橋ニ對スル堅固ナル足場ヲ組ミ立ツヘシ

第七十三條 打立ヲ終リタル橋杭ハ監督員ノ指示スル縱橫圍狀曲線ニ依リ精密ニ寸法ヲ測リ杭頭ヲ切り揃ヘ長四寸幅二寸高二寸ノ大柄ヲ作り梁木ヲ掛ケ傾杖ハ兩柄トナシ腕木及梁木ニ懸掛ニナシテ据ヘ込ミ桁架渡チナスモノニシテ總テ接離ハ兩者全ク密著セシムル様仕立ツヘシ

第七十四條 挾橫及筋違ヒノ位置ハ監督員ノ指揮ヲ受ケテ之ヲ取付ケ其ノ橋杭ニ接スル部分ハ之ヲ平滑ニ削リ又ハ杭肌五分以内欠キ込ミ密接セシムヘシ

第七十五條 肱木ハ梁ノ上ニ置キ渡シ手違錄ヲ以テ取付クルモノトス

又桁木ハ肱木ノ上ニ置キ渡シ突付繼トシ肱木ニ「ボールト」ヲ以テ締付枕木個所ハ手違錄ヲ以テ取り付クルモノトス

枕木及梁木ハ桁木當リヘ適當ニ仕口ヲ爲シ取り付クルモノトス

第七十六條 木材仕上方ハ左ノ如クスヘシ但丸太材ハ此ノ限リニアラス

一 高欄、人止柵、耳桁、敷板、兩側棧ハ上鉋削リトス

一 敷板表面、桁、腕木、傾杖、梁、挾橫、筋違橫ハ荒鉋削リトス

一 敷板ハ二回以上合端鋸摺リ合セトシ充分締メ寄セタル後釘著シ其ノ上部ニ目違アルトキハ之ヲ削リ平滑ニ仕上クヘシ

第七十七條 高欄男柱及袖柱ハ柱上端頭幅切リトシ男柱ハ敷板ヲ貫キ耳桁外端ニ柄ニ取付ケ束木ハ通貫穴彫リ上下柄トシ耳桁釘ヲ取建テ笠木ハ上端小返リ付下端束木柄穴彫リ繼手ハ鎌繼トシ男柱ニ大柄入トシ取付ケ通貫差シ込ミ總テ見付能ク仕立ツヘシ

第七十八條 橋名年號ハ男柱其ノ他指定ノ箇所ニ彫刻スヘシ
第七十九條 土橋並木ハ眞直ナルモノヲ選ミ兩耳ヲ揃ヘ元末打ヲ違ヒ密接ニ配置シ釘ヲ以テ行桁ニ打付ケ其ノ上ニ所定ノ下敷ヲナシ置土ヲ粘著セシムル様充分踏ミ固ムヘシ
但並木ハ末口三寸以上ノ丸太トシ長ハ二本繼テ標準トナスモ木質ニ依リ三本繼ノモノヲ許スコトアルヘシ尤モ其ノ繼手ハ必ス桁ノ中心タルヘキモノトス

第八十條 土橋橋面置土ハ粘質アル良土ヲ選ミ充分搗キ固メ雨水滲透チ少ナカラシムヘシ
若其質ノ粘土ヲ得ラレサルトキハ石灰入混和土ヲ使用スヘシ

第八十一條 土橋兩耳ハ五寸押角ノ土留木ヲ用ヒ所定ノ「ボートル」ヲ以テ締結シ並木耳ニハ厚一寸ノ雨覆板及耳板ヲ洋釘ニテ打付ケヘシ

第八十二條 「ボートル」頭ノ大サハ徑ノ一倍四分ノ三厚ハ徑ノ四分ノ三女鉢ノ大サハ徑ノ一倍四分ノ三厚サハ徑ト同寸ニシテ座金ノ大サハ徑ノ三倍厚ハ徑ノ約三分ノ一トナシ「ボートル

ト」餘長ハ徑ト同寸トス故ニ相當ノ餘目ヲ附シ置ケコトヲ要ス螺旋ノ切り方ハ總テ定則ニ依ルヘシ
但シ「ボートル」頭及女鉢ハ六角形トシ其ノ大サハ對邊間ニ於テ之ヲ測ルモノトス

第八十三條 土留板ヲ用ユル場合ニ於テハ其板張ハ合端ヲ充分密著セシメ其ノ繼手ハ必ス土留杭ノ中心タルヘキモノトス
第八十四條 土留板ノ地中ニ埋没スル部分ハ幅三尺ノ根堀ヲナシ入念ニ板張ヲ了シ監督員ノ檢定ヲ受ケタル後原形ニ埋戻スヘキモノトス

第八十五條 橋梁各部ノ構造ニ於テ竣工後外面ニ表ハレサル裏面ノ施行ニ際シテハ必ス監督員ノ檢定ヲ受ケヘシ
第八十六條 防腐材ハ(コールター)ヲ用キ木材全部ヲ通シ二回之ヲ塗布スルモノニシテ塗抹前木材ノ皮剝層掃除等完全ニ之ヲ施行スヘキモノトス

但橋面ノ並木及敷板ニ限リ兩耳一尺五寸通り塗布シ他ハ之レヲ省ケモノトス
第八十七條 橋梁前後接續道路橋面ノ馴染能ク仕上ケルモノトス

第十一章 暗渠土管伏設

第八十八條 暗渠又ハ土管等ヲ伏設スヘキ位置ハ測標中心線ヨリ測設チナシ高低長幅ヲ精密ニ測定シ適當ニ根堀ヲ施シタル後完全ナル遣方ヲ設ケ地盤軟弱ナルトキハ築石ヲ以テ充分ニ

搗キ固メ監督員ノ檢査ヲ受ケ不陸ナキ様伏込ムヘシ

第八十九條 暗渠蓋石ハ石質堅牢ニシテ幅一尺以上ノモノヲ密接ニ敷置フヘシ

第九十條 暗渠中石造ノ部分ハ石積工仕様ニ木造ノ部分ハ木橋ノ仕様ニ準シテ施行スヘキモノトス

第九十一條 土管ハ寸法確實形狀正シク藥掛ニシテ燒方良好ナルモノトス割目又ハ瑕瑾アルモノハ之ヲ許サス

第九十二條 土管ノ根堀ハ粘土卷ヲ加ヘタル深ニ施行シ底粘土ヲ搗キ固メ檢査ヲ受ケタル後「ソツケツト」ヲ上流ニ向ケ且繼手部ハ粘土ヲ充分「ソツケツト」ニ詰メ込ミ布設シ兩口ノ上部ニ切芝ヲ植ヘ付ケヘシ但シ粘土ハ眞實ノモノヲ用ユヘシ

眞質ノ粘土ヲ得難キトキハ石灰一、粘土質砂四、混和土ヲ代用スルコトヲ得
兩口ハ場合ニ依リ野面石垣ヲ築キ又ハ土留板ヲ設ケ土砂崩壞ヲ防止セシムルコトアルヘシ

第九十三條 土管二本以上竝ハ伏設スルトキハ其外周ノ距離ハ凡テ土管ノ内徑ト等シクスヘシ
第九十四條 暗渠及土管ノ施行ニ當リ流水ノ疏通ヲ完全ナラシムル爲メ在來ノ水路及側溝ニ取合セテ要スル場合ニハ監督員ノ指示スル如ク溝堀又ハ溝淺ヲナスヘキモノトス

第九十五條 暗渠及土管ノ出入口ニシテ流水ノ爲メ押堀ヲ生スル恐レアル箇所ハ雜石ヲ以テ出入口ニ捨石ヲ施行スヘシ

第十二章 雜 則

第九十六條 木材ハ眞直ニシテ死節乾裂腐朽等ナク木質健全ニシテ成ルヘク乾燥シタルモノタルヘシ但土臺木地杭等土中又ハ水中ニ設ケヘキモノハ生木トス

第九十七條 丸木材ハ眞直ナルモノヲ選ミ皮ヲ剥キ使用スヘシ
第九十八條 板及角材ハ總テ正角ナルヘシ
但押角ト稱スルハ各邊十分ノ三以内ノ丸身ヲ許スモノトス

第九十九條 板類ニシテ面坪計算ニ依ルモノニアリテハ最小幅員六寸以上ノモノヲ使用スヘシ
第一百條 鐵物類ハ特ニ指定シタルモノノ外鍊鐵製ヲ用ヒ鍊鐵製目氣孔其ノ他ノ欠點ナキモノニシテ錆止ハ材料檢査ヲ受ケタル上施行スヘシ

第一百一條 「ボートル」締付ニハ螺旋廻シヲ使用シ充分ニ締付ケ「ナツト」ノ拔キ取ラレサル螺旋頭ヲ輕ク打挫キ置ケヘシ
「ボートル」ノ長ハ働キ長ヲ示アルニヨリ相當ノ餘長ヲ付スヘキモノトス

第一百二條 石材ハ質堅硬緻密ヲ要シ皮目、割目等保存上瑕瑾アルモノハ使用スルコトヲ許サス
第一百三條 工作物ノ根堀其ノ他地盤掘鑿中湧水アルトキハ適宜ノ方法ヲ設ケ之レヲ豫防シ工事ニ支障ナキ様設備スヘシ

第一百四條 材料ハ凡テ現場ニ取揃ヘ使用前監督員ノ檢査ヲ受ケヘシ若不合格材ヲ生シタルトキハ直ニ監督員ノ許可ヲ得テ現

場ヨリ之ヲ搬出シ且監督員ノ指定期限内ニ代品ノ納入ヲナスヘシ

支給材及貸與ノ物品ハ汚損毀損又ハ紛失セサル様監督員ノ指示方法ニ依リ保管シ特ニ「セメント」ハ雨露濕氣ヲ避ケ且ツ風化セサル様貯藏スヘシ

使用ノ材料ハ品質形狀ニ依リ類別整頓シ使用ヲ誤ラサル様注意スヘシ

第一百五條 諸足代遣方等ハ監督員ノ指揮ニ從ヒ堅牢ニ取り設ケヘシ

第一百六條 材料場置ハ使用地附近ノ地ヲ撰ミ監督員ノ承認ヲ受ケヘシ

第一百七條 材料ハ検査簿ヲ作り検査ヲ受ケタル都度監督員ノ檢印ヲ受ケヘシ

第一百八條 工事施行ノ爲メ交通ヲ妨害シ或ハ水流ヲ阻止スルトキハ監督員ノ指揮ニ從ヒ相當ノ假道或ハ假溝ヲ設ケヘシ又必要ニ應シ夜間點燈スヘシ

道路鐵道電線及建物等ノ附近ニ於テ火藥類ヲ使用シ又ハ工事施行ノ爲メ土石墜落等ノ虞アル場合ニ於テハ特ニ番人ヲ附シ危險豫防ニ注意スヘシ

第一百九條 工事ニ要スル材料置場器械測標及第八條ノ設備ニ要スル費用其他材料又ハ工事検査ニ要スル間接ノ費用等ハ總テ請負人ノ負擔トス

第一百十條 工場内ハ晝夜番人ヲ附シ取締ヲ嚴重ニシ又常ニ施行シ順序ヲ整頓シ決シテ亂雜ニ涉ルヘカラス

第一百一條 工事竣功期限ハ契約締結ノ翌日ヨリ日間トス

附 則

一 鐵筋「コンクリート」管及「カラー」ハ監督員ノ指揮ニ從ヒ型枠シ組立テ其「コンクリート」ニ接スル面ハ平滑ニ鈹仕上テ爲シ「コンクリート」詰込前ニ鑽油ヲ塗抹シ「コンクリート」ノ附著ヲ防クヘシ型枠組立テ了シタル後ハ所定ノ軟鋼線ヲ以テ圖面ノ通り縱横ニ組合セ其交叉點ヲ十八番鐵線ヲ以テ結束シ一個ノ鐵鋼トシ鐵鋼ト型枠面ト指定ノ間隔ニ据付ケ「コンクリート」ヲ填充スヘシ型枠撤去ハ一週間以後ニ於テ行ヒ豫メ監督員ノ承認ヲ得ヘシ型枠撤去後ハ二週間以上濕潤セシ荒ヲ以テ覆フヘシ

一 鐵筋「コンクリート」格ハ型枠組立テ了シタル上所定ノ鐵棒（軟鋼）ヲ圖面ノ通り配列シ板鐵（軟鋼）ヲ用ヒテ是レヲ定置シ其交叉點ハ十八番鐵線ヲ以テ締結シ鐵棒ト型枠ト指定ノ間隔ニ据付ケ「コンクリート」ヲ填充スヘシ型枠組立撤去及撤去後裝置等ハ前條ニ準シ施行スヘシ

一 鐵筋「コンクリート」管ヲ用ユル樋管工事ハ所定ノ根堀ヲ爲シ栗石ヲ以テ基礎工ヲ爲シ「コンクリート」管製作後三週間以上ヲ經過シタルモノヲ据付ケ繼手「カラー」ヲ密著セシメ呑口及吐口「コンクリート」型枠ヲ組立テ「コンクリート」ヲ填充シ

○裁判所ニ證人又ハ鑑定人トシテ呼出

ヲ受ケタル場合ノ心得ニ關スル件

大正三年十月二十三日 訓第三〇三一號

土木局長

土木局各出張所長宛

土木局出張所勤務ノ官吏ニシテ裁判所ニ證人又ハ鑑定人トシテ呼出テ受ケタル下キハ左ノ通心得ヘス

- 一 證人又ハ鑑定人トシテ呼出テ受ケタル場合ニ於テ其ノ訊問ヲ受ケ又ハ鑑定ヲ命セオレタル事項ニシテ官吏ノ職務上默秘ニスヘキ義務アルモノニ付テハ直ニ本府ニ其旨ヲ具申シ本府ノ許可ヲ受ケ開陳又ハ鑑定ヲ爲スヘシ但シ裁判所ニ於テ既ニ本府ノ承認ヲ得タルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 二 鑑定人トシテ呼出テ受ケタル場合ニ於テ其ノ呼出ニ應スルコト力職務上ニ支障ヲ生スル虞アルトキハ直ニ本府ニ其旨ヲ具申シ本府ノ指揮ヲ求メ同時ニ呼出テ受ケタル裁判所ニ對シテ其ノ旨ヲ通知スヘシ但シ裁判所ニ於テ既ニ本府ノ承認ヲ得タルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 三 本府ニ於テ鑑定ヲ許可セサルカ又ハ呼出狀ニ定メタル期日前ニ許可ノ指令ナキカ又ハ其ノ期日前ニ許可ノ指令ヲ受ケルモ呼出狀ニ定メタル期日ニ其ノ指定ノ場所ニ出頭スル暇ナキ

町嚀ニ仕上ルモノトス

一 鐵筋「コンクリート」桁ヲ用ユル暗渠工事ハ監督員ノ指揮ニ從ヒ所定ノ根堀ヲ爲シ仕様書第四章ニ準シ石垣工ヲ終リタル上桁下枕「コンクリート」打立ヲ爲シ所定ノ鐵筋「コンクリート」桁製作後三週間以上經過シタルモノヲナリ桁架渡シ密著セシムルモノトス

一 拱渠及（拱橋）ハ監督員ノ指揮ニ從ヒ所定ノ根堀ヲ爲シ基礎工ヲ施シ底石張及側壁石積等仕様書第四章第九章ニ準シ施工シタル後堅固ニ拱架組立ヲ爲シ充分吸水セシメタル卷石ヲ兩側起拱線ヨリ平等ニ各卷石ノ目筋ハ圓心ニ向ハシ又互ニ層積トナシ目筋「モルタル」ヲ充分町嚀ニ填充シ順次卷立テ決シテ偏重ヲ起ササル様注意スヘシ裏積工ハ卷石卷立ニ供ヒ順次町嚀ニ築立テ爲シ蛇腹石垣等ハ卷石積立樞石据付テ了シタル上之ヲ町嚀ニ行ヒ是等ノ餘響ヲ拱ニ及ボササル様注意スヘシ拱架撤却ハ拱卷土終了後三週間以後ニ於テ行ヒ豫メ監督員ノ承認ヲ得ルモノトス

一 鐵筋「コンクリート」ニ使用スル鐵類ハ凡テ等質ニシテ眞直無疵所定ノ寸法ヲ有シ鑄等ナキモノトス

一 軟鋼ハ品質最良ノモノタルヘケ平方吋ニ六萬封度ノ張力限度ヲ有シ八吋ノ長ニテ二十「パーセント」以上ノ伸長ヲ生シ且ツ四十「パーセント」ノ斷面縮少アルモノタルヘシ

トキハ直ニ口頭又ハ書面ヲ以テ其旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

○土石採取跡片付ニ關スル件

明治四十五年七月二十九日
工第一〇七四號

土木局長

各出張所長宛

道路又ハ築港等ノ土木工事ニ附帶シ土砂、石材又ハ砂利等ノ土工材料ヲ採取スル場合ニアリテハ其ノ直營工事又ハ請負工事タルトテ間ハス其ノ採取跡片付ハ嚴正ニ施行致度右ハ國土保全又ハ風致保存上ヨリモ必要ノ儀ニ有之候間採取跡ハ不陸ナキ様丁重ニ均ラシ其位置カ河川ノ一部ナルトキハ河水疏通ニ障害ナキ様又ハ山地若ハ平地ナルトキハ雨水又ハ氷結ノ爲浸蝕サレサル様植芝又ハ植樹等ノ方法ニ依リ適切ナル砂防工ヲ施シ置カレ度此段及通牒候追テ右ニ關シテハ必要ニ應シ工事仕様書ニ記入スル様取計相成度爲念申添候也

○橋梁取締ニ關スル件

大正元年八月一日
工第一〇九〇號

土木局長

各出張所長宛

道路橋梁ノ保護取締ニ關シテハ平素十分ニ注意ヲ拂ハルヘキ義ト被存候得共往々橋梁ノポールト並ニ金物類ノ窃取サルモノ有之爲メニ其保持上等ニ少カラサル支障ヲ及ホシ更ニ相當施設ヲ要ス

ル等誠ニ遺憾ノ次第ニ付之カ監視取締ニ關シテハ所管警務部又ハ憲兵隊ト篤ト打合セ一致協力ヲ以テ嚴正ニ之カ取締ニ從事スル様御取計相成度此段及通牒候也

○道路幅員ニ關スル件

大正元年九月二十七日
工第一〇八八號

土木局長

各出張所長宛

晉州、清州、平壤、元山、清津各出張所長宛
利川、工、營、所、主、任
一、二等道路改修工事施行ニ當リ高山峻嶺等ノ山間部ニ於ケル幅員縮少ノ件並ニ工第九一二號ヲ以テ及通牒置候處右縮少ノ爲メ幅員ニ等差ヲ生シタル部分ノ接續點ハ直ニ縮少擴大セス延長六拾間ノ範圍内ニ於テ漸次ニ移リ好ク取付築造相成度又山間部ト雖平地部ノ介在スル場合ハ其部分ニ對シテハ出來得ル限り規定幅員ニ改修スヘキ義ト承知相成度此段及通牒候也

○災害狀況報告方ノ件

明治四十五年五月二十三日
工第一〇七五號

土木局長

各出張所長宛
利川工營所主任宛

道路、橋梁、港灣、堤防、工事等ニ關シ天災其ノ他ニ依リ被害アリタル場合ハ勿論其ノ被害ナキ場合ト雖モ風水害其ノ他異變アリタル時ハ其ノ機ヲ過ラサル様迅速ニ其ノ狀況報告相成度此段及通

牒候也

○出張命令申請ニ關スル件

明治四十五年五月十三日
訓第六六一號

土木局長

各出張所長宛

貴所員出張命令申請ノ際ハ必ス支辨費途並ニ概算額ヲ具シ經伺相成度爲念此段及通牒候也

○出張旅費支辨費途ニ關スル件

明治四十五年五月十四日
訓第六三六號

土木局長

各出張所長宛

各道ニ向ケ國庫補助ニ係ル工事竣功検査其他ノ用務ニ依ル出張旅費ハ經常部ヲ以テ支辨相成候ニ付右ニ御了知相成度此段及通牒候也

○傭人加給金支辨費途ニ關スル件

大正元年八月二十二日
訓第三一九號

土木局長

各出張所長宛

工事傭人ノ加給金ハ將來本給支辨ノ費途ヨリ支辨ノコトニ決定候條右ニ御處理相成度此段及通牒候也

土木法規 第十三章 土木局出張所規程

○保證擔保充用國債受拂高報告ノ件

大正元年十月三十日
訓第一二七八號

土木局長

各出張所長宛

保證擔保充用國債受拂高報告ノ件ニ付別紙ノ通り度支部長官ヨリ通牒有之候ニ付及移牒候也
(別紙)

度支部長官

土木局長宛

通牒

保證擔保充用國債受拂高報告ニ關スル件

右ハ曆年末一回現在高ノ報告ニ相改メ候條左記様式ニ準シ翌年一月十五日迄ニ御報告相成度及通牒候也

保證擔保充用國債現在高調 (何年末)

何 廳

根據法令	國債種別	何公債	何公債	何公債	計
會計規則					

何
計
々

○政府ノ所有ニ歸シタル證券取扱方ニ
關スル件

大正元年十月四日
關第九二五號

土木局長

各出張所長宛

政府所有ニ歸シタル證券取扱方ニ關シ今般度支部長官ヨリ別紙寫ノ通り通知有之候條御了知相成度此段及通牒候也
(別紙)

土木局長宛

通牒

度支部長官

大正元年十月一日
關第九〇九號

政府所有ニ歸シタル證券取扱方ニ關スル件
政府ノ所有ニ歸シタル無記名國債證券鐵道證券(帝國鐵道會計ニヨリ發行)大藏省證券ニシテ償還期ノ開始セルモノハ取扱廳ニ於テ保管證書裏面ニ事由ヲ記載シ現金ノ拂込書ヲ添附シ收入官吏ヨリ取扱金庫(金庫常設派出所ヲ除ク)ニ提出候ハハ取扱金庫ニ於テ償還金ヲ受領シ拂込書指定ノ歳入ニ編入スヘキ旨令般

金庫出納役へ令達致置候旨大藏省ヨリ通知越候條右了知相成度及通牒候也

○工事既濟部分内譯書其他省署ノ件

大正元年十月十八日
關第一二六號

土木局長

各出張所長宛
京城、利川工營所主任宛

工事既濟部分請書及該工事検査調書ニ關シ取扱方左記ノ通り改正候條自今右ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也

- 一 從來請負人ヨリ請求書及既濟部分工事内譯書(名稱、品目、員數、單價小計)ヲ提出セシメ來リタルモノ自今既濟部分工事内譯書ハ省略シ第一號様式ノ請求書ノミ提出セシムルコト
- 二 工事検査員検査ヲ執行シタルトキハ工事既濟部分検査調書ニ工事出來形調書(工種、稱呼、員數、單價)ヲ作り提出セシメ來リタルモノ自今第二號様式ノ工事既濟部分検査調書ニ第三號様式ノ工事出來形内譯書ヲ添附シ提出セシムルコト

第一號様式ノ一
請求書
金何程 何何工事請負
一金何程(單位ニ止ム) 第一回内渡請求金

但シ工事ノ内何步通出來ニ付此金何程ノ十分ノ九以内
右請求候也
金何程 追テ請求スヘキ分
年 月 日

住所 請負人氏名
朝鮮總督府仕拂命令官 某宛

第一號様式ノ二
請求書

金何程 何何工事當初請負金

内 設計變更減額

外 設計變更増額

金何程 追加工事増額

金何程 改請負金何程

一金何程(單位ニ止ム) 第何回内渡請求金
但シ工事ノ内何步通出來ニ付此金何程ノ十分ノ九金何程ノ内ヨリ既濟部分代金トシテ受領濟ノ分ヲ差引キタル殘額以内

外 第一回受領濟ノ分
金何程

土木法規 第十三章 土木局出張所規程

右請求候也
金何程 追テ請求スヘキ分
年 月 日

住所 請負人氏名
朝鮮總督府仕拂命令官 某宛

第二號様式
工事既濟部分検査調書

一何何工事
但何年何月何日請負人何某ト契約ノ分

右工事既濟部分検査ノ命ヲ受ケ何年何月何日實地検査候處別紙出來形内譯書ノ通ニシテ全工事ニ對シ其出來形何步ト調定候條此段及報告候也
年 月 日

工事検査員 官 氏 名

第三號様式
工事既成部分内譯書
金何程 此内 何何工事總請負高

一金何程

内譯

既成部分金高

工種	請負金額	出來形	出來形	備考
		歩合	金額	

第三號様式 記載例

工事既成部分内譯書

金何程

道路工事請負高

此内

一金何程

既成部分金高

内譯

工種	請負金額	出來形	出來形	備考
		歩合	金額	
盛土
硬岩切取
軟岩切取
土砂切取

土留石垣

(第何號)橋梁

(同)橋梁

(同)暗渠

(同)暗渠

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

同(暗渠)

右ノ通
年月日
検査員官 氏名
備考
築港河川其他ノ土木工事ニ在リテハ前記工種欄ニハ其ノ設
計ノ内譯工種別ニ依リ記載スルモノトス
○物品出納簿登記方ノ件
明治十五年七月八日
明第 一 二 五 三 號
土木局長
平壤、鎮南浦、仁川、釜山出張所長宛

直營工事材料ニシテ購入直ニ消費スルモノハ物品出納簿ノ登記ヲ省略致居候處本年度ヨリ全工事ニ對シ竣工明細書ノ調製ヲ要シ候ニ就テハ物品ノ數量ヲ符合セシムルメテ全部登記スルコトニ決定相成居候間本年度以降右ニ依リ御整理相成度此段及通牒候也

○豫定價格調書及豫定價格下調書取扱

順序ニ關スル件

大正五年八月十五日
土木局長決定

豫定價格及豫定價格下調書取扱順序別紙ノ通り相定メラレ候ニ就テハ本課主管ノ事項ハ左ノ通り決定相成可然哉

左記

- 一 豫定價格下調書ハ主任技師之ヲ作製スルコト但シ主任技師不在ノ時ハ上席技師之ヲ作製スルコト
- 一 豫定價格ハ土木局長ノ名ニ於テ營繕課長之ヲ調製シ「調理課長」ニ於テ保管スルコト
- 一 豫定價格下調書ハ決裁後營繕課ニ於テ之ヲ保管スルコト

○鎮海要港部修理工場受託工事施行細則送付ノ件

大正五年八月二十六日
土第 一 二 一 六 號

釜山、仁川、元山出張所長宛
右鎮海要港部司令官ヨリ送付有之候ニ付爲御心得別紙寫及送付候也

(別紙)

○鎮海要港部修理工場受託工事施行細則

大正五年八月四日
鎮海要港部令第四八號

鎮海要港部修理工場受託工事施行細則左ノ通定ム

第一條 海軍工務規則第十四條ニ依リ鎮海要港部修理工場ニ於テ海軍部外ヨリ依託ヲ受クル工事ニ關シテハ總テ本細則ニ依リ取扱フモノトス

第二條 工事ヲ依託セントスルモノハ依託ノ理由ヲ具シ費用納付者氏名ヲ明シ艦船ノ修理又ハ入渠ニ在リテハ船種、船名、噸數、重要寸法、吃水(入渠スル際ニ於ケル豫定吃水共)並ニ修理箇所入渠ノ目的等ヲ明細ニ記載シ其他ノ工事ニ在リテハ品名數量及修理者ハ新製ノ旨記載シ(修理ハ修理箇所ヲ明記シ新製ハ仕様書圖面若ハ見本添ヘ)修理工場主管ヲ經テ鎮海要港部司令官ニ願出ツヘシ

第三條 修理工場主管ハ前條ノ願書ヲ受理シタル時ハ工事ニ餘力アル範圍内ニ於テ部外工事ヲ施行シ得ルヤ否ヲ審査シ意見ヲ附シ鎮海要港部司令官ニ進達シ其決裁ヲ得テ工事ニ著手スヘシ

第四條 入渠ヲ許サレタル艦船ニシテ指定時日ニ後レタル時又ハ修理品若ハ見本ヲ指定ノ時日迄ニ持込マサル時ハ入渠、修理新製ノ設可ナ取消サルルコトアルヘシ尙ホ工事竣成前ト雖モ工場

ノ都合ニ依リテハ工事ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトアルヘシ
 前項ノ場合ニ於テ工事中止迄ニ要シタル工事費並ニ工事中止ニ
 由リ生シタル依託者ノ損害ハ全部依託者ノ負擔トス
 第五條 受託工事ニ服スル職工ノ工事時間及定例休日等ハ總テ修
 理工場ノ制規ニ據ル
 第六條 修理艦船ノ乗員修理工場内ニ於テ工事ヲナサントスルト
 キ又ハ職工人夫ヲ備役セントスルトキハ修理工場主管ノ許可ヲ
 受クヘシ
 第七條 修理艦船入渠中ハ修理工場主管ノ承認ヲ得シテ乗員擅
 ニ搭載物ノ位置ヲ變更スルコトヲ得ス
 第八條 依託者ニ於テ工事ニ不満足ノ箇所アルトキハ受領前修理
 工場ニ検査ヲ請求スヘシ受渡後如何ナル苦情ヲ申出ツルモ工場
 ハ其ノ責ニ任セス
 第九條 依託者ハ物件修理中軍港規則、修理工場構内取締規則ヲ
 遵守スヘシ
 第十條 工中ニ要スル工費材料費ハ總テ修理工場ノ定ムル所ニ由
 リ其他入渠料ハ別表ニ機械使用料ハ海軍工務規則第十六條ニ依
 リ徴收スルモノトス
 第十一條 工事依託者ハ工事費及日數並ニ鎮海要港部修理工場受
 託工事施行細則ヲ遵守スヘキノ項等ヲ記載シタル承諾書ヲ差出
 スヘシ
 第十二條 第十條ノ料金並ニ受託工事入費精算書ハ修理工場ニ於

テ調製シ願書認許書其他調査上必要ナル書類ヲ添付シ佐世保經
 理部ニ送附シ同部ノ發シタル納入告知書ニ依リ依託者ハ指定サ
 レタル期限内ニ指定金庫ニ現金ヲ納付スルモノトス
 第十三條 受託艦船出入渠ノ爲メ鎮海要港部所屬船艇ニ使用シタ
 ル消耗品ニ對シテハ工場主管ハ其都度知港事ヨリ品種數量ノ通
 牒ヲ受ケ現品ノ償還ヲナスヘシ
 一 名 稱 數量
 一 總噸數 何噸
 一 全長 何呎
 一 幅 何呎
 一 吃水 何呎
 一 修理箇所 何々
 一 仕様書、圖面別紙ノ通り
 一 依託ノ理由
 一 費用ノ納付者 何誰
 右ノ通り鎮海要港部修理工場ニ於テ御修理被成下度此段奉願候也
 大正 年 月 日
 鎮海要港部司令官宛
 承諾書
 住所 氏 名

一金 圓
 但シ大正 年 月 日附御通知ノ何々依託修理工事費概算額
 一 工事日數 何日
 一 依託御施行中ハ鎮海要港部修理工場受託工事施行細則遵守
 ノ事
 右承諾仕候
 大正 年 月 日
 住所 氏 名

五十噸以上起重機 同 五 圓
 五十噸未満起重機 同 二 圓
 汽 鏈 燒 鐵 爐 同 二 圓
 溶 鑪 爐 及 亞 鉛 鍍 器 成量一「キログラム」ニ付 拾 錢
 右ノ外諸機械並小爐 一時間ニ付 拾 錢
 備考
 一時間未満ノ端數ハ一時間ニ繰上ケ計算ス
 ○工事用地受寄附ノ場合褒賞詮議ニ關
 シ上申方ノ件
 大正元年十月二十五日
 第一二〇四號
 土木局長

鎮海要港部修理工場主管宛
 艦船入渠料表(大正五年四月十四日)
 (官房第一〇七七號ノ認許)

艦船總噸數	三噸以下	三噸以上四噸以下	四噸以上五噸以下	五噸以上六噸以下	六噸以上七噸以下	七噸以上八噸以下	八噸以上九噸以下	九噸以上十噸以下	十噸以上二十噸以下	二十噸以上
最初三日以内	四〇円	四六円	四三円	四四円	四六円	四八円	五二円	五三円	五六円	五〇円
四日以内	四〇円	四六円	四三円	四四円	四六円	四八円	五二円	五三円	五六円	五〇円
五日以内	四〇円	四六円	四三円	四四円	四六円	四八円	五二円	五三円	五六円	五〇円
以降一日	四〇円	四六円	四三円	四四円	四六円	四八円	五二円	五三円	五六円	五〇円

海軍工務規則第十六條ノ諸機械使用料表

機械ノ種類	使用時間	拾圓
百噸以上起重機	一時間ニ付	拾圓

○褒章條例

明治十四年十二月七日
太政官布告第六三號

改正 明治二十七年 大正七年九月 大正九年一月
勅令第一號 勅令第三四九號 勅令第二四號

第一條 凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者又ハ孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者又ハ學術技藝上ノ發明改良著述、教育衛生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水産ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナル者又ハ公益ノ爲私財ヲ寄附シ功績顯著ナル者ヲ表彰スル爲左ノ四種ノ褒章ヲ定ム

紅綬褒章

右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者ニ賜フモノトス

綠綬褒章

右孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者ニ賜フモノトス

藍綬褒章

右學術技藝上ノ發明改良著述、教育衛生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水産ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナル者ニ賜フモノトス

紺綬褒章

右公益ノ爲私財ヲ寄附シ功績顯著ナル者ニ賜フモノトス

第二條 本條例ニ依リ表彰セラルヘキ者團體ナルトキハ褒狀ヲ賜フ
第三條 已ニ褒章ヲ賜ハリタルモノ再度以上同様ノ實行アリテ褒章ヲ賜フヘキトキハ其ノ都度飾版一箇ヲ賜與シ其章ノ綬ニ附加セシメ以テ標識トス
第四條 褒章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用スルコトヲ得
第五條 第一條ノ規定ニ依リ褒賞ヲ賜フヘキ者ニハ褒賞ト金銀木杯又ハ金圓トチ併セ賜フコトアルヘシ
第六條 第一條ノ規定ニ準スヘキ奇特ノ行爲アリタル者ニハ金銀木杯、金圓又ハ褒狀ヲ賜フコトアルヘシ
第七條 本條例ニ依リ表彰セラルヘキ者死亡シタルトキハ金銀木杯、金圓又ハ褒狀ヲ賜ヒ之ヲ追賞ス
第八條 第六條ニ依リ行賞ニシテ金銀杯ノ賜與、二十圓ヲ超ユル金圓ノ賜與、及千圓以上ノ寄附ニ對スル褒狀ノ賜與ハ賞勳局總裁之ヲ專行ス
第九條 第六條ニ依リ行賞ニシテ木杯ノ賜與、二十圓以下ノ金圓ノ賜與及十圓未満ノ寄附ニ對スル褒狀ノ賜與ハ地方長官之ヲ專行ス
第十條 本條例中地方長官ニ屬スル職務ハ朝鮮、臺灣、關東州及南滿洲鐵道附屬地、樺太並外國ニ於テハ各朝鮮總督、臺灣總督、關東長官、樺太廳長官、領事官之ヲ行フ

褒章ノ圖

章	銀櫻花紋圖形徑九分
鈕 釵 飾 版	銀
綬	幅一寸種類ニヨリ紅絲藍紺四色ノ別アリ

(圖面略ス)

備考 紺綬褒章ノ裏面ニハ文字ヲ記セス

佩用式

一 褒章ハ左肋ノ邊ヘ佩フヘシ

但シ勳章及從軍記章 有スル者ハ其ノ章左ヘ列シ帶フヘシ

○褒章條例取扱手續

明治二十七年一月六日 閣令第一號

改正 大正九年二月 閣令第一號

第一條 褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者ノルトキハ地方長官主務大臣ニ具申シ主務大臣ハ其ノ當否ヲ審査シ賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ

第二條 賞勳局總裁ハ申牒書ヲ覆數シ褒章ヲ賜フヘキモノト認ムルトキハ奏請裁可ヲ得在東京ノ者ニハ之ヲ直授シ其ノ他ノ者ニハ主務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達スヘシ

第三條 外國人ニ褒章ヲ賜フトキハ主務大臣外務大臣ト連署シテ

之ヲ申牒スヘシ授與ノトキハ外務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス其ノ公私備ニ係ル者ハ第二條ニ依ル

第四條 褒章條例第八條第一項ニ依リ賞勳局總裁ノ專行ニ屬スル行賞ニ該ル者カルトキハ地方長官主務大臣ニ具申シ主務大臣其ノ當否ヲ審査シ賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ授與ノトキハ主務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス

第五條 行賞ニ關シニ以上ノ地方長官具申又ハ專行スヘキ場合ニ於テハ關係地方長官協議ニ依リ其ノ一地方長官之ヲ行フコトヲ得

第六條 外國人ニ對スル金銀木杯、金圓又ハ褒狀ノ賜與ハ內國人ノ例ニ依ル但シ常室ノ貴賓又ハ外國使臣ニ對スル賜與ハ外務大臣賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ授與ノトキハ外務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス

第七條 褒章條例ニ依リ表彰セラルヘキ者具申後行賞前ニ於テ死亡シ又ハ罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ナルコトヲ知リタルトキハ地方長官ハ速ニ其ノ旨主務大臣ニ申報シ主務大臣ハ之ヲ賞勳局總裁ニ通知スヘシ

第八條 本令中主務大臣ノ職務ハ朝鮮、臺灣關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、關東長官之ヲ行ヒ地方長官ノ職務ハ朝鮮、臺灣、關東州及南滿洲鐵道附屬地、樺太並外國ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、關東長官、樺太廳長官、領事官之ヲ行フ

○褒賞ニ關スル件

明治四十五年七月二十日 官廳事務令第二七二號

總務局長

各部長官、官房土木局長、各所屬官署長宛

府縣都市區町村及市ノ區並町村内ノ部落又ハ水利組合、居留民團等ヨリ(朝鮮ニ於テハ目下居留民團ノミ)國又ハ公共團體へ土地若ハ金品ヲ寄附シタルモノニ對スル行賞ハ自今廢止セラレ候旨賞勳局總裁ヨリ通牒有之候條此段及通牒候也

追テ本月末日迄ニ賞勳局ニ到達ノ分ニ限リ從前ノ通取扱可相成モ同日以後ノ分ハ寄附受領年月日ノ前後ヲ問ハス總テ行賞セサル旨併テ通知有之候條爲念申添候也

○紺綬褒章ヲ賜フヘキ者内申方ニ關スル件

大正七年十一月二日 官廳事務令第二八八號

政務總監

土木局長宛

壹萬圓以上ノ私財ヲ寄附シタル者ニシテ紺綬褒章下賜詮議ノ必要アルモノト認メタルトキハ從前ノ雜形ニ依ル寄附取調表ノ外寄附者ノ素行調査書ヲ添付シ内申スヘキモノト御了知相成度此段及通牒候也

○寄附者行賞ニ關スル件

大正九年五月十八日 官廳事務令第四十一號

土木法規 附 錄

秘書課長

各局長、官房各部課長、各所屬官署ノ長 宛

寄附者行賞ニ關シ左記ノ通決定相成候ニ付御了知相成度此段及通牒候也

追テ大正八年五月二十四日官廳事務令第七十六號ハ廢止セラレタルニ付御了 相成度

記

地方廳以外ノ官署ニ對シ寄附シタル者ノ行賞方ニ付テハ從來寄附金額百圓以上ノモノハ總テ本府ニ於テ取扱ヒタルモ所屬官署委任事項規程改正ニ依リ四月一日ヨリ寄附金額千圓未満ノモノニ在リテハ道知事ニ於テ取扱フコトトナリタルヲ以テ其ノ寄附ヲ受領シタル官署ハ寄附者現住地ノ道 事ニ其ノ旨通知スルコト但シ朝鮮以外ノ地ニ住所有スル寄附者ニ付テハ寄附物件不動産ニ在リテハ其ノ所在地道知事、動産ニ在リテハ直接之ヲ使用スヘキ官署ノ所在地道知事ニ通知スヘキモノトス

○請願令

大正六年五月四日 勅令第三七號

第一條 請願ハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本令ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第二條 請願ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ 請願書ニハ侮辱誹毀ニ涉リ又ハ秩序風俗ヲ紊ル文辭ヲ用ウルコ

トヲ得ス

第三條 請願書ノ文字ハ端正鮮明ナルコトヲ要ス

第四條 請願書ニハ請願ノ要旨、理由、年月日、請願者ノ族稱、職業、住所、年齢ヲ記載シ請願者各自之ニ署名捺印スヘシ

第五條 法人請願者ナルトキハ其ノ名稱及住所ヲ記載シ法定ノ代表者各自請願書ニ署名捺印スヘシ

第六條 法人ハ其ノ目的ノ遂行ニ關係アル事項ニ非サレハ願請ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 未成年者及禁治産者ノ請願ハ其ノ法定代理人ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ請願書ニ代理ノ事由及法定代理人ノ族稱、職業、住所、年齢ヲ記載シ法定代理人之ニ署名捺印スヘシ

第八條 署名スルコト能ハサル者ハ他人ヲシテ代理セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ代理者請願書ニ其ノ事由ヲ附記シ且其ノ族稱、職業、住所、年齢ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

第九條 請願書ハ第七條ノ場合ヲ除クノ外代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第十條 天皇ニ奉呈スル請願書ハ封皮ニ請願ノ二字ヲ朱書シ内大臣府ニ宛テ其ノ他ノ請願書ハ請願ノ事項ニ付職權ヲ有スル官公署ニ宛テ郵便ヲ以テ差出スヘシ

第十一條 左ニ掲クル事項ニ付テハ請願ヲ爲スコトヲ得ス

一 皇室典範及帝國憲法ノ變更ニ關スル事項

二 裁判ヲ干與スル事項

第十二條 相當ノ敬禮ヲ守ラヌ又ハ本令ノ規定ニ違反スル請願書ハ之ヲ却下ス但シ官公署ニ對スル請願書ハ第三條乃至第五條、第七條第二項又ハ第八條ノ規定ニ違反スルモ之ヲ却下セサルコトヲ得

第十三條 請願ニ對シテハ指令ヲ與ヘス

第十四條 天皇ニ奉呈スル請願書ハ内大臣奏聞シ旨ヲ奉シテ之ヲ處理ス

第十五條 請願ニ關シ官公署ノ職員ニ強テ面接ヲ求メタル者ハ二月以下ノ禁錮若ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

二人以上共ニ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ六月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 行幸ノ際沿道又ハ行幸地ニ於テ直願ヲ爲サムトシタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

行啓ノ際沿道又ハ行啓地ニ於テ直願ヲ爲サムトシタル者亦同シ

第十七條 請願ヲ爲サシムル爲他人ヲ誘惑若ハ煽動シ又ハ名義ノ何タルチ向ハス請願ニ關スル運動ノ爲金錢其ノ他ノ利益ヲ收受シ、要求シ若ハ其ノ收受ヲ約束シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

○請願ニ關スル件 大正六年七月九日 官廳條例第一三〇號

總務局長

所屬官署長宛

總督ニ對スル請願ハ請願令第十條ニ依リ本府ニ宛テ郵便ヲ以テ差出スヘキモノニシテ明治四十三年府令第五號ヲ適用スヘキモノニ無之從テ請願ニシテ地方長官ヲ經由スルモノ又ハ所屬官署ニ差出スモノハ請願令ニ違反スルモノトシ同令第十二條ニ依リ處理相成ヘク爲念及通牒候也

(參照)

○朝鮮總督府ニ提出スル願屆書經由ニ關スル件

明治四十三年十月 府令第五號

朝鮮總督府ニ提出スル願屆書等ハ法令ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外ハ總テ其ノ管轄地方長官ヲ經由スヘシ

○請願書取扱方ノ件

大正六年九月二十九日 官廳條例第一七一號

各部長官、官房副課長、所屬官署ノ長宛

政務 總監

請願書ノ取扱ハ從來區々ニ亘ル向有之ヤニ被認候條爾今左記ニ依リ處理相成度及通牒候也

一、歎願書、情願書、哀願書等ノ名稱ヲ用ヒ進達スルモノト雖

其ノ内容ヲ請願ト認ムルトキハ之ヲ請願書トシテ處理スルコト

- 一、請願書ハ其ノ形式及内容ヲ調査シ請願令第十二條ニ依リ却下スヘキモノハ必ス其ノ手續ヲ爲スコト
- 二、請願書ノ却下ハ左ノ様式ニ依リ符箋ヲ以テスルコト

請願令第十二條ニ依リ却下ス

大正 年 月 日

官署 名印

○警察犯刑罰規則

明治四十五年三月二十五日 府令第四〇號

- 第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 一 故ナク人ノ居住又ハ看守セサル邸宅、建造物及船舶内ニ潛伏シタル者
- 二 一定ノ住居又ハ生業ヲシテ諸方ニ徘徊スル者
- 三 密淫賣ヲ爲シ又ハ其ノ媒合若ハ容止ヲ爲シタル者
- 四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談、威迫ノ行爲ヲ爲シタル者
- 五 合力、寄附ヲ強請シ強テ物品ノ購買ヲ求メ又ハ技藝ヲ演シ

- 若ハ勞力ヲ供給シテ報酬ヲ求ムル者
- 六 收利ノ目的ヲ以テ強テ物品、入場券等ヲ配付シタル者
- 七 乞弓ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 八 團體加入ヲ強請シタル者
- 九 濫ニ市場其ノ他之ニ類スル場所ニ當業者ノ出品若ハ入場ヲ強請シ又ハ物品賣買ノ委託ヲ強請シタル者
- 十一 入札ノ妨害ヲ爲シ、共同入札ヲ強請シ、落札人ニ對シ其ノ事業、利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シ又ハ落札人ヨリ故ナク之ヲ受ケタル者
- 十一 入札者通謀シテ競争入札ノ趣旨ニ反スル行爲ヲ爲シタル者
- 十二 財物ヲ賣買シ又ハ勞力ヲ受給スルニ當リ、當ノ代價ヲ請求シ若ハ相當ノ代價ヲ支拂ハスシテ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 十三 他人ノ事業若ハ私事ニ關シ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ニ掲載セサルコトヲ約シ又ハ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ニ虛偽ノ事實ヲ掲載シ若ハ掲載スルコトヲ約シテ金品ヲ受ケ其ノ他不正ノ利ヲ圖リタル者
- 十四 申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シテ其ノ代料ヲ請求シ又ハ強テ其ノ購讀ノ申込ヲ求メタル者
- 十五 申込ナキ廣告ヲ爲シテ其ノ代料ヲ請求シ又ハ強テ廣告ノ申込ヲ求メタル者
- 十六 誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者

- 十七 他人ノ業務又ハ其ノ他ノ行爲ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 十八 故ナク他人ノ金銭取引等ニ關涉シ又ハ濫ニ訴訟、爭議ヲ勸誘敦唆シ其ノ他粉擾ヲ惹起セシムヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 十九 濫ニ多衆聚合シテ官公署ニ請願又ハ陳情ヲ爲シタル者
- 二十 不穩ノ演說ヲ爲シ又ハ不穩ノ文書、圖畫、詩歌ノ揭示頒布、朗讀若ハ放吟ヲ爲シタル者
- 二十一 誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虛報ヲ爲シタル者
- 二十二 妄ニ吉凶禍福ヲ說キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシムヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 二十三 病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪又ハ精神療法等ヲ施シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者
- 二十四 濫ニ催眠術ヲ施シタル者
- 二十五 故ラニ虛偽ノ通譯ヲ爲シタル者
- 二十六 自己又ハ他人ノ業務ニ關シ官許アリト詐稱シタル者
- 二十七 官公職、位記、勳爵、學位、稱號ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾徽章ヲ借用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者
- 二十八 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ若ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セス又ハ情ヲ知リテ不實ノ代書ヲ爲シタル者
- 二十九 本籍、住所、氏名、年齢、身分、職業等ヲ詐稱シテ投票又ハ乗船シタル者

- 三十 故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者
- 三十一 官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚濁若ハ撤去シタル者
- 三十二 警察官署ニ於テ特ニ指示若ハ命令シタル事項ニ違反シタル者
- 三十三 不正ノ目的ヲ以テ人ヲ隱匿シタル者
- 三十四 徒弟、職工、婢僕其ノ他勞役者若ハ被雇者等ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者
- 三十五 濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者
- 三十六 祭事、葬儀、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 三十七 夜一時後、日出前濫ニ歌舞音曲其ノ他喧噪ノ行爲ヲ爲シ他人ノ安眠ヲ妨害シタル者
- 三十八 劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者
- 三十九 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シ、横臥シ又ハ泥酔シテ徘徊シタル者
- 四十 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬、舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 四十一 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スコトヲ怠リタル者
- 四十二 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞ノ虞アル建築物ノ修繕又ハ願

- 倒ノ虞アル物件ノ積換等ヲ怠リタル者
- 四十三 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者
- 四十四 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者
- 四十五 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入り若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援メノ求ヲ受ケタルニ拘ラス故ラニ之ニ應セサル者
- 四十六 街路ニ於テ夜間燈火ナクシテ諸車又ハ牛馬ヲ使用シタル者
- 四十七 許可ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ露店等ヲ開キタル者
- 四十八 制止ヲ肯セスシテ路傍ニ飲食物其ノ他ノ商品ヲ陳列シタル者
- 四十九 電線ノ近傍ニ於テ紙鳶ヲ掲ケ其ノ他電線ノ障害トナルヘキ行爲ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 五十 石戰其ノ他危險ノ遊戯ヲ爲シ若ハ爲サシメ又ハ街路ニ於テ空氣銃、吹矢ノ類ヲ弄ヒ若ハ弄ハシメタル者
- 五十一 濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ吠シ又ハ驚逸セシメタル者
- 五十二 猛獸、狂犬又ハ人ヲ咬傷スル辯アル獸畜等ノ繫鎖ヲ怠リタル者
- 五十三 闘犬又ハ闘雞セシメタル者
- 五十四 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者

- 五十五 危險ノ虞アル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者
- 五十六 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ袒裼、裸程シ又ハ臀部股部ヲ露ハシ其ノ醜態ヲ爲シタル者
- 五十七 街路ニ於テ尿尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 五十八 他人ノ身體、物件又ハ之ニ害ヲ及ホスヘキ場所ニ對シ物件ヲ抛擲シ又ハ放射シタル者
- 五十九 濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之ヲ力取除テ怠リタル者
- 六十 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者
- 六十一 河川、溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨ケヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 六十二 溝渠、下水路ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ其ノ修繕若ハ浚渫ヲ怠リタル者
- 六十三 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除若ハ撒水ヲ爲サヌ又ハ制止ヲ肯セス結氷期ニ於テ道路ニ撒水シタル者
- 六十四 官署ノ督促ヲ受ケテ煙突ノ改造、修繕又ハ掃除ヲ怠リタル者
- 六十五 濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他公衆用ノ常燈ヲ消シタル者
- 六十六 神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類

- スル者ヲ汚穢シタル者
- 六十七 濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚穢シ若ハ之ヲ貼紙、張札等ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、賣賣家札其ノ他標ノ類ヲ汚穢シ若ハ撤去シタル者
- 六十八 濫ニ他人ノ田野、園圃ニ於テ榮果ヲ採摘シ又ハ花卉等ヲ折採シタル者
- 六十九 他人ノ所有又ハ占有シタル土地ヲ冒シテ工作物ヲ設ケ軒楹ヲ出シ、牧畜ヲ爲シ又ハ耕作其ノ他現狀ニ變更ヲ來スヘキ行爲アリタル者
- 七十 電柱、橋梁、揭示場其ノ他ノ建造物ニ濫ニ牛馬ヲ繫キタル者
- 七十一 橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
- 七十二 濫ニ他人ノ繫キタル牛馬其ノ他ノ獸類又ハ舟筏ヲ解放シタル者
- 七十三 濫ニ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ之ニ牛馬諸車ヲ侵入セシメタル者
- 七十四 自己占有ノ場所内ニ老幼、不具又ハ疾病ノ爲救助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ申告セサル者
- 前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者

- 七十五 人ノ死屍若ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者
- 七十六 許可ヲ得スシテ人ノ死屍若ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之ヲ保存ヲ爲シタル者
- 七十七 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 七十八 病斃シタル禽獸ノ肉類又ハ不熟ノ果物、腐敗ノ飲食物其ノ他健康ヲ害スヘキ物ヲ飲食物トシテ營利ノ用ニ供シタル者
- 七十九 埋棄シタル牛、馬、豚、犬等ノ死屍ヲ發掘シタル者
- 八十 炮煮、洗滌、剥皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ物ニ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シ又ハ行商シタル者
- 八十一 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者
- 八十二 家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚キタル者
- 八十三 石灰其他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者
- 八十四 濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ヒタル者
- 八十五 許可ヲ得スシテ煙火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
- 八十六 許可ヲ得スシテ劇場其ノ他ノ興行場ヲ開キタル者
- 八十七 渡船、橋梁其ノ他ノ場所ニ於テ定額以上ノ通行料ヲ請求シ若ハ定額ノ通行料ヲ支拂ハスシテ通行シ又ハ故ナク通行ヲ妨ケ若ハ通船ノ求ニ應セサル者

- 第二條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ前條ニ照シテ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得
- 附 則
- 本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 行政執行令
- 大正三年七月十一日 大正三年九月二日 附 則 第三號ヨリ 施行
- 第一條 行政官廳ハ泥酔者、瘋癲者、自殺ヲ企ツル者其ノ他救護ヲ要スト認ムル者ニ對シ必要ナル檢束ヲ加ヘ戒器、兜器其ノ他危險ノ虞アル物件ノ假領置ヲ爲スコトヲ得暴行闘争其ノ他公安ヲ害スルノ虞アル者ニ對シ之ヲ豫防スル爲必要ナルトキ亦同シ
- 前項ノ檢束ハ三日ヲ超ユルコトヲ得ス、假領置ハ三十日以内ニ於テ其ノ期間ヲ定ムヘシ
- 第二條 行政官廳ハ日出前、日没後ニ於テハ生命、身體若ハ財産ニ對シ危害切迫セリト認ムルトキ又ハ博奕、密賣淫ノ現行アリト認ムルトキニ非サレハ現居住者ノ意ニ反シテ邸宅ニ入ルコトヲ得ス但シ旅店、割烹店其ノ他夜間ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ於テ其ノ公開時間内ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 行政官廳ハ密賣淫犯者又ハ其ノ前科者ニシテ尙密賣淫ノ常習アル者ニ對シ其ノ健康ヲ診斷シ又ハ指定シタル醫師ノ檢診ヲ受ケシメ傳染性疾患ニ罹リ必要アリト認ムルトキハ病院ニ入ラシメ又ハ指定シタル醫師ノ治療ヲ受ケシメ治療ニ至ル迄指定シタル場所ニ居住セシメ其ノ外出ヲ禁止スルコトヲ得

前項療養ノ費用ハ本人又ハ媒合者ノ負擔トシ但シ本人又ハ媒合者ニ於テ費用ヲ負擔スルノ資力ナシト認ムルトキハ國庫之ヲ支辨ス

風俗上ノ取締ヲ要スル業ヲ爲ス者ノ居住其ノ他ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 行政官廳ハ天災事變ニ際シ又ハ朝鮮總督ノ定ムル場合ニ於テ危害豫防若ハ衛生ノ爲必要ト認ムルトキハ土地、物件ヲ使用處分シ又ハ其ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

第五條 行政官廳ハ法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ依リ命シタル行爲又ハ不行爲ヲ強制スル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 自ら義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコト
- 二 強制スヘキ行爲ニシテ他人ノ爲スコト能ハサルモノナルトキ又ハ不行爲ヲ強制スヘキトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ二十五圓以下ノ過料ニ處スルコト

前項ノ處分ハ豫メ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テ第一號ノ處分ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ

行政官廳ハ第一項ノ處分ニ依リ行爲又ハ不行爲ヲ強制スルコト能ハスト認ムルトキ又ハ急迫ノ事情アル場合ニ非サレハ直接強制ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 第三條、第五條ノ費用及第五條ノ過料ハ國稅徵收令ニ依

リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第七條 認可又ハ許可ヲ受ケルニ非サレハ所有スルコトヲ得サル物件行政官廳ノ保管ニ歸シタル場合ニ於テ其ノ所有ヲ認許スヘカラサルトキハ其ノ所有權ハ國庫ニ歸屬ス假領置ヲ爲シタル物件ニシテ一年內ニ交付ヲ請求スル者ナキトキ亦同シ

附 則
本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

○ 行政執行令施行規則

大正三年八月二十八日
府令第一三〇號

第一條 生命身體若ハ財産ニ對シ危害切迫シタリト認メ又ハ水陸ノ交通ニ危害ヲ及ボスノ虞アリト認メタルトキハ行政官廳ハ行政執行令第四條ニ依リ必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得

- 一 崩壞又ハ人ヲ陥落セシムルノ虞アル場所
- 二 家屋其ノ他ノ工作物
- 三 船車其ノ他交通ノ用ニ供スル器具又ハ裝置
- 四 汽罐及汽機其ノ他原動機ノ裝置アル機械並其ノ附屬裝置

第二條 行政官廳ハ危害豫防ノ爲又ハ衛生上必要ト認ムル物品ハ必要ナル分量ヲ試驗ノ用ニ供スルコトヲ得

第三條 行政執行令第五條第一項第二號ノ過料ハ朝鮮總督ニ在リ

テハ二十五圓以内、警務總長、鐵道局長官、選信局長官、臨時土地調査局長、道長官、警務部長ニ在リテハ十圓以内、其ノ他ノ行政官廳ニ在リテハ五圓以内トス

第四條 行政執行令第五條第二項ノ戒告ハ履行期間ヲ定メ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五條 行政執行令第五條第一項第一號ノ費用ノ徵收ハ現ニ要シタル費用及其ノ納期日、同條第一項第二號ノ過料ノ處分ハ其ノ金額及納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ

附 則

本令ハ行政執行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○ 行政執行令及同施行規則取扱心得

大正四年六月二十六日
總務部訓令甲第三二號

- 警務部
- 警察署
- 憲兵分遣所
- 憲兵分隊
- 憲兵分遣所
- 警察署ノ事務取扱
- 憲兵分遣所

行政執行令及同施行規則取扱心得左ノ通り定ム
第一條 行政執行令第一條以下單ニ執ニ依リ檢束ヲ加ヘタル者アルトキハ第一號様式ノ被護者名簿ニ記載スヘシ
檢束ハ三日ヲ超ユルコトヲ得サルハ勿論可成速ニ適宜ノ措置ヲ

爲スヘシ

第二條 執行令第一條ニ依リ物件ノ假領置ヲ爲シタルトキハ第二號様式ノ物件假領置簿ニ記載シ尙被領置者ニ對シ第三號様式ノ領收證ヲ交付スヘシ

假領置物件ニハ假領置ヲ爲シタル年月日、被領置者ノ住所氏名及物件領置簿ノ番號ヲ記シタル標札(木又ハ厚紙製)ヲ附シ一定ノ場所ニ格納シ置クヘシ

第三條 假領置物件ニシテ被領置者ニ交付スヘキ期日ヨリ滿一箇年內ニ交付ヲ請求スル者ナキトキ又ハ認許ヲ受ケルニ非サレハ所有スルコトヲ得サル物件ニシテ其ノ所有權國庫ニ歸屬シタルトキハ遺失物其ノ他ノ物件取扱手續中國庫ニ歸屬シタル物件ノ取扱ニ準シ處理スヘシ

第四條 執行令第四條施行規則第一條及第二條ニ依リ危害豫防ノ爲若ハ衛生上ノ必要ニ依リ土地物件ヲ使用又ハ處分シ若ハ其ノ使用ヲ制限スルノ必要ヲ認メタルトキハ直ニ適當ナル措置ヲ爲シ其ノ狀況ヲ上級官廳ニ報告スヘシ

前項ノ事件ニシテ重要ナルモノニ係ルトキハ上級官廳ニ稟申指揮ヲ受クヘシ但シ急迫ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 執行令第五條第一項第一號及第二號ノ處分ヲ要スルモノト認メタルトキハ事由ヲ具シ上級官廳ニ稟申指揮ヲ受クヘシ但シ急迫ノ事情アルモノハ直ニ適當ナル措置ヲ爲シ其ノ狀況ヲ報告スヘシ

第六條 警察署長、警察署ノ事務ヲ取扱フ憲兵分ヨリ前二條ノ報告ヲ受ケ又ハ之ニ關スル指揮ヲ爲シタル警察部長ハ直ニ其ノ狀況ヲ警察總長ニ報告スヘシ

第七條 行政執行令施行規則第四條ノ戒告書及第五條ノ決定書ハ第四號乃至第七號様式ニ依ルヘシ

前項ノ書類ヲ義務者ニ交付スルトキハ第八號様式ノ送達書ヲ以テスヘシ

義務者ニ於テ戒告書又ハ決定書ヲ受クルヲ拒ムトキハ送達者其ノ事實ヲ送達書ニ記入シ署名捺印スルニ因テ送達了シタルモノト看做スヘシ

第八條 執行令第六條ニ依リ費用又ハ過料ヲ徴收スル爲メ國稅徴收令ノ規定ニ依ル滯納處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ徴收官吏ノ執ルヘキ職務ハ行政處分ヲ爲シタル官署ノ官吏ニ屬スルモノトス

(第一號様式) (用紙半紙形)

被護者名簿

官署長	印	主任	印
番號第	號	被護者	
取扱者官氏名		者ノ	
檢束日	年月日時	本籍	
檢束場所		住所	

由及檢束ノ方	檢束ヲ解キタル日	職名
	檢束ヲ解キタル時刻	氏名
備考	頭末	年齢
所持金品	月日時	取扱者(取扱者印)氏名印
	月日時	
賄度	月日時	金額
	月日時	
計	一食金額	金額

記載例

一、風癪者、泥酔者、自殺ヲ企ツル者等ニ對シテハ衣體ヲ搜檢シ若シ危險ノ虞アル物件ヲ所持スルトキハ別ニ假領置ノ手續ヲ爲スヘキモノナルニ依リ本簿ノ所持金品欄ニハ假領置ヲ爲ササル一切ノ所持金品ニシテ檢束ノ期間保管スルモノヲ記入スヘキモノトス

一 被護者ノ所持金品ヲ下附スル場合被護者署名スルコト能ハ

サルトキハ代書ノ上捺印又ハ拇印セシメ署名、捺印共ニ爲ス能ハサルトキハ其ノ旨當該欄ニ附記スヘキモノトス

(第二號様式) (用紙半紙形)

物件假領置簿

官署長	印	主任	印
番號第	號	被領置者	
取扱者官氏名		住所	
假領置ヲ爲シタル日	年月日時	氏名	
下付又ハ送致ノ日	年月日時	下付者	
假領置期間	自年月日	至年月日	
物件置		受取者	
備考		氏名印	

(第三號様式) (用紙半紙形)

領收書

一何 何箇(何本)(何貫目)

右物件自大正 年 月 日 何日間何某ヨリ假ニ領置ス依テ大正 年 月 日 至 此領收證持參ノ上該物件ヲ引取ルヘシ

大正 年 月 日

何官署長 官 氏 名 印

(第四號様式) (用紙半紙形)

戒告書

右所有ニ係ル肩書地ニ在ル土堤何間公道ニ崩壞シ公衆ニ危害ヲ及ホスノ虞アリト認ムルヲ以テ本戒告書送達ノ日ヨリ起算シ何日内ニ於テ崩壞セル土砂ヲ取除キ公道ノ原狀ニ復スヘシ但シ指定期間内ニ履行セザルニ於テハ當署當分隊當分遣所以下各之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ヲ徴收スヘシ

右行政執行令第五條及同令施行規則第四條ニ依リ戒告スルモノ也

大正 年 月 日

何官署長 官 氏 名 印

右原本ニ依リ此ノ正本ヲ作ルモノ也

大正 年 月 日

官 氏 名 印

(第五號様式) (用紙半紙形)

